

3. アンケート調査

3.1 調査概要

「家庭教育学級」などの家庭教育に関する学習機会の提供（以下、「講座型」）、「家庭教育支援チーム」などのチーム型支援（以下、「チーム型」）、「早寝早起き朝ごはん」運動（以下、「早寝早起き朝ごはん」）の効果について、アンケート調査を実施し、活動内容や頻度、保護者や支援者・企画者の属性等を踏まえて検証した。

3.2 調査対象

調査対象地域（市区町村）数は、評価・分析対象とする各施策につき、講座型 8 地域、チーム型 22 地域、早寝早起き朝ごはん 4 地域である。

調査対象者は、評価・分析対象とする各施策及び調査対象地域によらず、学校教員（幼稚園、小学校、中学校）、保護者、地域の支援者・企画者、行政（教育委員会）担当者の四者である。

3.3 調査対象地域の選定方針

講座型は、家庭教育に関する学習機会の提供を学校の間を活用して盛んに実施している地域と無作為に抽出した地域から選定した。チーム型は、週 1 回以上活動頻度があり、①福祉との連携、②教員との連携や学校に拠点がある、③地域の養成人材が中心となり地域に拠点がある、のいずれかを特徴的に満たす地域から選定した。早寝早起き朝ごはんは、条例や市の運動として地域全体で取り組んでいる地域を選定した。

3.4 調査項目

調査項目は、各調査対象者につき、図表 3-1 のとおりである。詳細は、「参考資料 1 アンケート調査票」参照。

図表 3-1 アンケート調査項目(概要)

調査対象者	調査項目
学校教員	家庭教育支援に関する取組内容、取組に関する協力・工夫状況、子どもへの効果、家庭への効果、学校への効果、地域への効果、問題の予防・解決への効果
保護者	年代、性別、子どもの人数、子どもの年齢、子育てを手伝ってくれる人の同居有無、子育てに関して相談可能な友人・知人数、職業、家庭生活状態、家庭の経済状態、家庭教育支援に関する取組の参加・活用状況、子どもへの効果、家庭への効果、子育てサポートに関する学校や地域への要望
地域の支援者・企画者	年代、性別、居住期間、家庭教育支援に関する取組期間、現在の役割、研修参加回数、子育て経験の有無、家庭教育支援に関する取組内容、活動拠点、活動メンバー、他の人材・機関との連携、活動件数、取組に関する協力・工夫状況、

調査対象者	調査項目
	取組に関する課題、取組に関する今後の展望、子どもへの効果、家庭への効果、学校への効果、地域への効果、問題の予防・解決への効果
行政担当者	家庭教育を巡る課題、家庭教育支援に関する取組内容、取組期間、担当部署、取組に関する課題、取組に関する今後の展望、家庭への効果、学校への効果、地域への効果、問題の予防・解決への効果

3.5 効果測定のお考え方

効果測定は、大別して二通りのアプローチにより実施した。第一に、各指標に関する現在の達成状況について、各施策の実施群と未実施群（あるいは特定の取組をしている群としていない群）を比較し、実施群が未実施群に比して統計的に有意に高いか／低いかを検証した。第二に、各施策の実施群のみに注目して当該施策による効果を直接的に質問し（例えば、「家庭教育学級などの「家庭教育に関する学習機会の提供」を通じて、全般的にどのような効果があったと思いますか」と質問し、「保護者の子育てに関する知識や意欲が高まった」について5件法で回答）、実施群の中で活動内容・頻度等ごとに調査対象をグルーピングして、回答傾向を比較検証した。

3.6 回収状況

アンケート調査の回収状況は、図表 3-2 のとおりである。

図表 3-2 アンケート調査回収状況

調査対象		発送数	有効回答数	有効回答率
講座型	学校教員	1,365	919	67.3%
	保護者	8,400	5,863	69.8%
	地域の支援者・企画者	345	211	61.2%
	行政担当者	8	8	100.0%
チーム型	学校教員	875	455	52.0%
	保護者	4,600	1,827	39.7%
	地域の支援者・企画者	440	162	36.8%
	行政担当者	22	17	77.3%
朝ごはん 早寝早起き	学校教員	676	425	62.9%
	保護者	4,160	2,551	61.3%
	地域の支援者・企画者	80	47	58.8%
	行政担当者	4	4	100.0%

3.7 調査結果

3.7.1 講座型の効果

(1) 保護者票

1) 属性ごとの講座参加状況

【分析の視点】

- a 講座への参加状況は、保護者の属性による差があるか

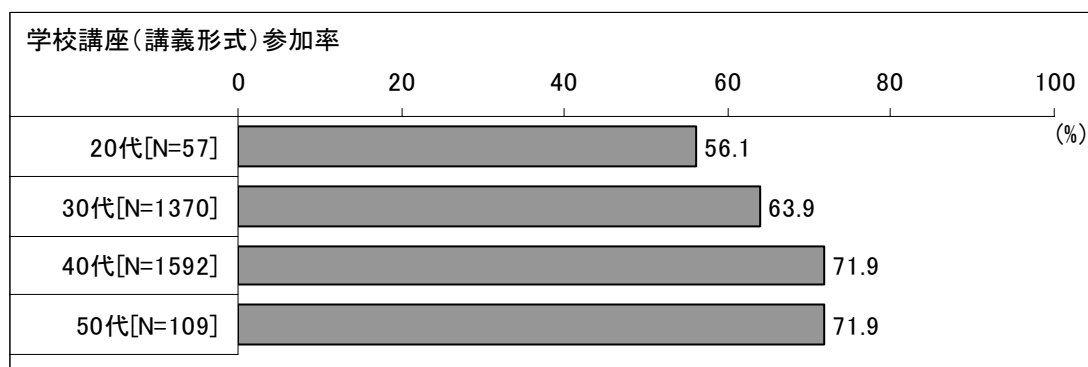
【分析の方法】

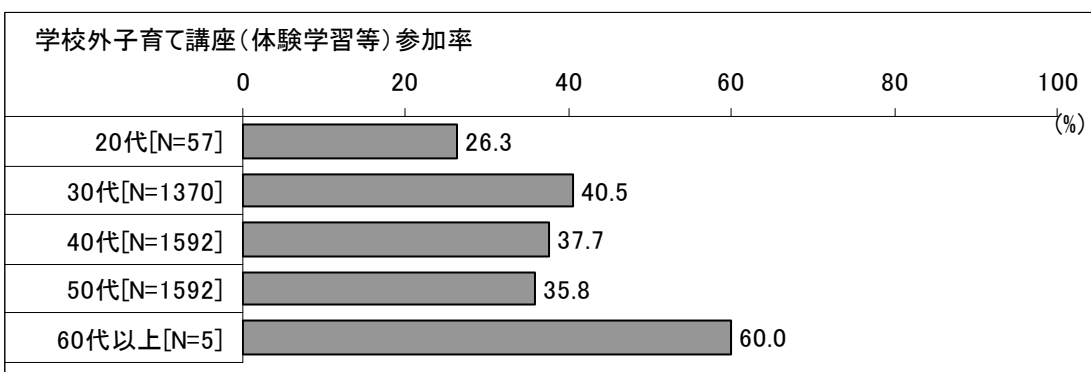
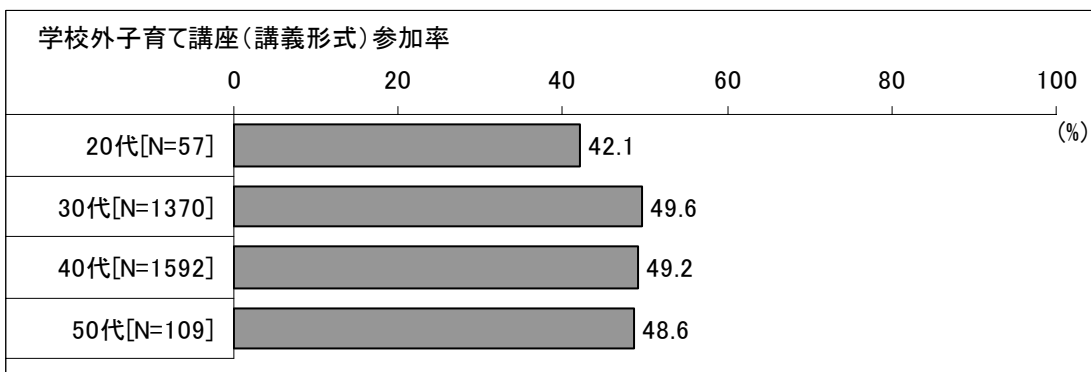
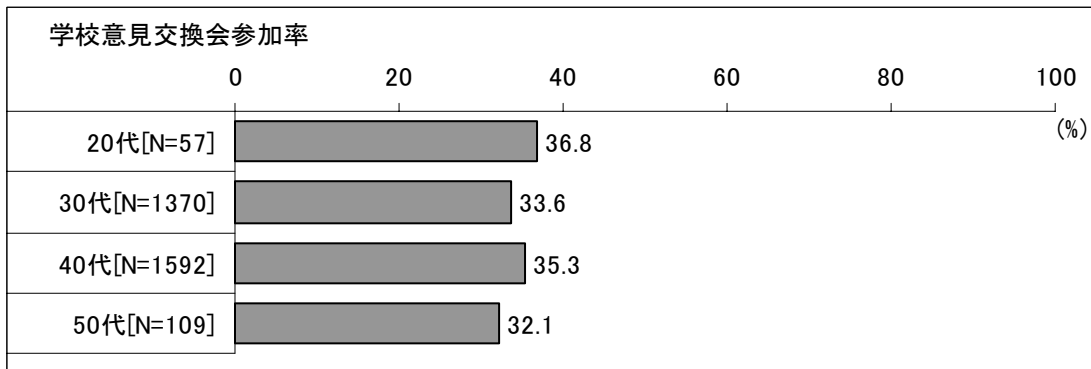
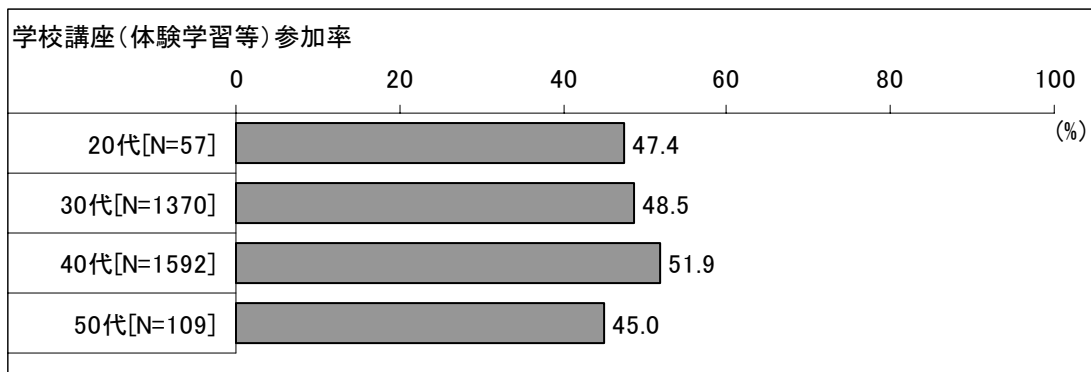
- 家庭教育学級などの「家庭教育に関する学習機会の提供」への参加状況（Q13_1-3、5-7）について、保護者の年代（Q1）、職業（Q7）、経済状態（Q9）別に比較

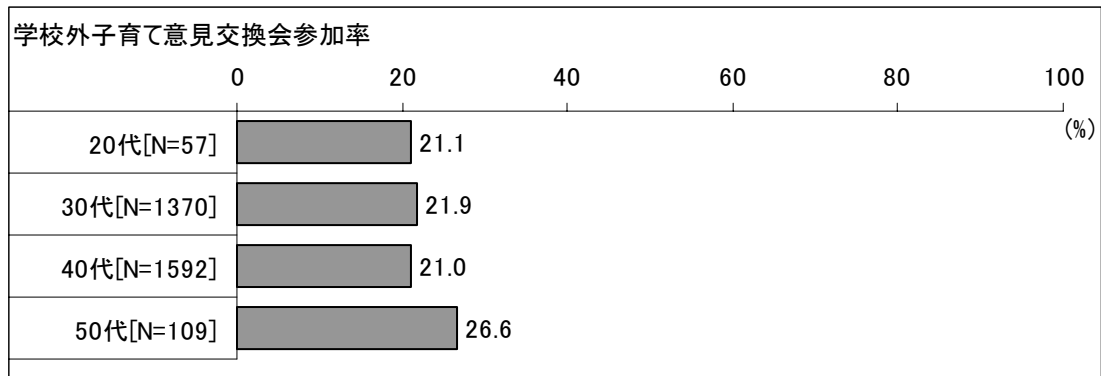
【分析結果のポイント】

- 学校内での講義形式の講座は40代以上、体験学習やワークショップなどを取り入れた講座は40代、意見交換会等には20代、学校外（社会教育施設）での講義形式及び体験学習やワークショップなどを取り入れた講座は30代、意見交換会等には50代の参加率が相対的に高い
- 学校内での講義形式及び体験学習やワークショップなどを取り入れた講座は自営業、意見交換会等にはパートタイム・アルバイト、学校外（社会教育施設）での講義形式及び体験学習やワークショップなどを取り入れた講座は専業主婦（夫）、意見交換会等には常勤の勤め人の参加率が相対的に高い
- 経済状態による一定の傾向は見られない

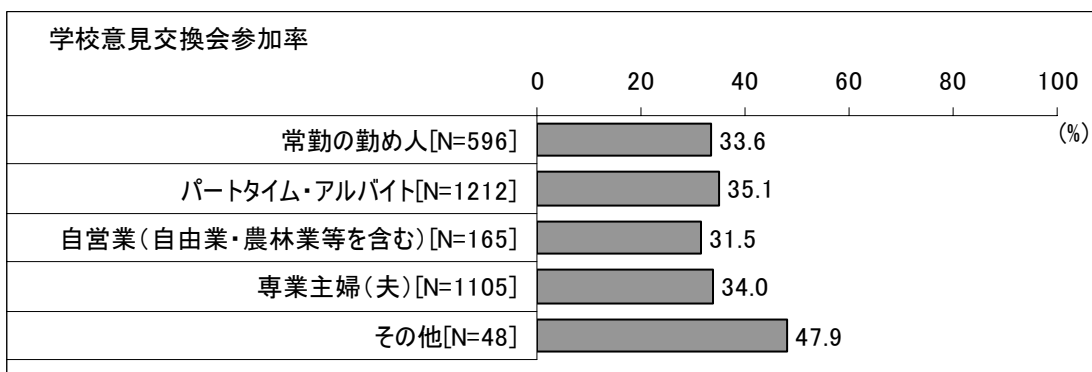
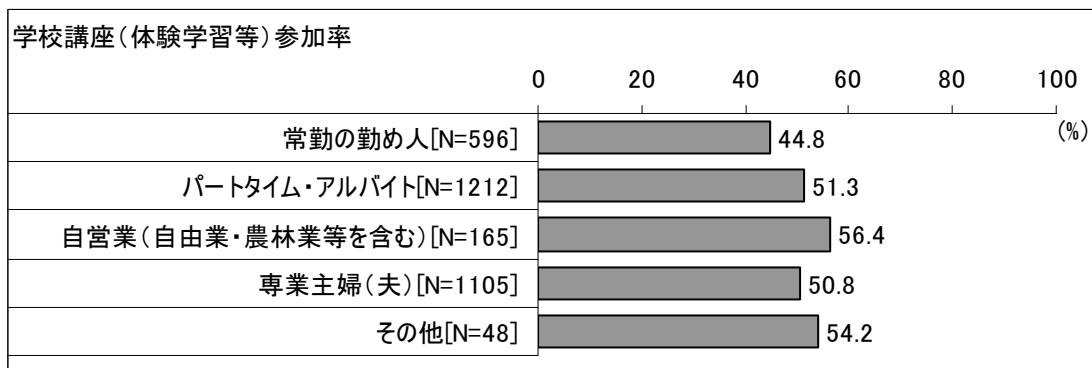
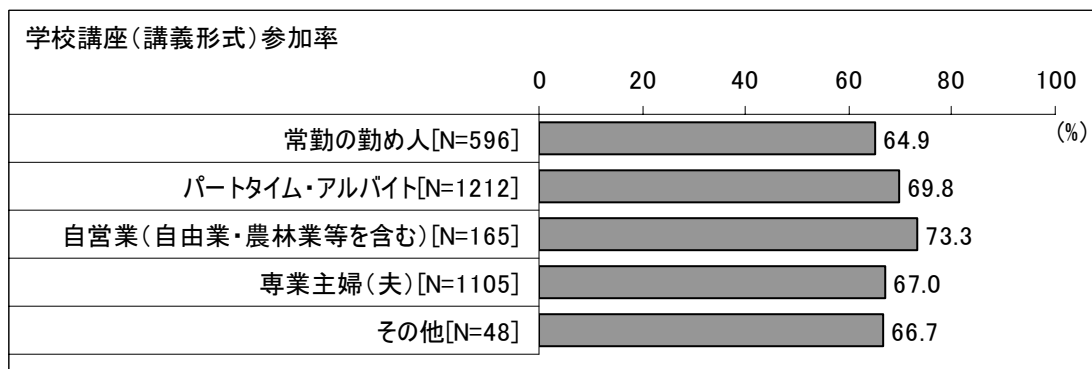
図表 3-3 保護者の年代×学習機会への参加状況

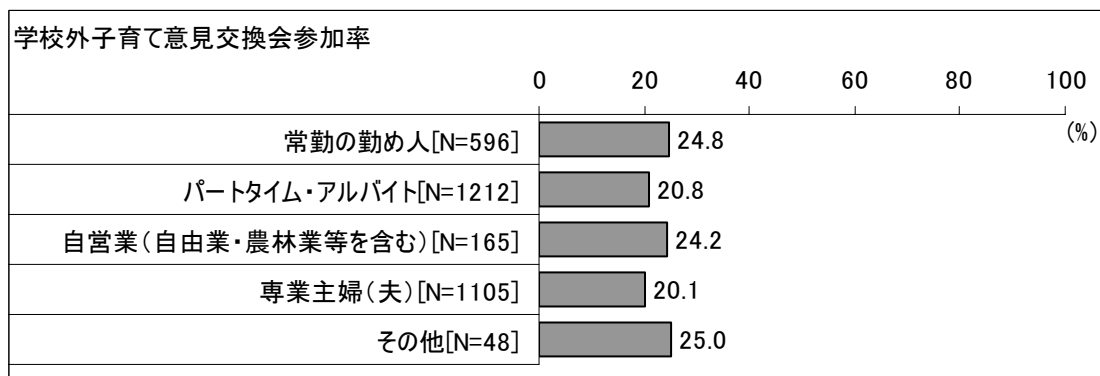
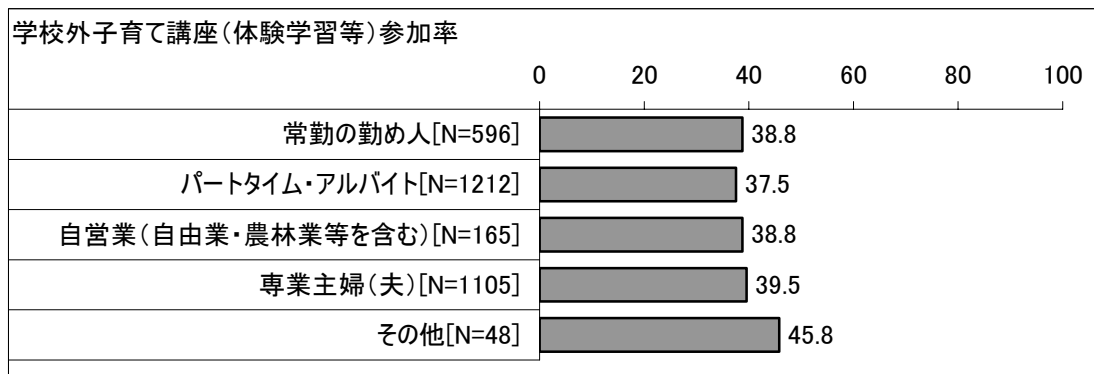
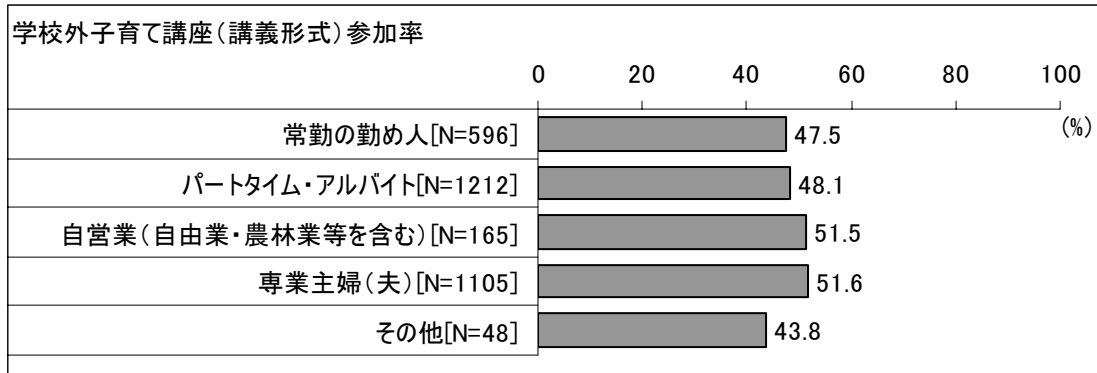




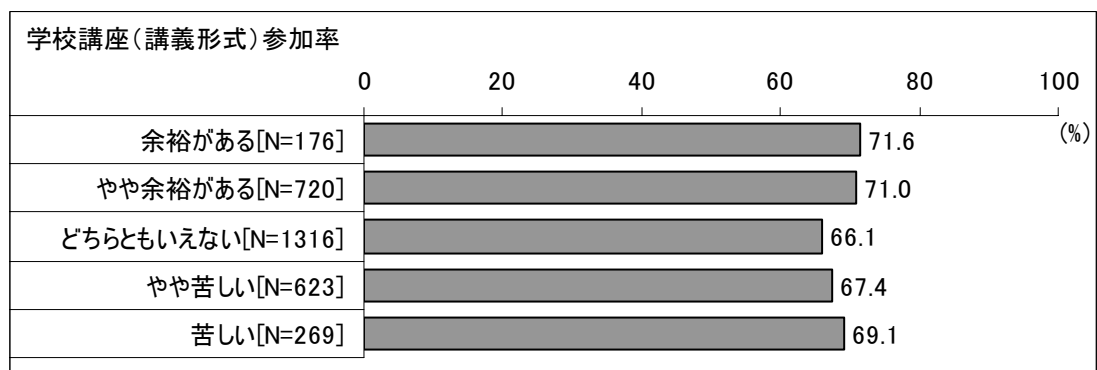


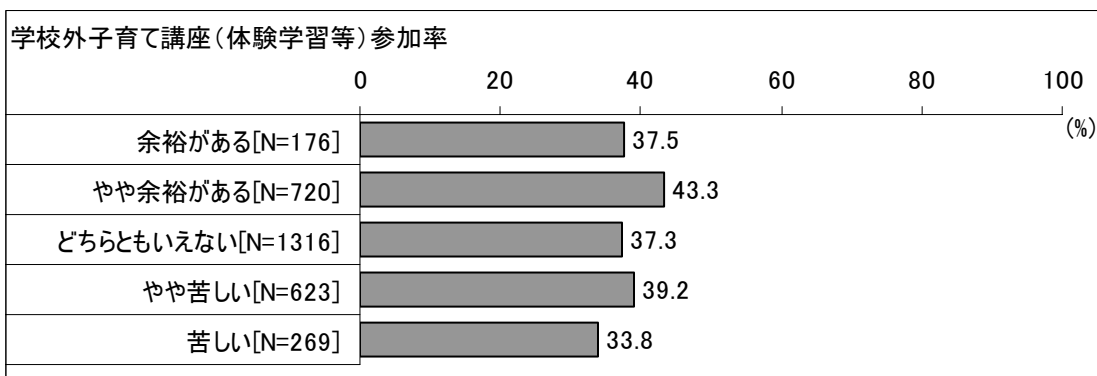
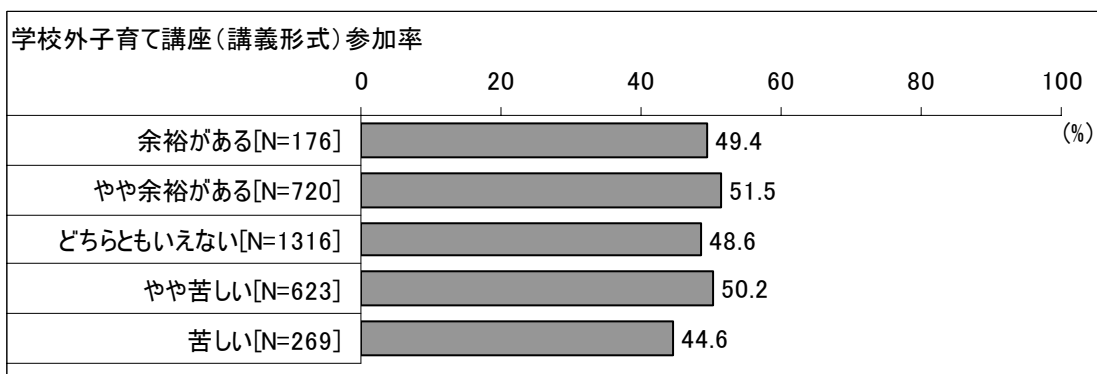
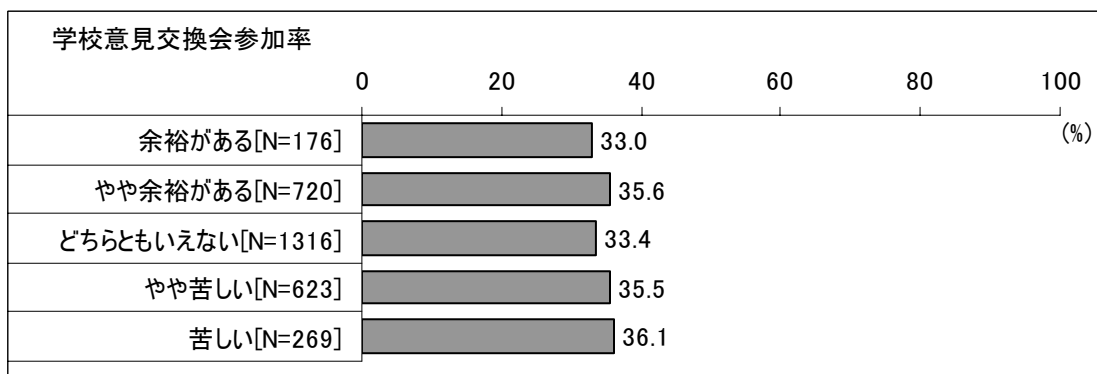
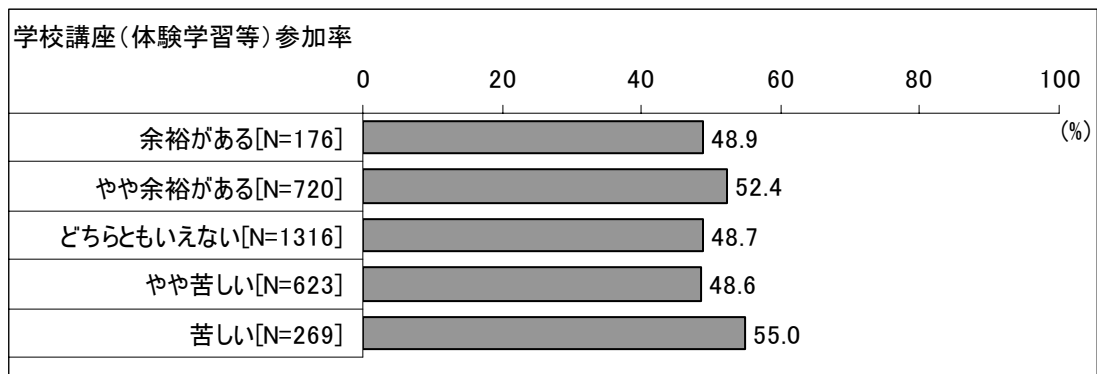
図表 3-4 保護者の職業×学習機会への参加状況

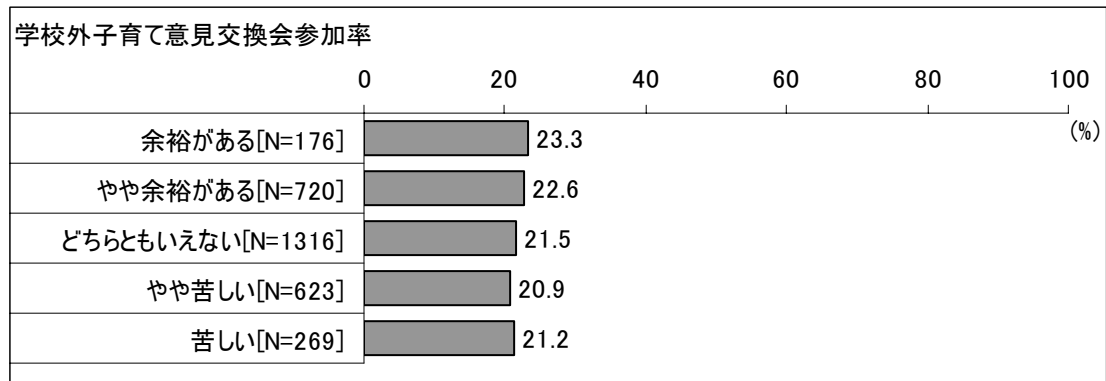




図表 3-5 保護者の経済状態×学習機会への参加状況







2) 家庭への効果

【分析の視点】

- a 保護者の子育てに関する知識等について、保護者の属性による差があるか
- b 保護者の子育てに関する知識等について、家庭教育学級などへの参加状況（学習機会の提供主体別）による差があるか
- c 保護者の子育てに関する知識等について、家庭教育学級などへの参加状況（学習の実施方法別）による差があるか
- d 学校等で開催された講座等への参加による効果は、家庭教育学級などへの参加状況（学習機会の提供主体別）による差があるか
- e 学校等で開催された講座等への参加による効果は、家庭教育学級などへの参加状況（学習の実施方法別）による差があるか
- f 学校等で開催された講座等への参加による効果は、取組に係る協力・工夫の実施状況による差があるか

【分析の視点 a】

- 保護者の子育てに関する知識等について、保護者の属性による差があるか

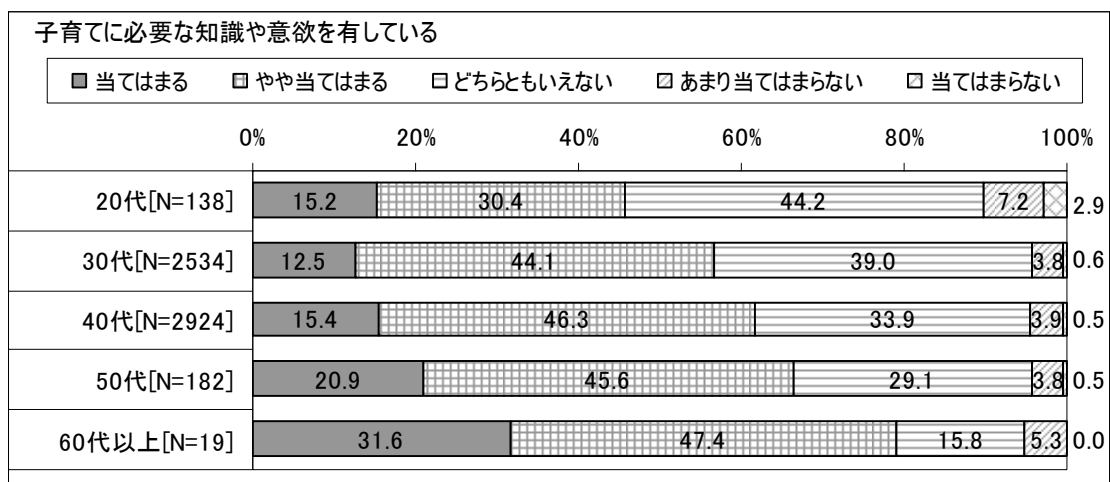
【分析の方法】

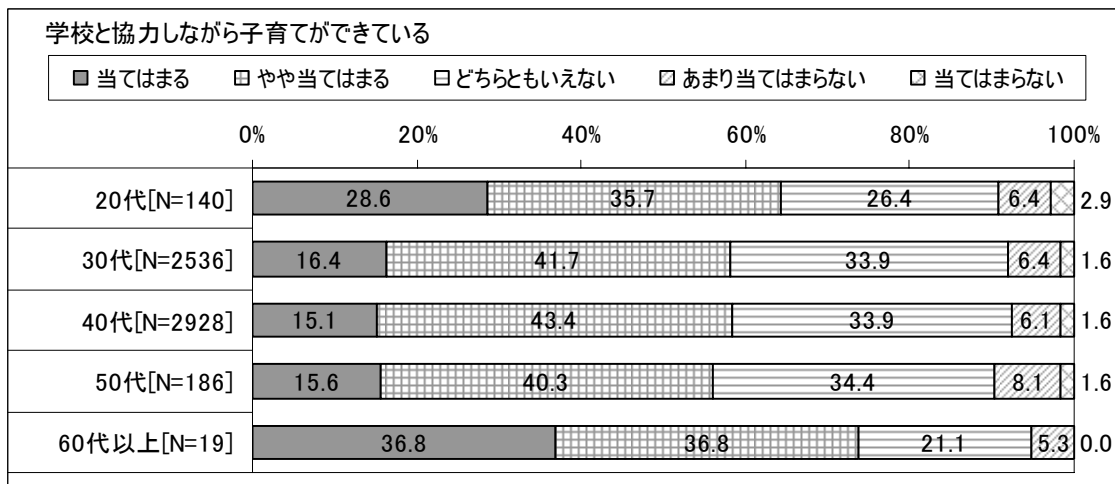
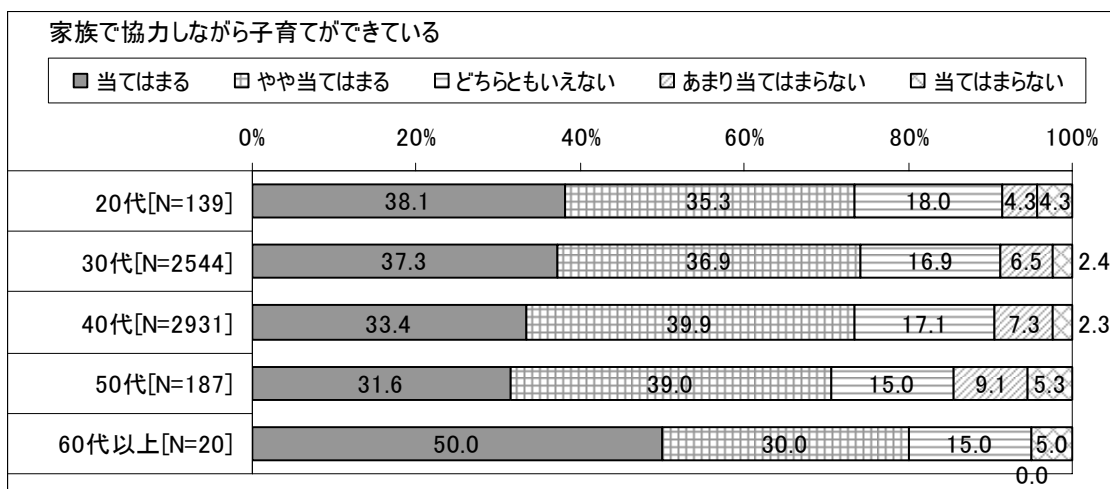
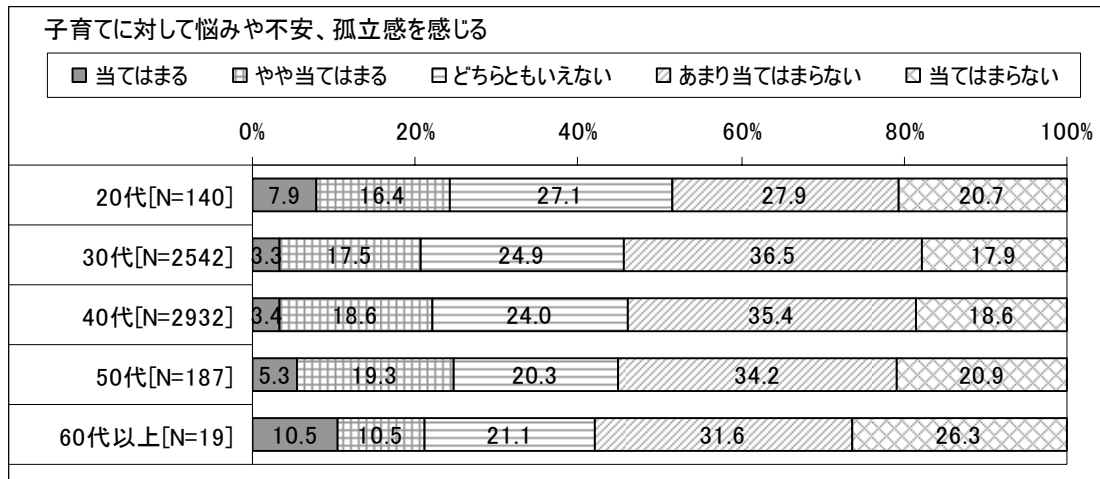
- 保護者の子育てに関する知識や意識等に関する現在の達成状況（Q10）について、保護者の年代（Q1）、職業（Q7）、経済状態（Q9）別に比較

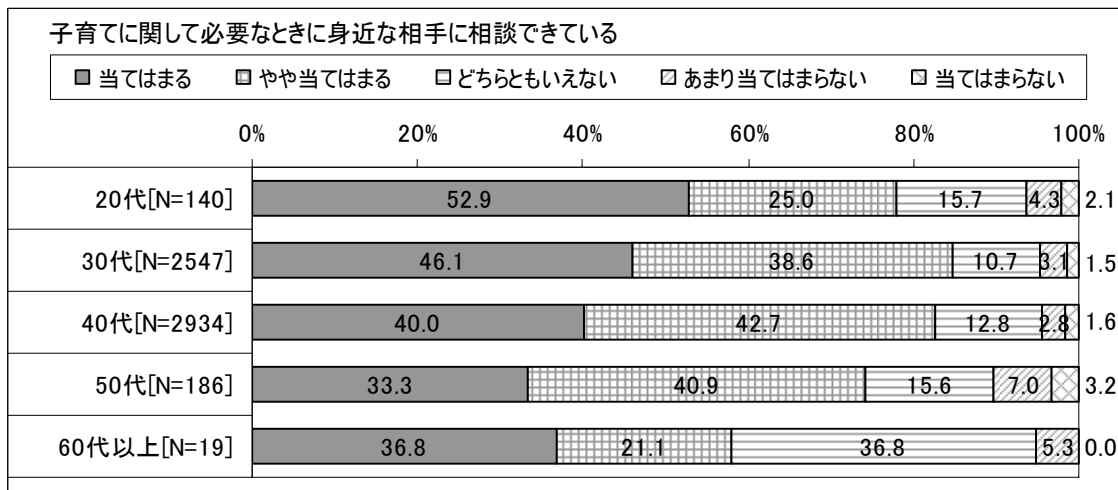
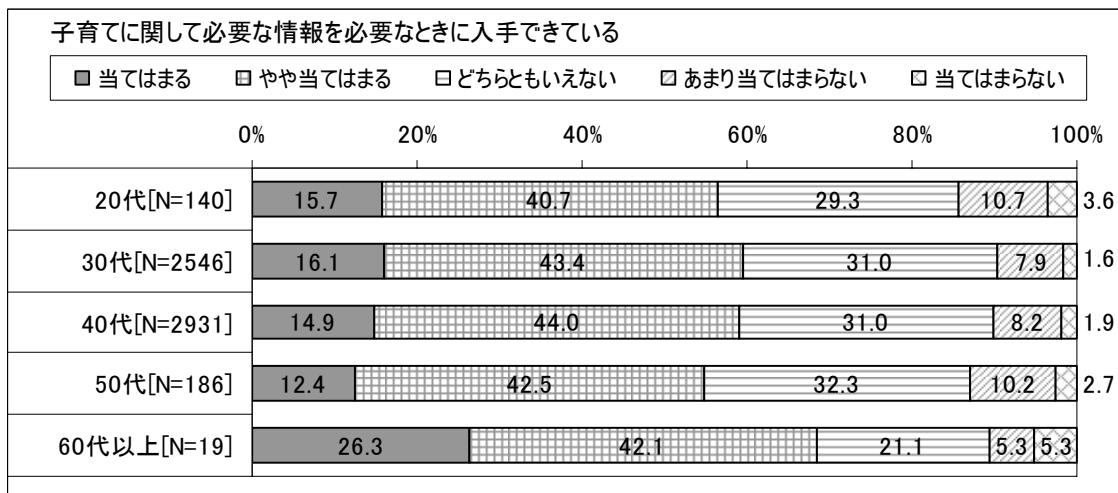
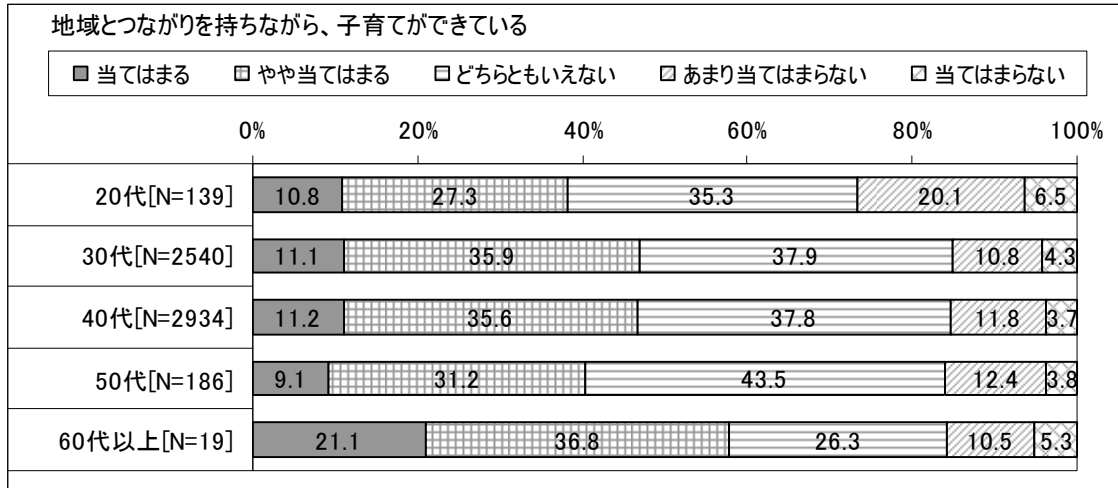
【分析結果のポイント】

- 「子育てに関して必要なときに身近な相手に相談できている」以外の項目については、60代以上がもっとも高い達成状況を示している（当該項目は30代がもっとも高い）
- 「子育てに必要な知識や意欲を有している」「子育てに関して必要な情報を必要なときに入手できている」「子育てに関して必要なときに身近な相手に相談できている」は専業主婦（夫）、「子育てに対して悩みや不安、孤立感を感じる」「家族で協力しながら子育てができている」「学校と協力しながら子育てができている」「地域とつながりを持ちながら、子育てができている」は自営業がもっとも高い達成状況を示している
- いずれの項目においても、経済状態が良い保護者ほど高い達成状況を示している

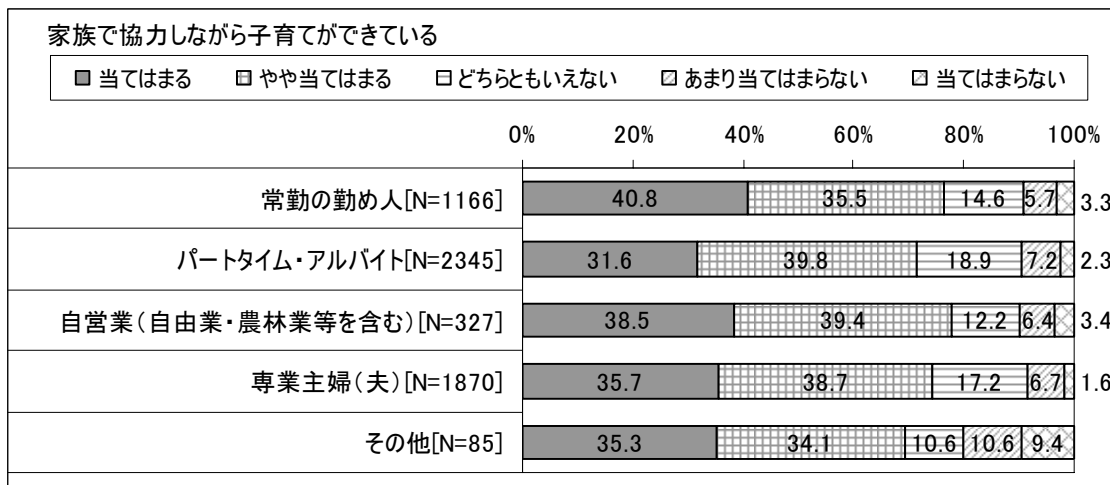
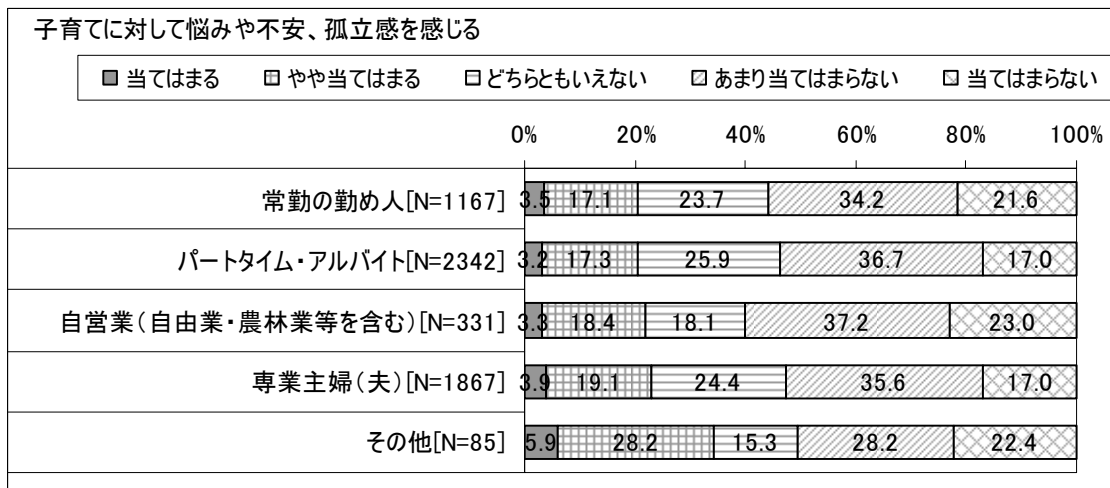
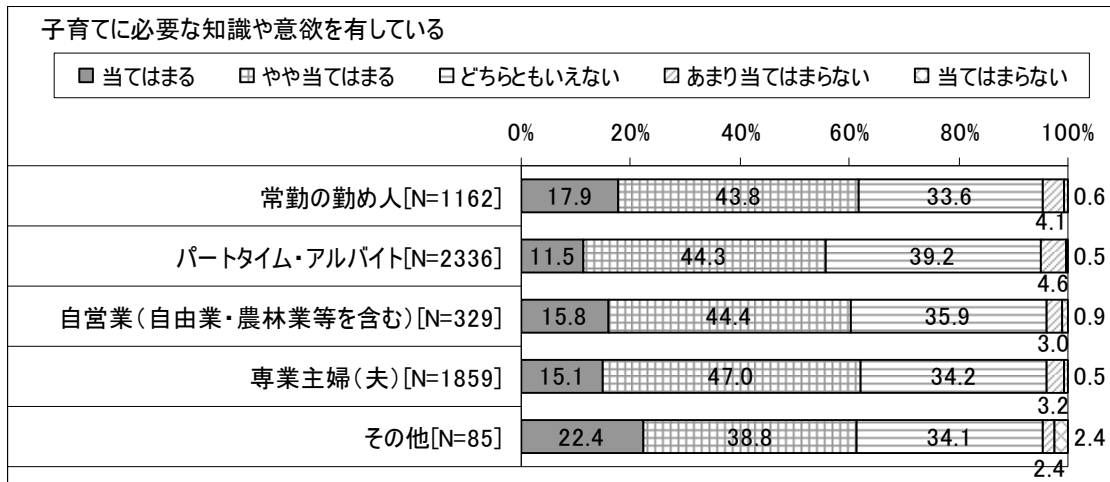
図表 3-6 保護者の年代×家庭の達成状況

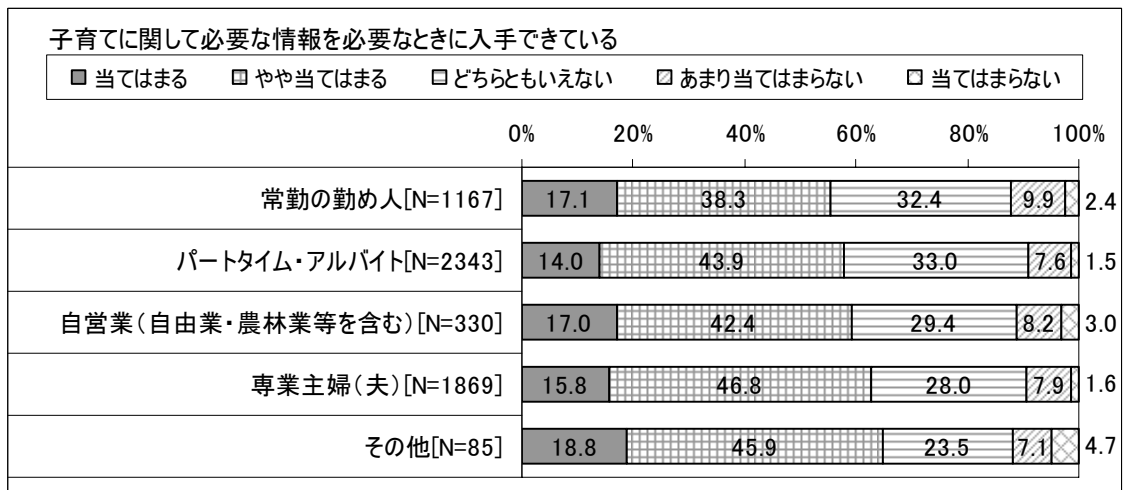
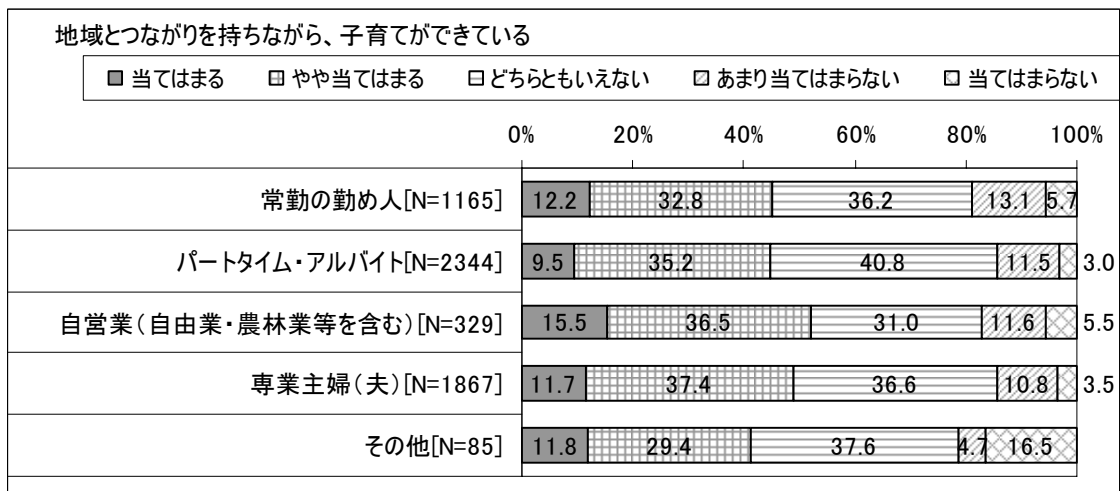
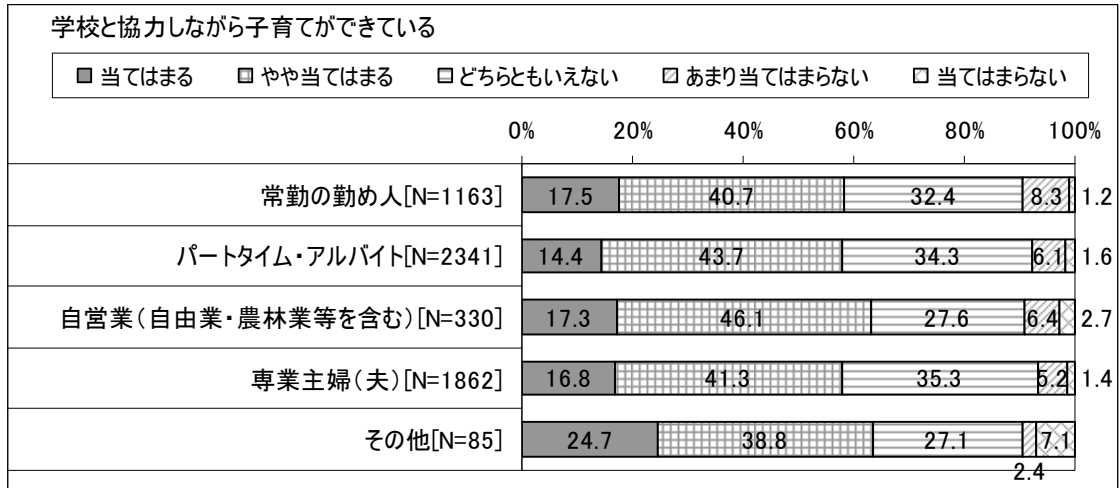


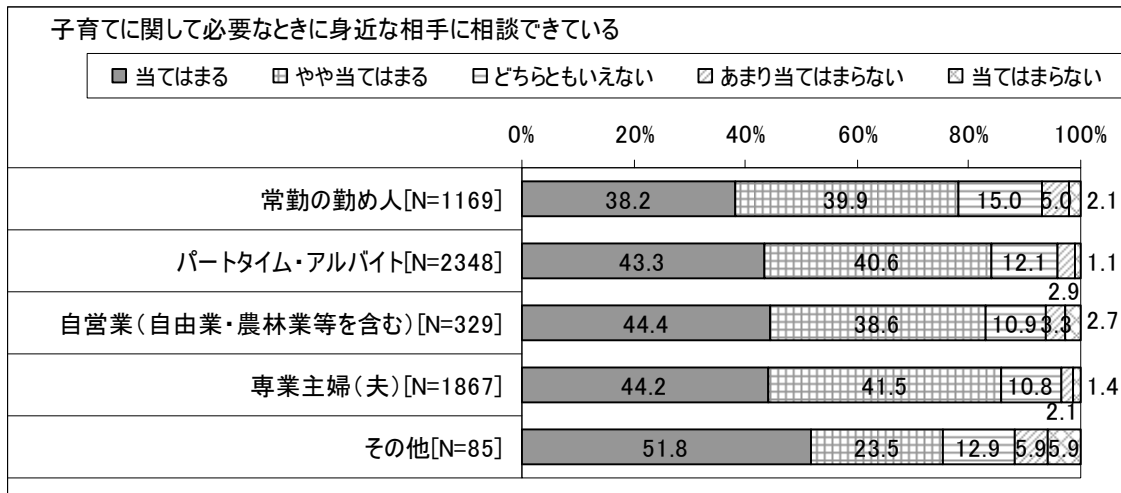




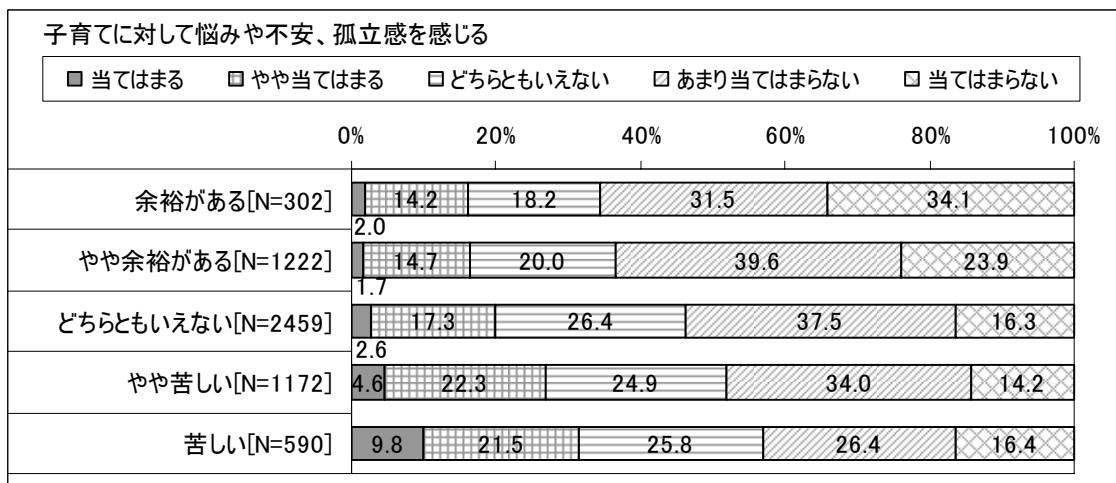
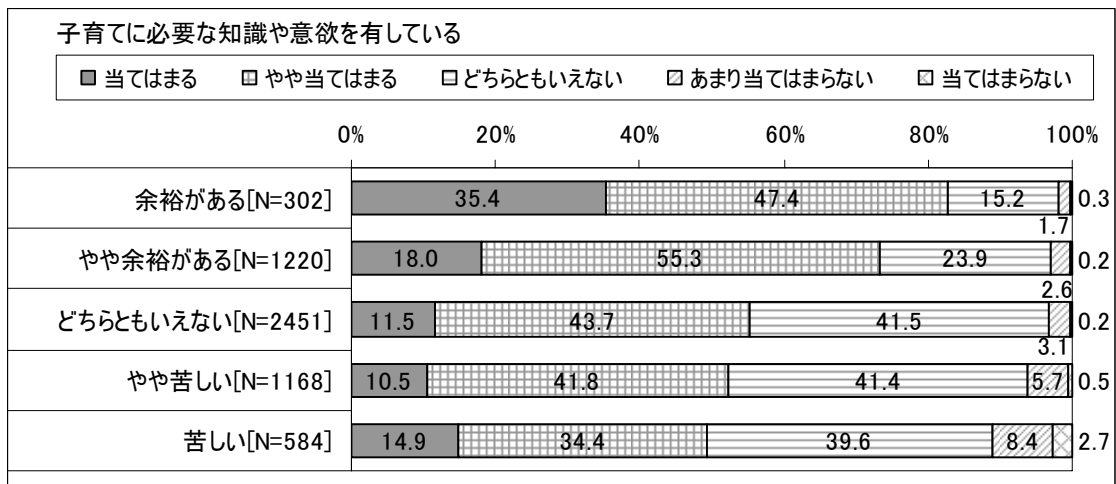
図表 3-7 保護者の職業×家庭の達成状況

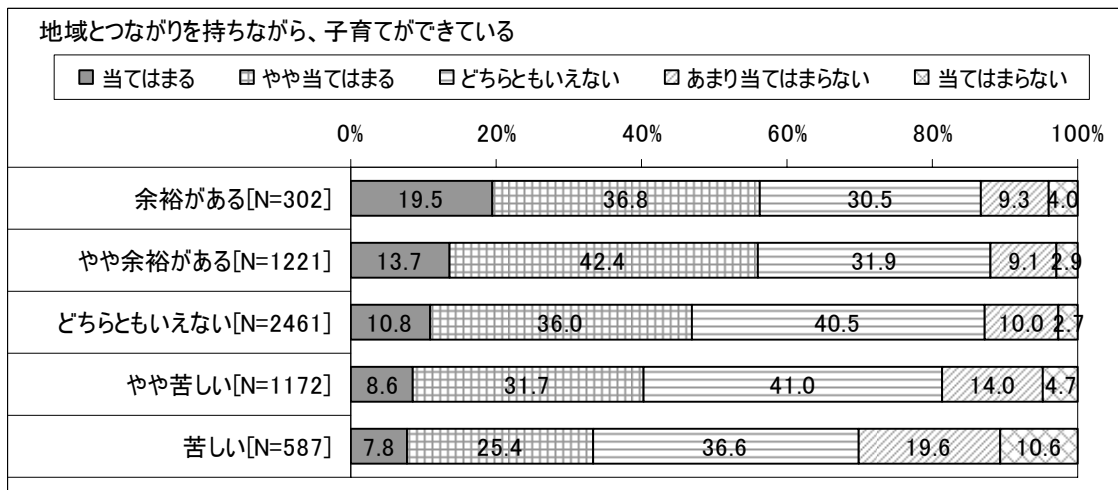
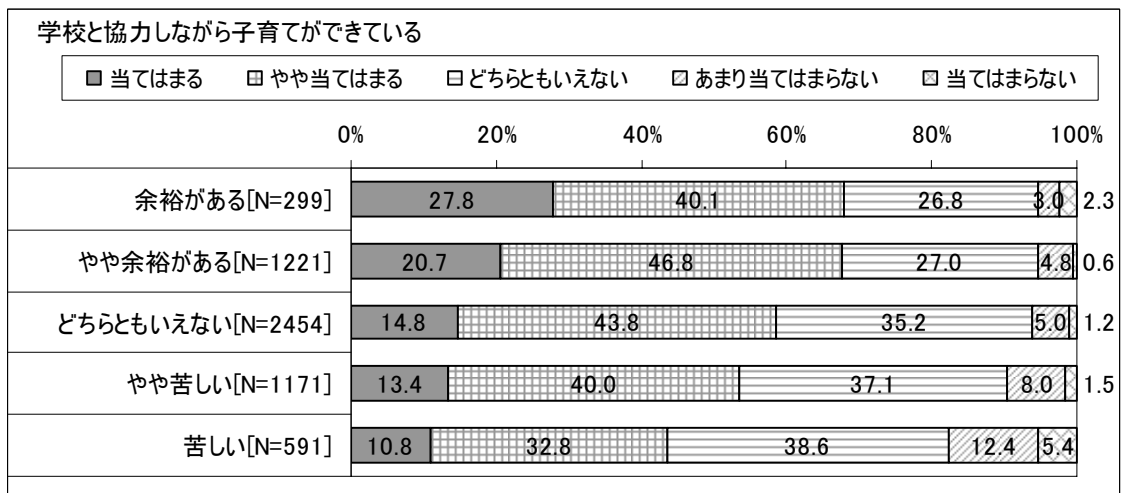
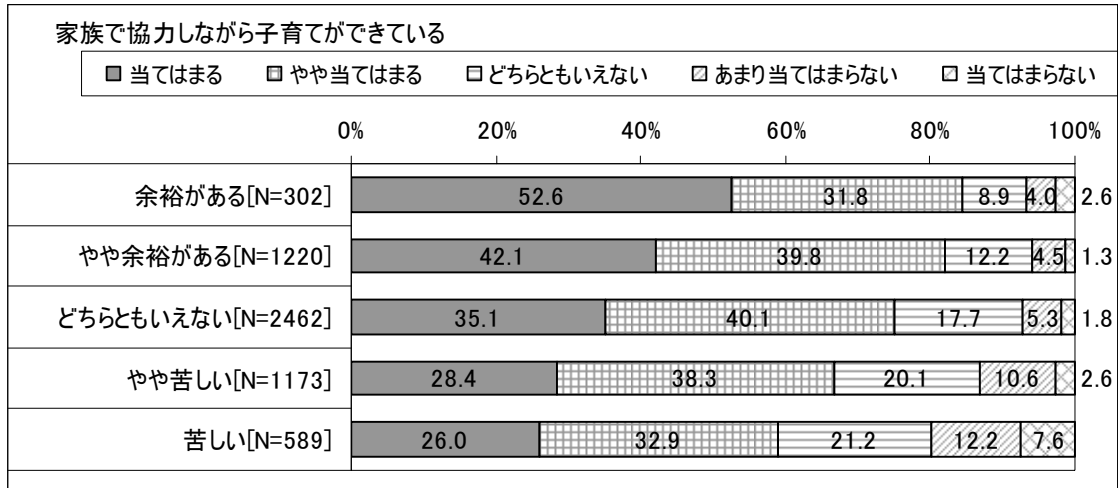


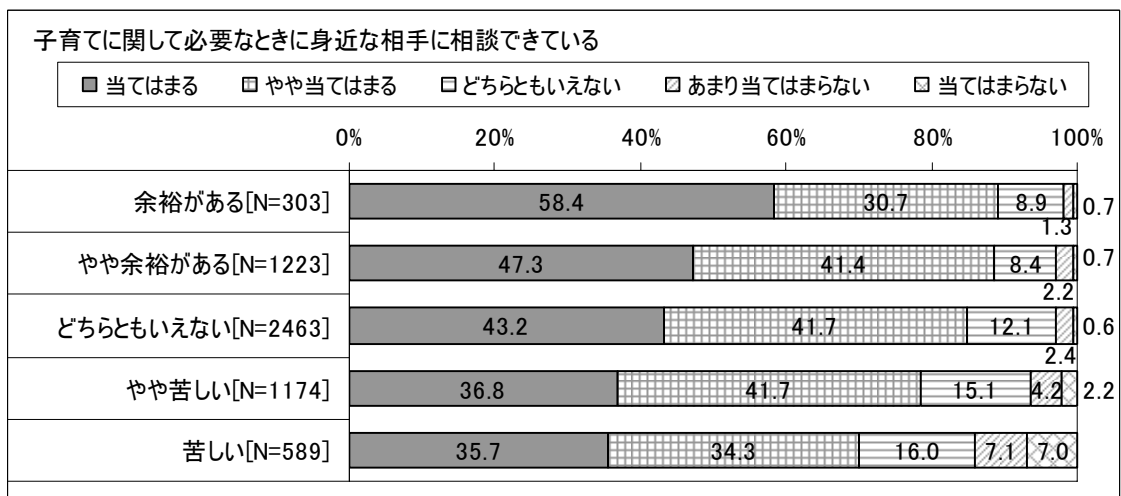
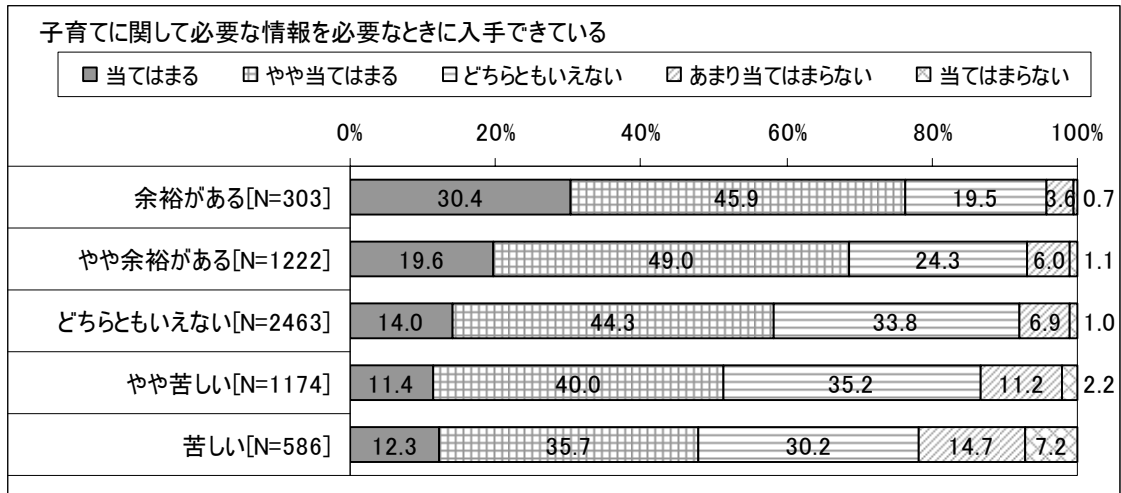




図表 3-8 保護者の経済状態×家庭の達成状況







【分析の視点 b】

- 保護者の子育てに関する知識等について、家庭教育学級などへの参加状況（学習機会の提供主体別）による差があるか

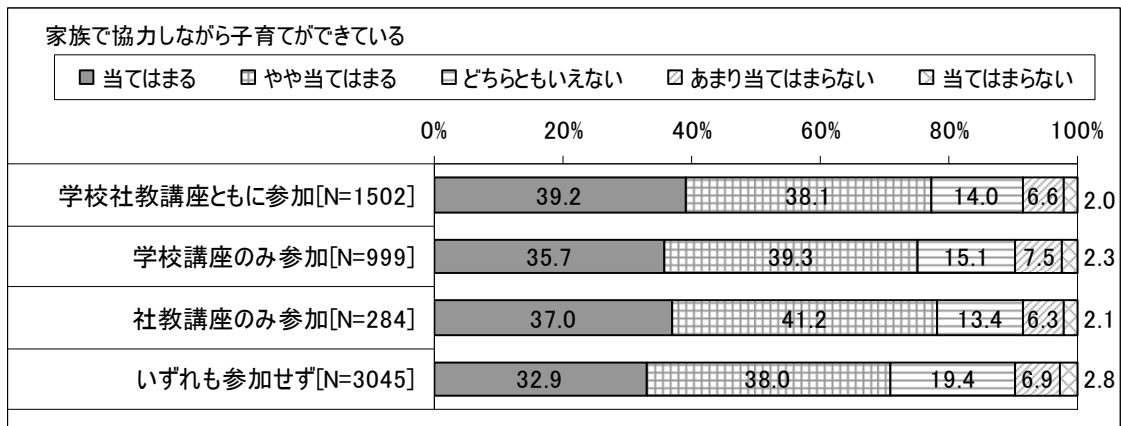
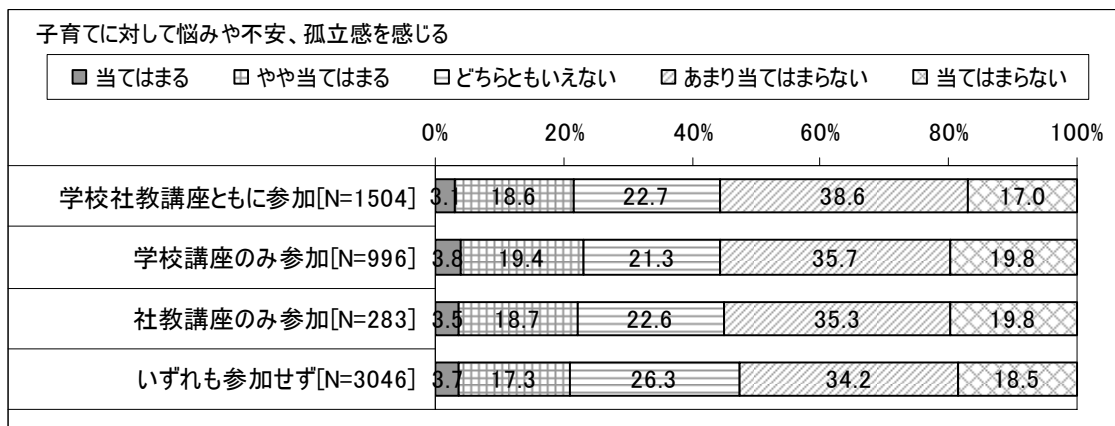
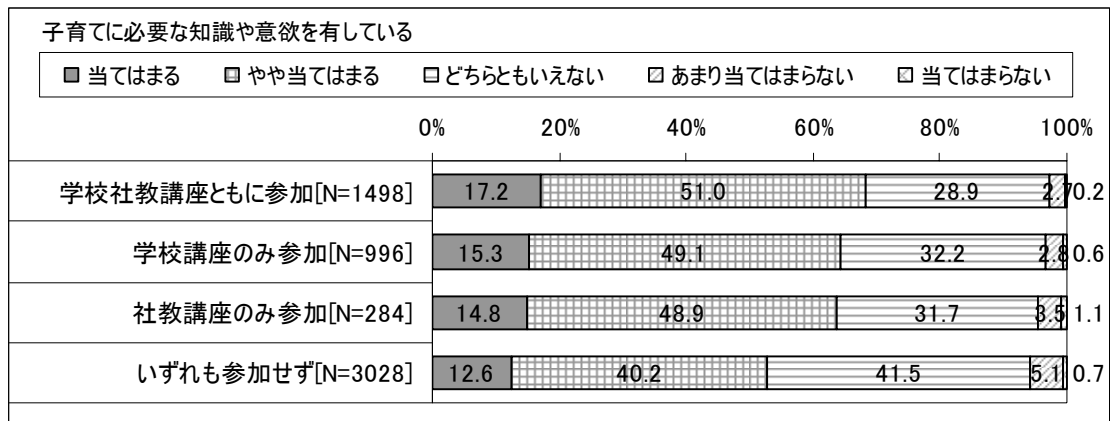
【分析の方法】

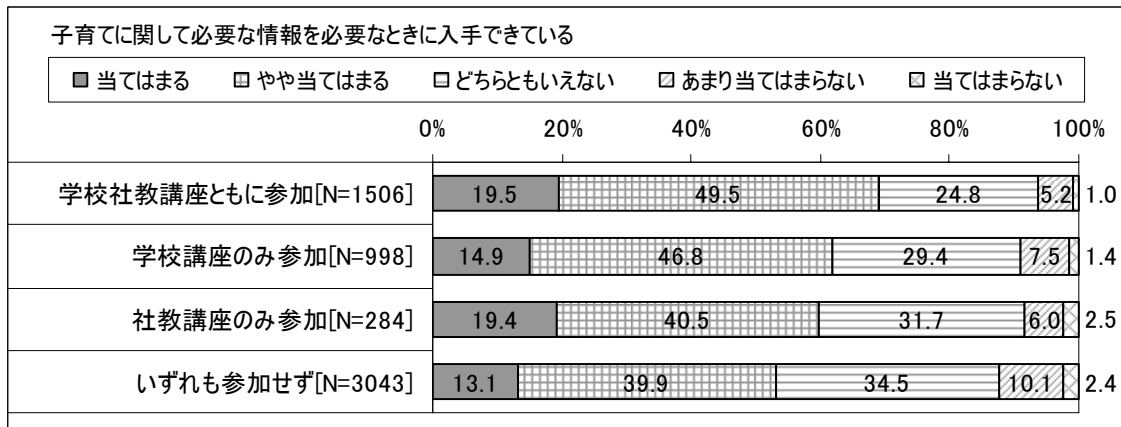
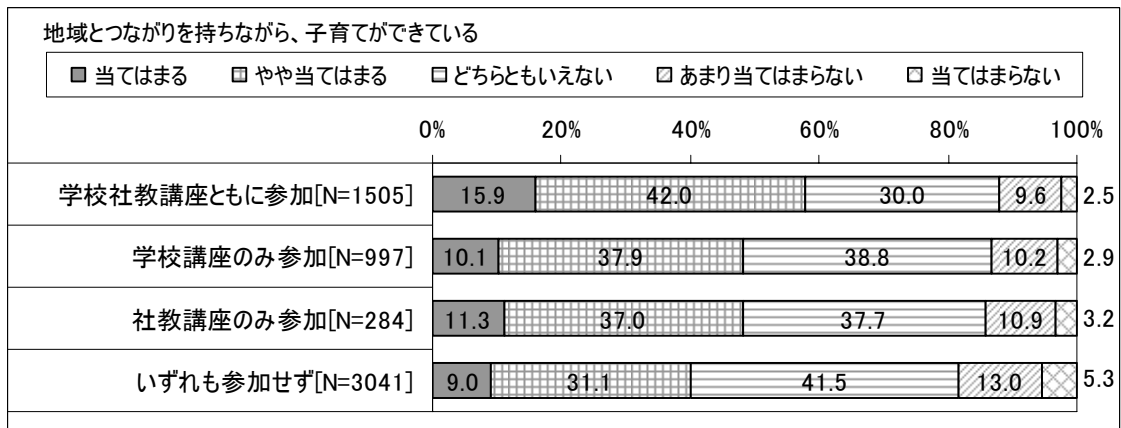
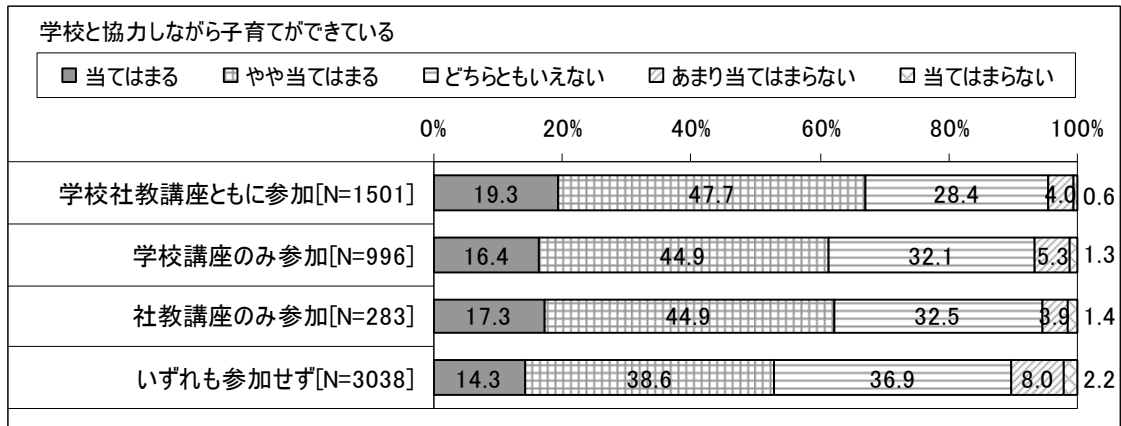
- 保護者の子育てに関する知識や意識、学校との関係、地域のサポート体制に対する満足度等、に関する現在の達成状況（Q10、11、12）について、保護者が参加した子育てに関する講座や意見交換会等の提供主体（学校か学校外施設か）（Q13）別に比較

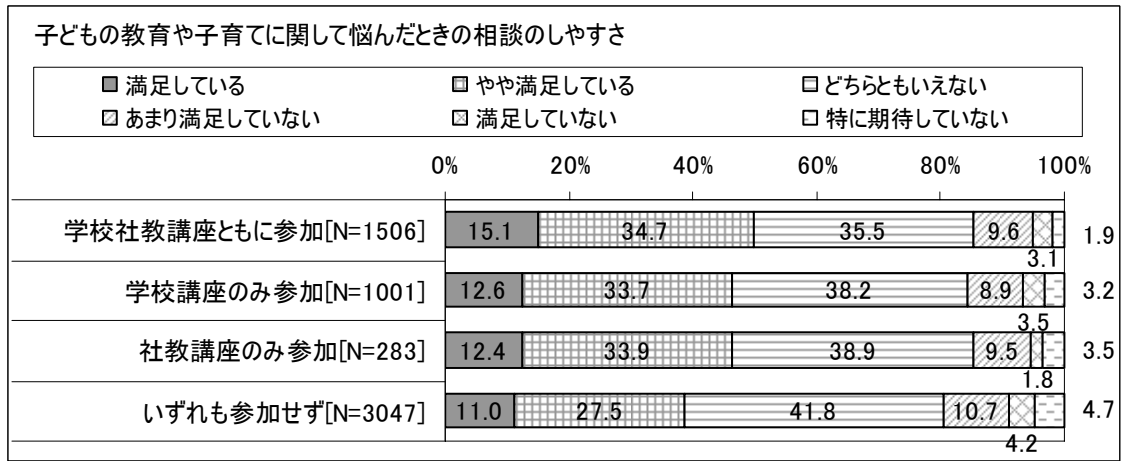
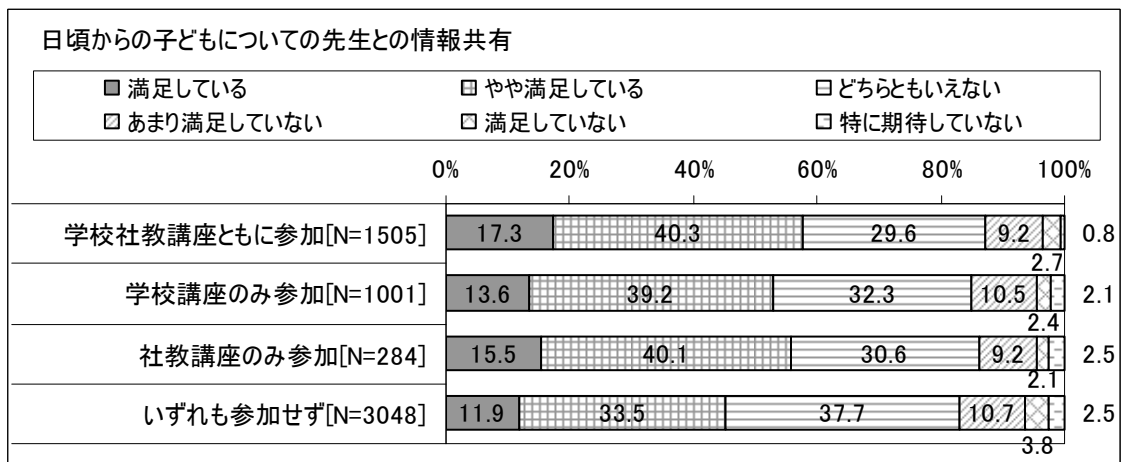
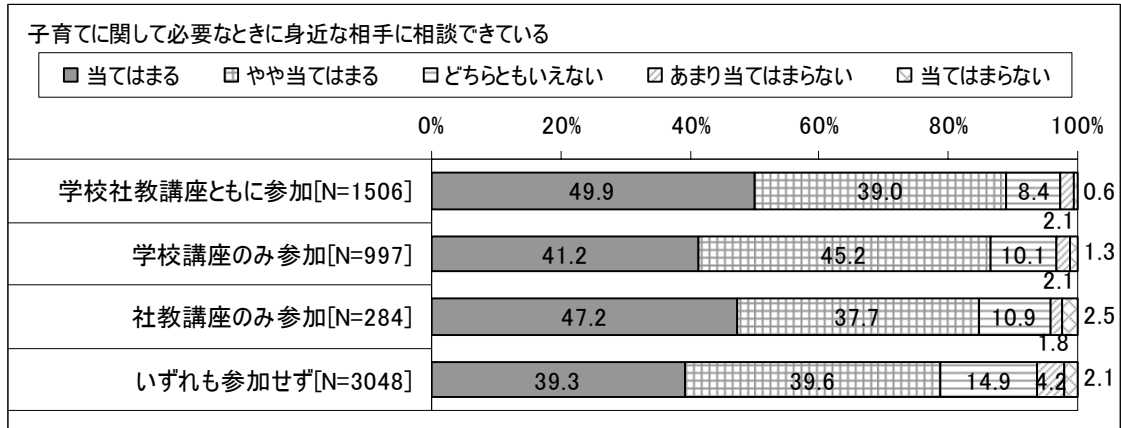
【分析結果のポイント】

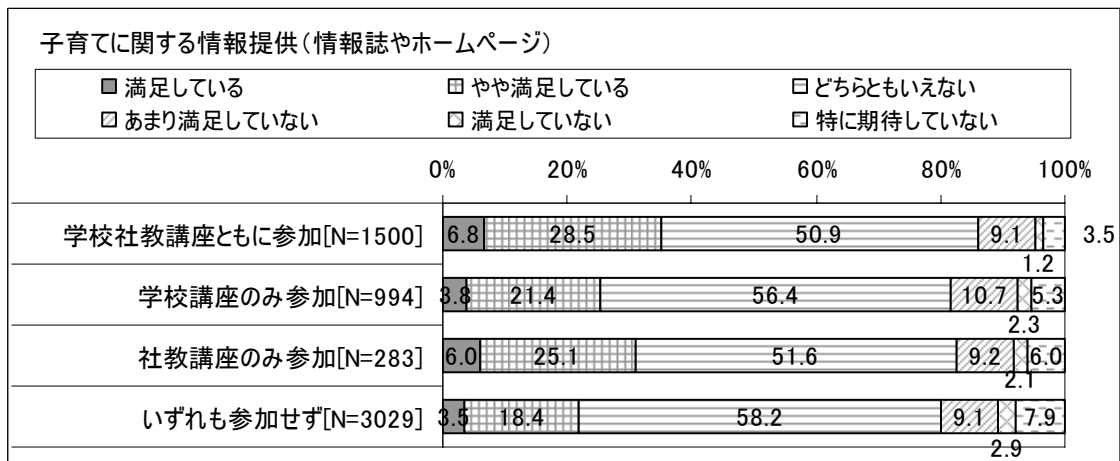
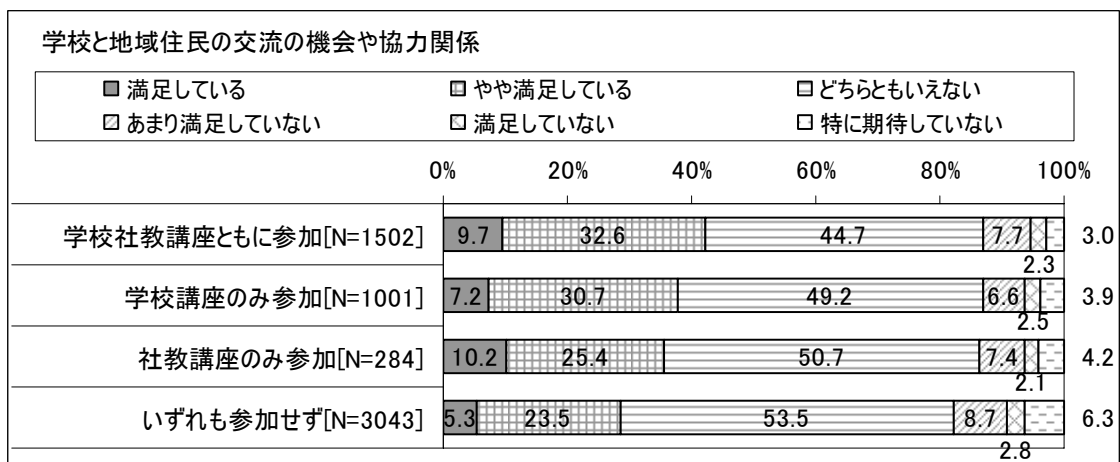
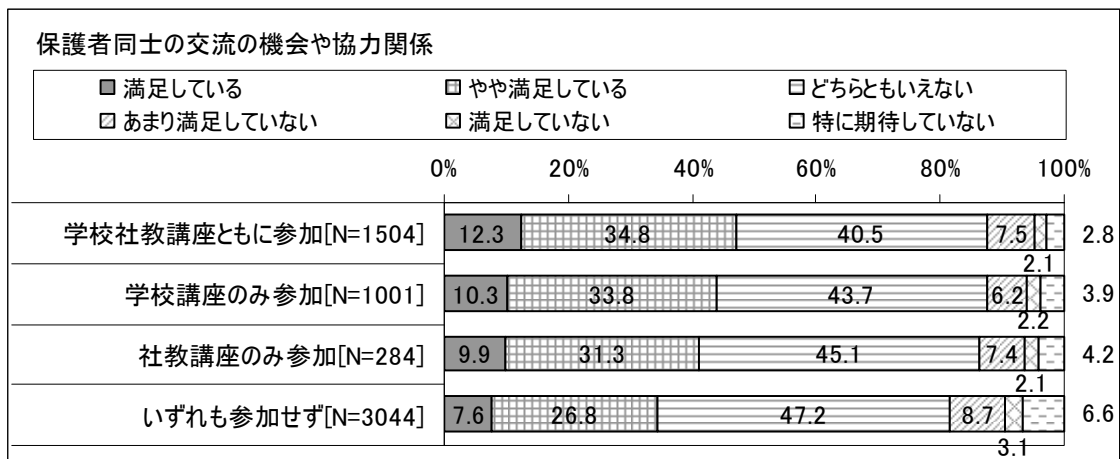
- 学習機会の提供主体による有意差が見られるのは、「子育てに必要な知識や意欲を有している」「子育てに対して悩みや不安、孤立感を感じる」「家族で協力しながら子育てができて」「学校と協力しながら子育てができて」「地域とつながりを持ちながら、子育てができて」「子育てに関して必要な情報を必要なときに入手ができて」「子育てに関して必要なときに身近な相手に相談ができて」「日頃からの子どもについての先生との情報共有」「子どもの教育や子育てに関して悩んだときの相談のしやすさ」「保護者同士の交流の機会や協力関係」「学校と地域住民の交流の機会や協力関係」「子育てに関する情報提供（情報誌やホームページ）」「子育てに関する学習機会」「他の保護者との交流の機会・ひろば」「子育てに関する電話相談や相談機関」「子育て経験のある人や専門家による訪問等の定期的なサポート」「地域住民の子育てに対する協力」「地元企業や事業所等の子育てに対する協力」
- ほぼすべてにおいて、学校開催の学習機会と学校外施設開催の学習機会双方を経験した保護者において、もっとも達成状況（「当てはまる」「やや当てはまる」または「満足している」「やや満足している」の合計回答割合）が高い
- 学校開催の学習機会のみ経験した保護者と、学校外施設開催の学習機会のみ経験した保護者との間には、達成状況の異同について一定の傾向は見られない

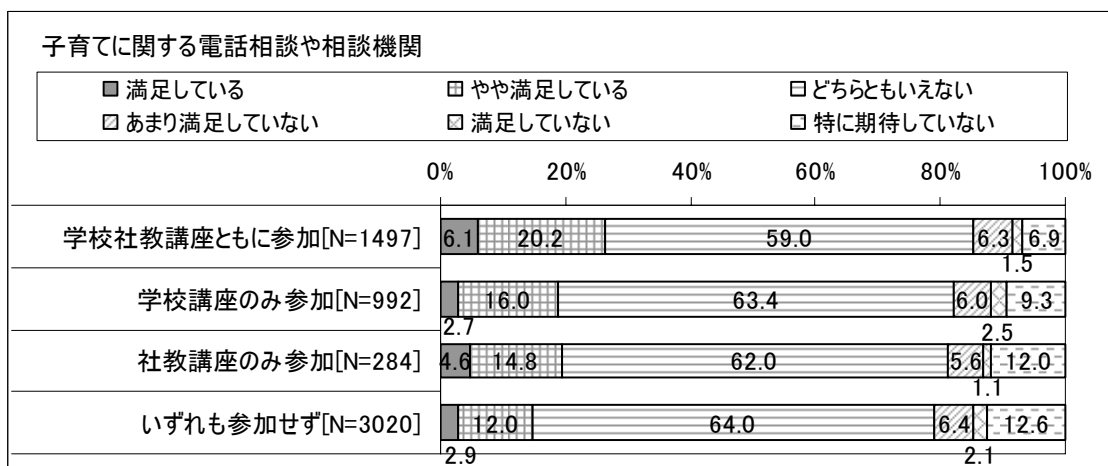
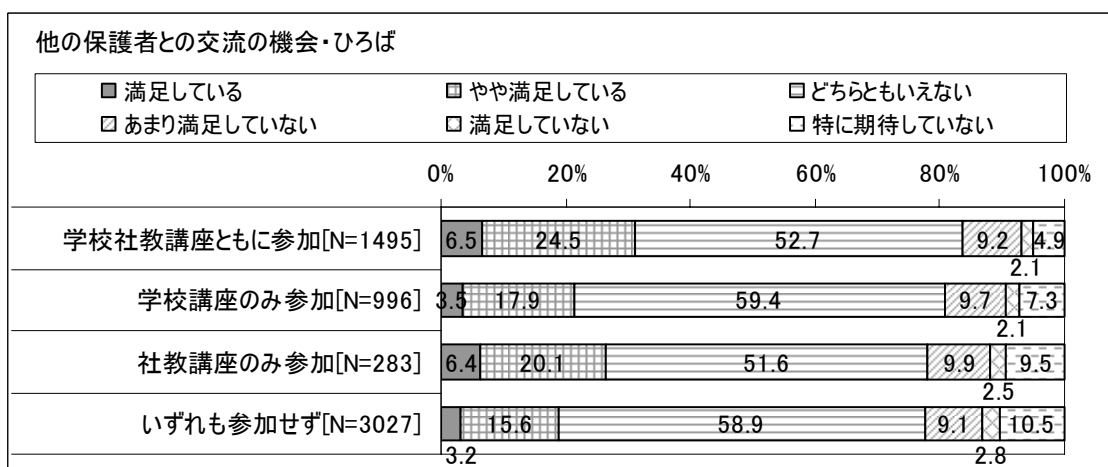
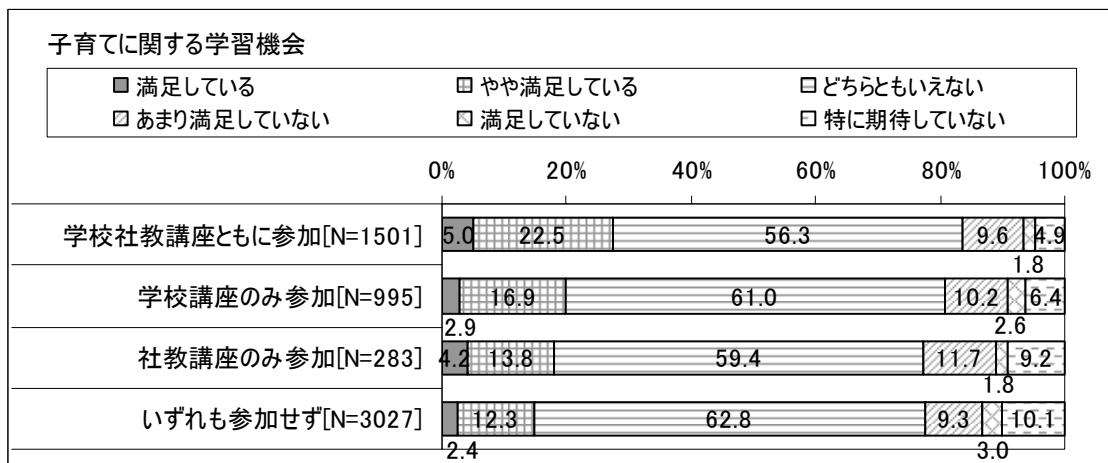
図表 3-9 家庭教育に関する学習機会への参加状況(学習機会の提供主体)×家庭等の達成状況

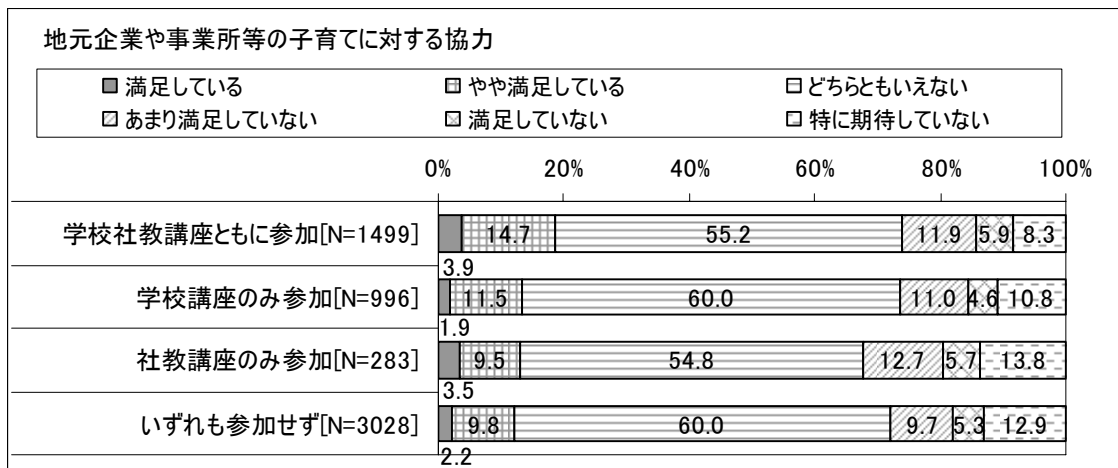
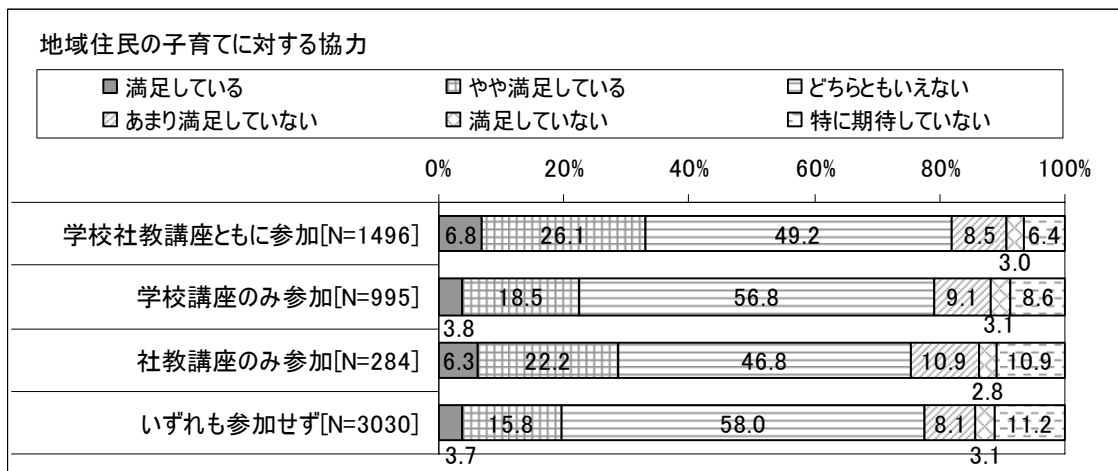
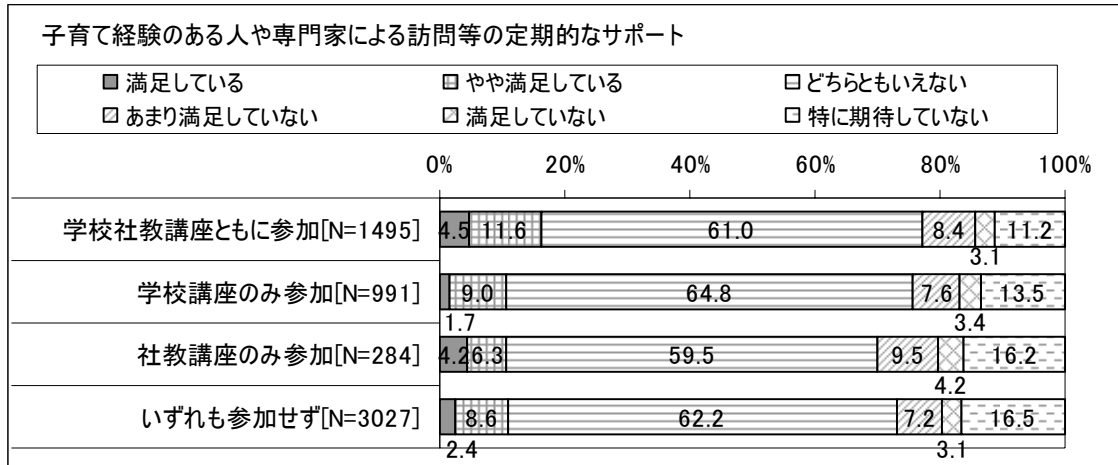












【分析の視点 c】

- 保護者の子育てに関する知識等について、家庭教育学級などへの参加状況（学習の実施方法別）による差があるか

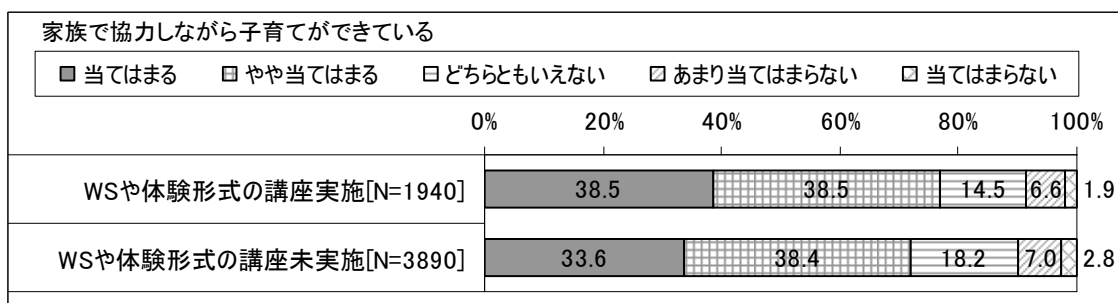
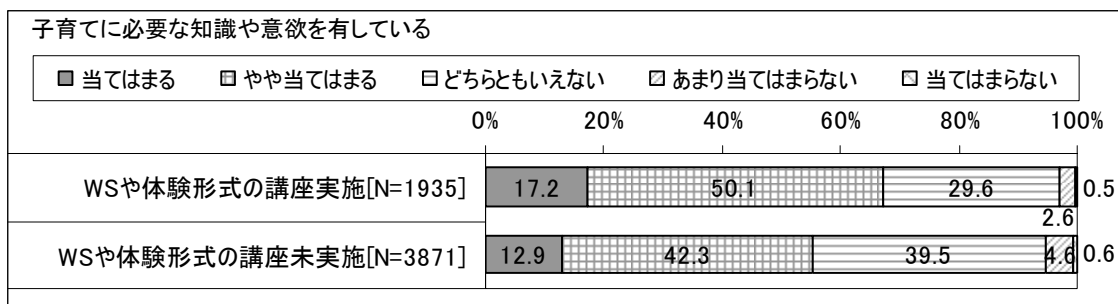
【分析の方法】

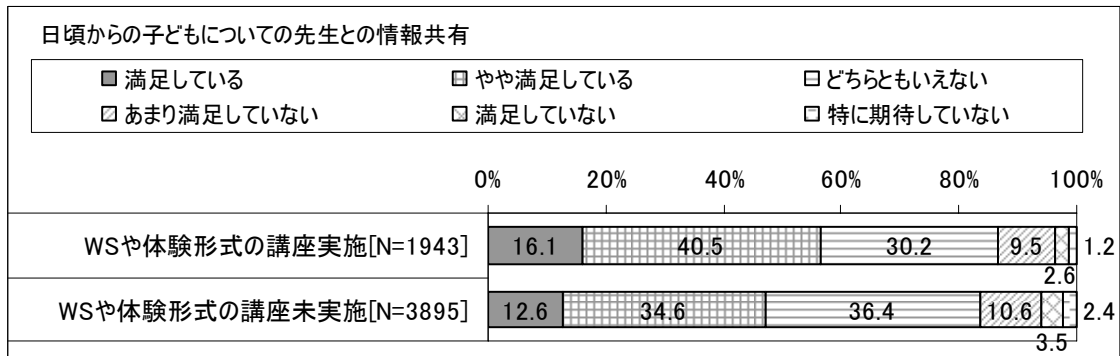
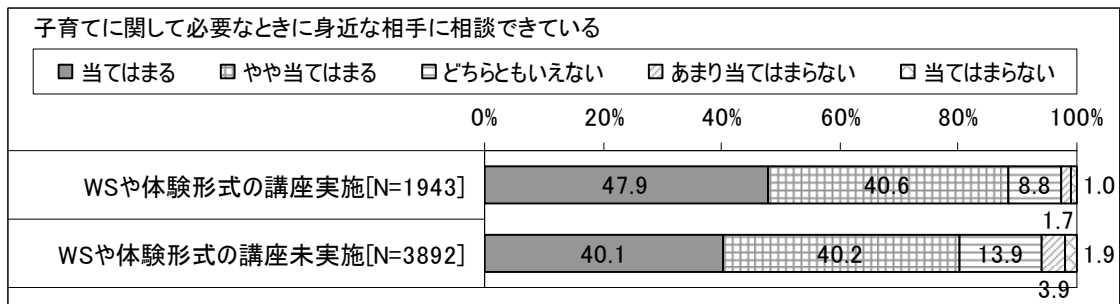
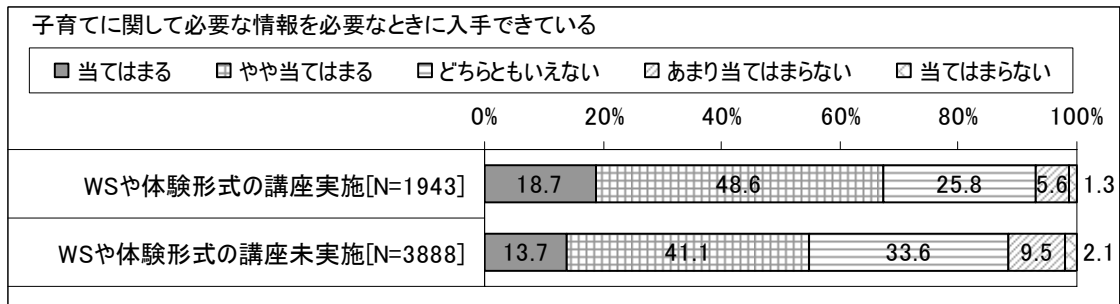
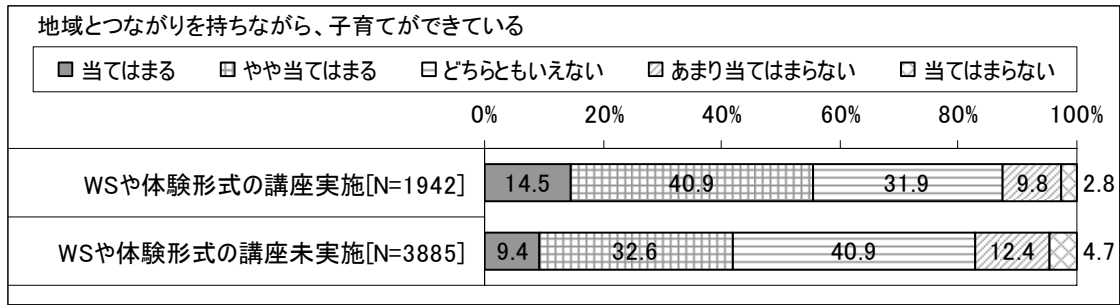
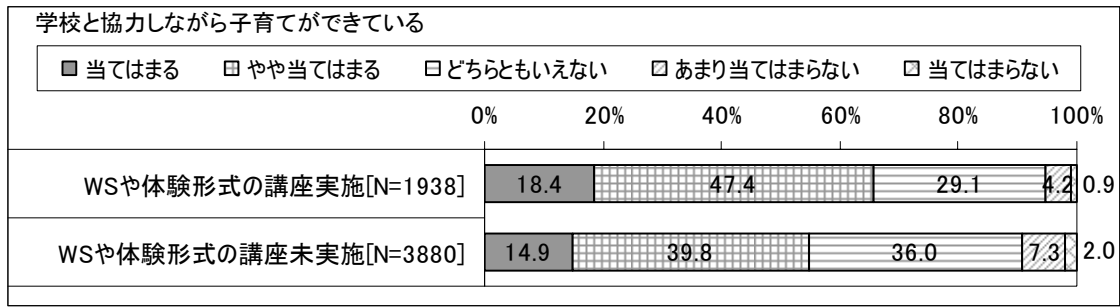
- 保護者の子育てに関する知識や意識、学校との関係、地域のサポート体制に対する満足度等、に関する現在の達成状況（Q10、11、12）について、ワークショップや体験形式の講座の経験有無（Q13）別に比較

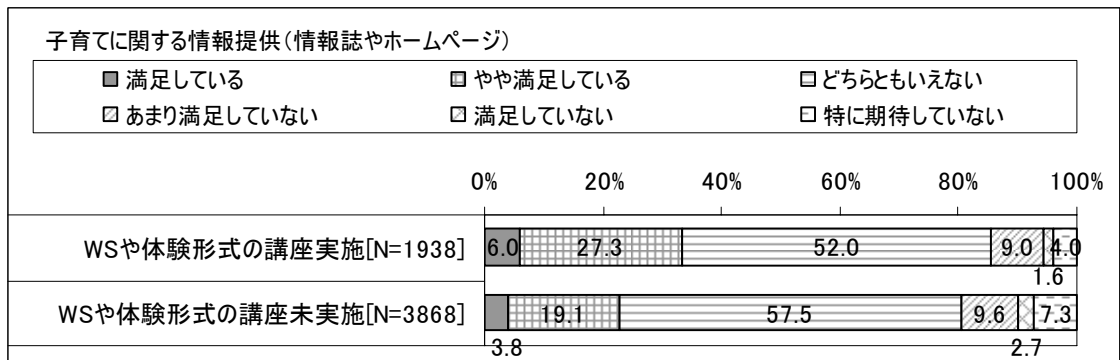
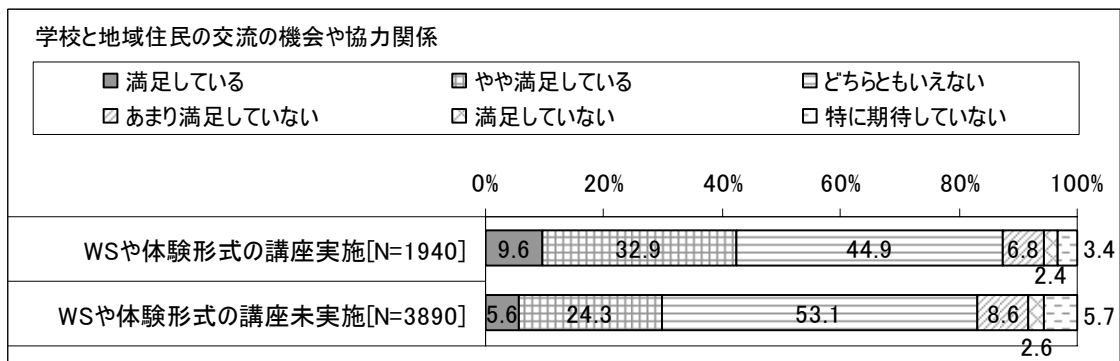
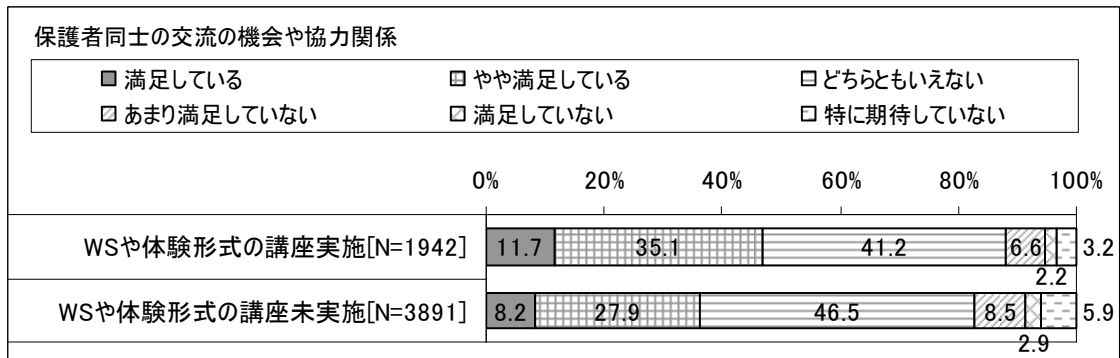
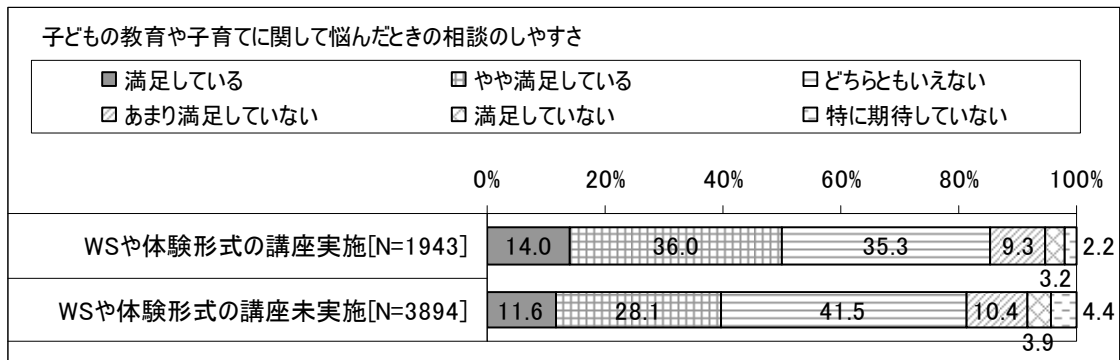
【分析結果のポイント】

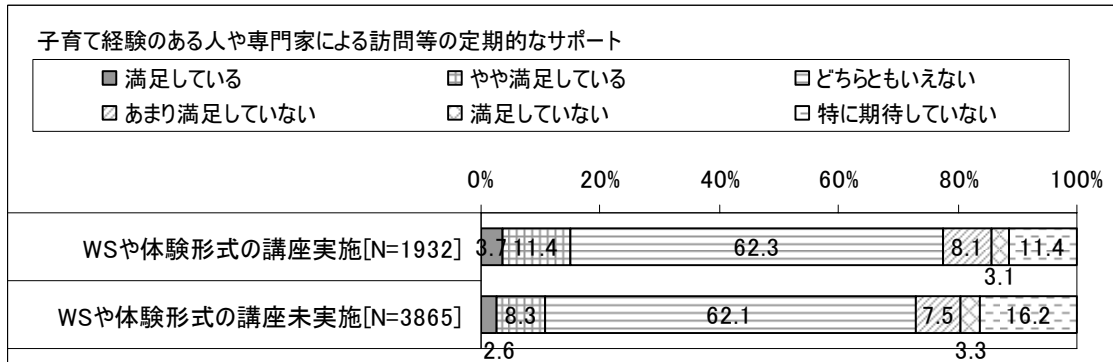
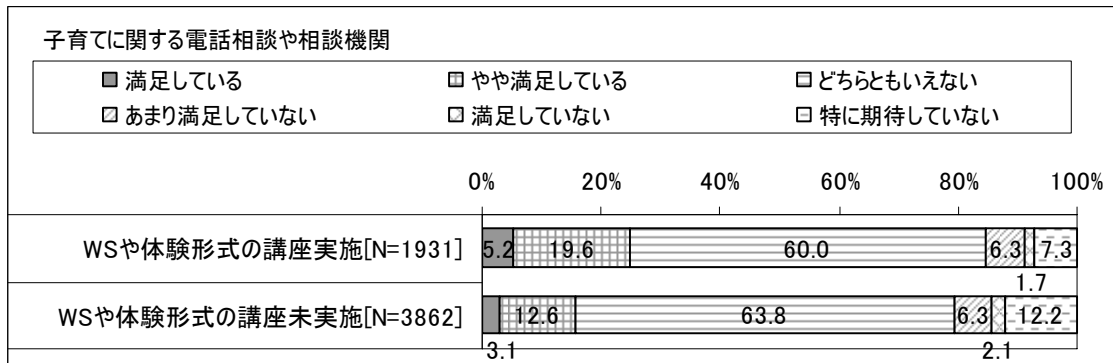
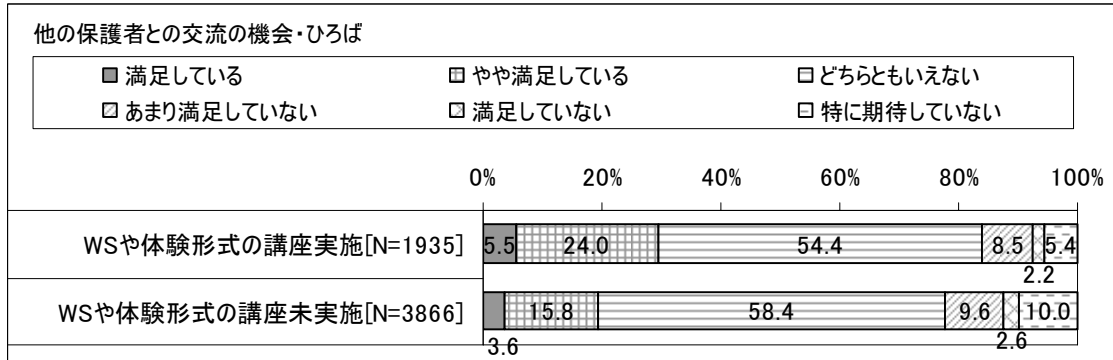
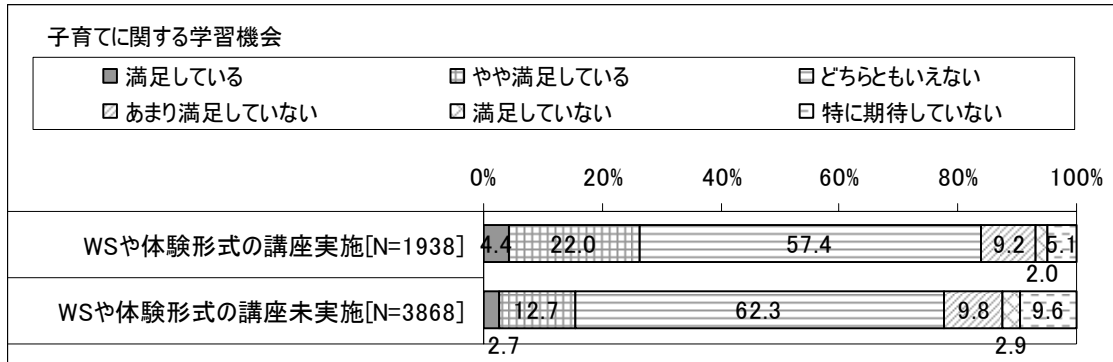
- ワークショップや体験形式の講座の経験による有意差が見られるのは、「. 子育てに必要な知識や意欲を有している」「家族で協力しながら子育てができている」「学校と協力しながら子育てができている」「地域とつながりを持ちながら、子育てができている」「子育てに関して必要な情報を必要なときに入手できている」「子育てに関して必要なときに身近な相手に相談できている」「日頃からの子どもについての先生との情報共有」「子どもの教育や子育てに関して悩んだときの相談のしやすさ」「保護者同士の交流の機会や協力関係」「学校と地域住民の交流の機会や協力関係」「子育てに関する情報提供（情報誌やホームページ）」「子育てに関する学習機会」「他の保護者との交流の機会・ひろば」「子育てに関する電話相談や相談機関」「子育て経験のある人や専門家による訪問等の定期的なサポート」「地域住民の子育てに対する協力」「地元企業や事業所等の子育てに対する協力」
- すべてにおいて、ワークショップや体験形式の講座を経験した保護者が、経験していない保護者に比して高い効果を示している

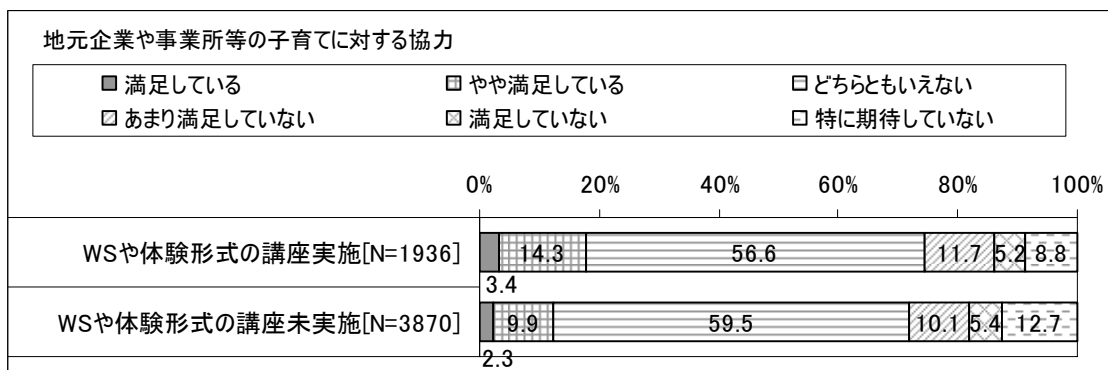
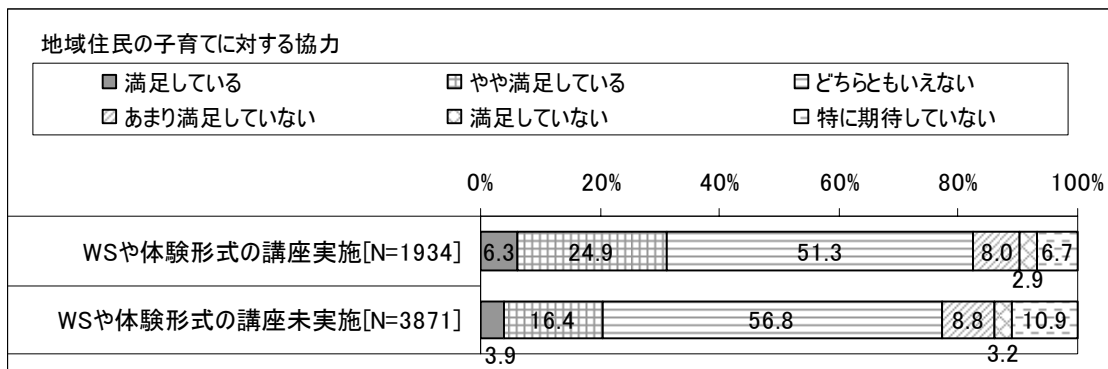
図表 3-10 家庭教育に関する学習機会への参加状況(学習の実施方法) × 家庭等の達成状況











【分析の視点 d】

- 学校等で開催された講座等への参加による効果は、家庭教育学級などへの参加状況（学習機会の提供主体別）による差があるか

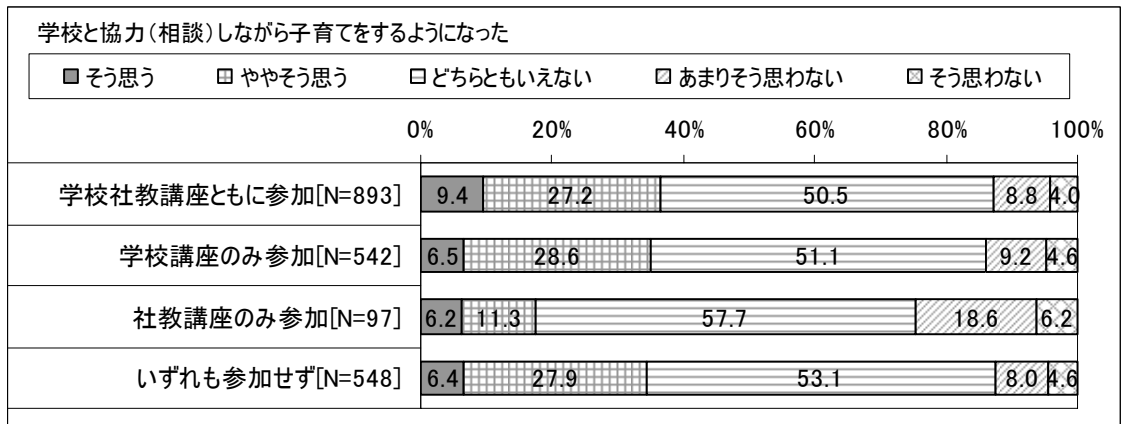
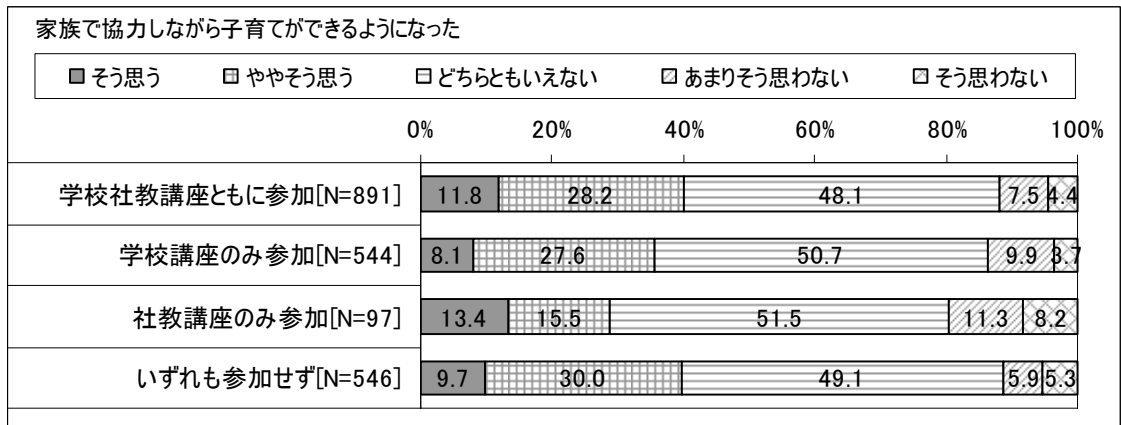
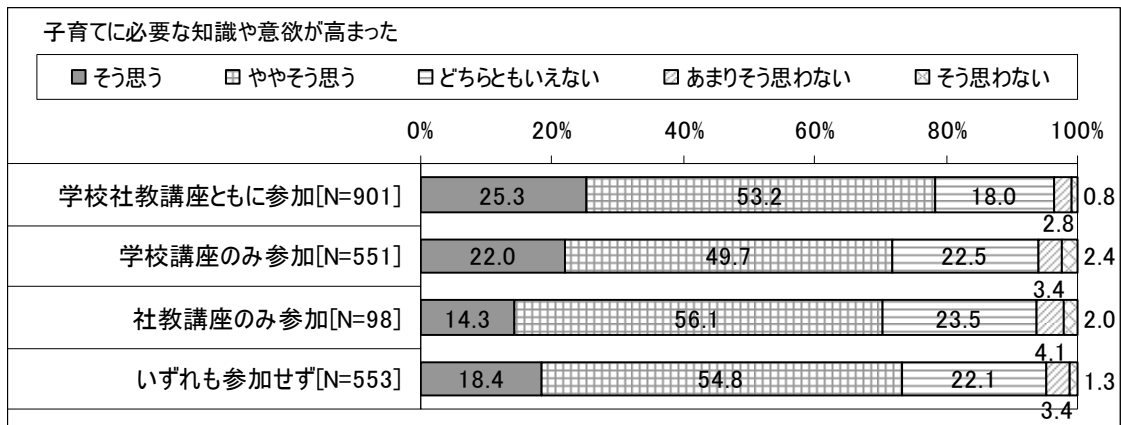
【分析の方法】

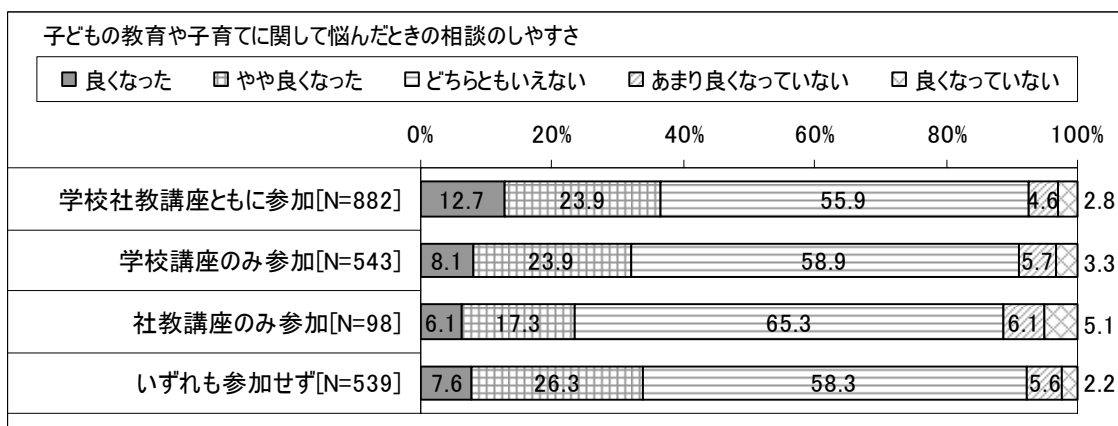
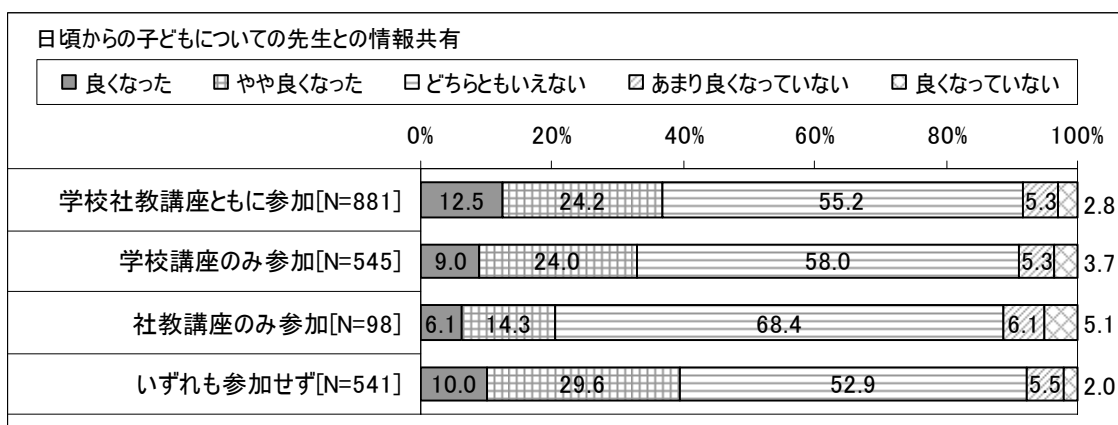
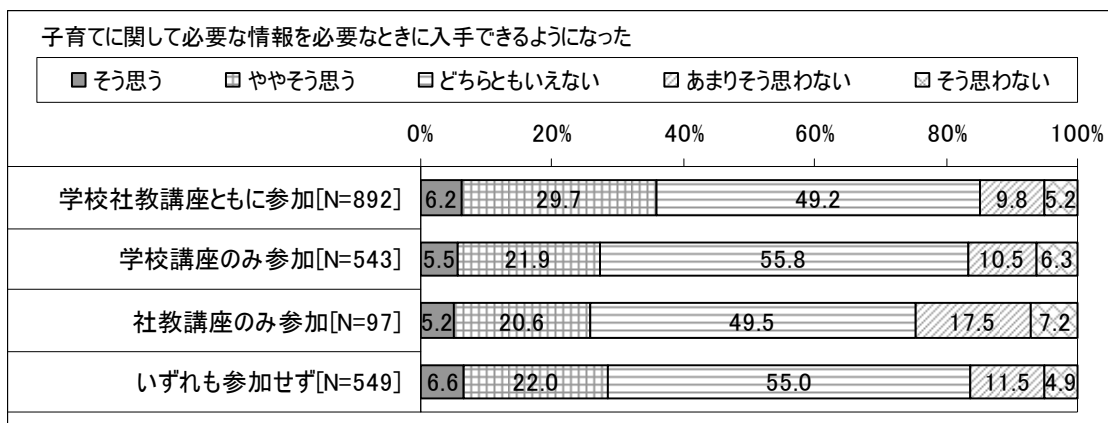
- 学校または公民館などの学校外施設で開催された講座や意見交換会への参加による家庭・学校への直接的な効果（Q14、15）について、保護者が参加した子育てに関する講座や意見交換会等の提供主体（学校か学校外施設か）（Q13）別に比較

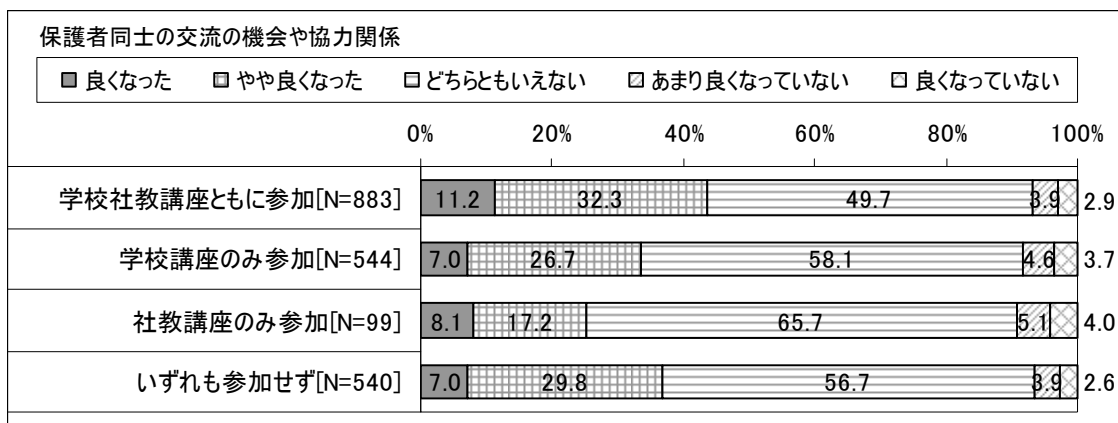
【分析結果のポイント】

- 学習機会の提供主体による有意差が見られるのは、「子育てに必要な知識や意欲が高まった」「家族で協力しながら子育てができるようになった」「学校と協力（相談）しながら子育てをするようになった」「子育てに関して必要な情報を必要なときに入手できるようになった」「日頃からの子どもについての先生との情報共有」「子どもの教育や子育てに関して悩んだときの相談のしやすさ」「保護者同士の交流の機会や協力関係」
- ほぼすべてにおいて、学校開催の学習機会と学校外施設開催の学習機会双方を経験した保護者において、もっとも効果（「そう思う」「ややそう思う」または「良くなった」「やや良くなった」の合計回答割合）が高い
- すべての項目において、学校開催の学習機会のみ経験した保護者は、学校外施設開催の学習機会のみ経験した保護者に比して効果が高い

図表 3-11 家庭教育に関する学習機会への参加状況(学習機会の提供主体)×家庭等への効果







【分析の視点 e】

- 学校等で開催された講座等への参加による効果は、家庭教育学級などへの参加状況（学習の実施方法別）による差があるか

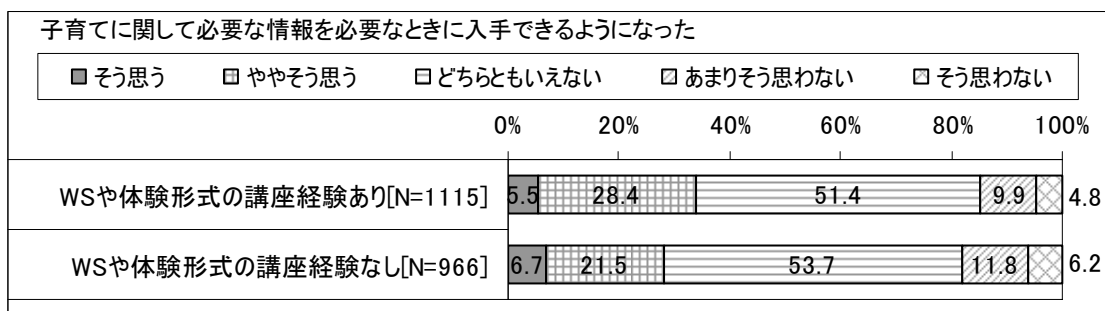
【分析の方法】

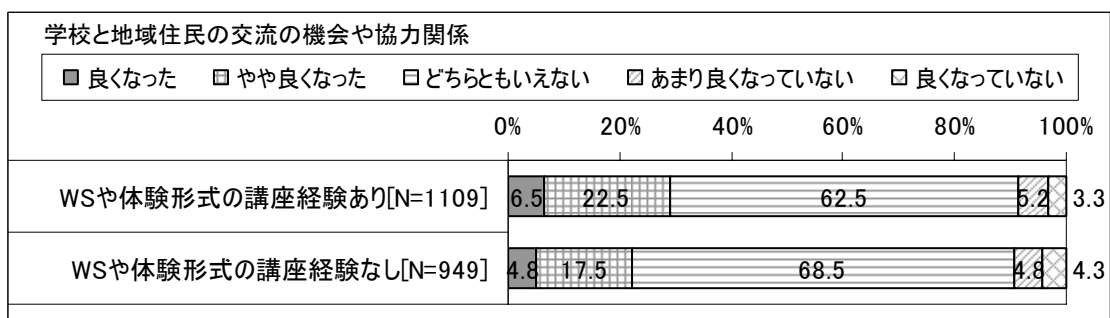
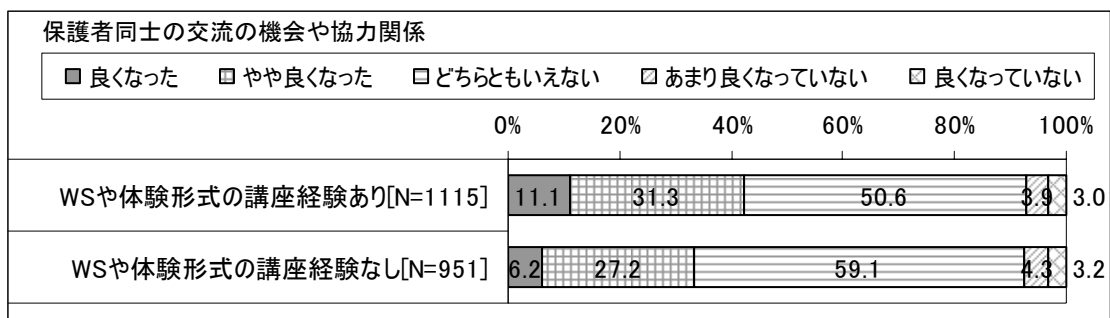
- 学校または公民館などの学校外施設で開催された講座や意見交換会への参加による家庭・学校への直接的な効果（Q14、15）について、ワークショップや体験形式の講座の経験有無別（Q13）に比較

【分析結果のポイント】

- ワークショップや体験形式の講座の経験による有意差が見られるのは、「子育てに関して必要な情報を必要なときに入手できるようになった」「保護者同士の交流の機会や協力関係」「学校と地域住民の交流の機会や協力関係」
- すべてにおいて、ワークショップや体験形式の講座を経験した保護者が、経験していない保護者に比して高い効果を示している

図表 3-12 家庭教育に関する学習機会への参加状況(学習の実施方法) × 家庭等への効果





【分析の視点f】

- 学校等で開催された講座等への参加による効果は、取組に係る協力・工夫の実施状況による差があるか

【分析の方法】

- 学校または公民館などの学校外施設で開催された講座や意見交換会への参加による家庭・学校への直接的な効果（Q14、15）について、取組に係る協力・工夫の実施状況（教員 Q3、支援者・企画者 Q10）のうち「企画や実施にあたって、地域の支援人材と定期的に意見交換を行っている」（教員 Q3a）、「企画や実施にあたって、地域の支援人材等に学校の空きスペース等の場所を提供している」（教員 Q3b）、「保護者が主体的に子育てを振り返ったり、悩みを語り合える内容を取り入れている」（支援者・企画者 Q10d）を実施している学校（実施群）と実施していない学校（未実施群）を比較

【分析結果のポイント】

- 「企画や実施にあたって、地域の支援人材と定期的に意見交換を行っている」実施群は未実施群に比して、「仕事で忙しい家庭にも子どもに関する情報を提供できるようになった」「企画や実施にあたって、地域の支援人材等に学校の空きスペース等の場所を提供している」「保護者が主体的に子育てを振り返ったり、悩みを語り合える内容を取り入れている」すべてにおいて、実施群と未実施群の間には、いずれの項目においても有意差は見られない

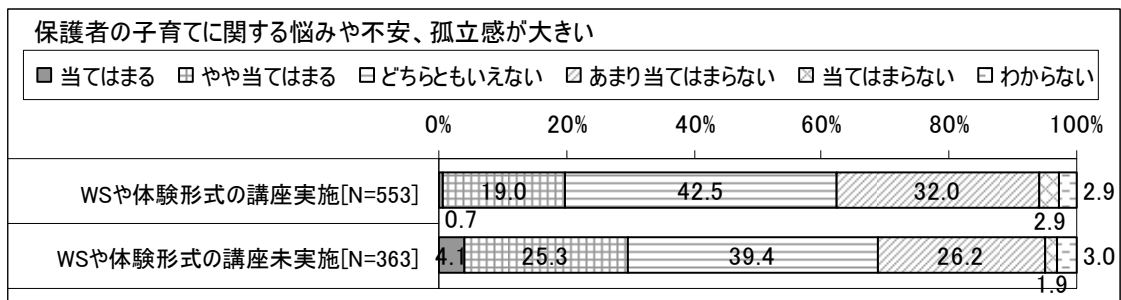
(2) 教職員票

1) 家庭への効果

<p>【分析の視点】</p> <p>a 保護者の子育てに関する知識等について、ワークショップ等を実施している学校と実施していない学校とでは、どのような差があるか</p> <p>b 家庭教育に関する学習機会の提供について、ワークショップ等を実施している学校と実施していない学校とでは、どのような差があるか</p> <p>c 家庭教育に関する学習機会の提供について、取組に係る協力・工夫の実施状況による差があるか</p>

<p>【分析の視点 a】</p> <ul style="list-style-type: none"> 保護者の子育てに関する知識等について、ワークショップ等を実施している学校と実施していない学校とでは、どのような差があるか
<p>【分析の方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> 保護者の子育てに関する知識や意識等に関する現在の達成状況 (Q5a-b) について、家庭教育学級などの「家庭教育に関する学習機会の提供」の状況 (Q1) のうち「子育ての関連の講座 (ワークショップや体験形式) の開催」を実施している学校 (WS 実施群) と実施していない学校 (WS 未実施群) を比較
<p>【分析結果のポイント】</p> <ul style="list-style-type: none"> WS 実施群は未実施群に比して、「保護者の子育てに関する悩みや不安、孤立感が大きい」についての達成状況 (「当てはまらない」「やや当てはまらない」の合計回答割合) が有意に高い 他の項目については、実施群と未実施群の間に有意差は見られない

図表 3-13 ワークショップや体験形式の講座実施有無×家庭の達成状況



【分析の視点 b】

- 家庭教育に関する学習機会の提供について、ワークショップ等を実施している学校と実施していない学校とでは、どのような差があるか

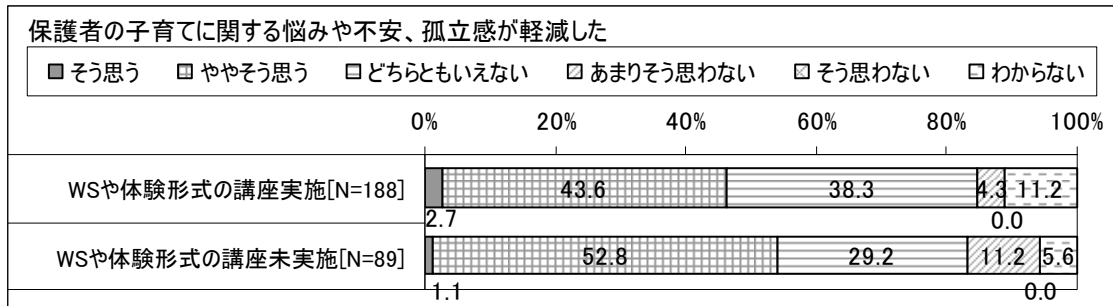
【分析の方法】

- 家庭教育に関する学習機会の提供による家庭への直接的な効果 (Q6f-g) について、家庭教育学級などの「家庭教育に関する学習機会の提供」の状況 (Q1) のうち「子育ての関連の講座 (ワークショップや体験形式) の開催」を実施している学校 (WS 実施群) と実施していない学校 (WS 未実施群) を比較

【分析結果のポイント】

- WS 実施群は未実施群に比して、「保護者の子育てに関する悩みや不安、孤立感が軽減した」についての効果 (「そう思う」「ややそう思う」の合計回答割合) が有意に低い。ただし、未実施群は実施群に比して、「そう思わない」「あまりそう思わない」の合計回答割合も高い

図表 3-14 ワークショップや体験形式の講座実施有無×家庭への効果



【分析の視点 c】

- 家庭教育に関する学習機会の提供について、取組に係る協力・工夫の実施状況による差があるか

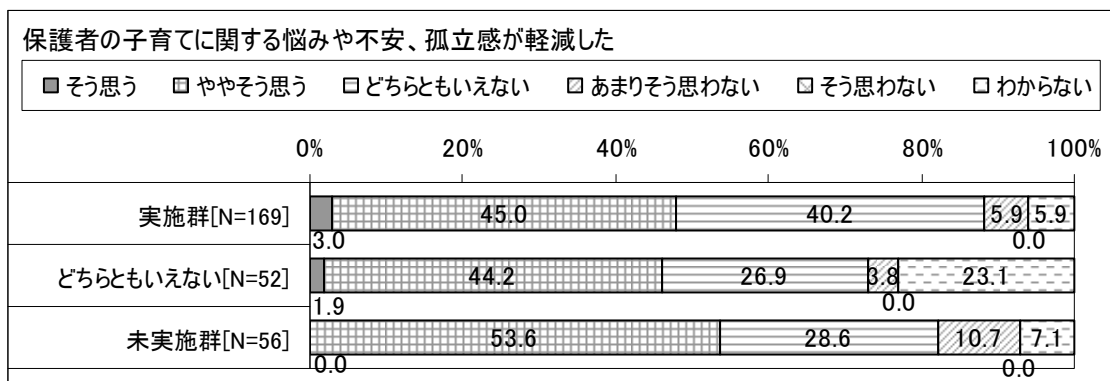
【分析の方法】

- 家庭教育に関する学習機会の提供による家庭への直接的な効果 (Q6f-g) について、取組に係る協力・工夫の実施状況 (教員 Q3、支援者・企画者 Q10) のうち「企画や実施にあたって、地域の支援人材と定期的に意見交換を行っている」(教員 Q3a)、「企画や実施にあたって、地域の支援人材等に学校の空きスペース等の場所を提供している」(教員 Q3b)、「保護者が主体的に子育てを振り返ったり、悩みを語り合える内容を取り入れている」(支援者・企画者 Q10d) を実施している学校 (実施群) と実施していない学校 (未実施群) を比較

【分析結果のポイント】

- 「企画や実施にあたって、地域の支援人材と定期的に意見交換を行っている」実施群は未実施群に比して、「保護者の子育てに関する悩みや不安、孤立感が軽減した」についての効果(「そう思う」「ややそう思う」の合計回答割合)が有意に低い。ただし、未実施群は実施群に比して、「そう思わない」「あまりそう思わない」の合計回答割合も高い
- 「企画や実施にあたって、地域の支援人材等に学校の空きスペース等の場所を提供している」及び「保護者が主体的に子育てを振り返ったり、悩みを語り合える内容を取り入れている」実施群と未実施群の間には、いずれの項目においても有意差は見られない

図表 3-15 「企画や実施にあたって、地域の支援人材と定期的に意見交換を行っている」実施有無×家庭への効果



2) 学校への効果

【分析の視点】

- a 保護者等との信頼関係について、ワークショップ等を実施している学校と実施していない学校とでは、どのような差があるか
- b 家庭教育に関する学習機会の提供について、ワークショップ等を実施している学校と実施していない学校とでは、どのような差があるか
- c 家庭教育に関する学習機会の提供について、取組に係る協力・工夫の実施状況による差があるか

【分析の視点 a】

- 保護者等との信頼関係について、ワークショップ等を実施している学校と実施していない学校とでは、どのような差があるか

【分析の方法】

- 学校の保護者・地域住民との信頼・協力関係や負担等に関する現在の達成状況(Q5c-f)について、家庭教育学級などの「家庭教育に関する学習機会の提供」の状況(Q1)のうち「子育ての関連の講座(ワークショップや体験形式)の開催」を実施している学校(WS実施群)と実施していない学校(WS未実施群)を比較

【分析結果のポイント】

- いずれの項目においても、WS実施群と未実施群の間に有意差は見られない

【分析の視点 b】

- 家庭教育に関する学習機会の提供について、ワークショップ等を実施している学校と実施していない学校とでは、どのような差があるか

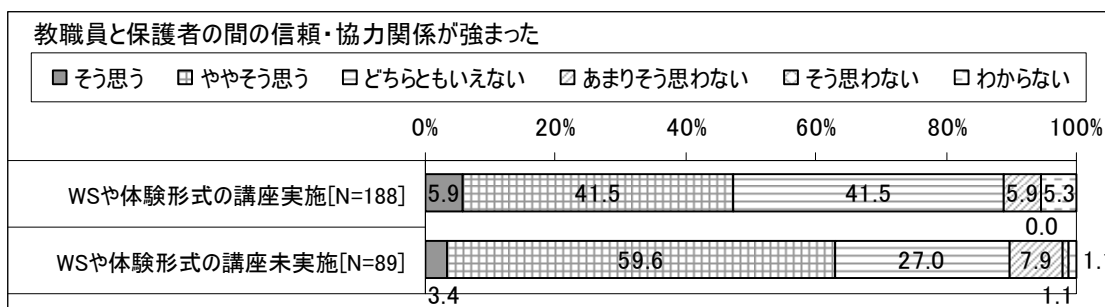
【分析の方法】

- 家庭教育に関する学習機会の提供による学校への直接的な効果 (Q6h-k) について、家庭教育学級などの「家庭教育に関する学習機会の提供」の状況 (Q1) のうち「子育ての関連の講座 (ワークショップや体験形式) の開催」を実施している学校 (WS 実施群) と実施していない学校 (WS 未実施群) を比較

【分析結果のポイント】

- WS 実施群は未実施群に比して、「教職員と保護者の間の信頼・協力関係が強まった」についての効果 (「そう思う」「ややそう思う」の合計回答割合) が有意に低い。ただし、未実施群は実施群に比して、「そう思わない」「あまりそう思わない」の合計回答割合も高い

図表 3-16 ワークショップや体験形式の講座実施有無 × 学校への効果



【分析の視点 c】

- 家庭教育に関する学習機会の提供について、取組に係る協力・工夫の実施状況による差があるか

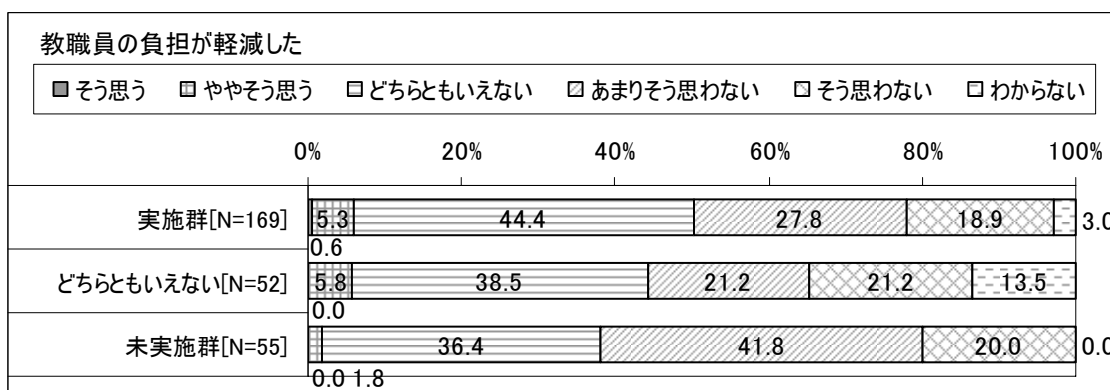
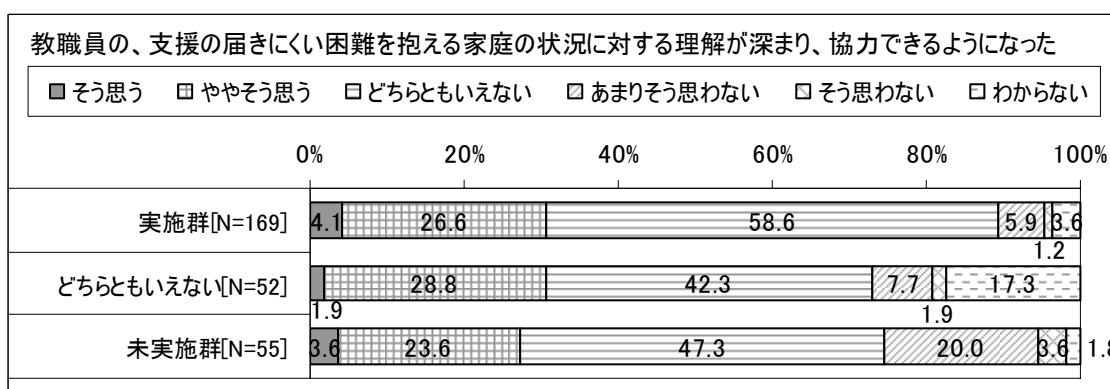
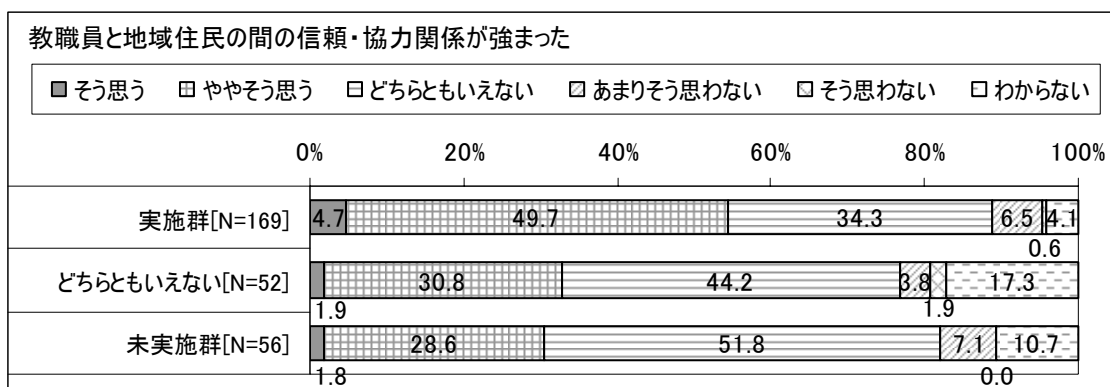
【分析の方法】

- 家庭教育に関する学習機会の提供による学校への直接的な効果 (Q6h-k) について、取組に係る協力・工夫の実施状況 (教員 Q3、支援者・企画者 Q10) のうち「企画や実施にあたって、地域の支援人材と定期的に意見交換を行っている」(教員 Q3a)、「企画や実施にあたって、地域の支援人材等に学校の空きスペース等の場所を提供している」(教員 Q3b)、「保護者が主体的に子育てを振り返ったり、悩みを語り合える内容を取り入れている」(支援者・企画者 Q10d) を実施している学校 (実施群) と実施していない学校 (未実施群) を比較

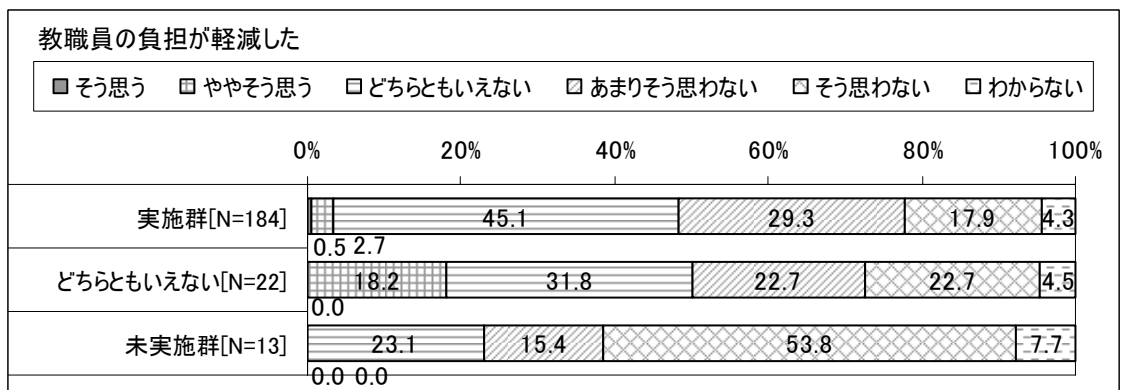
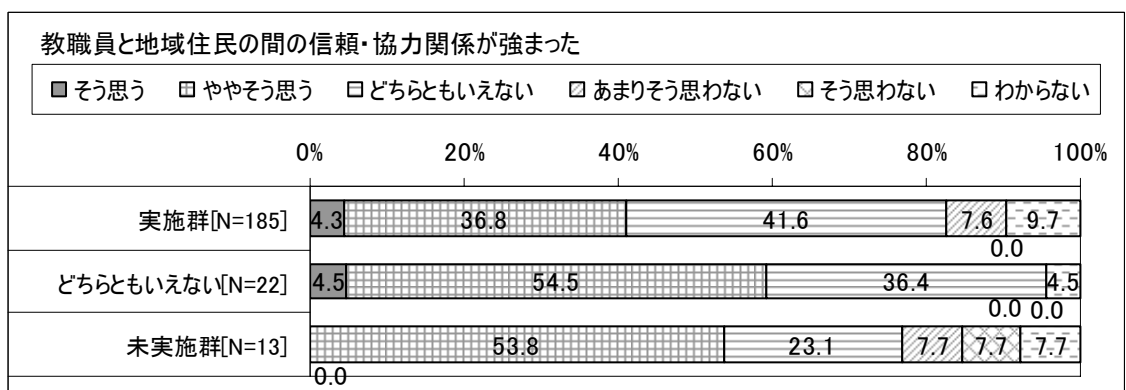
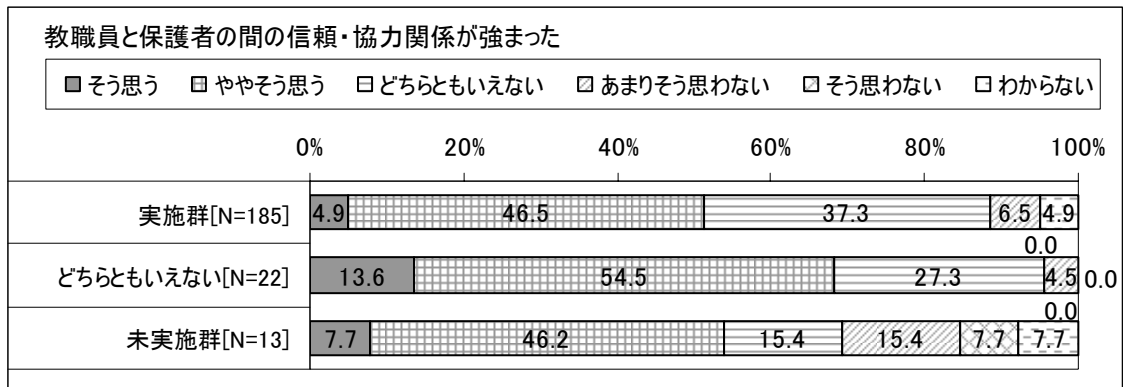
【分析結果のポイント】

- 「企画や実施にあたって、地域の支援人材と定期的に意見交換を行っている」実施群は未実施群に比して、「教職員と地域住民の間の信頼・協力関係が強まった」「教職員の、支援の届きにくい困難を抱える家庭の状況に対する理解が深まり、協力できるようになった」「教職員の負担が軽減した」についての効果(「そう思う」「ややそう思う」の合計回答割合)が有意に高い(ただし「教職員の負担が軽減した」については、「そう思う」「ややそう思う」よりも「そう思わない」「あまりそう思わない」の合計回答割合の方が高い)
- 「企画や実施にあたって、地域の支援人材等に学校の空きスペース等の場所を提供している」実施群と未実施群の間には、いずれの項目においても有意差は見られない
- 「保護者が主体的に子育てを振り返ったり、悩みを語り合える内容を取り入れている」実施群は未実施群に比して、「教職員の負担が軽減した」についての効果(「そう思う」「ややそう思う」の合計回答割合)が有意に高い(ただし「そう思う」「ややそう思う」よりも「そう思わない」「あまりそう思わない」の合計回答割合の方が高い)が、「教職員と保護者の間の信頼・協力関係が強まった」「教職員と地域住民の間の信頼・協力関係が強まった」についての効果は有意に低い。ただし、未実施群は実施群に比して、「そう思わない」「あまりそう思わない」の合計回答割合も高い

図表 3-17 「企画や実施にあたって、地域の支援人材と定期的に意見交換を行っている」実施有無×学校への効果



図表 3-18 「保護者が主体的に子育てを振り返ったり、悩みを語り合える内容を取り入れている」実施有無
× 学校への効果



3) 地域への効果

【分析の視点】

- a 地域の子育てに対する意識等について、ワークショップ等を実施している学校と実施していない学校とでは、どのような差があるか
- b 家庭教育に関する学習機会の提供について、ワークショップ等を実施している学校と実施していない学校とでは、どのような差があるか
- c 家庭教育に関する学習機会の提供について、取組に係る協力・工夫の実施状況による差があるか

【分析の視点 a】

- 地域の子育てに対する意識等について、ワークショップ等を実施している学校と実施していない学校とでは、どのような差があるか

【分析の方法】

- 地域の子育てに対する意識や参画等に関する現在の達成状況 (Q5g-i) について、家庭教育学級などの「家庭教育に関する学習機会の提供」の状況 (Q1) のうち「子育ての関連の講座 (ワークショップや体験形式) の開催」を実施している学校 (WS 実施群) と実施していない学校 (WS 未実施群) を比較

【分析結果のポイント】

- いずれの項目においても、WS 実施群と未実施群の間に有意差は見られない

【分析の視点 b】

- 家庭教育に関する学習機会の提供について、ワークショップ等を実施している学校と実施していない学校とでは、どのような差があるか

【分析の方法】

- 家庭教育に関する学習機会の提供による地域への直接的な効果 (Q61-n) について、家庭教育学級などの「家庭教育に関する学習機会の提供」の状況 (Q1) のうち「子育ての関連の講座 (ワークショップや体験形式) の開催」を実施している学校 (WS 実施群) と実施していない学校 (WS 未実施群) を比較

【分析結果のポイント】

- いずれの項目においても、WS 実施群と未実施群の間に有意差は見られない

【分析の視点 c】

- 家庭教育に関する学習機会の提供について、取組に係る協力・工夫の実施状況による差があるか

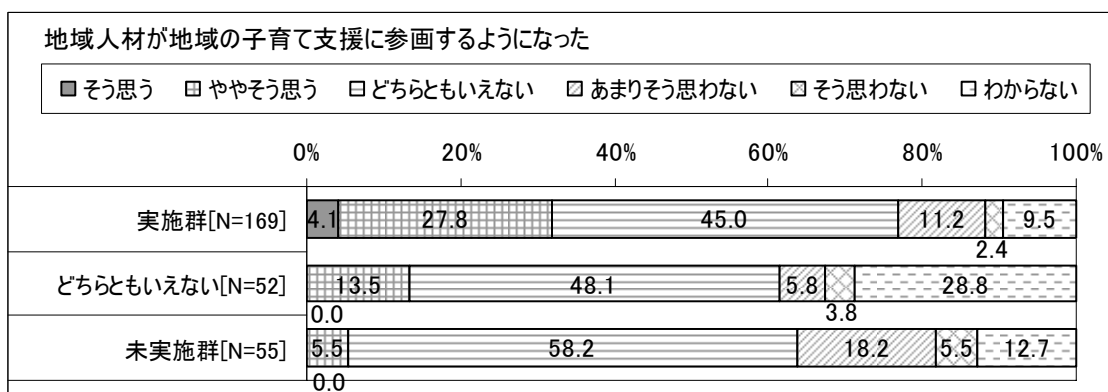
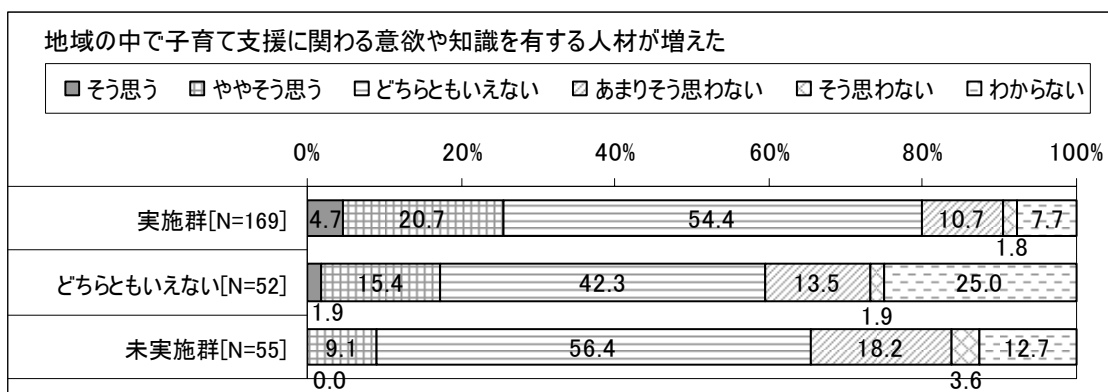
【分析の方法】

- 家庭教育に関する学習機会の提供による地域への直接的な効果 (Q61-n) について、取組に係る協力・工夫の実施状況 (教員 Q3、支援者・企画者 Q10) のうち「企画や実施にあたって、地域の支援人材と定期的に意見交換を行っている」(教員 Q3a)、「企画や実施にあたって、地域の支援人材等に学校の空きスペース等の場所を提供している」(教員 Q3b)、「保護者が主体的に子育てを振り返ったり、悩みを語り合える内容を取り入れている」(支援者・企画者 Q10d) を実施している学校 (実施群) と実施していない学校 (未実施群) を比較

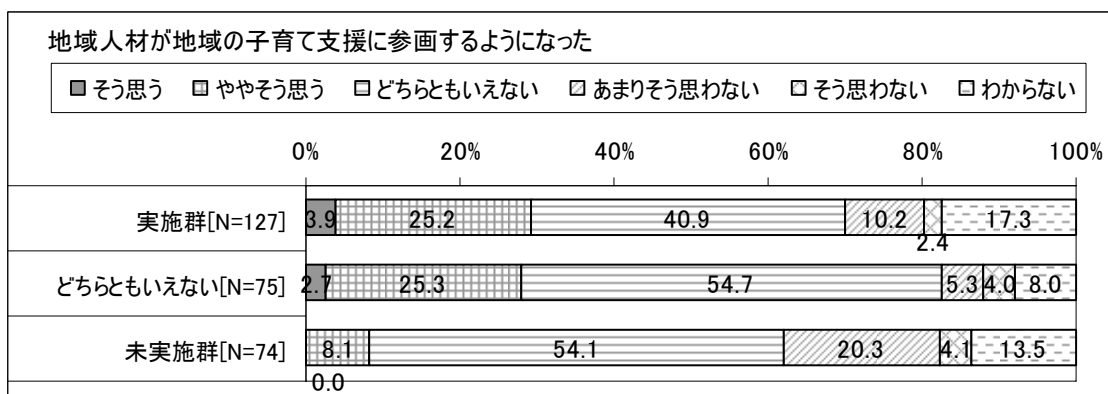
【分析結果のポイント】

- 「企画や実施にあたって、地域の支援人材と定期的に意見交換を行っている」実施群は未実施群に比して、「地域の中で子育て支援に関わる意欲や知識を有する人材が増えた」「地域人材が地域の子育て支援に参画するようになった」についての効果(「そう思う」「ややそう思う」の合計回答割合)が有意に高い
- 「企画や実施にあたって、地域の支援人材等に学校の空きスペース等の場所を提供している」実施群は未実施群に比して、「地域人材が地域の子育て支援に参画するようになった」についての効果が有意に高い
- 「保護者が主体的に子育てを振り返ったり、悩みを語り合える内容を取り入れている」実施群と未実施群の間には、いずれの項目においても有意差は見られない

図表 3-19 「企画や実施にあたって、地域の支援人材と定期的に意見交換を行っている」実施有無×地域への効果



図表 3-20 「企画や実施にあたって、地域の支援人材等に学校の空きスペース等の場所を提供している」実施有無×地域への効果



4) 子どもへの効果

【分析の視点】

- a 子どもの生活習慣等について、ワークショップ等を実施している学校と実施していない学校とでは、どのような差があるか
- b 家庭教育に関する学習機会の提供について、ワークショップ等を実施している学校と実施していない学校とでは、どのような差があるか
- c 家庭教育に関する学習機会の提供について、取組に係る協力・工夫の実施状況による差があるか

【分析の視点 a】

- 子どもの生活習慣等について、ワークショップ等を実施している学校と実施していない学校とでは、どのような差があるか

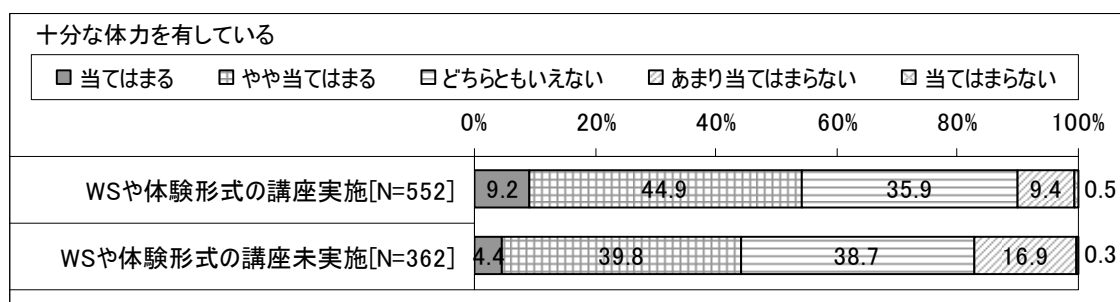
【分析の方法】

- 子どもの生活習慣や能力等に関する現在の達成状況 (Q4) について、家庭教育学級などの「家庭教育に関する学習機会の提供」の状況 (Q1) のうち「子育ての関連の講座 (ワークショップや体験形式) の開催」を実施している学校 (WS 実施群) と実施していない学校 (WS 未実施群) を比較

【分析結果のポイント】

- WS 実施群は未実施群に比して、「十分な体力を有している」についての達成状況 (「当てはまる」「やや当てはまる」の合計回答割合) が有意に高い
- 他の項目については、実施群と未実施群の間に有意差は見られない

図表 3-21 ワークショップや体験形式の講座実施有無 × 子どもの達成状況



【分析の視点 b】

- 家庭教育に関する学習機会の提供について、ワークショップ等を実施している学校と実施していない学校とでは、どのような差があるか

【分析の方法】

- 家庭教育に関する学習機会の提供による子どもへの直接的な効果（Q6a-e）について、家庭教育学級などの「家庭教育に関する学習機会の提供」の状況（Q1）のうち「子育ての関連の講座（ワークショップや体験形式）の開催」を実施している学校（WS 実施群）と実施していない学校（WS 未実施群）を比較

【分析結果のポイント】

- いずれの項目においても、WS 実施群と未実施群の間に有意差は見られない

【分析の視点 c】

- 家庭教育に関する学習機会の提供について、取組に係る協力・工夫の実施状況による差があるか

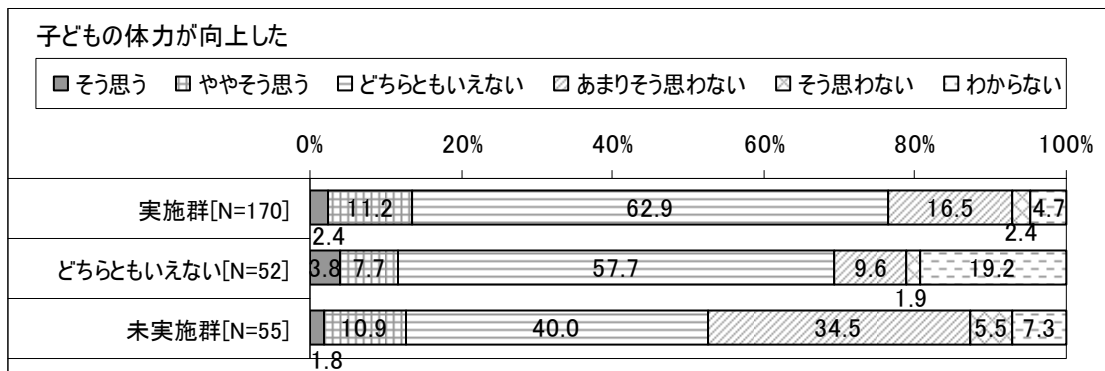
【分析の方法】

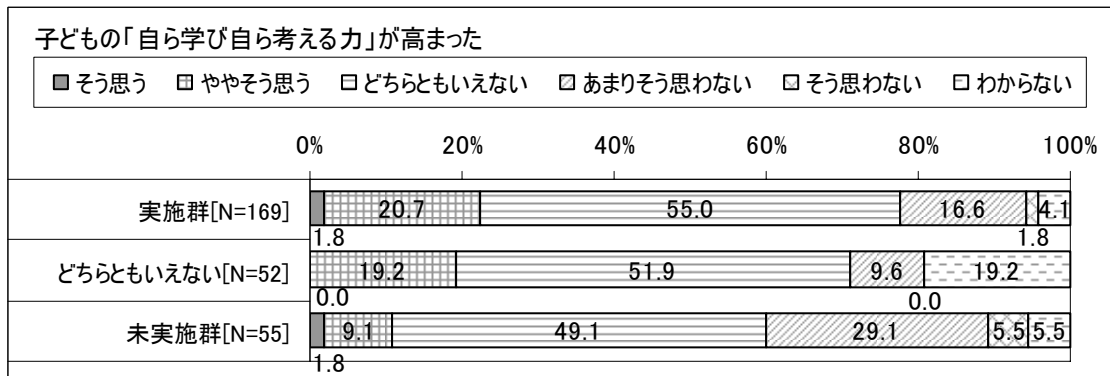
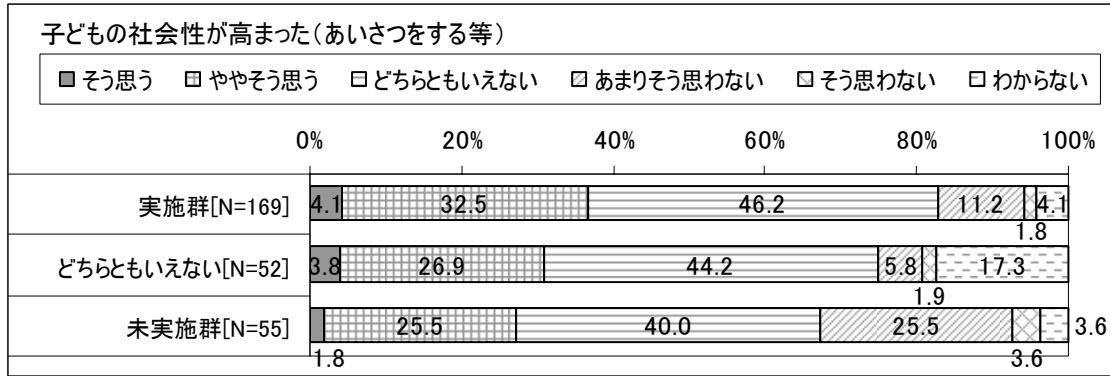
- 家庭教育に関する学習機会の提供による子どもへの直接的な効果（Q6a-e）について、取組に係る協力・工夫の実施状況（教員 Q3、支援者・企画者 Q10）のうち「企画や実施にあたって、地域の支援人材と定期的に意見交換を行っている」（教員 Q3a）、「企画や実施にあたって、地域の支援人材等に学校の空きスペース等の場所を提供している」（教員 Q3b）、「保護者が主体的に子育てを振り返ったり、悩みを語り合える内容を取り入れている」（支援者・企画者 Q10d）を実施している学校（実施群）と実施していない学校（未実施群）を比較

【分析結果のポイント】

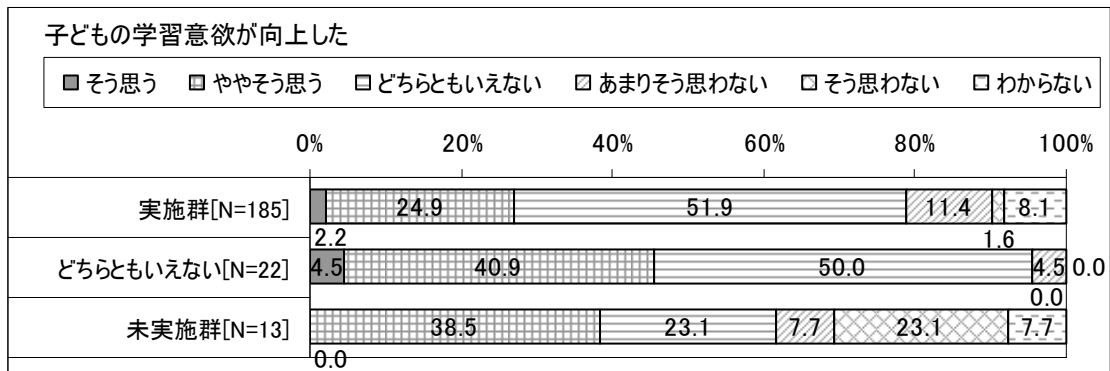
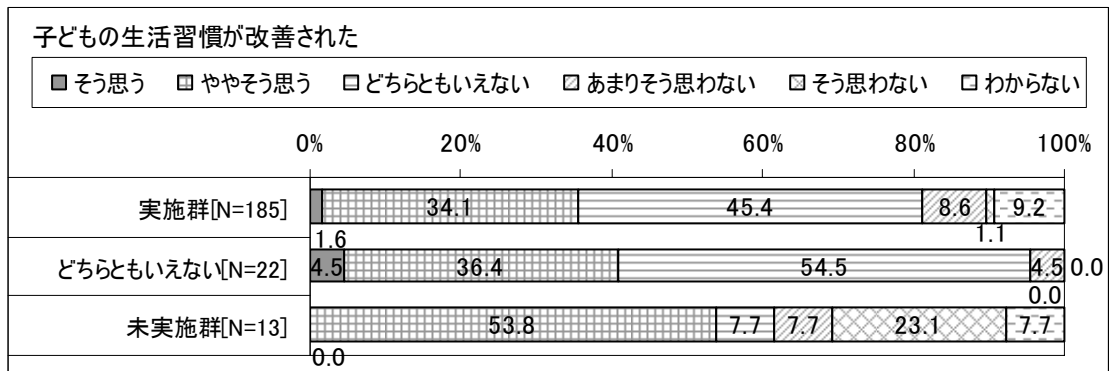
- 「企画や実施にあたって、地域の支援人材と定期的に意見交換を行っている」実施群は未実施群に比して、「子どもの体力が向上した」「子どもの社会性が高まった（あいさつをする等）」「子どもの「自ら学び自ら考える力」が高まった」についての効果（「そう思う」「ややそう思う」の合計回答割合）が有意に高い
- 「企画や実施にあたって、地域の支援人材等に学校の空きスペース等の場所を提供している」実施群と未実施群の間には、いずれの項目においても有意差は見られない
- 「保護者が主体的に子育てを振り返ったり、悩みを語り合える内容を取り入れている」実施群は未実施群に比して、「子どもの体力が向上した」の効果（「当てはまる」「やや当てはまる」の合計回答割合）が有意に高いが、「子どもの生活習慣が改善された」「子どもの学習意欲が向上した」「子どもの社会性が高まった（あいさつをする等）」についての効果（「そう思う」「ややそう思う」の合計回答割合）が有意に低い。ただし、未実施群は実施群に比して、いずれの項目においても「そう思わない」「あまりそう思わない」の合計回答割合も高い

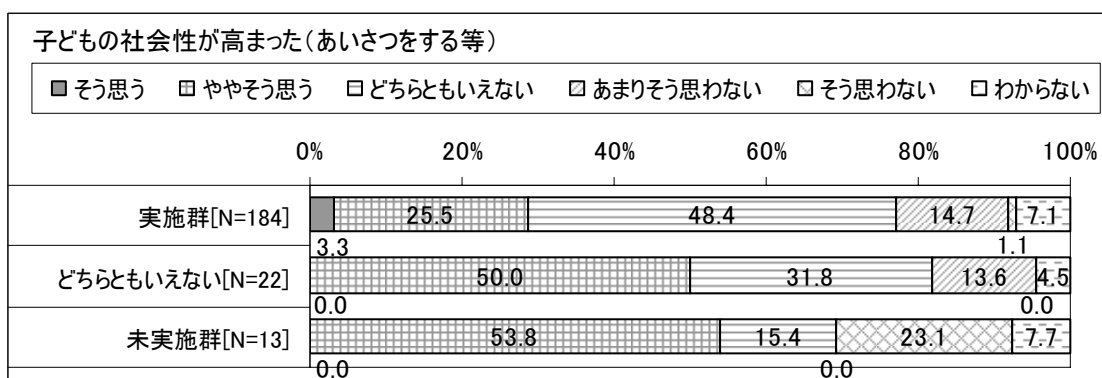
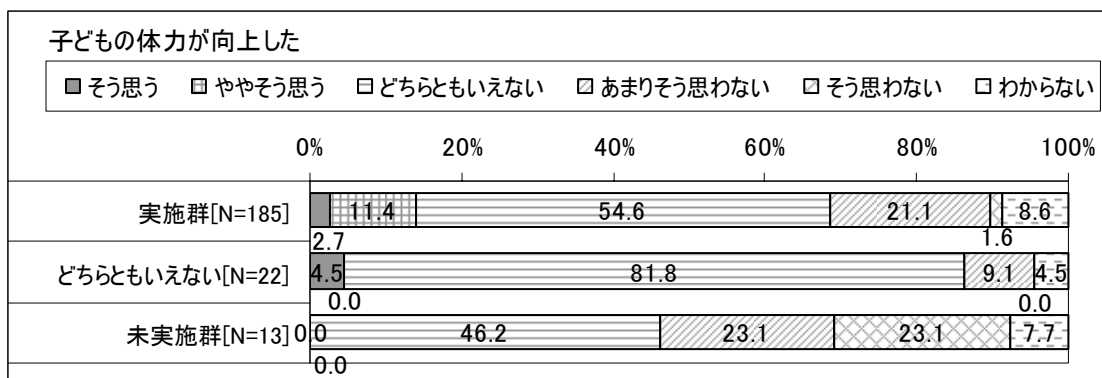
図表 3-22 「企画や実施にあたって、地域の支援人材と定期的に意見交換を行っている」実施有無×子どもへの効果





図表 3-23 「保護者が主体的に子育てを振り返ったり、悩みを語り合える内容を取り入れている」実施有無 × 子どもへの効果





5) 問題の予防・解決への効果

【分析の視点】

- 多様な家庭への対応等について、ワークショップ等を実施している学校と実施していない学校とでは、どのような差があるか
- 家庭教育に関する学習機会の提供による問題の予防・解決への効果について、ワークショップ等を実施している学校と実施していない学校とでは、どのような差があるか
- 家庭教育に関する学習機会の提供による問題の予防・解決への効果について、取組に係る協力・工夫の実施状況による差があるか

【分析の視点 a】

- 多様な家庭への対応等について、ワークショップ等を実施している学校と実施していない学校とでは、どのような差があるか

【分析の方法】

- 多様な家庭への対応や専門機関へのつなぎ等に関する現在の達成状況（Q5j-m）について、家庭教育学級などの「家庭教育に関する学習機会の提供」の状況（Q1）のうち「子育ての関連の講座（ワークショップや体験形式）の開催」を実施している学校（WS 実施群）と実施していない学校（WS 未実施群）を比較

【分析結果のポイント】

- いずれの項目においても、WS 実施群と未実施群の間に有意差は見られない

【分析の視点 b】

- 家庭教育に関する学習機会の提供による問題の予防・解決への効果について、ワークショップ等を実施している学校と実施していない学校とでは、どのような差があるか

【分析の方法】

- 家庭教育に関する学習機会の提供による問題の予防・解決への直接的な効果（Q6o-t）について、家庭教育学級などの「家庭教育に関する学習機会の提供」の状況（Q1）のうち「子育ての関連の講座（ワークショップや体験形式）の開催」を実施している学校（WS 実施群）と実施していない学校（WS 未実施群）を比較

【分析結果のポイント】

- いずれの項目においても、WS 実施群と未実施群の間に有意差は見られない

【分析の視点 c】

- 家庭教育に関する学習機会の提供による問題の予防・解決への効果について、取組に係る協力・工夫の実施状況による差があるか

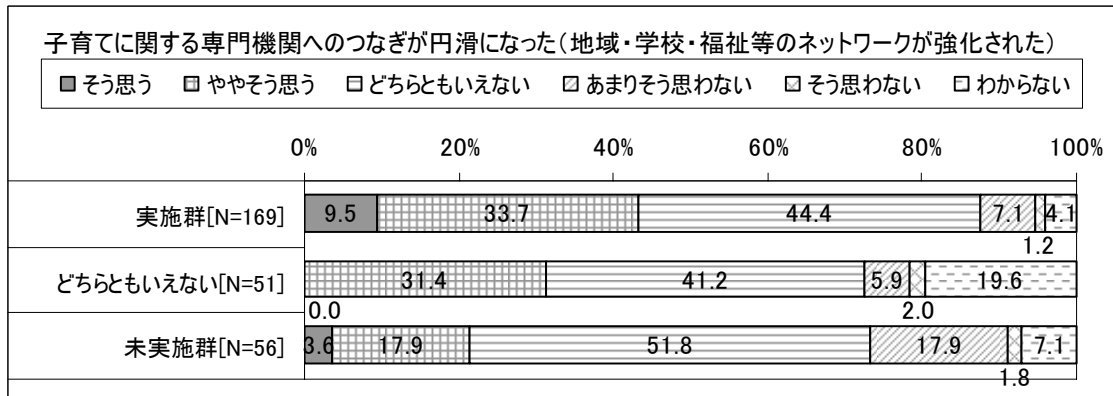
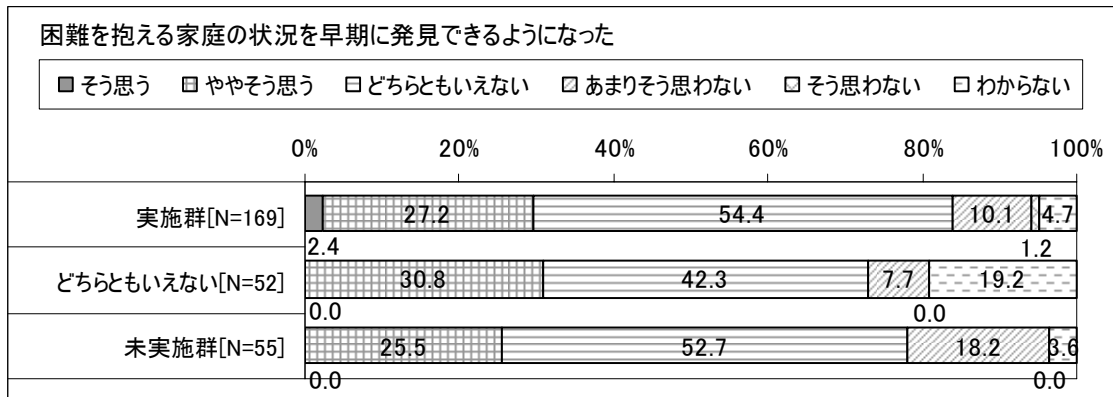
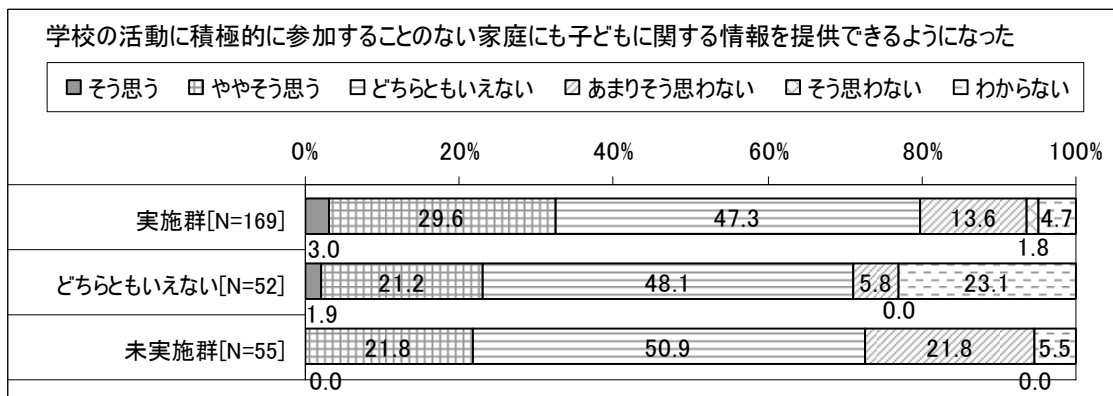
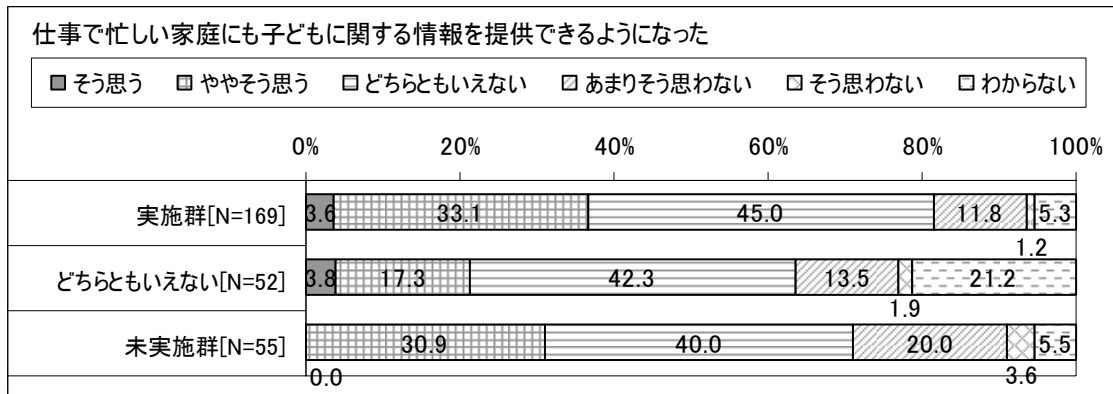
【分析の方法】

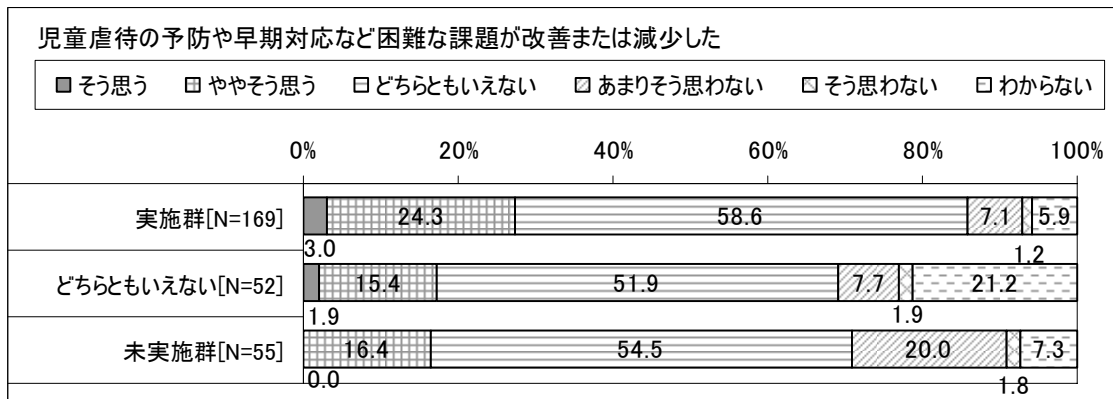
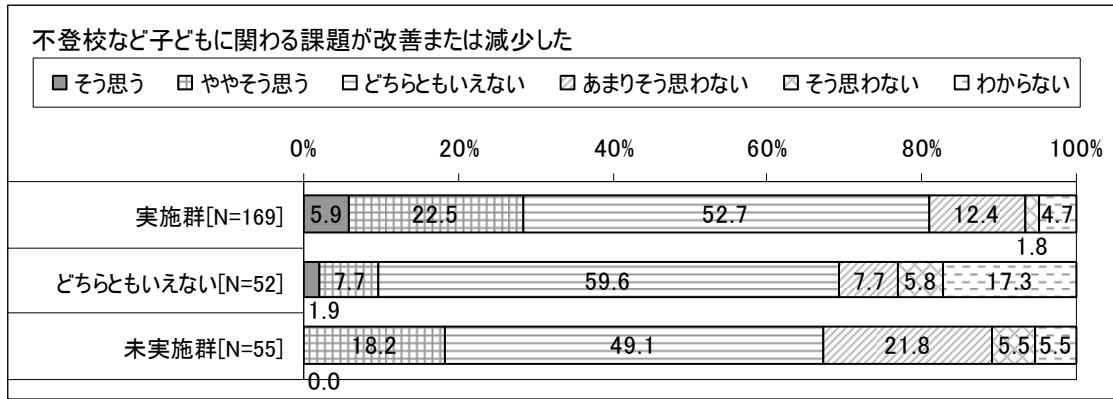
- 家庭教育に関する学習機会の提供による問題の予防・解決への直接的な効果（Q6o-t）について、取組に係る協力・工夫の実施状況（教員 Q3、支援者・企画者 Q10）のうち「企画や実施にあたって、地域の支援人材と定期的に意見交換を行っている」（教員 Q3a）、「企画や実施にあたって、地域の支援人材等に学校の空きスペース等の場所を提供している」（教員 Q3b）、「保護者が主体的に子育てを振り返ったり、悩みを語り合える内容を取り入れている」（支援者・企画者 Q10d）を実施している学校（実施群）と実施していない学校（未実施群）を比較

【分析結果のポイント】

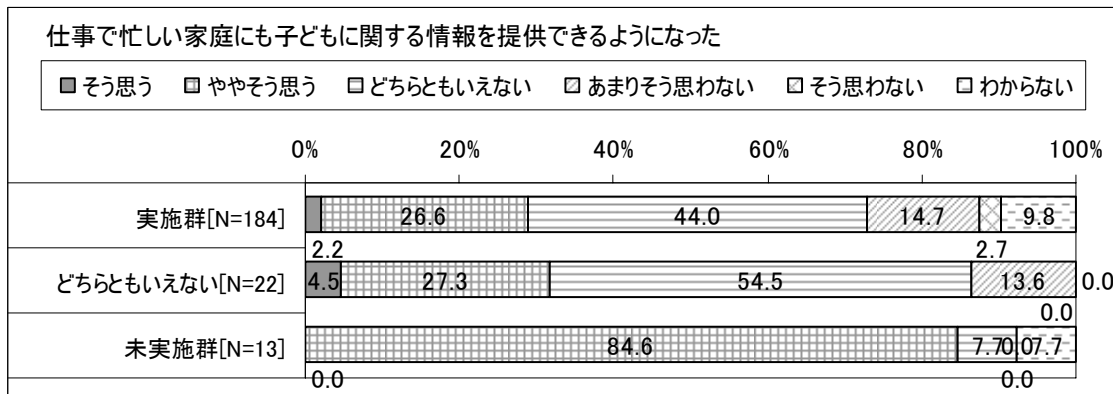
- 「企画や実施にあたって、地域の支援人材と定期的に意見交換を行っている」実施群は未実施群に比して、「仕事で忙しい家庭にも子どもに関する情報を提供できるようになった」「学校の活動に積極的に参加することのない家庭にも子どもに関する情報を提供できるようになった」「困難を抱える家庭の状況を早期に発見できるようになった」「子育てに関する専門機関へのつながりが円滑になった（地域・学校・福祉等のネットワークが強化された）」「不登校など子どもに関わる課題が改善または減少した」「児童虐待の予防や早期対応など困難な課題が改善または減少した」についての効果（「そう思う」「ややそう思う」の合計回答割合）が有意に高い
- 「企画や実施にあたって、地域の支援人材等に学校の空きスペース等の場所を提供している」実施群と未実施群の間には、いずれの項目においても有意差は見られない
- 「保護者が主体的に子育てを振り返ったり、悩みを語り合える内容を取り入れている」実施群は未実施群に比して、「仕事で忙しい家庭にも子どもに関する情報を提供できるようになった」についての効果が有意に低い

図表 3-24 「企画や実施にあたって、地域の支援人材と定期的に意見交換を行っている」実施有無×問題の予防・解決への効果





図表 3-25 「保護者が主体的に子育てを振り返ったり、悩みを語り合える内容を取り入れている」実施有無 × 問題の予防・解決への効果



(3) 支援者・企画者票

1) 家庭への効果

【分析の視点】

- a 保護者の子育てに関する知識等について、ワークショップ等を実施している学校と実施していない学校とでは、どのような差があるか
- b 家庭教育に関する学習機会の提供について、ワークショップ等を実施している学校と実施していない学校とでは、どのような差があるか
- c 家庭教育に関する学習機会の提供について、支援者等の属性による差があるか
- d 家庭教育に関する学習機会の提供について、取組に係る協力・工夫の実施状況による差があるか

【分析の視点 a】

- 保護者の子育てに関する知識等について、ワークショップ等を実施している学校と実施していない学校とでは、どのような差があるか

【分析の方法】

- 保護者の子育てに関する知識や意識等に関する現在の達成状況（Q12）について、家庭教育学級などの「家庭教育に関する学習機会の提供」の状況（Q8）のうち「子育ての関連の講座（ワークショップや体験形式）の開催」を実施している学校（WS 実施群）と実施していない学校（WS 未実施群）を比較

【分析結果のポイント】

- いずれの項目においても、WS 実施群と未実施群の間に有意差は見られない

【分析の視点 b】

- 家庭教育に関する学習機会の提供について、ワークショップ等を実施している学校と実施していない学校とでは、どのような差があるか

【分析の方法】

- 家庭教育に関する学習機会の提供による家庭への直接的な効果（Q13）について、家庭教育学級などの「家庭教育に関する学習機会の提供」の状況（Q8）のうち「子育ての関連の講座（ワークショップや体験形式）の開催」を実施している学校（WS 実施群）と実施していない学校（WS 未実施群）を比較

【分析結果のポイント】

- いずれの項目においても、WS 実施群と未実施群の間に有意差は見られない

【分析の視点 c】

- 家庭教育に関する学習機会の提供について、支援者等の属性による差があるか

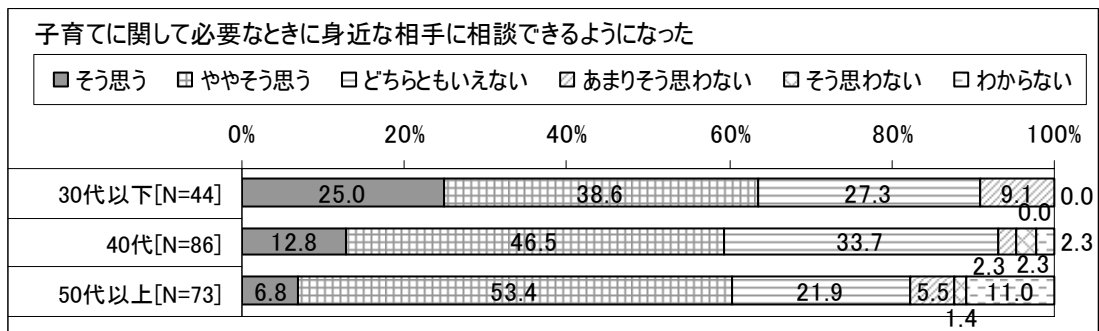
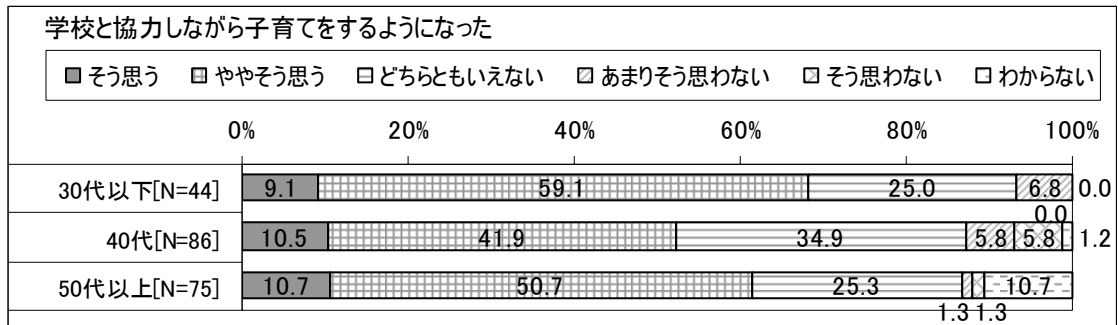
【分析の方法】

- 家庭教育に関する学習機会の提供による家庭への直接的な効果（Q13）について、支援者・企画者の年代（Q1）、取組期間（Q4）、研修参加経験（Q6）別に比較

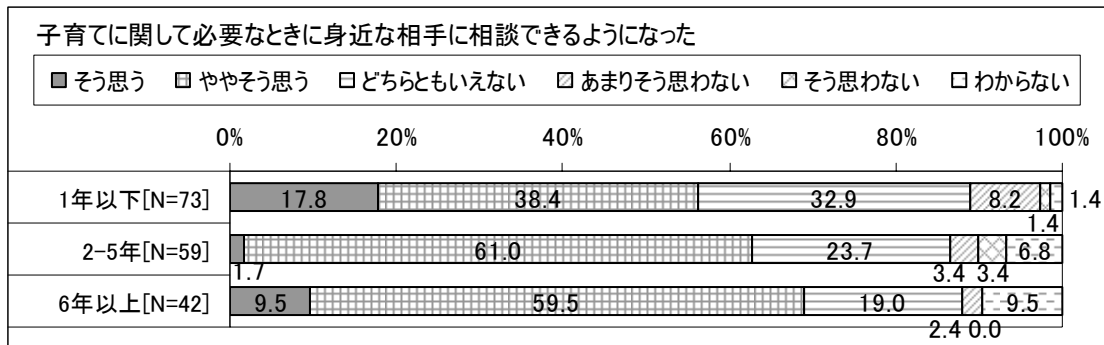
【分析結果のポイント】

- 支援者・企画者の年代による有意差が見られるのは、「学校と協力しながら子育てをするようになった」「子育てに関して必要なときに身近な相手に相談できるようになった」であり、いずれの効果においても30代以下がもっとも高い
- 支援者・企画者の取組期間による有意差が見られるのは、「子育てに関して必要なときに身近な相手に相談できるようになった」であり、6年以上がもっとも高い
- 支援者・企画者の研修参加経験については、いずれの項目においても有意差は見られない

図表 3-26 支援者・企画者の年代×家庭への効果



図表 3-27 支援者・企画者の取組期間×家庭への効果



【分析の視点 d】

- 家庭教育に関する学習機会の提供について、取組に係る協力・工夫の実施状況による差があるか

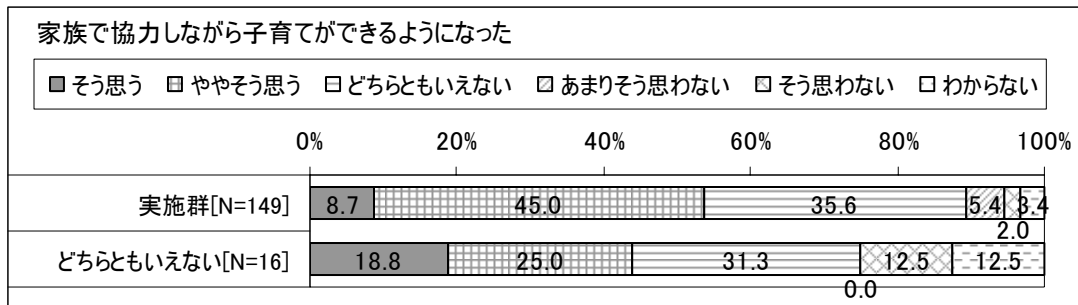
【分析の方法】

- 家庭教育に関する学習機会の提供による家庭への直接的な効果（Q13）について、取組に係る協力・工夫の実施状況（Q10）の各項目を実施している学校（実施群）と実施していない学校（未実施群）を比較

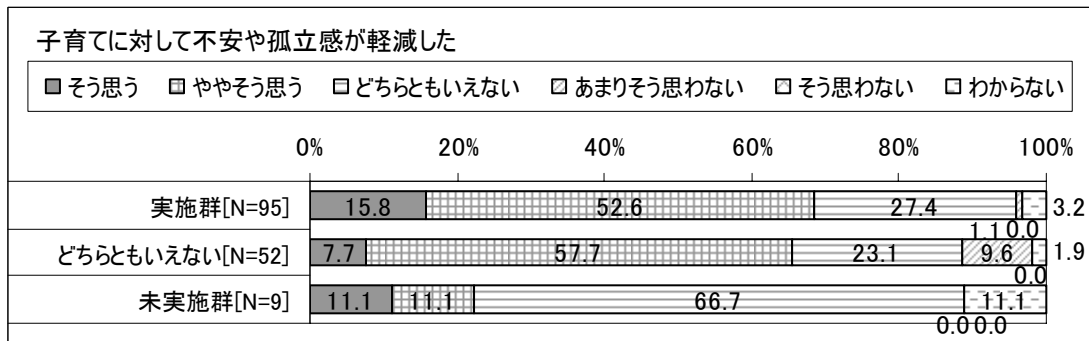
【分析結果のポイント】

- 「保護者のニーズを踏まえて活動内容を決定している」実施群は「どちらともいえない」群に比して、「家族で協力しながら子育てができるようになった」についての効果が有意に高い
- 「保護者が主体的に自己の子育てを振り返ったり、悩みを語り合える内容を取り入れている」実施群は未実施群に比して、「子育てに対して不安や孤立感が軽減した」についての効果が有意に高い
- 「多くの保護者が参画できる（支援が届く）よう、活動時間や場所を工夫している」「ワークショップや体験形式など、保護者が楽しく主体的に参画できる内容を取り入れている」「企画や実施にあたって、学校の教職員と定期的に意識共有を図っている」「近隣の企業と連携し、人材や資金等の提供を受けている」実施群と未実施群の間には、いずれの項目においても有意差は見られない

図表 3-28 「保護者のニーズを踏まえて活動内容を決定している」実施有無×家庭への効果



図表 3-29 「保護者が主体的に自己の子育てを振り返ったり、悩みを語り合える内容を取り入れている」実施有無×家庭への効果



2) 学校への効果

【分析の視点】

- a 家庭教育に関する学習機会の提供について、ワークショップ等を実施している学校と実施していない学校とでは、どのような差があるか
- b 家庭教育に関する学習機会の提供について、支援者等の属性による差があるか
- c 家庭教育に関する学習機会の提供による効果は、取組に係る協力・工夫の実施状況による差があるか

【分析の視点 a】

- 家庭教育に関する学習機会の提供について、ワークショップ等を実施している学校と実施していない学校とでは、どのような差があるか

【分析の方法】

- 家庭教育に関する学習機会の提供による学校への直接的な効果(Q14a-d)について、家庭教育学級などの「家庭教育に関する学習機会の提供」の状況(Q8)のうち「子育ての関連の講座(ワークショップや体験形式)の開催」を実施している学校(WS実施群)と実施していない学校(WS未実施群)を比較

【分析結果のポイント】

- いずれの項目においても、WS実施群と未実施群の間に有意差は見られない

【分析の視点 b】

- 家庭教育に関する学習機会の提供について、支援者等の属性による差があるか

【分析の方法】

- 家庭教育に関する学習機会の提供による学校への直接的な効果(Q14a-d)について、支援者・企画者の年代(Q1)、取組期間(Q4)、研修参加経験(Q6)

【分析結果のポイント】

- いずれの項目においても、支援者・企画者の属性による有意差は見られない

【分析の視点 c】

- 家庭教育に関する学習機会の提供による効果は、取組に係る協力・工夫の実施状況による差があるか

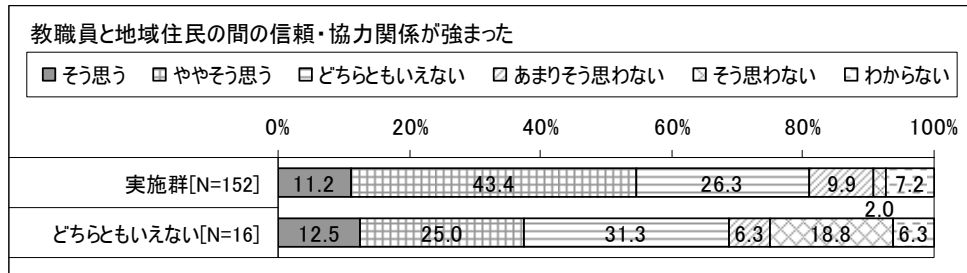
【分析の方法】

- 家庭教育に関する学習機会の提供による学校への直接的な効果(Q14a-d)について、取組に係る協力・工夫の実施状況(Q10)の各項目を実施している学校(実施群)と実施していない学校(未実施群)を比較

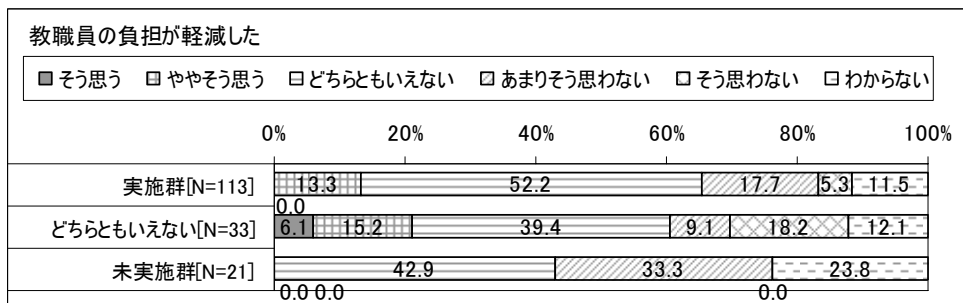
【分析結果のポイント】

- 「保護者のニーズを踏まえて活動内容を決定している」実施群は未実施群に比して、「教職員と地域住民の間の信頼・協力関係が強まった」についての効果が有意に高い
- 「企画や実施にあたって、学校の教職員と定期的に意識共有を図っている」実施群は未実施群に比して、「教職員の負担が軽減した」についての効果が有意に高い(ただし「そう思う」「ややそう思う」よりも「そう思わない」「あまりそう思わない」の合計回答割合の方が高い)
- 「保護者が主体的に自己の子育てを振り返ったり、悩みを語り合える内容を取り入れている」「多くの保護者が参画できる(支援が届く)よう、活動時間や場所を工夫している」「ワークショップや体験形式など、保護者が楽しく主体的に参画できる内容を取り入れている」「近隣の企業と連携し、人材や資金等の提供を受けている」実施群と未実施群の間には、いずれの項目においても有意差は見られない

図表 3-30 「保護者のニーズを踏まえて活動内容を決定している」実施有無×学校への効果



図表 3-31 「企画や実施にあたって、学校の教職員と定期的に意識共有を図っている」実施有無×学校への効果



3) 地域への効果

【分析の視点】

- a 家庭教育に関する学習機会の提供について、ワークショップ等を実施している学校と実施していない学校とでは、どのような差があるか
- b 家庭教育に関する学習機会の提供について、支援者等の属性による差があるか
- c 家庭教育に関する学習機会の提供による効果は、取組に係る協力・工夫の実施状況による差があるか

【分析の視点 a】

- 家庭教育に関する学習機会の提供について、ワークショップ等を実施している学校と実施していない学校とでは、どのような差があるか

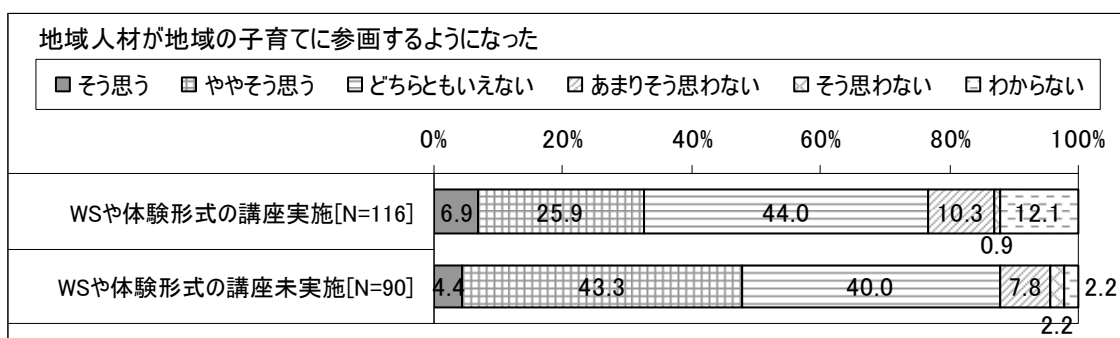
【分析の方法】

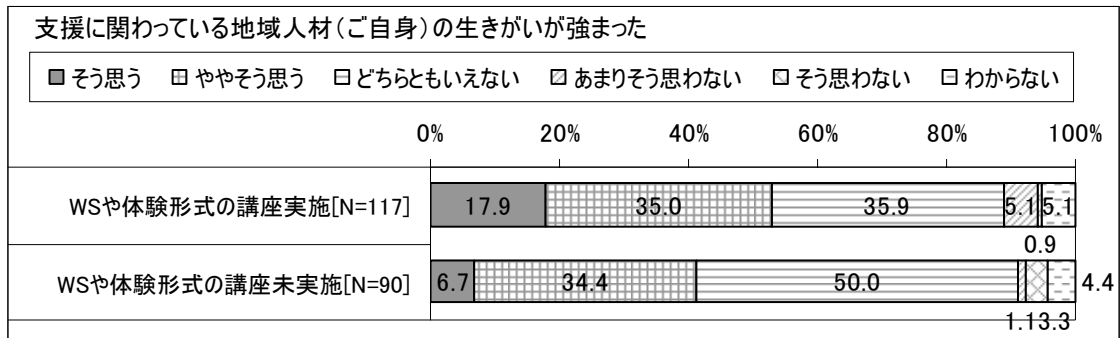
- 家庭教育に関する学習機会の提供による地域への直接的な効果(Q14e-j)について、家庭教育学級などの「家庭教育に関する学習機会の提供」の状況(Q8)のうち「子育ての関連の講座(ワークショップや体験形式)の開催」を実施している学校(WS実施群)と実施していない学校(WS未実施群)を比較

【分析結果のポイント】

- WS実施群は未実施群に比して、「支援に関わっている地域人材(ご自身)の生きがいが強まった」についての効果が有意に高いが、「地域人材が地域の子育てに参画するようになった」についての効果が有意に低い

図表 3-32 ワークショップや体験形式の講座実施有無×地域への効果





【分析の視点 b】

- 家庭教育に関する学習機会の提供について、支援者等の属性による差があるか

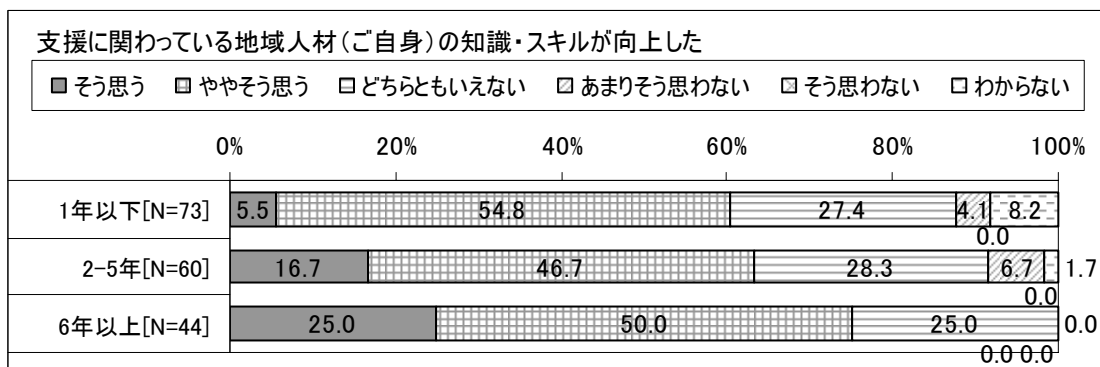
【分析の方法】

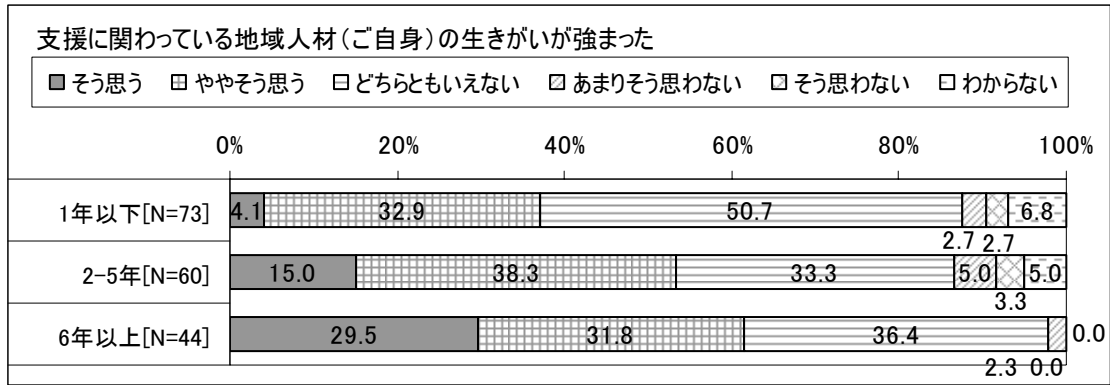
- 家庭教育に関する学習機会の提供による地域への直接的な効果(Q14e-j)について、支援者・企画者の年代(Q1)、取組期間(Q4)、研修参加経験(Q6)

【分析結果のポイント】

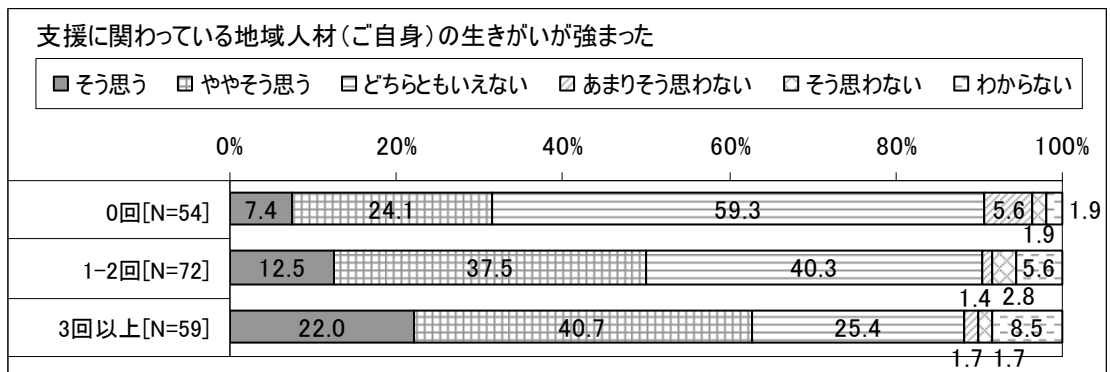
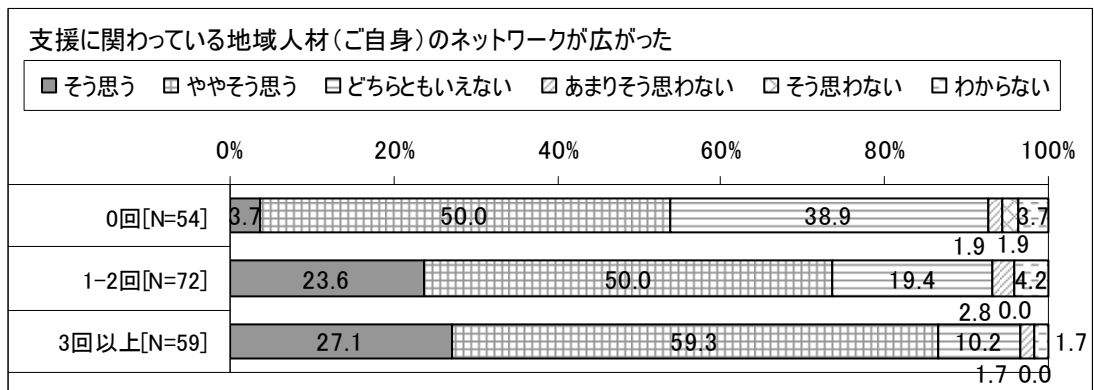
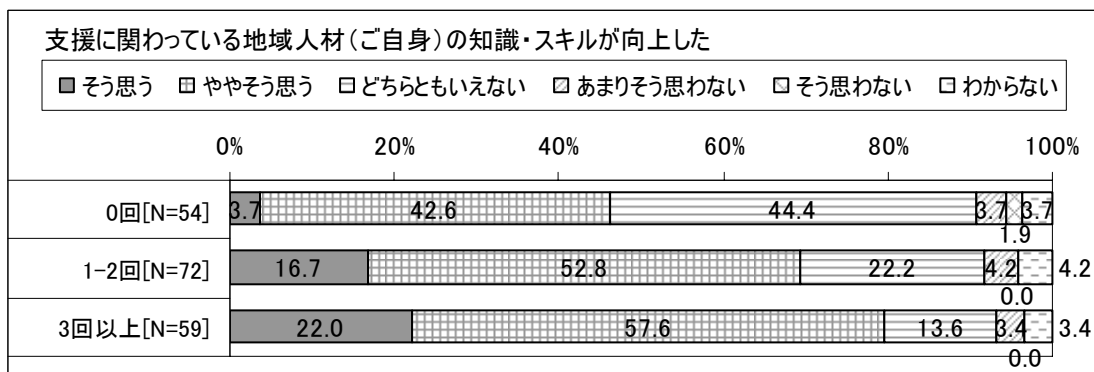
- 支援者・企画者の取組期間による有意差が見られるのは、「支援に関わっている地域人材(ご自身)の知識・スキルが向上した」「支援に関わっている地域人材(ご自身)の生きがいが強まった」であり、いずれも取組期間が長いほど効果が高い
- 支援者・企画者の研修参加経験による有意差が見られるのは、「支援に関わっている地域人材(ご自身)の知識・スキルが向上した」「支援に関わっている地域人材(ご自身)のネットワークが広がった」「支援に関わっている地域人材(ご自身)の生きがいが強まった」であり、いずれも研修経験が多いほど効果が高い
- いずれの項目においても、支援者・企画者の年代による有意差は見られない

図表 3-33 支援者・企画者の取組期間×地域への効果





図表 3-34 支援者・企画者の研修参加経験×地域への効果



【分析の視点 c】

- 家庭教育に関する学習機会の提供による効果は、取組に係る協力・工夫の実施状況による差があるか

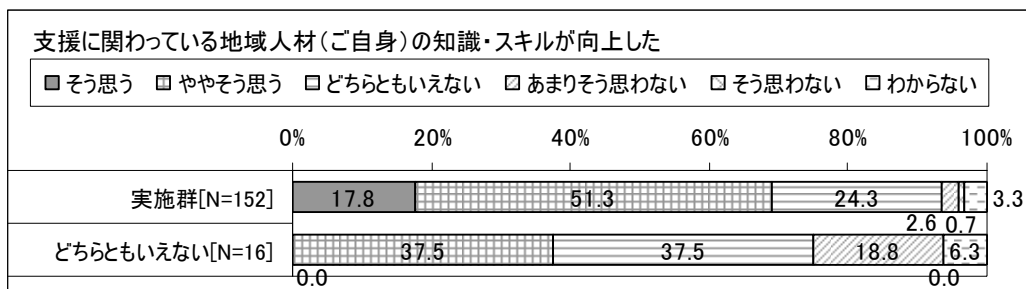
【分析の方法】

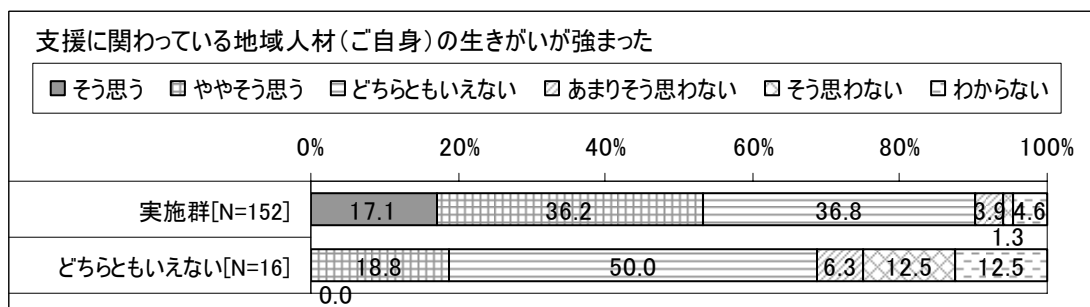
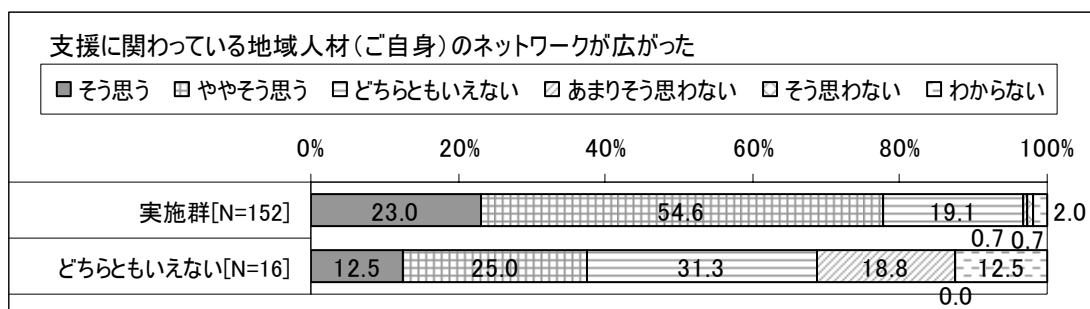
- 家庭教育に関する学習機会の提供による地域への直接的な効果(Q14e-j)について、取組に係る協力・工夫の実施状況(Q10)の各項目を実施している学校(実施群)と実施していない学校(未実施群)を比較

【分析結果のポイント】

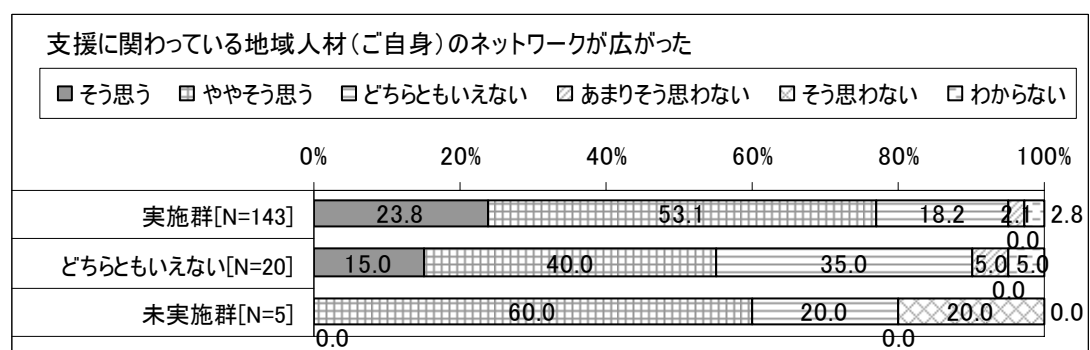
- 「保護者のニーズを踏まえて活動内容を決定している」実施群は「どちらともいえない」群に比して、「支援に関わっている地域人材(ご自身)の知識・スキルが向上した」「支援に関わっている地域人材(ご自身)のネットワークが広がった」「支援に関わっている地域人材(ご自身)の生きがいが強まった」についての効果が有意に高い
- 「多くの保護者が参画できる(支援が届く)よう、活動時間や場所を工夫している」実施群は未実施群に比して、「支援に関わっている地域人材(ご自身)のネットワークが広がった」についての効果が有意に高い
- 「ワークショップや体験形式など、保護者が楽しく主体的に参画できる内容を取り入れている」実施群は未実施群に比して、「支援に関わっている地域人材(ご自身)のネットワークが広がった」「支援に関わっている地域人材(ご自身)の生きがいが強まった」についての効果が有意に高い
- 「保護者が主体的に自己の子育てを振り返ったり、悩みを語り合える内容を取り入れている」実施群は未実施群に比して、「地域の中で子育てに関わる知識・スキルを有する人材が増えた」「地域人材が地域の子育てに参画するようになった」「支援に関わっている地域人材(ご自身)の知識・スキルが向上した」「支援に関わっている地域人材(ご自身)のネットワークが広がった」についての効果が有意に高い
- 「企画や実施にあたって、学校の教職員と定期的に意識共有を図っている」及び「近隣の企業と連携し、人材や資金等の提供を受けている」実施群と未実施群の間には、いずれの項目においても有意差は見られない

図表 3-35 「保護者のニーズを踏まえて活動内容を決定している」実施有無×地域への効果

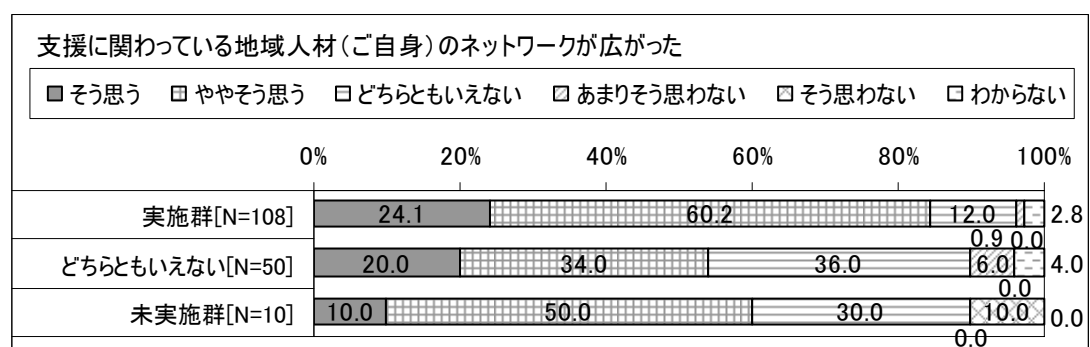


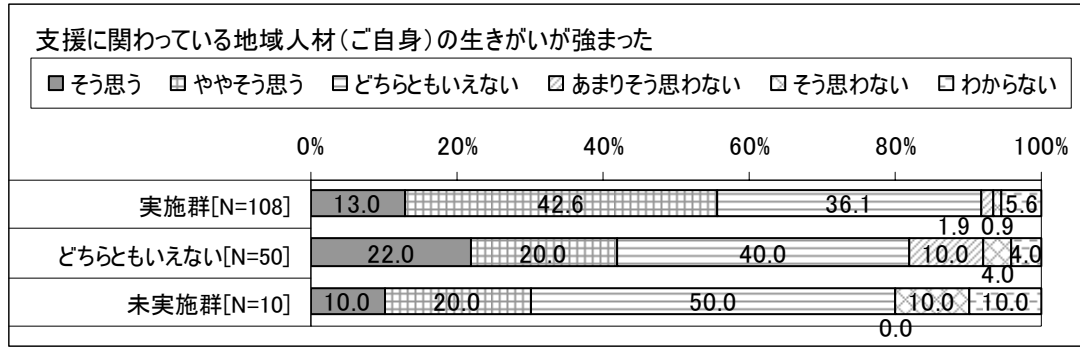


図表 3-36 「多くの保護者が参画できる(支援が届く)よう、活動時間や場所を工夫している」実施有無×地域への効果

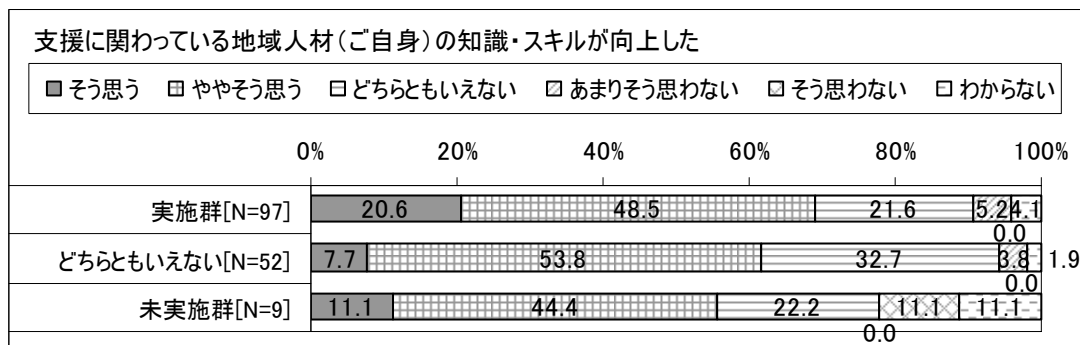
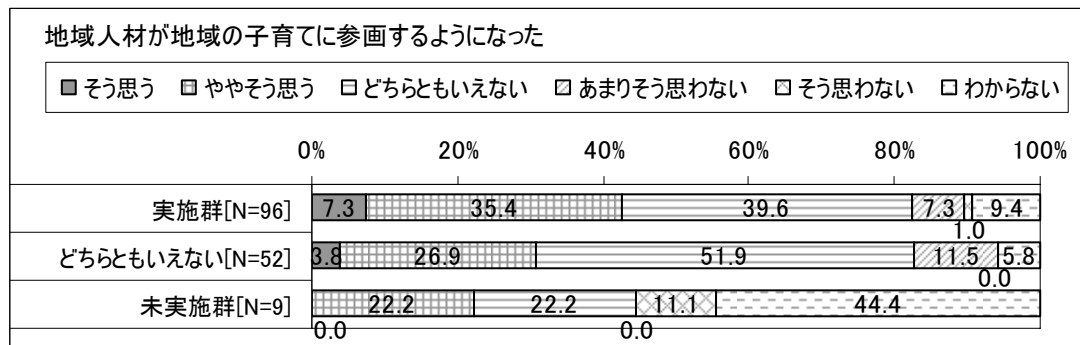
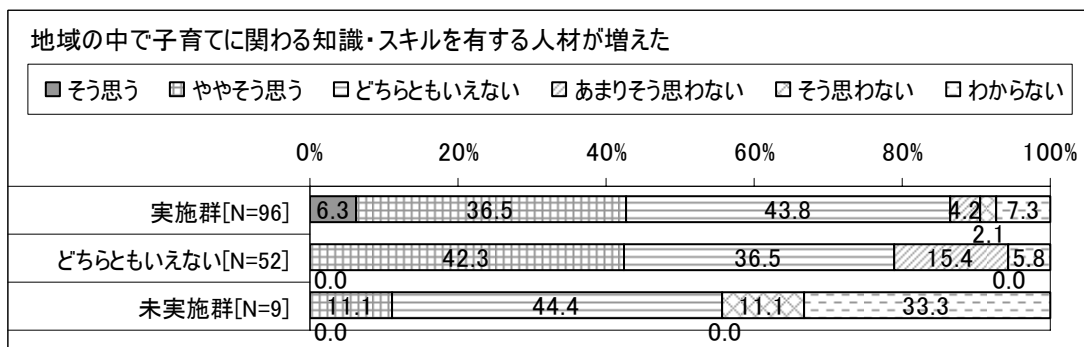


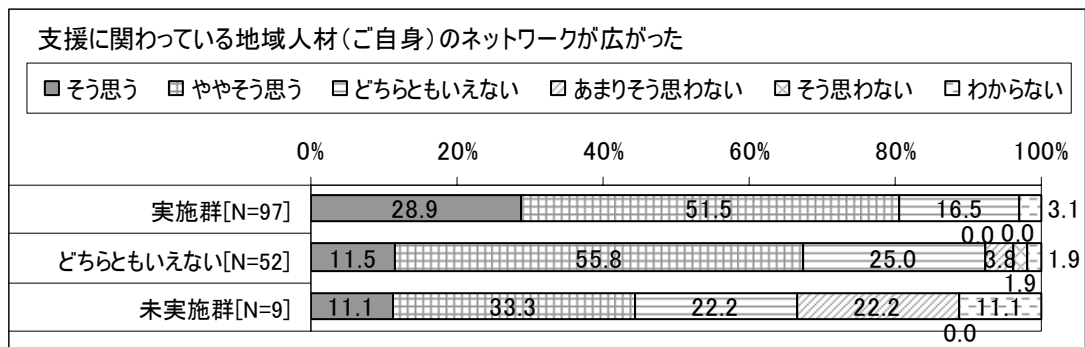
図表 3-37 「ワークショップや体験形式など、保護者が楽しく主体的に参画できる内容を取り入れている」実施有無×地域への効果





図表 3-38 「保護者が主体的に自己の子育てを振り返ったり、悩みを語り合える内容を取り入れている」実施有無×地域への効果





4) 問題の予防・解決への効果

【分析の視点】

- 家庭教育に関する学習機会の提供による問題の予防・解決への効果について、ワークショップ等を実施している学校と実施していない学校とでは、どのような差があるか
- 家庭教育に関する学習機会の提供による問題の予防・解決への効果について、支援者等の属性による差があるか
- 家庭教育に関する学習機会の提供による問題の予防・解決への効果について、取組に係る協力・工夫の実施状況による差があるか

【分析の視点 a】

- 家庭教育に関する学習機会の提供による問題の予防・解決への効果について、ワークショップ等を実施している学校と実施していない学校とでは、どのような差があるか

【分析の方法】

- 家庭教育に関する学習機会の提供による問題の予防・解決への直接的な効果 (Q14k-p) について、家庭教育学級などの「家庭教育に関する学習機会の提供」の状況 (Q8) のうち「子育ての関連の講座 (ワークショップや体験形式) の開催」を実施している学校 (WS 実施群) と実施していない学校 (WS 未実施群) を比較

【分析結果のポイント】

- いずれの項目においても、WS 実施群と未実施群の間に有意差は見られない

【分析の視点 b】

- 家庭教育に関する学習機会の提供による問題の予防・解決への効果について、支援者等の属性による差があるか

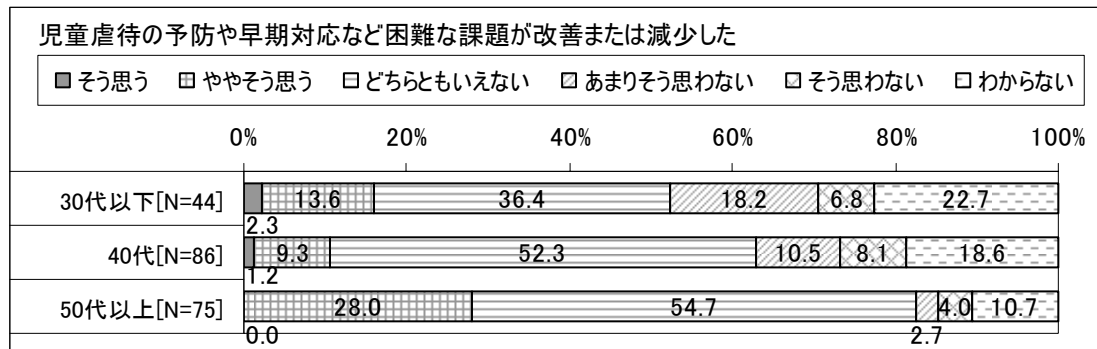
【分析の方法】

- 家庭教育に関する学習機会の提供による問題の予防・解決への直接的な効果 (Q14k-p) について、支援者・企画者の年代 (Q1)、取組期間 (Q4)、研修参加経験 (Q6)

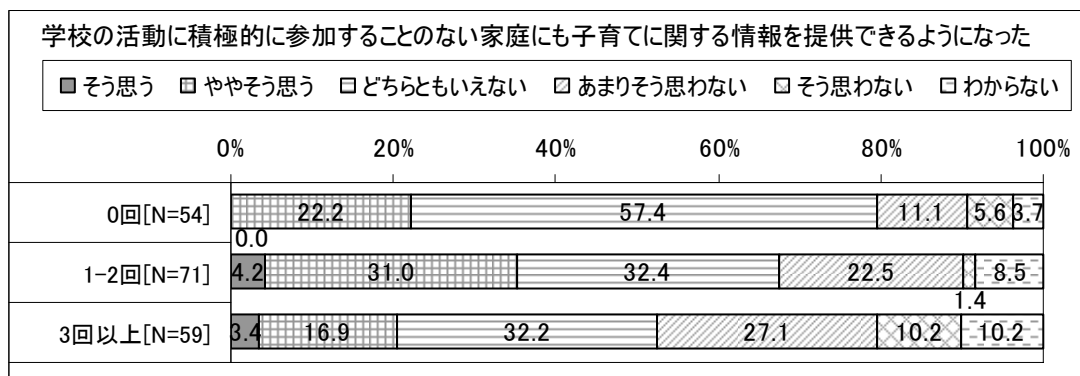
【分析結果のポイント】

- 支援者・企画者の年代による有意差が見られるのは、「児童虐待の予防や早期対応など困難な課題が改善または減少した」であり、50代以上がもっとも高い
- 支援者・企画者の研修参加経験による有意差が見られるのは、「学校の活動に積極的に参加することのない家庭にも子育てに関する情報を提供できるようになった」であり、研修経験 1-2 回がもっとも高い
- いずれの項目においても、支援者・企画者の取組期間による有意差は見られない

図表 3-39 支援者・企画者の年代×問題の予防・解決への効果



図表 3-40 支援者・企画者の研修参加経験×問題の予防・解決への効果



【分析の視点 c】

- 家庭教育に関する学習機会の提供による問題の予防・解決への効果について、取組に係る協力・工夫の実施状況による差があるか

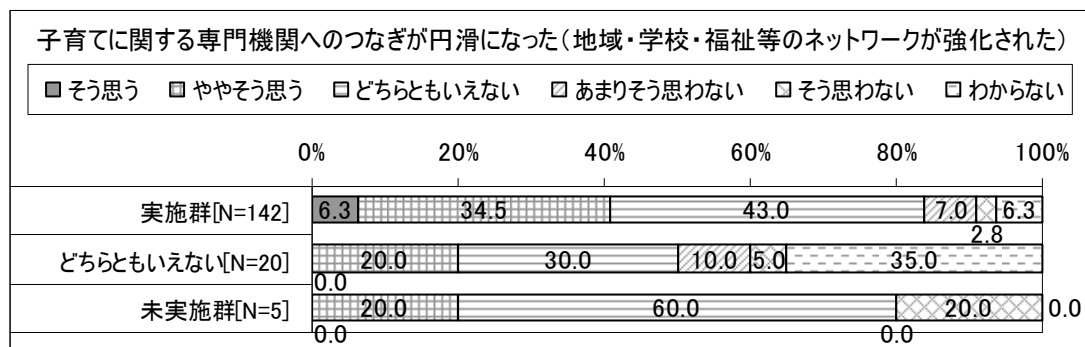
【分析の方法】

- 家庭教育に関する学習機会の提供による問題の予防・解決への直接的な効果（Q14k-p）について、取組に係る協力・工夫の実施状況（Q10）の各項目を実施している学校（実施群）と実施していない学校（未実施群）を比較

【分析結果のポイント】

- 「多くの保護者が参画できる（支援が届く）よう、活動時間や場所を工夫している」実施群は未実施群に比して、「子育てに関する専門機関へのつながりが円滑になった（地域・学校・福祉等のネットワークが強化された）」についての効果が有意に高い
- 「保護者のニーズを踏まえて活動内容を決定している」「ワークショップや体験形式など、保護者が楽しく主体的に参画できる内容を取り入れている」「保護者が主体的に自己の子育てを振り返ったり、悩みを語り合える内容を取り入れている」「企画や実施にあたって、学校の教職員と定期的に意識共有を図っている」「近隣の企業と連携し、人材や資金等の提供を受けている」実施群と未実施群の間には、いずれの項目においても有意差は見られない

図表 3-41 「多くの保護者が参画できる(支援が届く)よう、活動時間や場所を工夫している」実施有無×問題の予防・解決への効果



(4) 補論：対象間比較

【分析の視点】

- 家庭教育に関する学習機会の提供による効果は、調査対象者による認識の差があるか

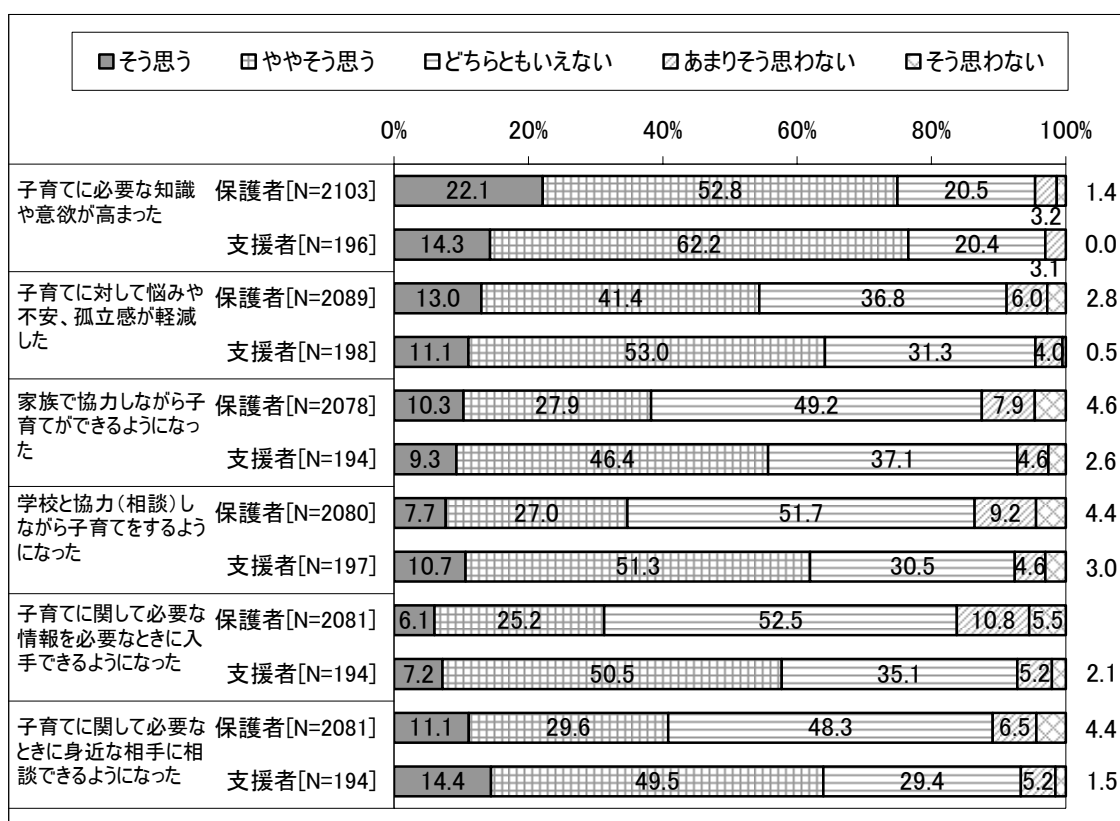
【分析の方法】

- 家庭教育に関する学習機会の提供による家庭、学校、地域、問題の予防・解決への直接的な効果のうち、複数の調査対象者へ質問している項目について、調査対象者ごとの回答を比較

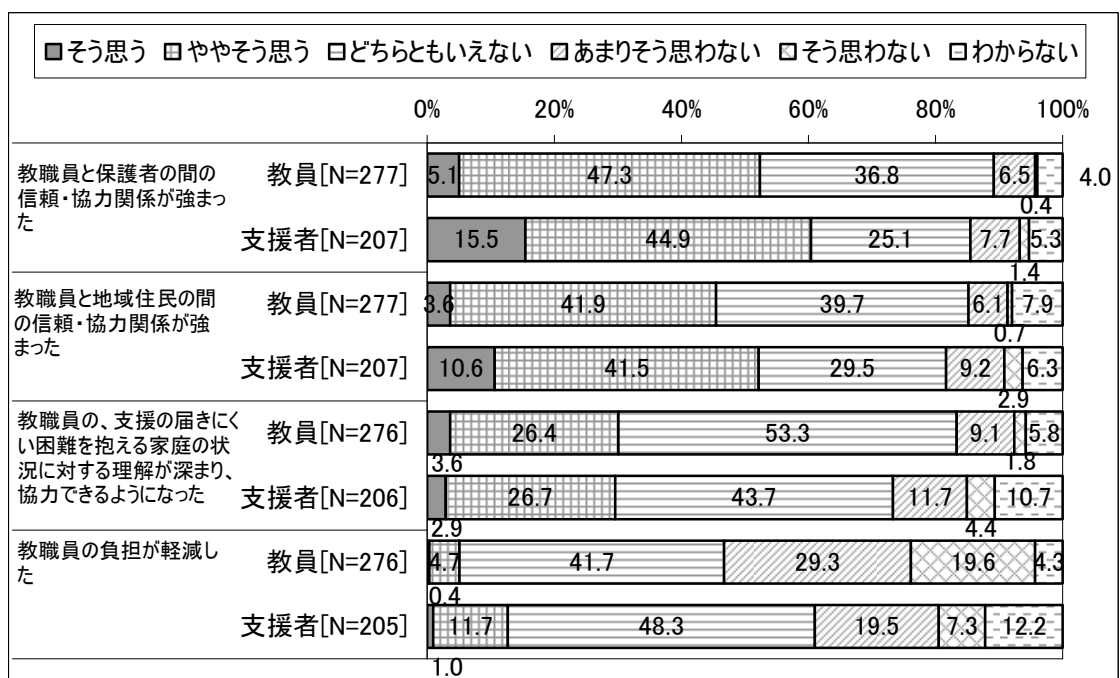
【分析結果のポイント】

- 家庭への効果については、すべての項目において、支援者・企画者が保護者よりも肯定的に評価している（「そう思う」「ややそう思う」の合計回答割合が高い）
- 学校への効果については、「教職員と保護者の間の信頼・協力関係が強まった」「教職員と地域住民の間の信頼・協力関係が強まった」は支援者・企画者が教員よりも肯定的に評価しており、「教職員の負担が軽減した」は教員が支援者よりも否定的に評価している（「そう思わない」「あまりそう思わない」の合計回答割合が高い）
- 地域への効果については、すべての項目において、支援者・企画者が教員よりも肯定的に評価している
- 問題の予防・解決への効果については、すべての項目において、教員が支援者・企画者よりも肯定的に評価している

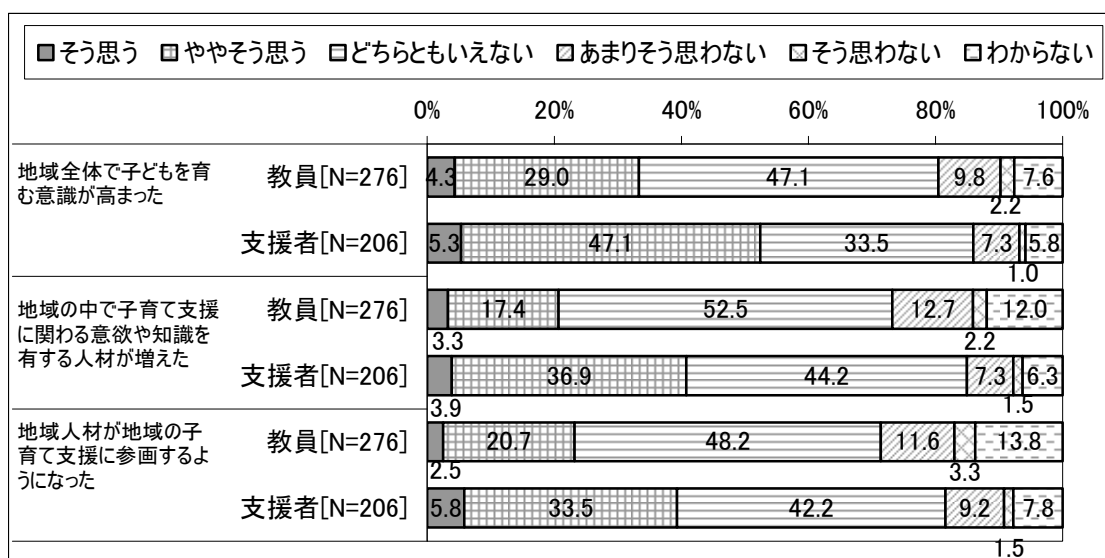
図表 3-42 調査対象者×家庭への効果



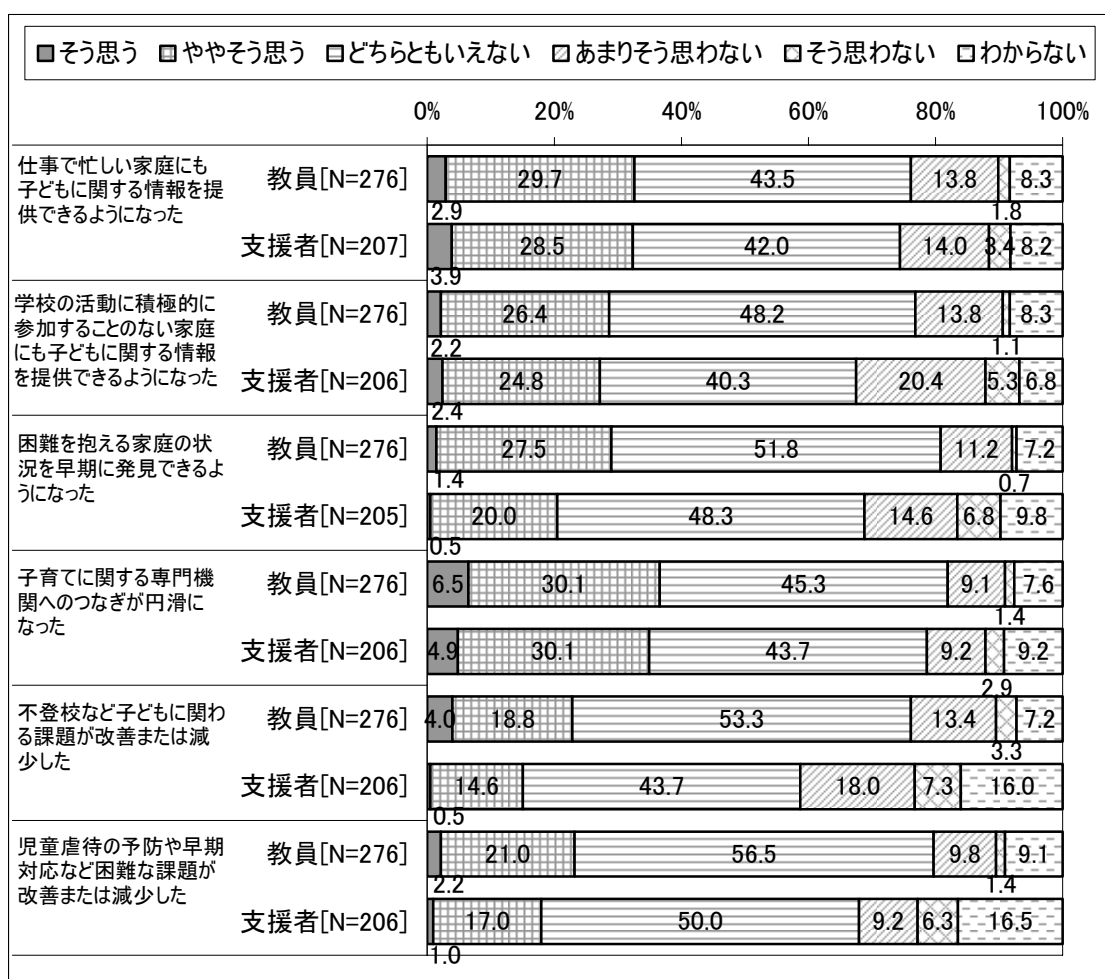
図表 3-43 調査対象者×学校への効果



図表 3-44 調査対象者×地域への効果



図表 3-45 調査対象者×問題の予防・解決への効果



3.7.2 チーム型の効果

(1) 保護者票

1) 属性ごとの戸別訪問受入れ状況

【分析の視点】

- a 家庭教育支援チーム等による戸別訪問の受入経験は、保護者の属性による差があるか

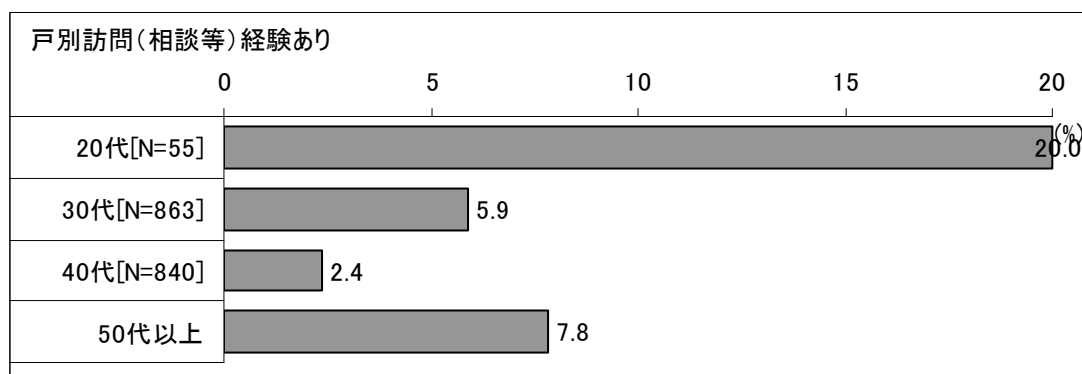
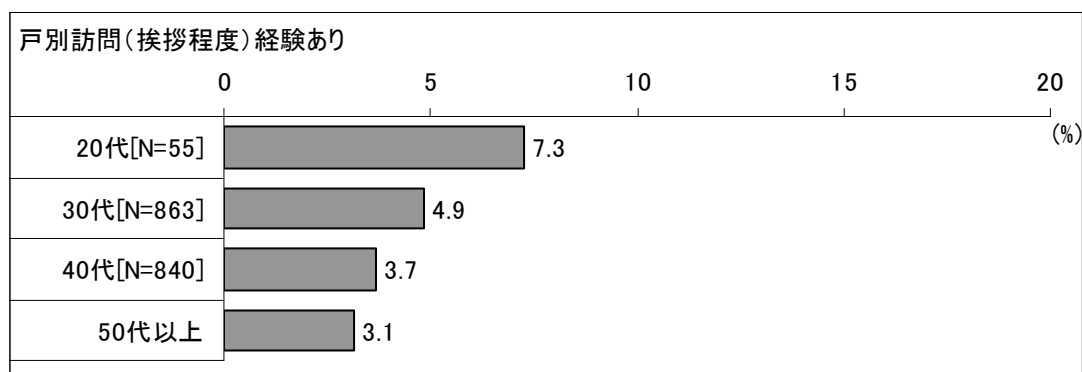
【分析の方法】

- 家庭教育支援チームや相談員による戸別訪問の受入経験（Q14_8-9）について、保護者の年代（Q1）、職業（Q7）、経済状態（Q9）別に比較

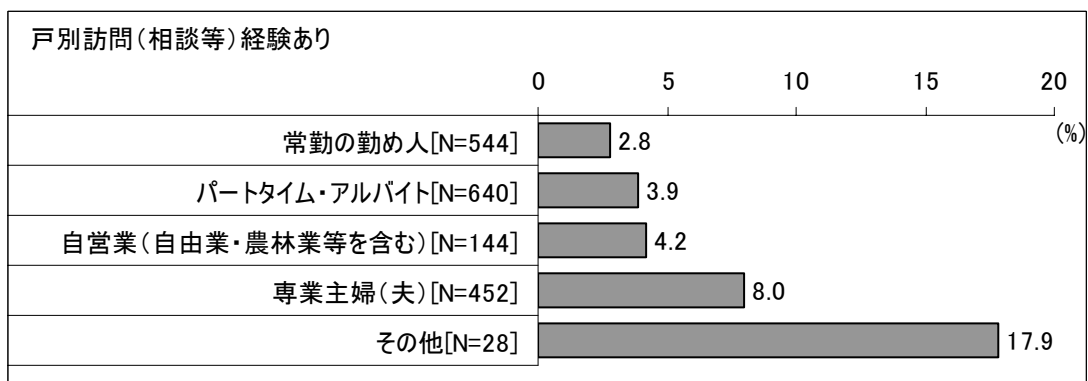
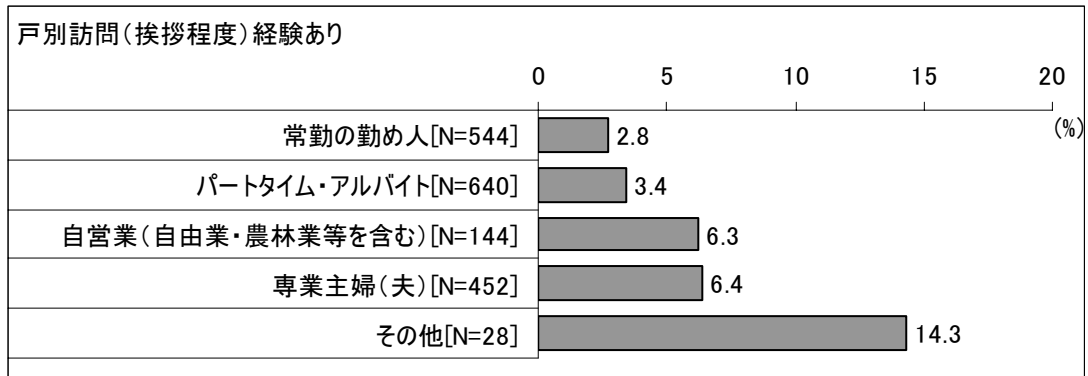
【分析結果のポイント】

- 挨拶程度の戸別訪問についても相談など時間をある程度使う戸別訪問についても、20代の受入経験割合がもっとも高い
- 挨拶程度の戸別訪問についても相談など時間をある程度使う戸別訪問についても、専業主婦（夫）の受入経験割合がもっとも高い
- 挨拶程度の戸別訪問についても相談など時間をある程度使う戸別訪問についても、経済状態が「苦しい」家庭の受入経験割合がもっとも低い

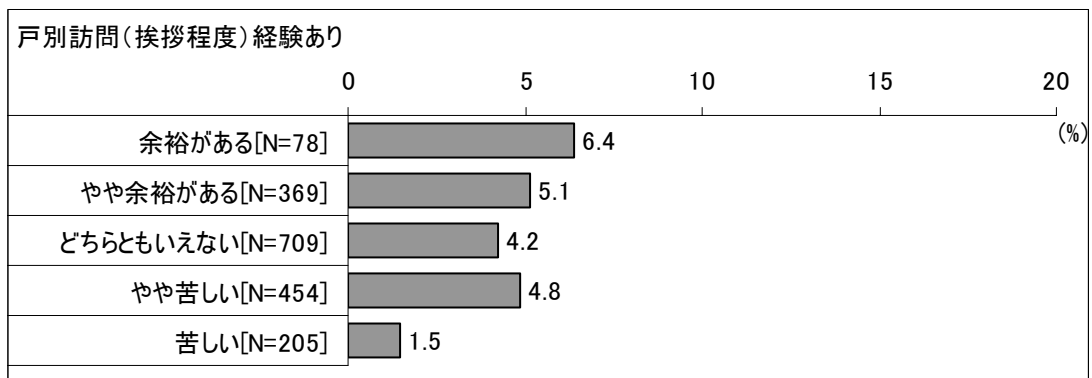
図表 3-46 保護者の年代×戸別訪問の受入経験

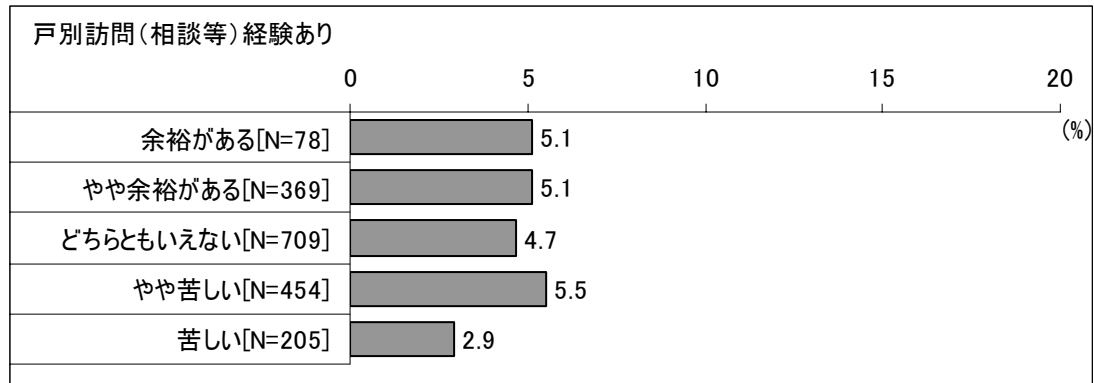


図表 3-47 保護者の職業×戸別訪問の受入経験



図表 3-48 保護者の経済状態×戸別訪問の受入経験





2) 家庭への効果

【分析の視点】

- 保護者の子育てに関する知識等について、保護者の属性による差があるか
- 保護者の子育てに関する知識等について、家庭教育支援チーム等による戸別訪問の受入経験による差があるか
- 家庭教育支援チーム等による戸別訪問の受入経験の効果は、取組に係る協力・工夫の実施状況による差があるか

【分析の視点 a】

- 保護者の子育てに関する知識等について、保護者の属性による差があるか

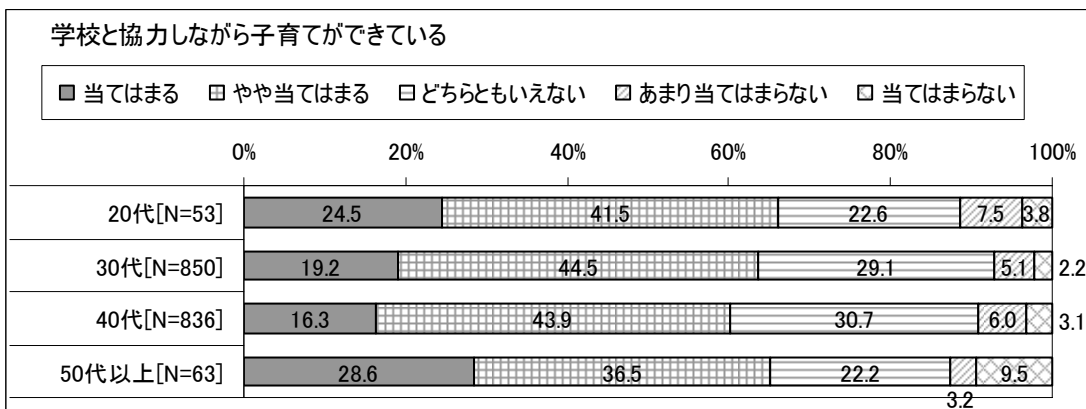
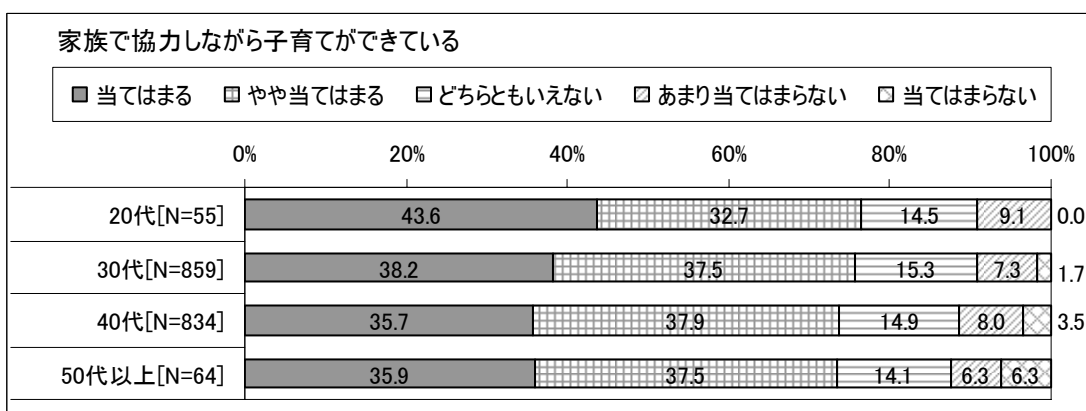
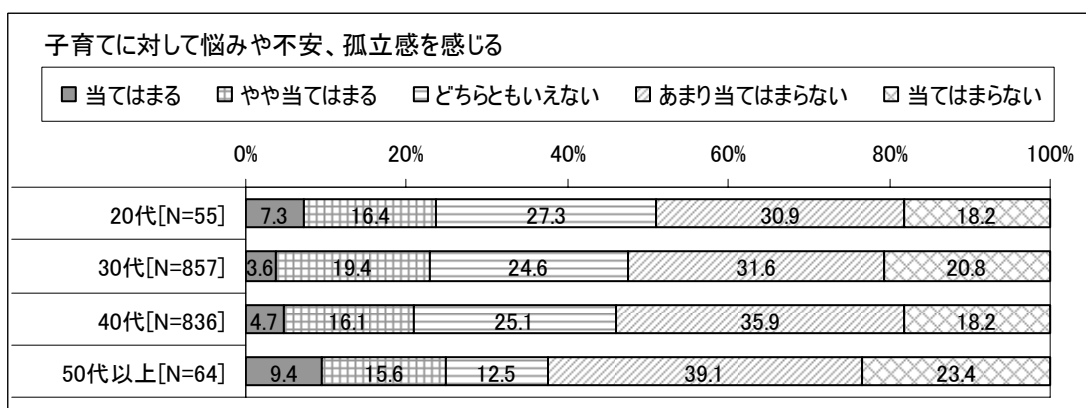
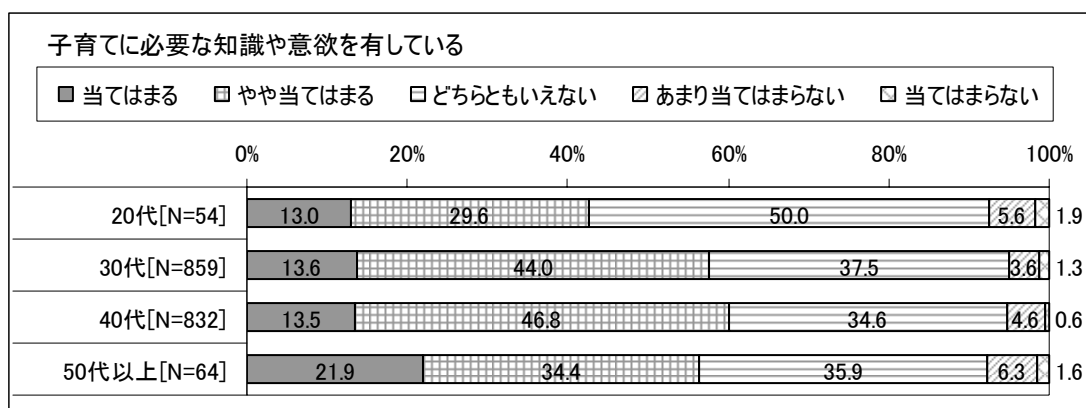
【分析の方法】

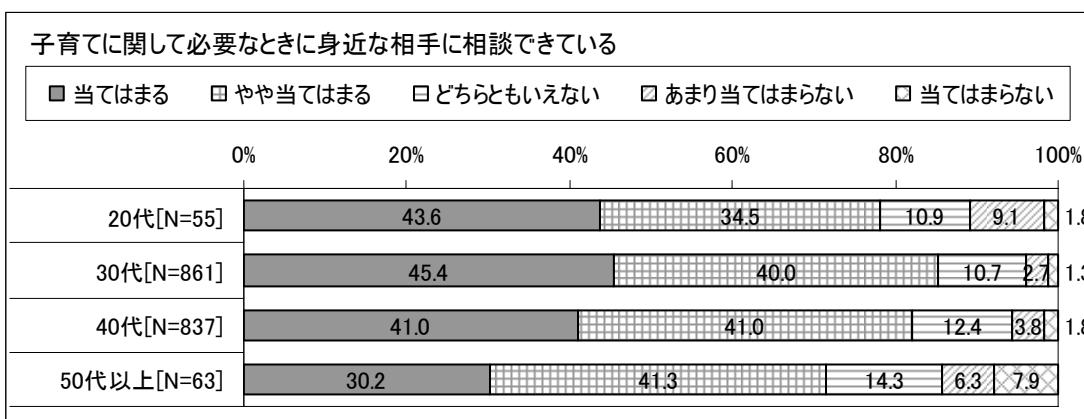
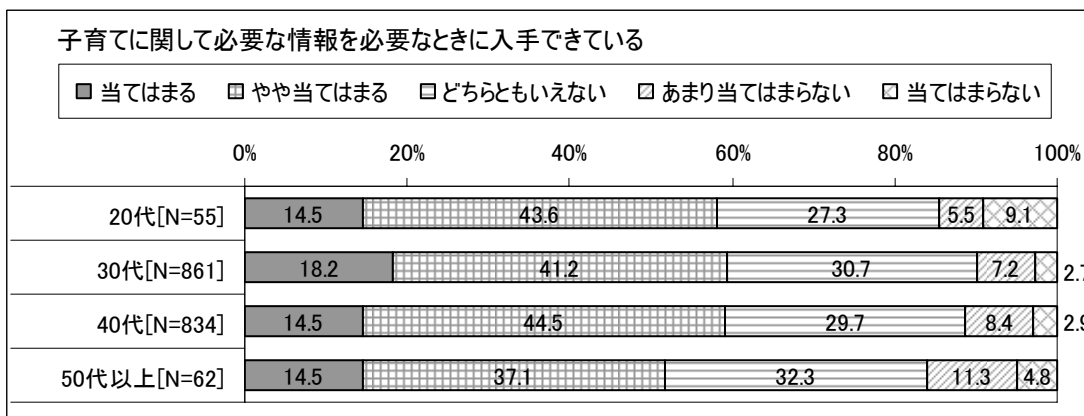
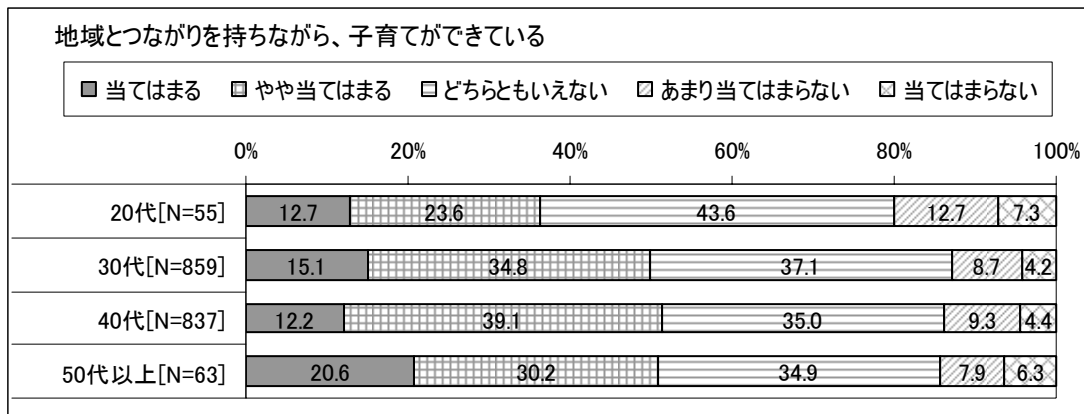
- 保護者の子育てに関する知識や意識等に関する現在の達成状況 (Q10) について、保護者の年代 (Q1)、職業 (Q7)、経済状態 (Q9) 別に比較

【分析結果のポイント】

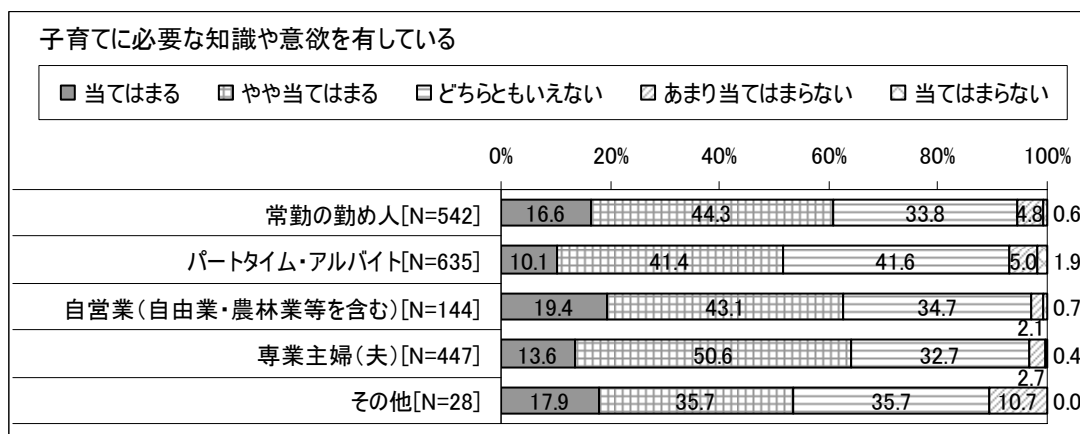
- 「子育てに必要な知識や意欲を有している」「地域とつながりを持ちながら、子育てができている」は40代、「家族で協力しながら子育てができている」「学校と協力しながら子育てができている」は20代、「子育てに関して必要な情報を必要なときに入手できている」「子育てに関して必要なときに身近な相手に相談できている」は30代がもっとも高い達成状況を示している
- 「子育てに必要な知識や意欲を有している」「子育てに関して必要な情報を必要なときに入手できている」は専業主婦(夫)、「家族で協力しながら子育てができている」「学校と協力しながら子育てができている」「地域とつながりを持ちながら、子育てができている」「子育てに関して必要なときに身近な相手に相談できている」は自営業がもっとも高い達成状況を示している
- いずれの項目においても、経済状態が良い保護者ほど高い達成状況を示している

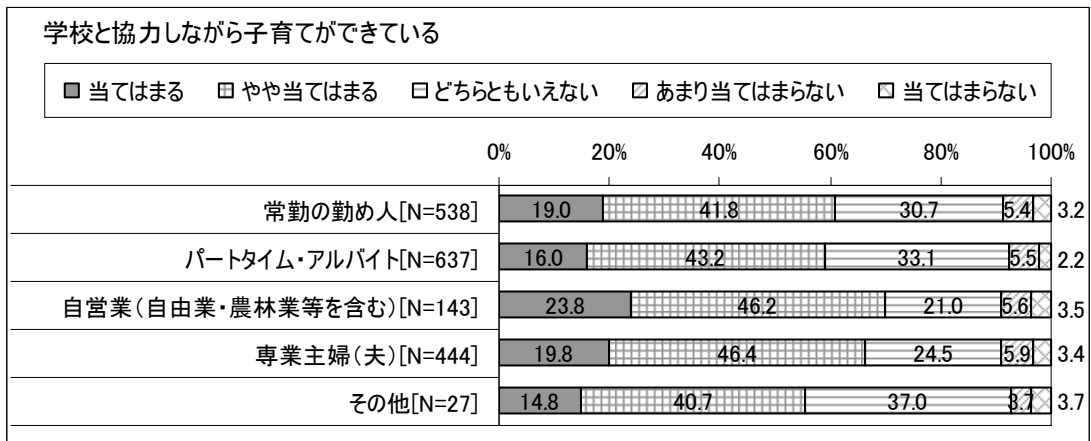
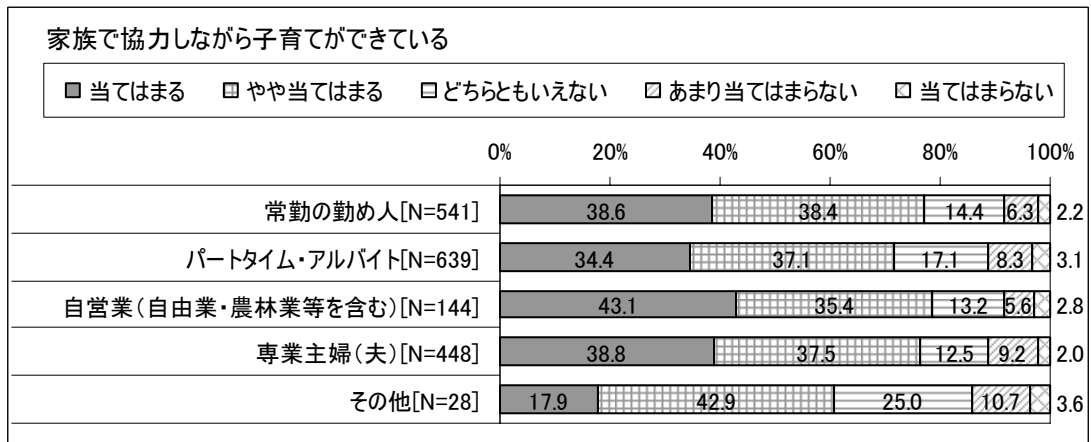
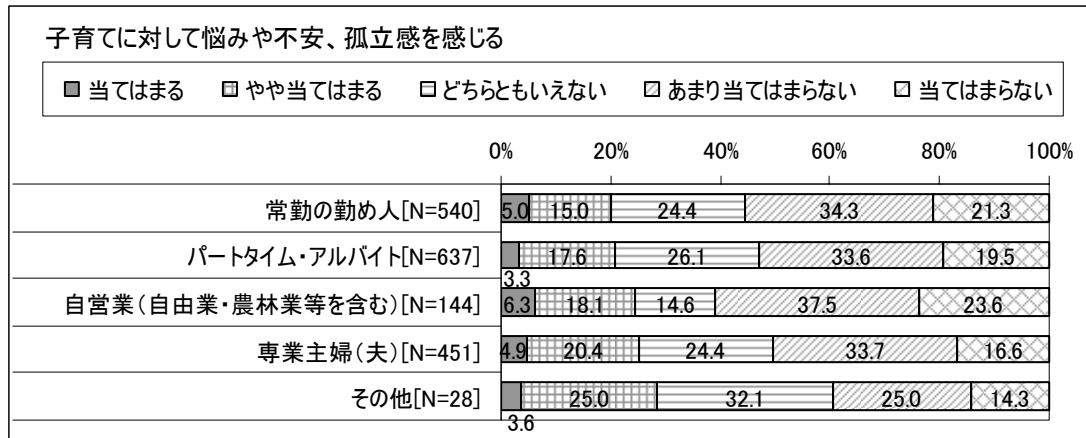
図表 3-49 保護者の年代×家庭の達成状況

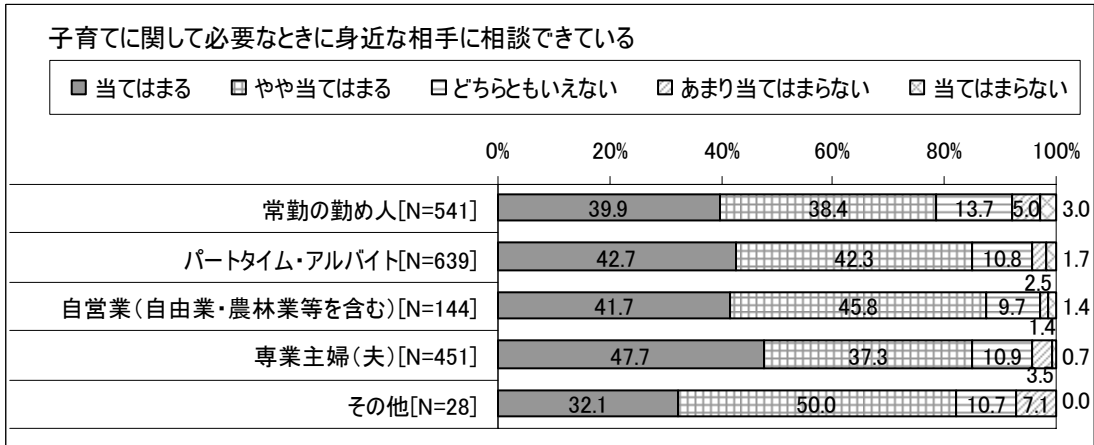
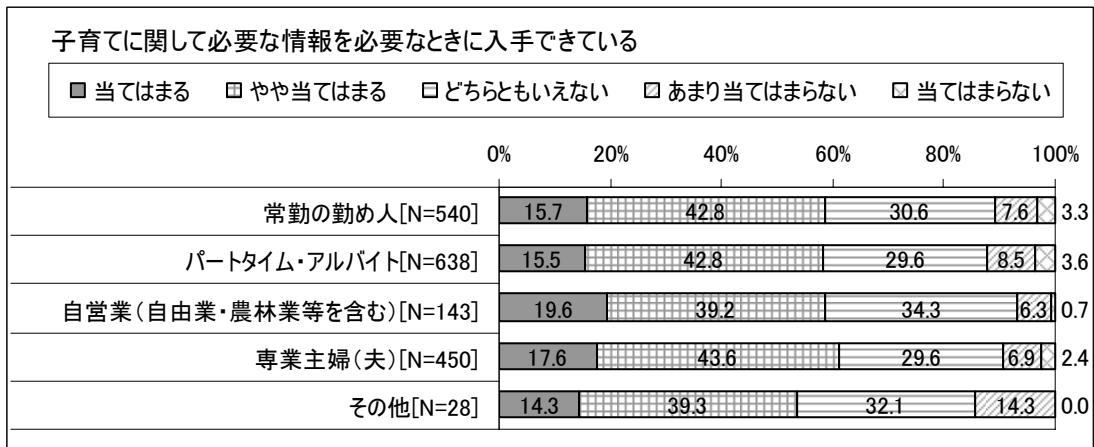
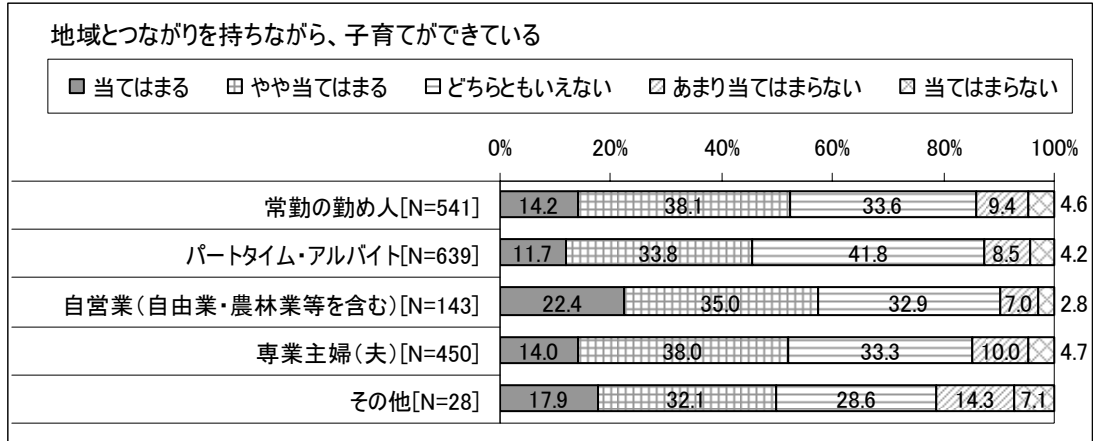




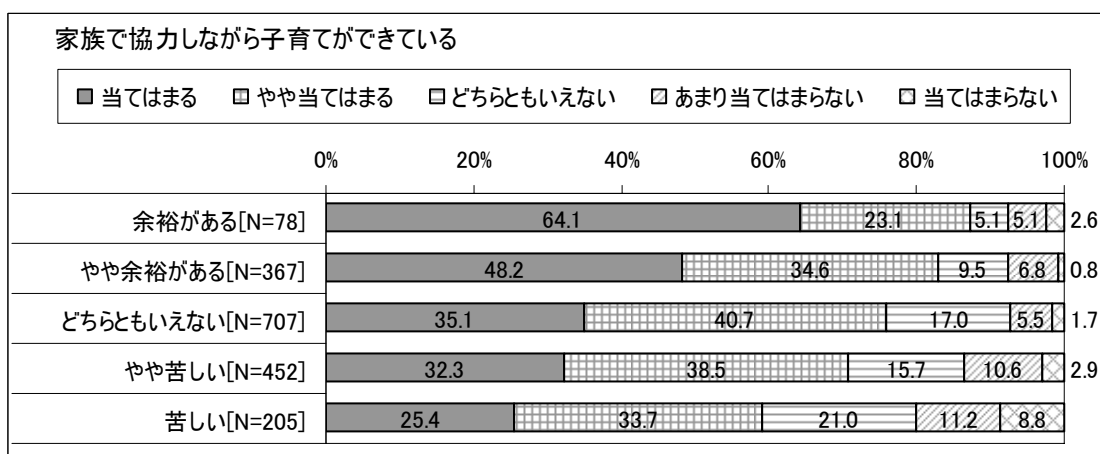
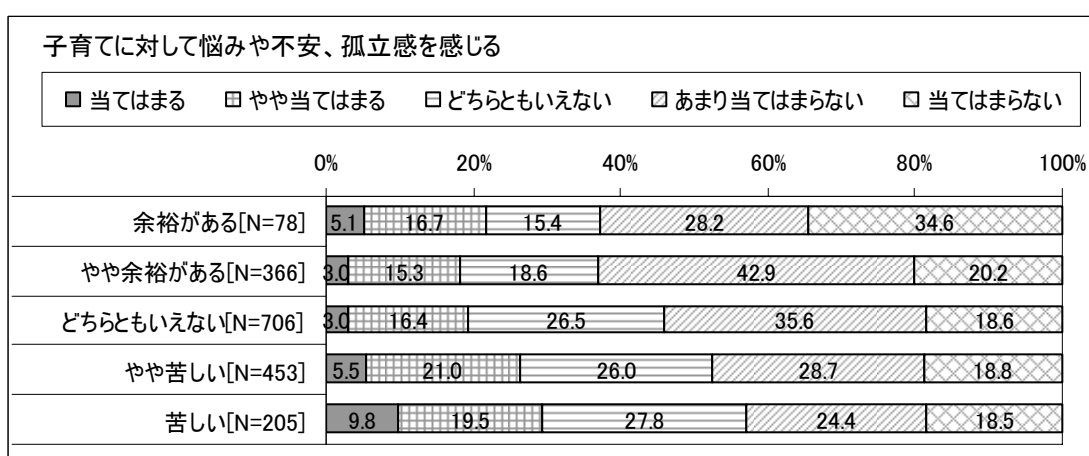
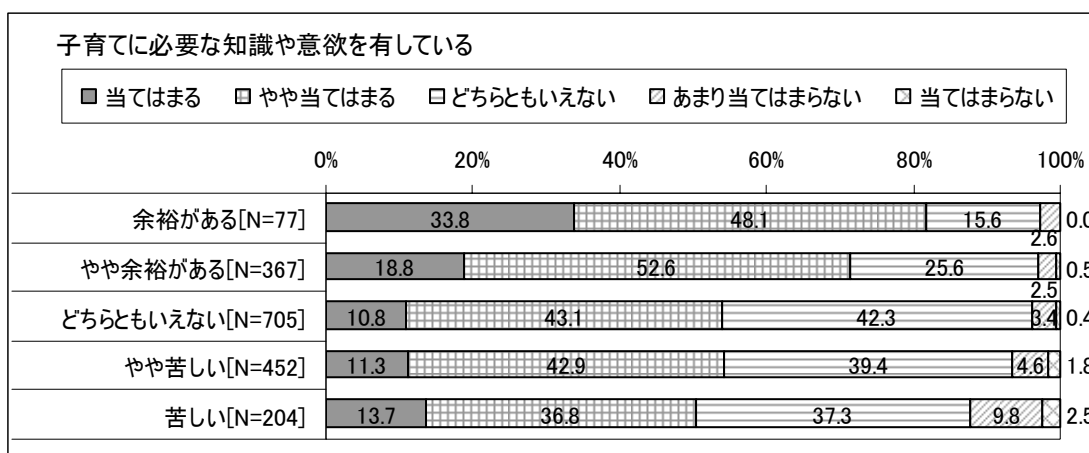
図表 3-50 保護者の職業×家庭の達成状況

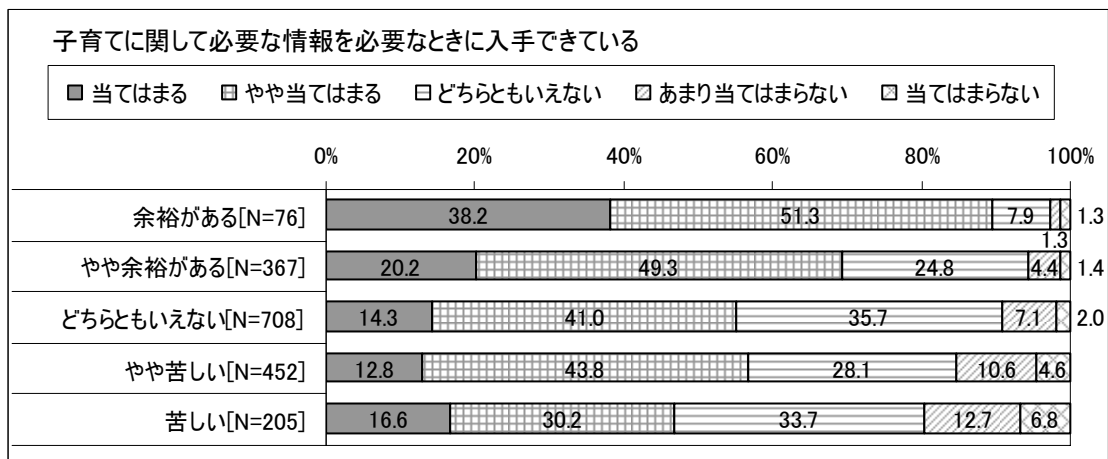
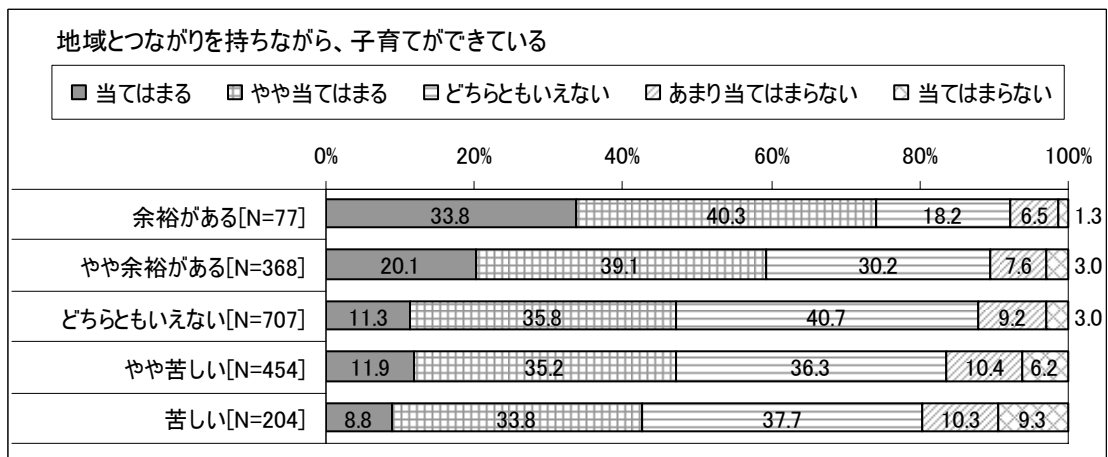
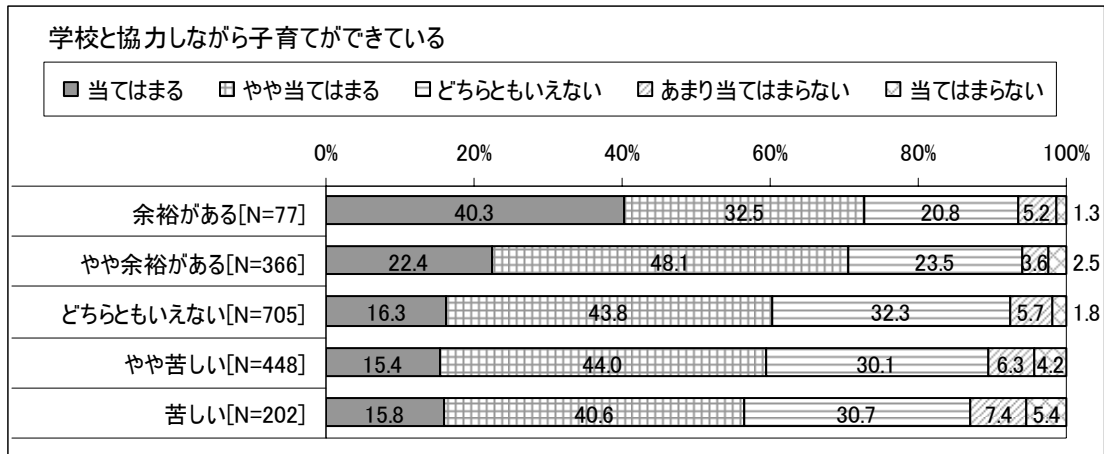


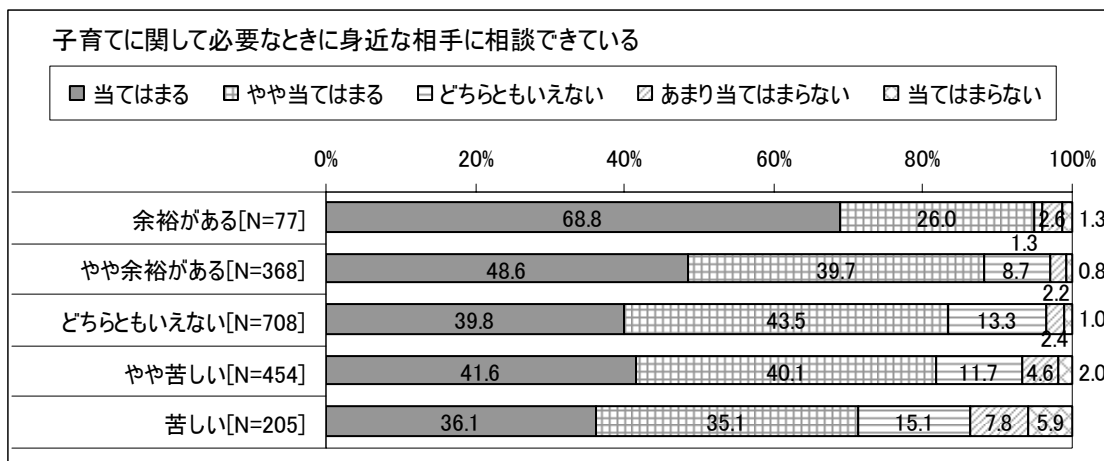




図表 3-51 保護者の経済状態×家庭の達成状況







【分析の視点 b】

- 保護者の子育てに関する知識等について、家庭教育支援チーム等による戸別訪問の受入経験による差があるか

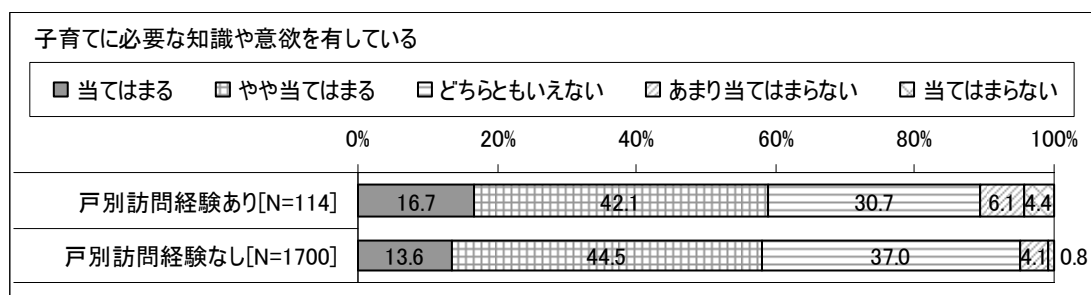
【分析の方法】

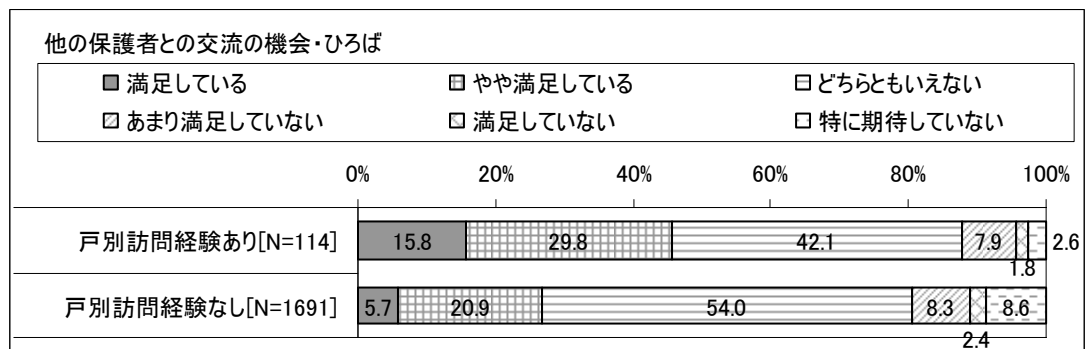
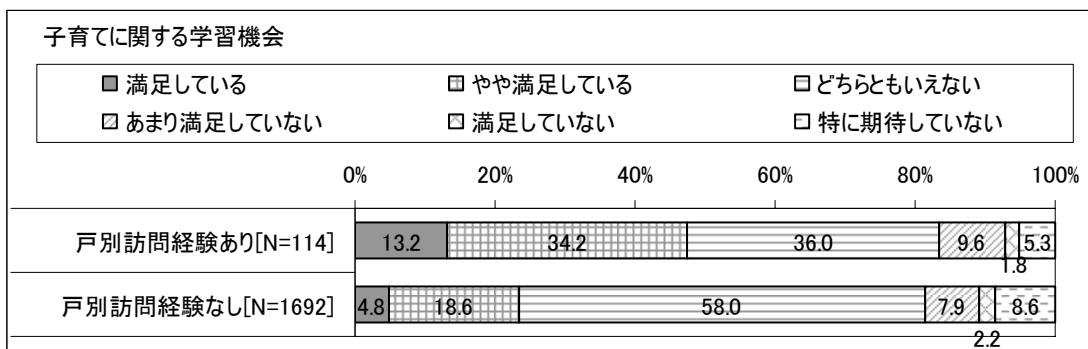
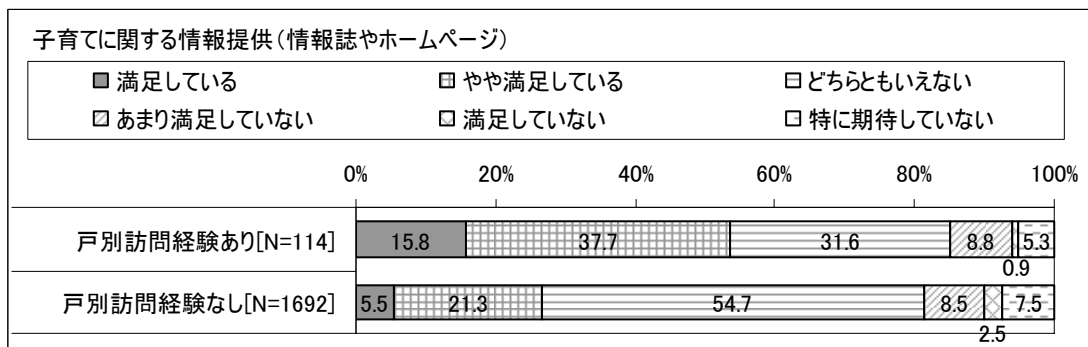
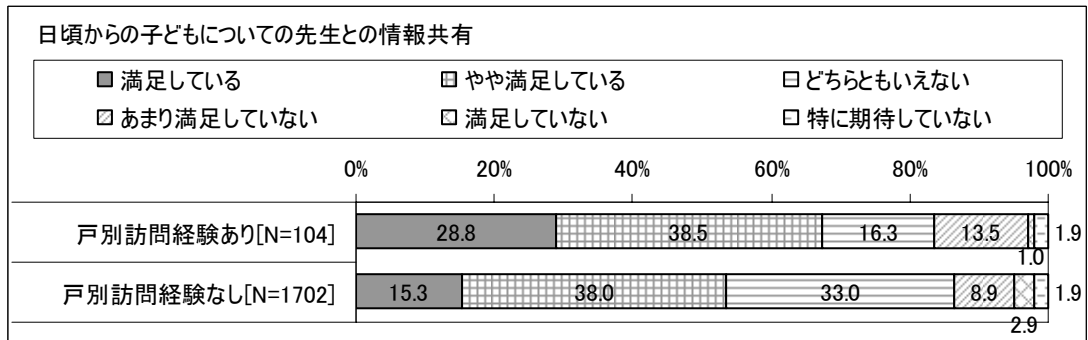
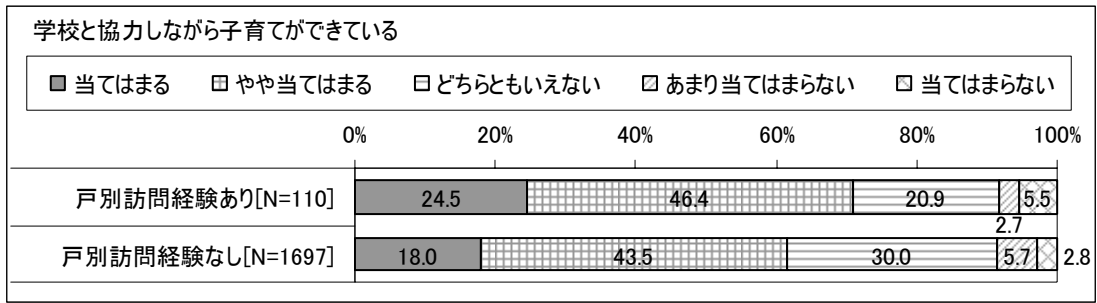
- 保護者の子育てに関する知識や意識、学校との関係、地域のサポート体制に対する満足度等、に関する現在の達成状況（Q10, 11, 12）について、家庭教育支援チームや相談員による戸別訪問を経験した保護者と未経験の保護者（Q14_8, 9）を比較

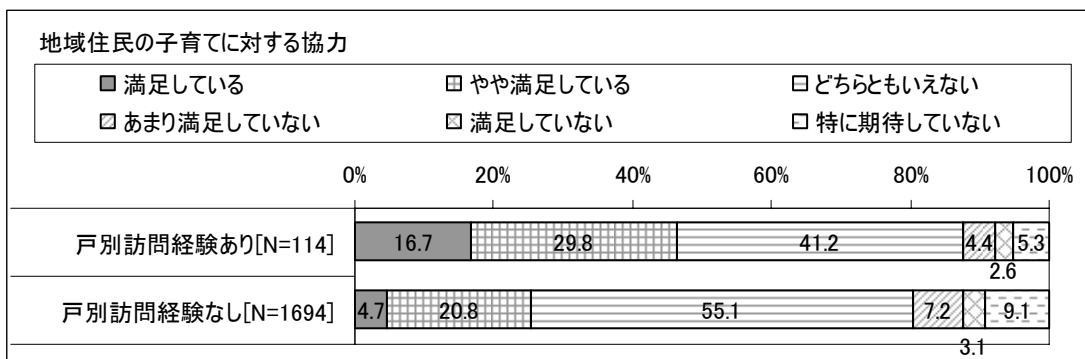
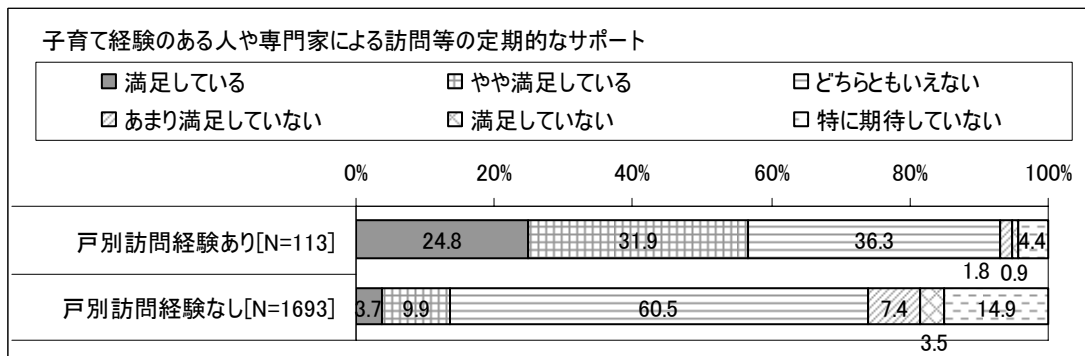
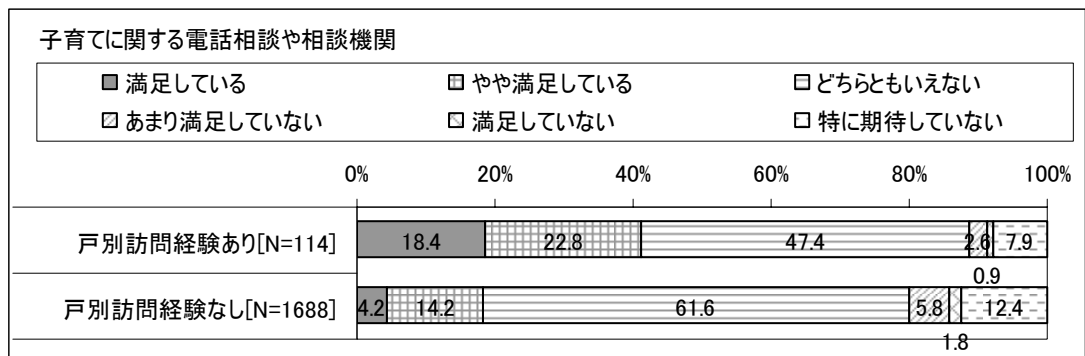
【分析結果のポイント】

- 戸別訪問の受入経験がある保護者は経験がない保護者に比して、「子育てに必要な知識や意欲を有している」「学校と協力しながら子育てができている」についての効果が有意に高い。また、「日頃からの子どもについての先生との情報共有」「子育てに関する情報提供（情報誌やホームページ）」「子育てに関する学習機会」「他の保護者との交流の機会・ひろば」「子育てに関する電話相談や相談機関」「子育て経験のある人や専門家による訪問等の定期的なサポート」「地域住民の子育てに対する協力」についての満足度が有意に高い

図表 3-52 チーム員等による受入経験有無×家庭等の達成状況







【分析の視点 c】

- 家庭教育支援チーム等による戸別訪問の受入経験の効果は、取組に係る協力・工夫の実施状況による差があるか

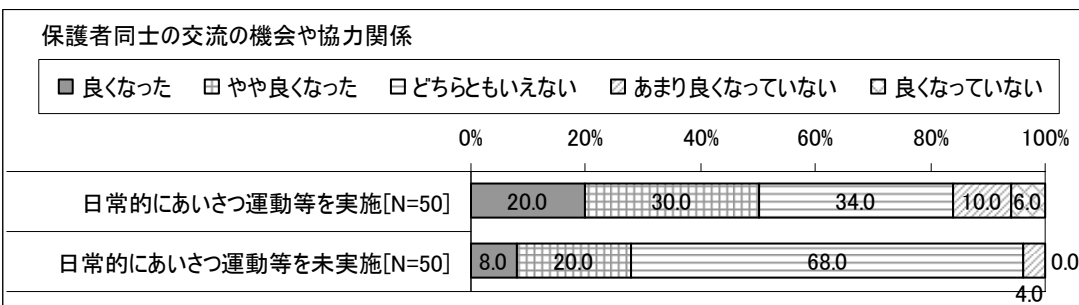
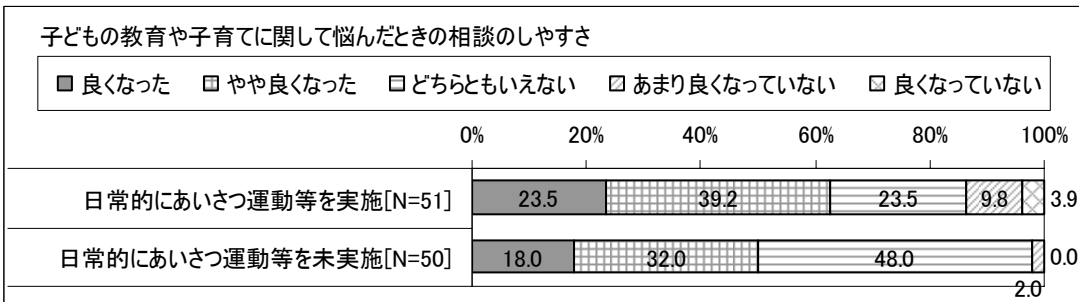
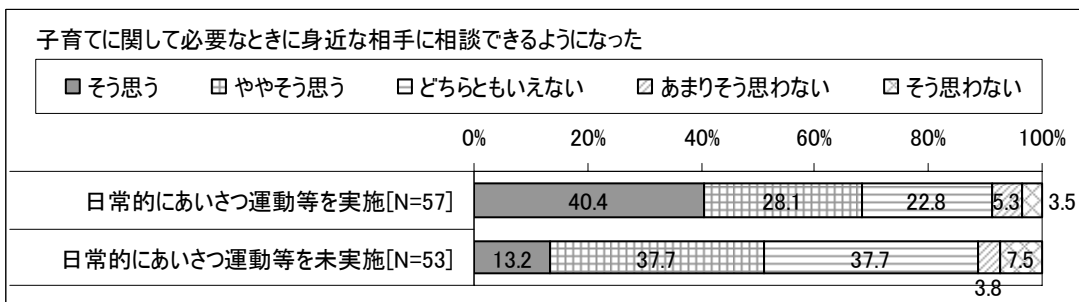
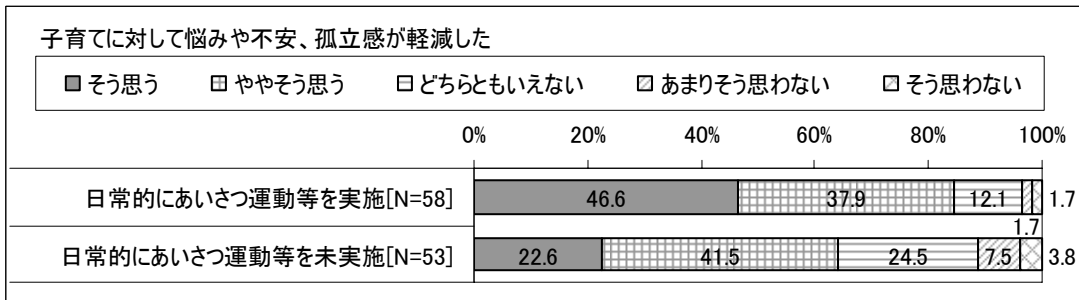
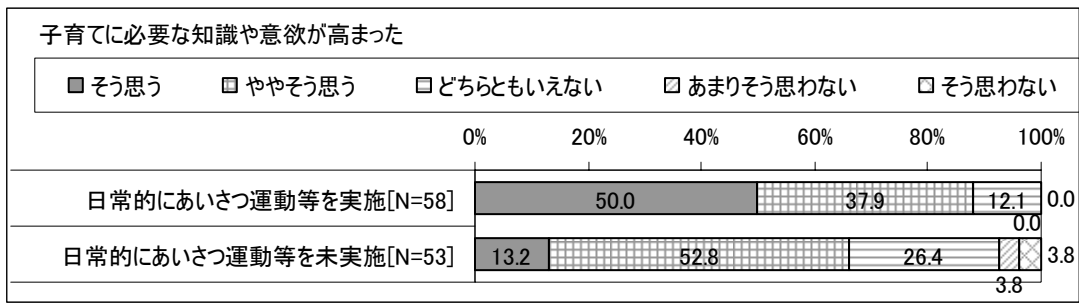
【分析の方法 1】

- 家庭教育支援チームや相談員による戸別訪問の受入経験による家庭・学校への直接的な効果 (Q15, 16) について、取組内容 (支援者・企画者 Q8) の各項目を実施している学校 (実施群) と実施していない学校 (未実施群) を比較

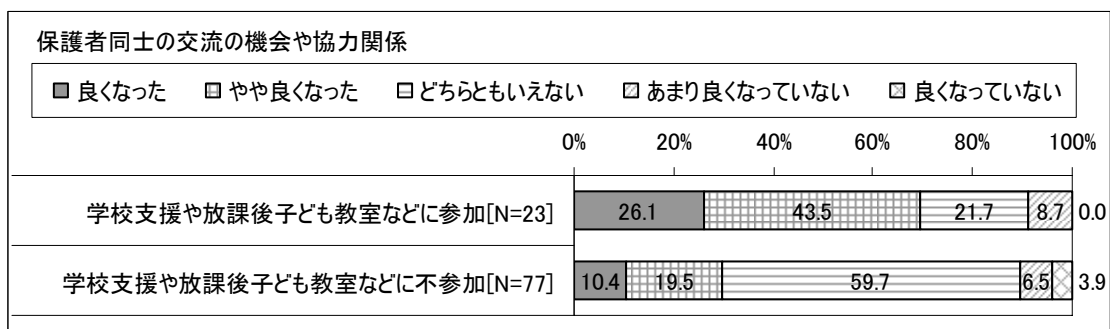
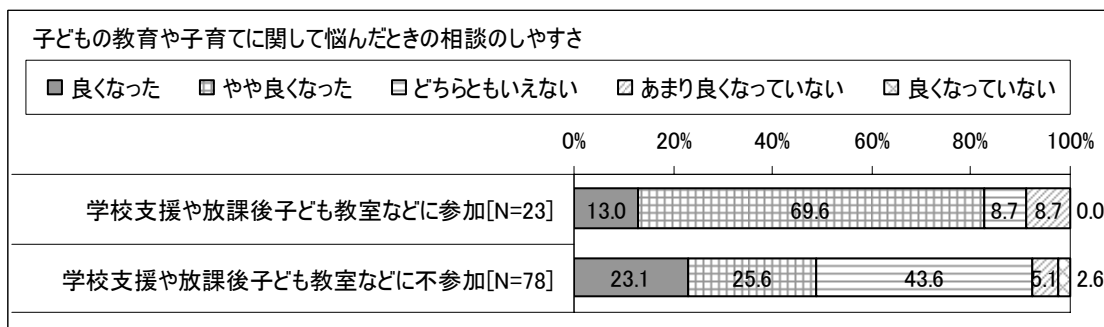
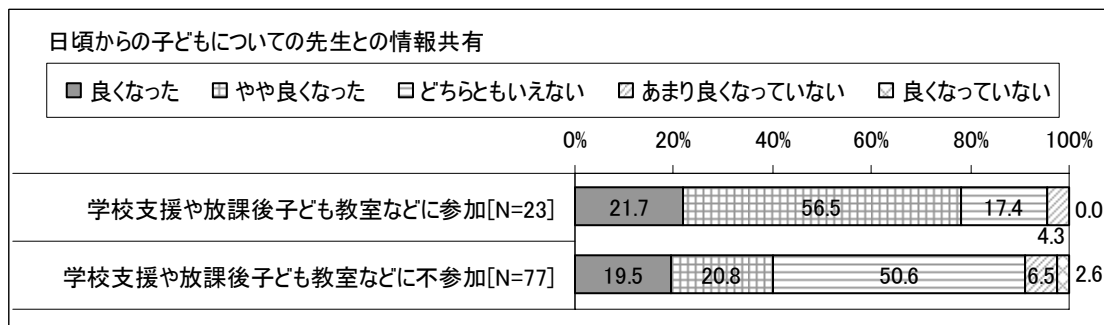
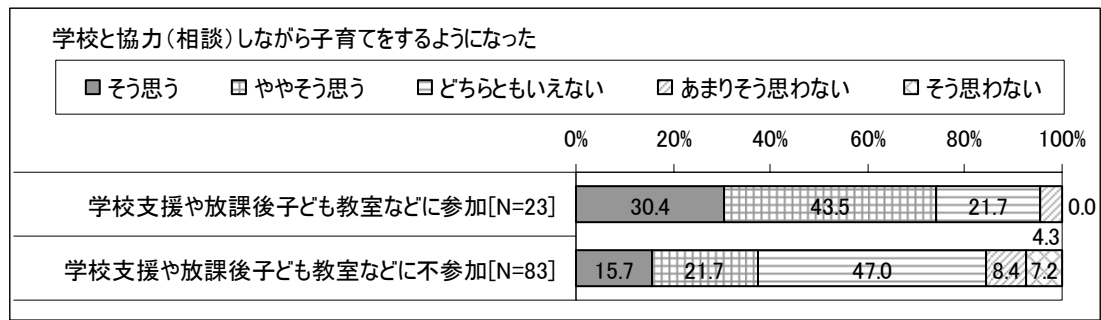
【分析結果のポイント】

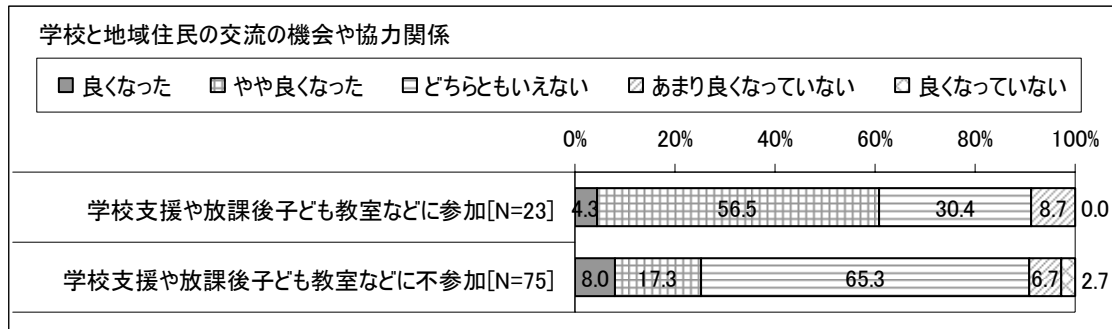
- 「日常的にあいさつ運動や見守りを実施している」実施群は未実施群に比して、「子育てに必要な知識や意欲が高まった」「子育てに対して悩みや不安、孤立感が軽減した」「子育てに関して必要なときに身近な相手に相談できるようになった」「子どもの教育や子育てに関して悩んだときの相談のしやすさ」「保護者同士の交流の機会や協力関係」についての効果が有意に高い
- 「学校支援や放課後子ども教室などにも参加し、子どもとの交流を深めている」実施群は未実施群に比して、「学校と協力 (相談) しながら子育てをするようになった」「日頃からの子どもについての先生との情報共有」「子どもの教育や子育てに関して悩んだときの相談のしやすさ」「保護者同士の交流の機会や協力関係」「学校と地域住民の交流の機会や協力関係」についての効果が有意に高い
- 「気になる家庭や、課題が顕在化している家庭の訪問を実施している」実施群は未実施群に比して、「子育てに関して必要な情報を必要なときに入手できるようになった」についての効果が有意に低い
- 「企業への出前講座を行っている」実施群は未実施群に比して、「学校と協力 (相談) しながら子育てをするようになった」「地域とつながりを持ちながら、子育てができるようになった」「日頃からの子どもについての先生との情報共有」「子どもの教育や子育てに関して悩んだときの相談のしやすさ」「保護者同士の交流の機会や協力関係」「学校と地域住民の交流の機会や協力関係」についての効果が有意に高い
- 「保護者が自由に交流したり、相談できる場 (居場所) を有している」「保護者がニーズに応じて参加できるイベントや講座、交流の機会を定期的 to 実施している」「概ね全戸の見守り訪問や情報誌の提供を行っている」については、いずれの項目においても実施群と未実施群の間に有意差は見られない

図表 3-53 「日常的にあいさつ運動や見守りを実施している」実施有無×家庭・学校への効果

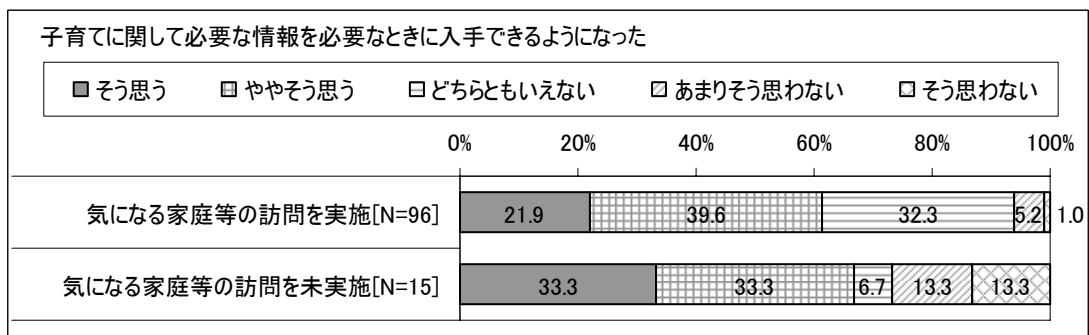


図表 3-54 「学校支援や放課後子ども教室などにも参加し、子どもとの交流を深めている」実施有無×家庭・学校への効果

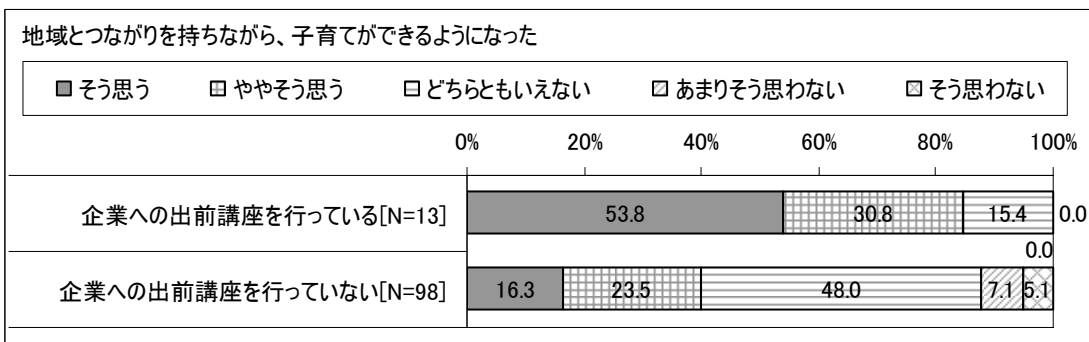
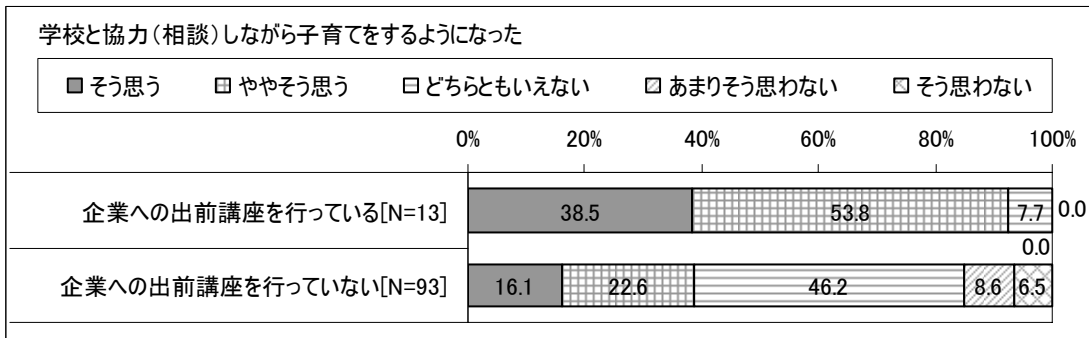


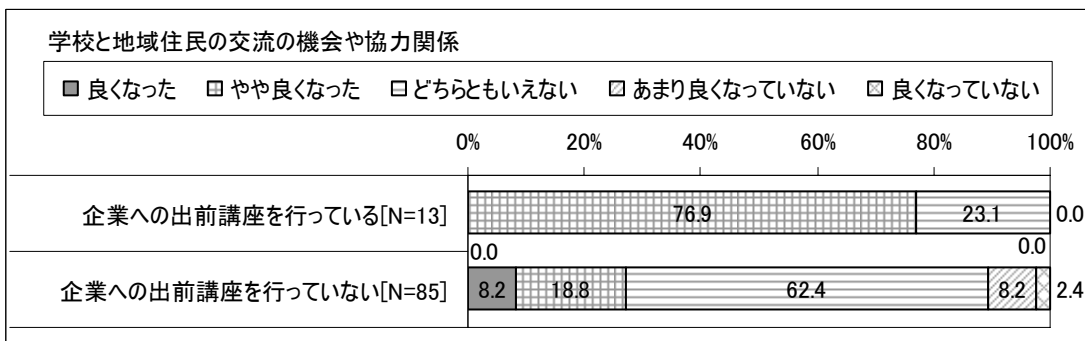
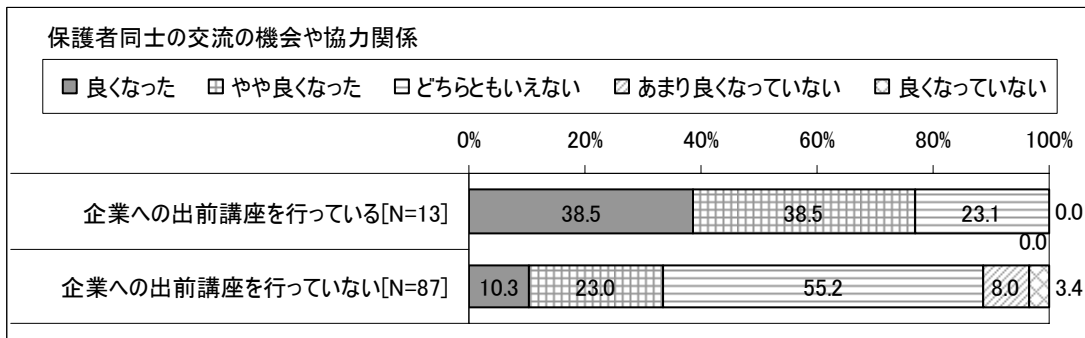
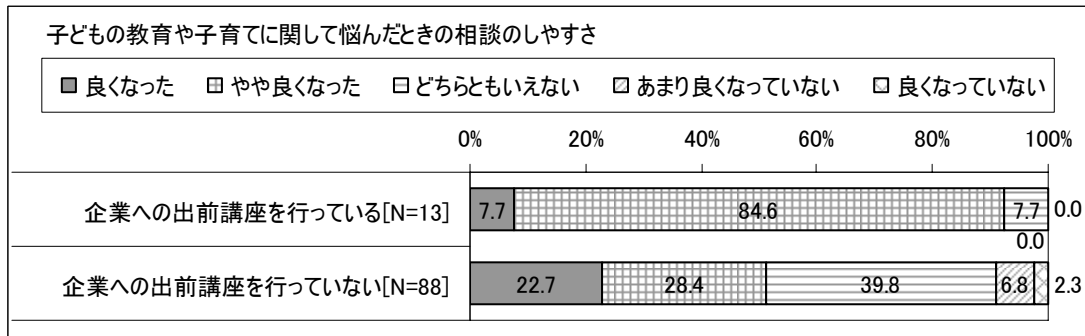
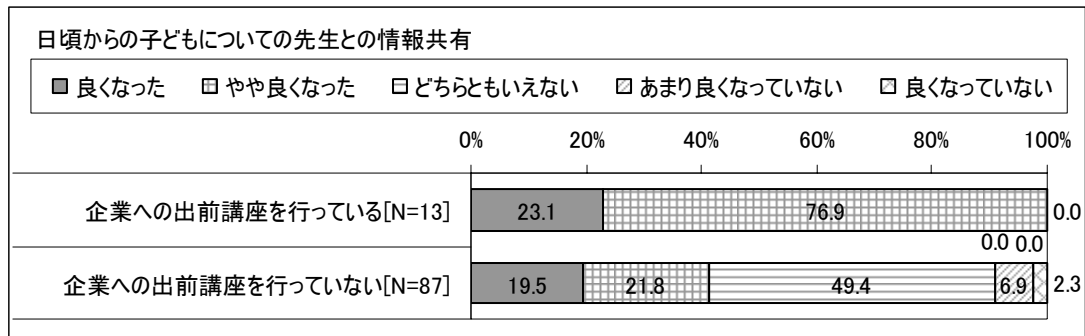


図表 3-55 「気になる家庭や、課題が顕在化している家庭の訪問を実施している」実施有無 × 家庭・学校への効果



図表 3-56 「企業への出前講座を行っている」実施有無 × 家庭・学校への効果





【分析の視点 c】

- 家庭教育支援チーム等による戸別訪問の受入経験の効果は、取組に係る協力・工夫の実施状況による差があるか

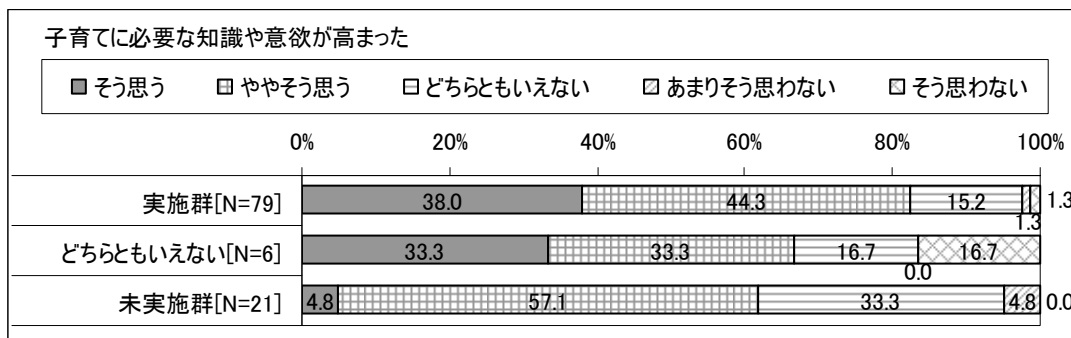
【分析の方法 2】

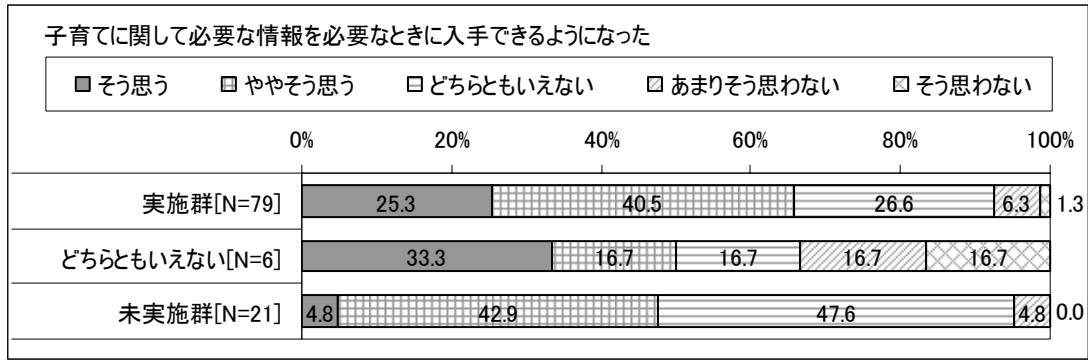
- 家庭教育支援チームや相談員による戸別訪問の受入経験による家庭・学校への直接的な効果 (Q15, 16) について、取組に係る協力・工夫の実施状況 (支援者・企画者 Q13) の各項目を実施している学校 (実施群) と実施していない学校 (未実施群) を比較

【分析結果のポイント】

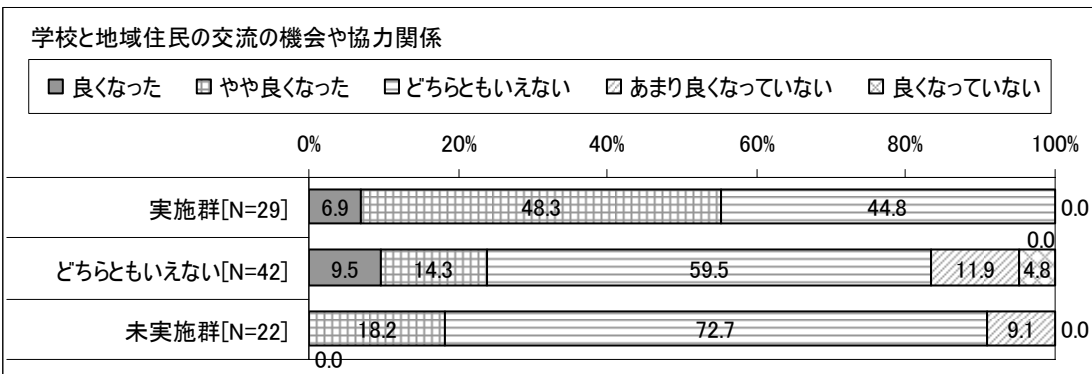
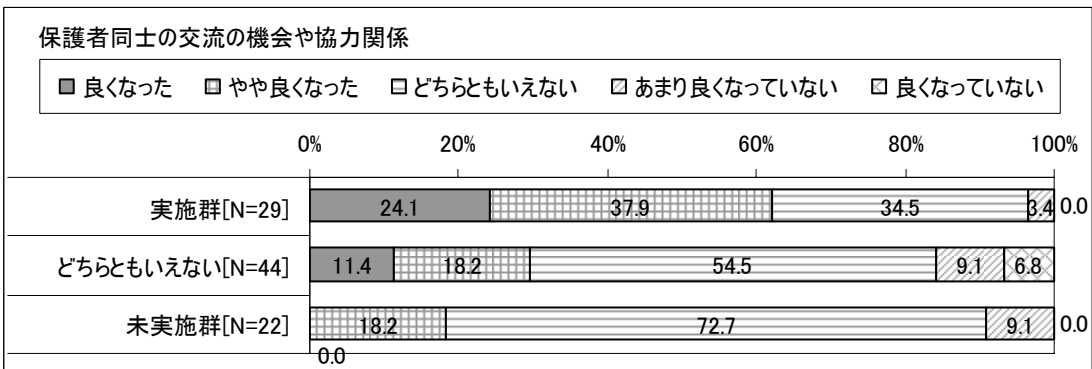
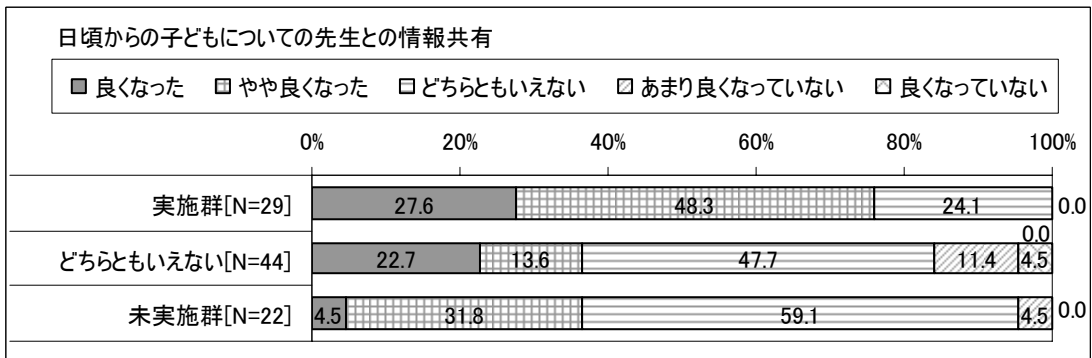
- 「多くの保護者が参画できる (支援が届く) よう、活動時間や場所を工夫している」実施群は未実施群に比して、「子育てに必要な知識や意欲が高まった」「子育てに関して必要な情報を必要なときに入手できるようになった」についての効果が有意に高い
- 「ワークショップや体験形式など、保護者が楽しく主体的に参画できる内容を取り入れている」実施群は未実施群に比して、「日頃からの子どもについての先生との情報共有」「保護者同士の交流の機会や協力関係」「学校と地域住民の交流の機会や協力関係」についての効果が有意に高い
- 「企画や実施にあたって、学校の教職員と定期的に意識共有を図っている」実施群は未実施群に比して、「日頃からの子どもについての先生との情報共有」「子どもの教育や子育てに関して悩んだときの相談のしやすさ」についての効果が有意に高い
- 「近隣の企業と連携し、人材や資金等の提供を受けている」実施群は未実施群に比して、「保護者同士の交流の機会や協力関係」「学校と地域住民の交流の機会や協力関係」についての効果が有意に低い。ただし未実施群は、「良くなっていない」「あまり良くなっていない」の合計回答割合も高い

図表 3-57 「多くの保護者が参画できる (支援が届く) よう、活動時間や場所を工夫している」実施有無 × 家庭・学校への効果

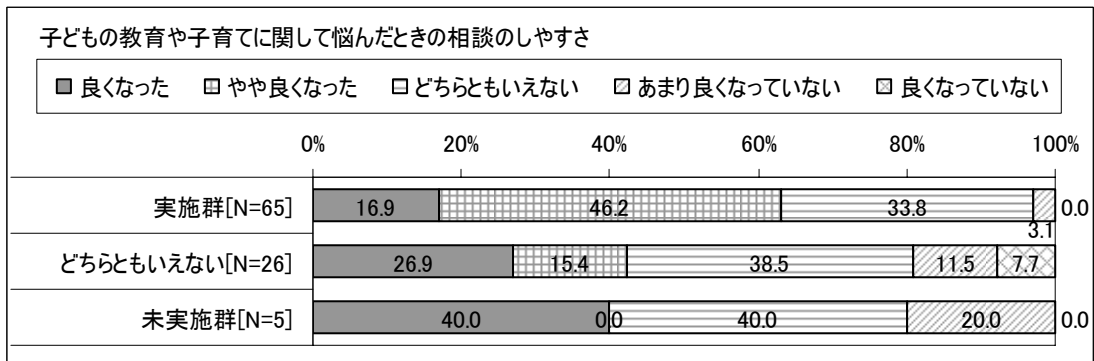
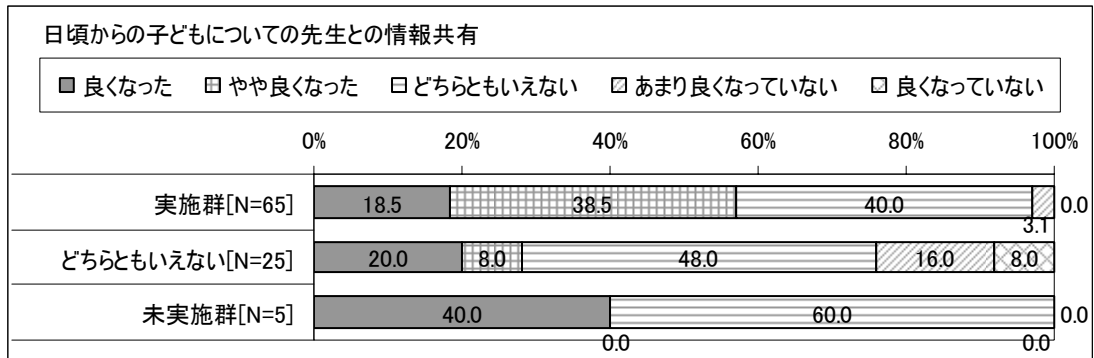




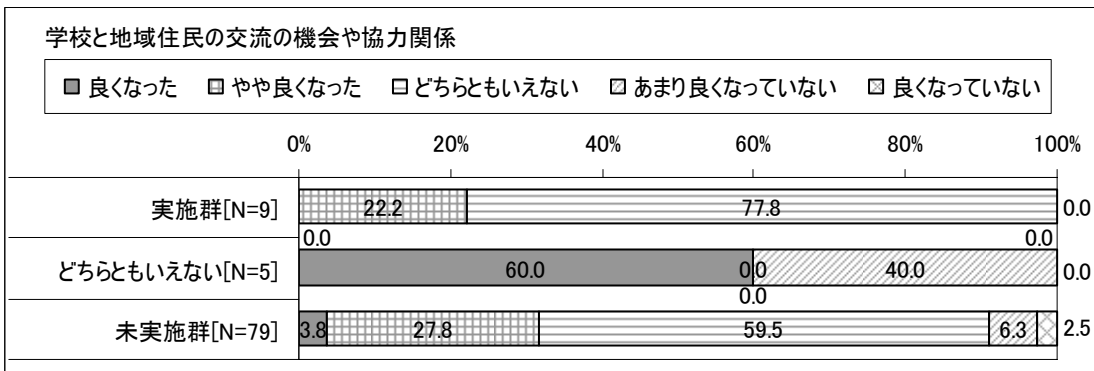
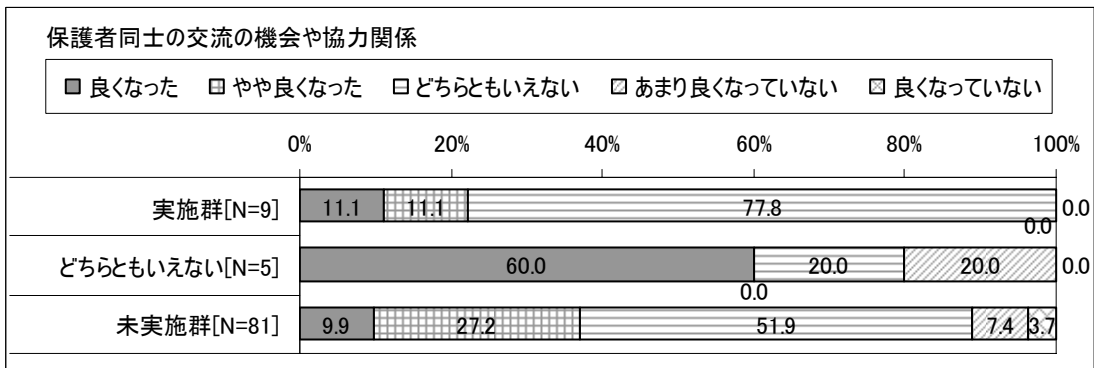
図表 3-58 「ワークショップや体験形式など、保護者が楽しく主体的に参画できる内容を取り入れている」実施有無×家庭・学校への効果



図表 3-59 「企画や実施にあたって、学校の教職員と定期的に意識共有を図っている」実施有無×家庭・学校への効果



図表 3-60 「近隣の企業と連携し、人材や資金等の提供を受けている」実施有無×家庭・学校への効果



(2) 教職員票

1) 家庭への効果

【分析の視点】

- a 保護者の子育てに関する知識等について、家庭教育支援チームへの助言をしている学校としていない学校とでは、どのような差があるか
- b 保護者の子育てに関する知識等について、チーム等での情報共有会議を開催している学校としていない学校とでは、どのような差があるか
- c 保護者の子育てに関する知識等について、チーム員の戸別訪問へ同行している学校としていない学校とでは、どのような差があるか
- d 保護者の子育てに関する知識等について、専門機関へのつなぎを行っている学校と行っていない学校とでは、どのような差があるか
- e チーム型支援による家庭への効果は、家庭教育支援チームへの助言をしている学校としていない学校とでは、どのような差があるか
- f チーム型支援による家庭への効果は、チーム等での情報共有会議を開催している学校としていない学校とでは、どのような差があるか
- g チーム型支援による家庭への効果は、チーム員の戸別訪問へ同行している学校としていない学校とでは、どのような差があるか
- h チーム型支援による家庭への効果は、専門機関へのつなぎを行っている学校と行っていない学校とでは、どのような差があるか
- i チーム型支援による家庭への効果は、取組に係る協力・工夫の実施状況による差があるか

【分析の視点 a】

- 保護者の子育てに関する知識等について、家庭教育支援チームへの助言をしている学校としていない学校とでは、どのような差があるか

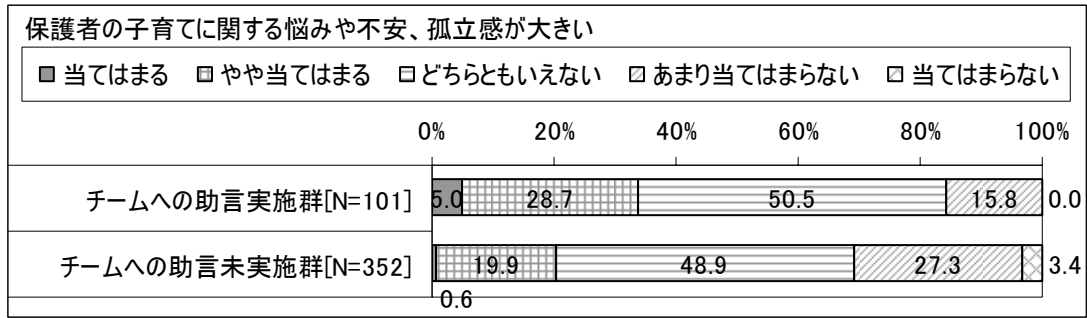
【分析の方法】

- 保護者の子育てに関する知識や意識等に関する現在の達成状況 (Q7) について、チーム型支援の実施状況 (Q2) のうち「家庭教育支援チームへの助言」を実施している学校 (チームへの助言実施群) と実施していない学校 (チームへの助言未実施群) を比較

【分析結果のポイント】

- チームへの助言実施群は未実施群に比して、「保護者の子育てに関する悩みや不安、孤立感が大きい」についての達成状況が有意に低い

図表 3-61 チームへの助言実施有無×家庭の達成状況



【分析の視点 b】

- 保護者の子育てに関する知識等について、チーム等での情報共有会議を開催している学校としていない学校とでは、どのような差があるか

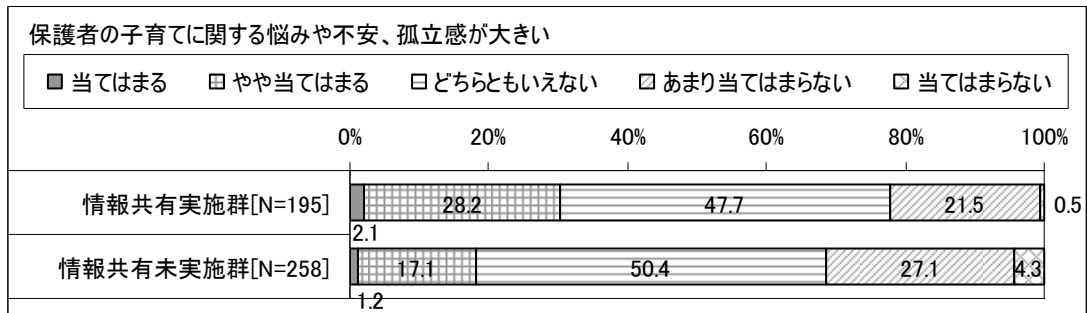
【分析の方法】

- 保護者の子育てに関する知識や意識等に関する現在の達成状況 (Q7) について、チーム型支援の実施状況 (Q2) のうち「教職員やチームでの情報共有会議」を実施している学校 (情報共有実施群) と実施していない学校 (情報共有未実施群) を比較

【分析結果のポイント】

- 情報共有実施群は未実施群に比して、「保護者の子育てに関する悩みや不安、孤立感が大きい」についての達成状況が有意に低い

図表 3-62 教職員やチームでの情報共有会議実施有無×家庭の達成状況



【分析の視点 c】

- 保護者の子育てに関する知識等について、チーム員の戸別訪問へ同行している学校としていない学校とでは、どのような差があるか

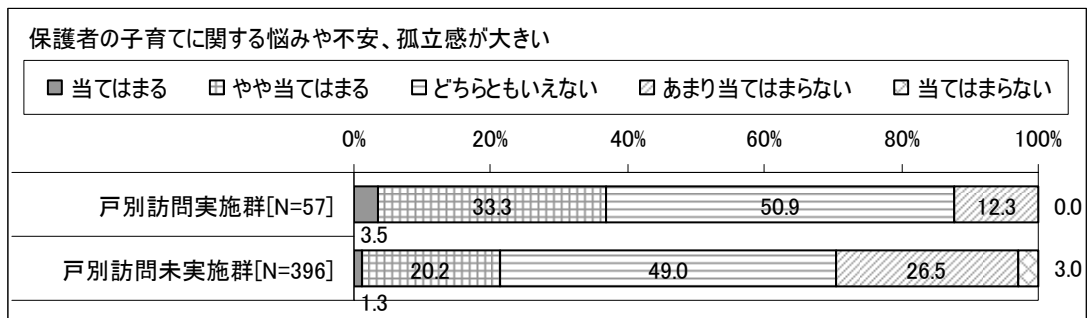
【分析の方法】

- 保護者の子育てに関する知識や意識等に関する現在の達成状況 (Q7) について、チーム型支援の実施状況 (Q2) のうち「チーム員の戸別訪問への同行」を実施している学校 (戸別訪問実施群) と実施していない学校 (戸別訪問未実施群) を比較

【分析結果のポイント】

- 戸別訪問実施群は未実施群に比して、「保護者の子育てに関する悩みや不安、孤立感が大きい」についての達成状況が有意に低い

図表 3-63 チーム員による戸別訪問実施有無×家庭の達成状況



【分析の視点 d】

- 保護者の子育てに関する知識等について、専門機関へのつなぎを行っている学校と行っていない学校とでは、どのような差があるか

【分析の方法】

- 保護者の子育てに関する知識や意識等に関する現在の達成状況 (Q7) について、チーム型支援の実施状況 (Q2) のうち「子育てに関する専門機関へのつなぎ」を実施している学校 (つなぎ実施群) と実施していない学校 (つなぎ未実施群) を比較

【分析結果のポイント】

- いずれの項目においても、つなぎ実施有無による有意差は見られない

【分析の視点 e】

- チーム型支援による家庭への効果は、家庭教育支援チームへの助言をしている学校としていない学校とでは、どのような差があるか

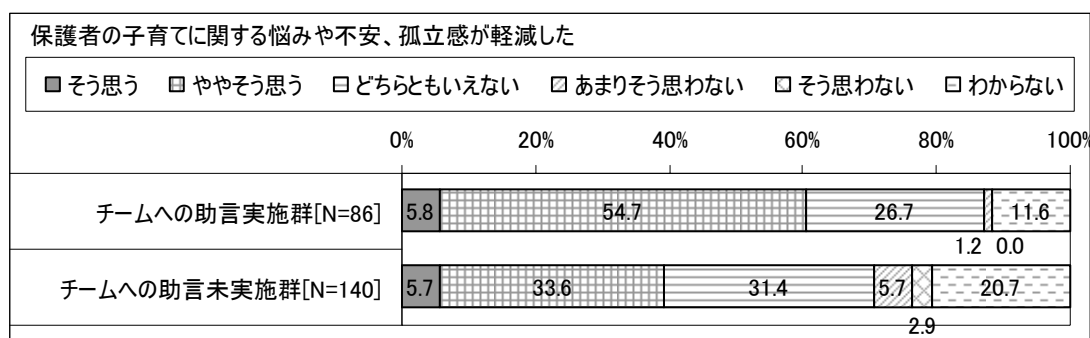
【分析の方法】

- チーム型支援による家庭への直接的な効果（Q8f-g）について、チーム型支援の実施状況（Q2）のうち「家庭教育支援チームへの助言」を実施している学校（チームへの助言実施群）と実施していない学校（チームへの助言未実施群）を比較

【分析結果のポイント】

- チームへの助言実施群は未実施群に比して、「保護者の子育てに関する悩みや不安、孤立感が軽減した」についての効果が有意に高い

図表 3-64 家庭教育支援チームへの助言実施有無 × 家庭への効果



【分析の視点 f】

- チーム型支援による家庭への効果は、チーム等での情報共有会議を開催している学校としていない学校とでは、どのような差があるか

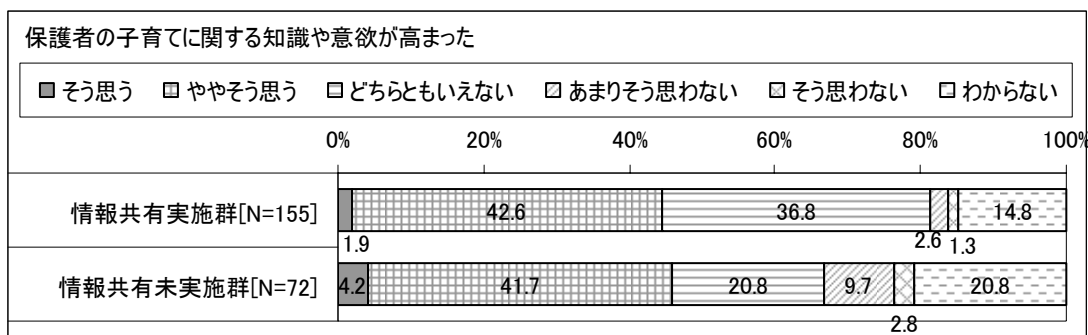
【分析の方法】

- チーム型支援による家庭への直接的な効果（Q8f-g）について、チーム型支援の実施状況（Q2）のうち「教職員やチームでの情報共有会議」を実施している学校（情報共有実施群）と実施していない学校（情報共有未実施群）を比較

【分析結果のポイント】

- 情報共有実施群は未実施群に比して、「保護者の子育てに関する知識や意欲が高まった」についての効果が有意に低い

図表 3-65 教職員やチームでの情報共有会議助言実施有無×家庭への効果



【分析の視点 g】

- チーム型支援による家庭への効果は、チーム員の戸別訪問へ同行している学校としていない学校とでは、どのような差があるか

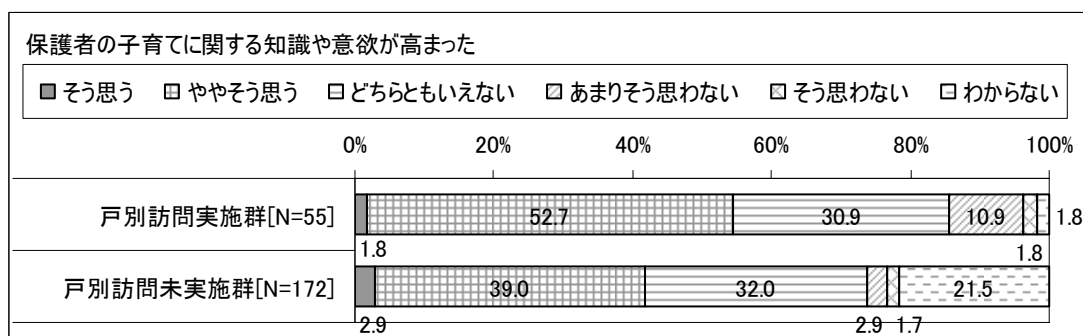
【分析の方法】

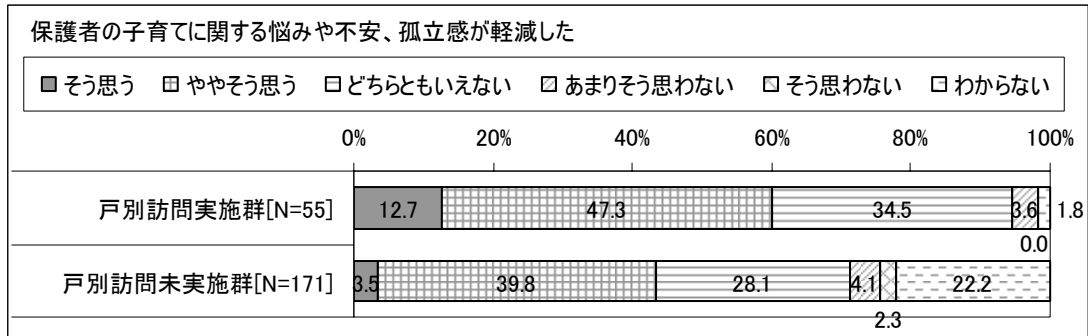
- チーム型支援による家庭への直接的な効果（Q8f-g）について、チーム型支援の実施状況（Q2）のうち「チーム員の戸別訪問への同行」を実施している学校（戸別訪問実施群）と実施していない学校（戸別訪問未実施群）を比較

【分析結果のポイント】

- 戸別訪問実施群は未実施群に比して、「保護者の子育てに関する知識や意欲が高まった」「保護者の子育てに関する悩みや不安、孤立感が軽減した」についての効果が有意に高い

図表 3-66 チーム員による戸別訪問実施有無×家庭への効果





【分析の視点 h

- チーム型支援による家庭への効果は、専門機関へのつながりを行っている学校と行っていない学校とでは、どのような差があるか

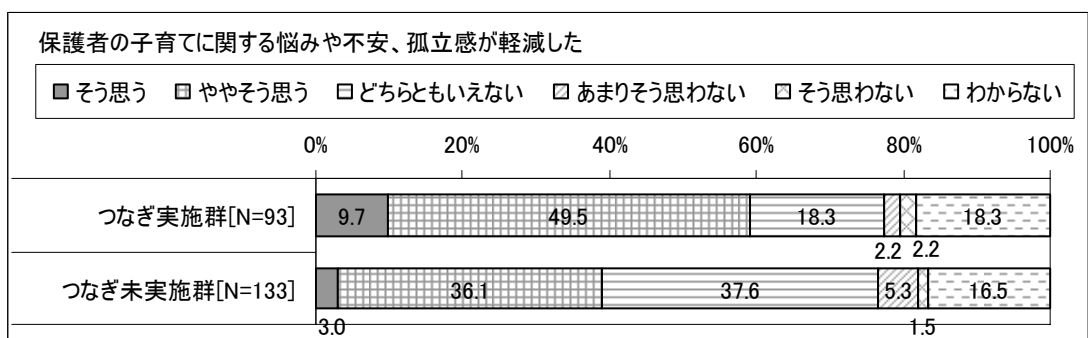
【分析の方法】

- チーム型支援による家庭への直接的な効果 (Q8f-g) について、チーム型支援の実施状況 (Q2) のうち「子育てに関する専門機関へのつながり」を実施している学校 (つながり実施群) と実施していない学校 (つながり未実施群) を比較

【分析結果のポイント】

- つながり実施群は未実施群に比して、「保護者の子育てに関する悩みや不安、孤立感が軽減した」についての効果が有意に高い

図表 3-67 専門機関へのつながり実施有無×家庭への効果



【分析の視点 i】

- チーム型支援による家庭への効果は、取組に係る協力・工夫の実施状況による差があるか

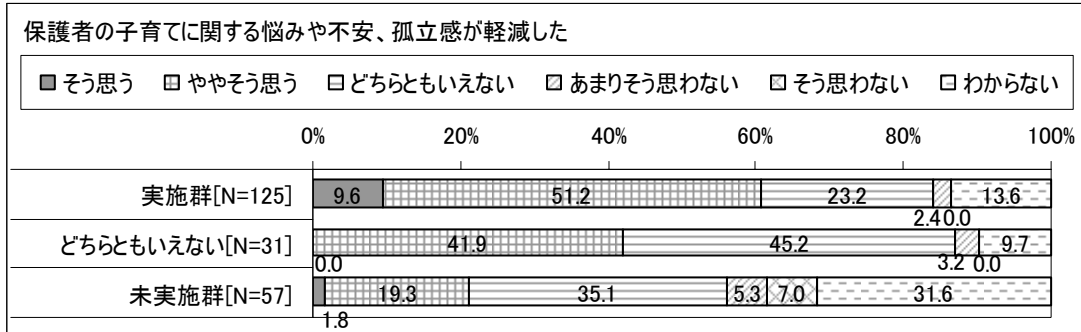
【分析の方法】

- チーム型支援による家庭への直接的な効果（Q8f-g）について、取組に係る協力・工夫の実施状況（Q4）の各項目を実施している学校（実施群）と実施していない学校（未実施群）を比較

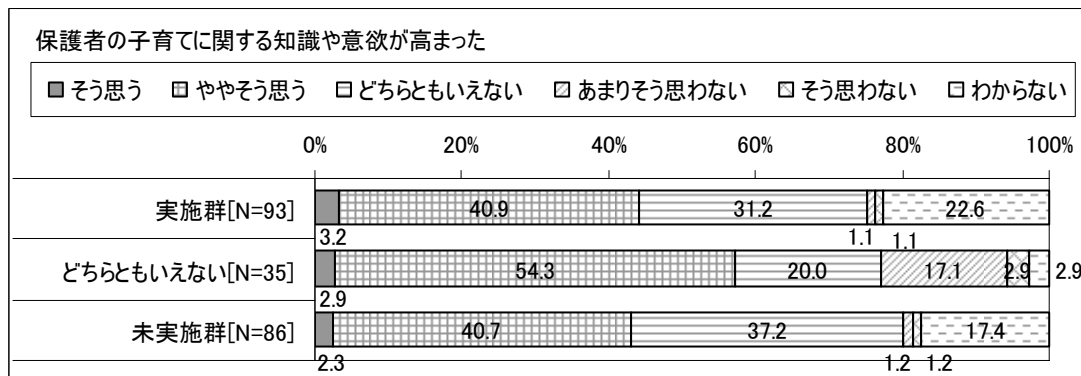
【分析結果のポイント】

- 「企画や実施にあたって、地域の支援人材と定期的に意見交換を行っている」実施群は未実施群に比して、「保護者の子育てに関する悩みや不安、孤立感が軽減した」についての効果が有意に高い
- 「企画や実施にあたって、地域の支援人材等に学校の空きスペース等の場所を提供している」実施群は未実施群に比して、「保護者の子育てに関する知識や意欲が高まった」についての効果が有意に高い

図表 3-68 「企画や実施にあたって、地域の支援人材と定期的に意見交換を行っている」実施有無×家庭への効果



図表 3-69 「企画や実施にあたって、地域の支援人材等に学校の空きスペース等の場所を提供している」実施有無×家庭への効果



2) 学校への効果

【分析の視点】

- a 保護者等との信頼関係について、家庭教育支援チームへの助言をしている学校としていない学校とでは、どのような差があるか
- b 保護者等との信頼関係について、チーム等での情報共有会議を開催している学校としていない学校とでは、どのような差があるか
- c 保護者等との信頼関係について、チーム員の戸別訪問へ同行している学校としていない学校とでは、どのような差があるか
- d 保護者等との信頼関係について、専門機関へのつなぎを行っている学校と行っていない学校とでは、どのような差があるか
- e チーム型支援による学校への効果は、家庭教育支援チームへの助言をしている学校としていない学校とでは、どのような差があるか
- f チーム型支援による学校への効果は、チーム等での情報共有会議を開催している学校としていない学校とでは、どのような差があるか
- g チーム型支援による学校への効果は、チーム員の戸別訪問へ同行している学校と同行していない学校とでは、どのような差があるか
- h チーム型支援による学校への効果は、専門機関へのつなぎを行っている学校と行っていない学校とでは、どのような差があるか
- i チーム型支援による学校への効果は、取組に係る協力・工夫の実施状況による差があるか

【分析の視点 a】

- 保護者等との信頼関係について、家庭教育支援チームへの助言をしている学校としていない学校とでは、どのような差があるか

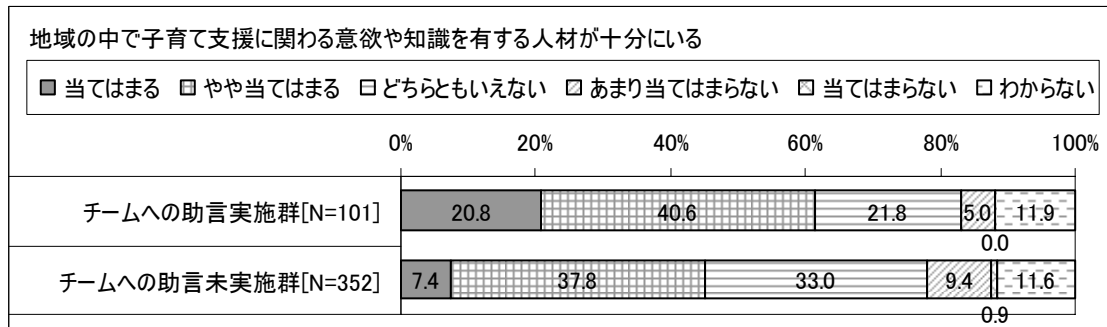
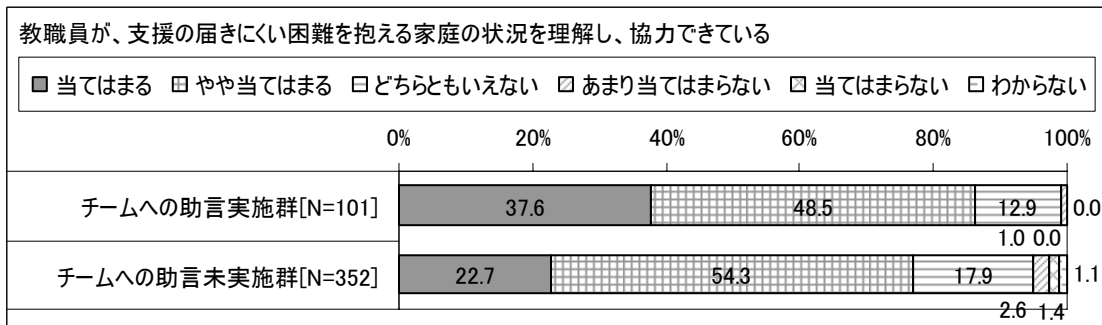
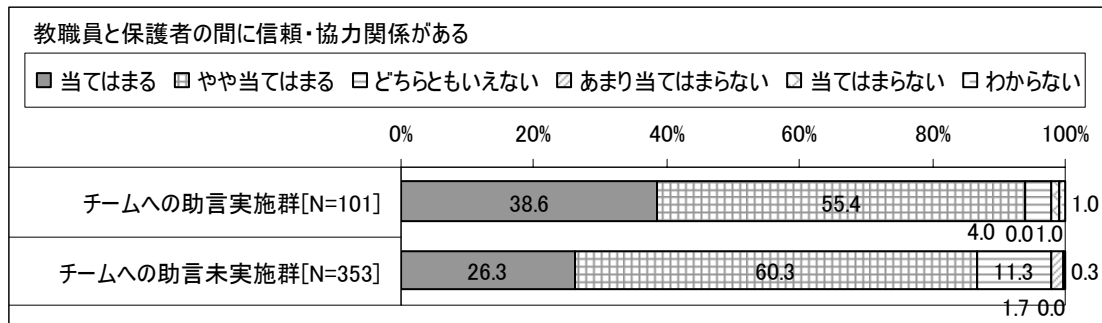
【分析の方法】

- 学校の保護者・地域住民との信頼・協力関係や負担等に関する現在の達成状況（Q5a-d）について、チーム型支援の実施状況（Q2）のうち「家庭教育支援チームへの助言」を実施している学校（チームへの助言実施群）と実施していない学校（チームへの助言未実施群）を比較

【分析結果のポイント】

- チームへの助言実施群は未実施群に比して、「教職員と保護者の間に信頼・協力関係がある」「教職員が、支援の届きにくい困難を抱える家庭の状況を理解し、協力できている」についての達成状況が有意に高い

図表 3-70 チームへの助言実施有無×学校の達成状況



【分析の視点 b】

- 保護者等との信頼関係について、チーム等での情報共有会議を開催している学校としていない学校とでは、どのような差があるか

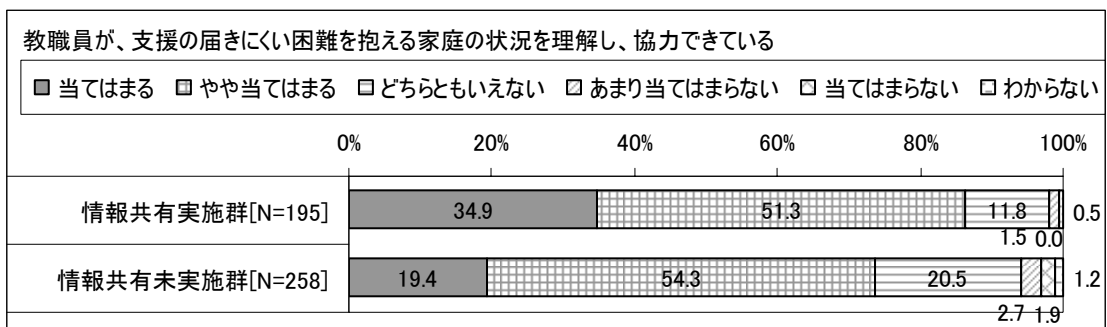
【分析の方法】

- 学校の保護者・地域住民との信頼・協力関係や負担等に関する現在の達成状況（Q5a-d）について、チーム型支援の実施状況（Q2）のうち「教職員やチームでの情報共有会議」を実施している学校（情報共有実施群）と実施していない学校（情報共有未実施群）を比較

【分析結果のポイント】

- 情報共有実施群は未実施群に比して、「教職員が、支援の届きにくい困難を抱える家庭の状況を理解し、協力できている」についての達成状況が有意に高い

図表 3-71 教職員やチームでの情報共有会議実施有無×学校の達成状況



【分析の視点 c】

- 保護者等との信頼関係について、チーム員の戸別訪問へ同行している学校としていない学校とでは、どのような差があるか

【分析の方法】

- 学校の保護者・地域住民との信頼・協力関係や負担等に関する現在の達成状況（Q5a-d）について、チーム型支援の実施状況（Q2）のうち「チーム員の戸別訪問への同行」を実施している学校（戸別訪問実施群）と実施していない学校（戸別訪問未実施群）を比較

【分析結果のポイント】

- いずれの項目においても、戸別訪問実施有無による有意差は見られない

【分析の視点 d】

- 保護者等との信頼関係について、専門機関へのつなぎを行っている学校と行っていない学校とでは、どのような差があるか

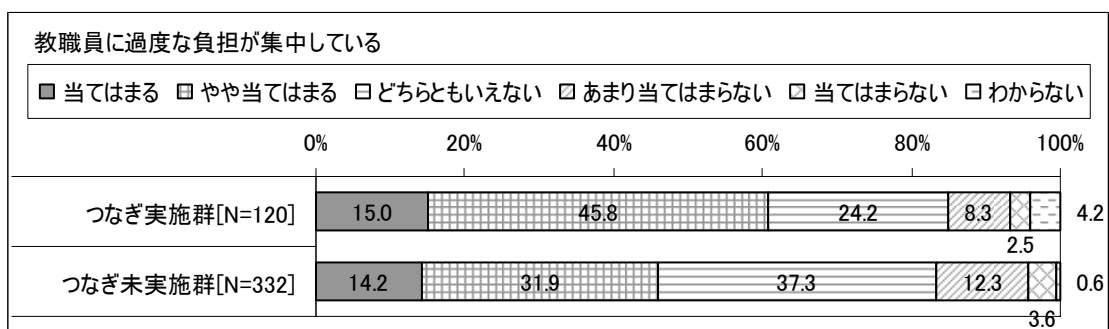
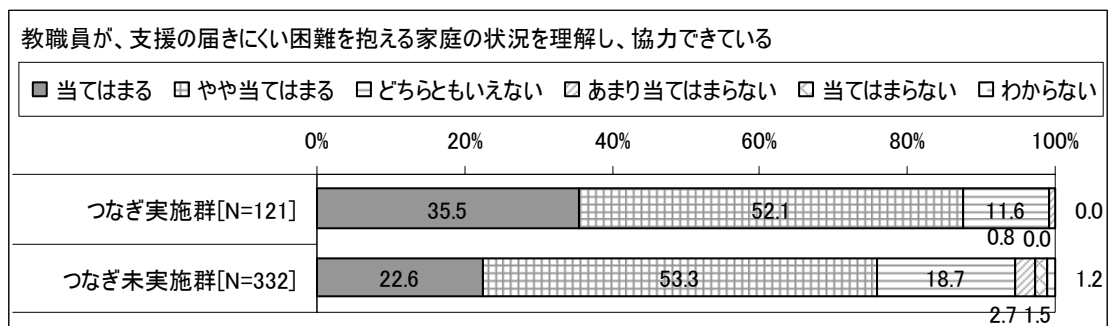
【分析の方法】

- 学校の保護者・地域住民との信頼・協力関係や負担等に関する現在の達成状況（Q5a-d）について、チーム型支援の実施状況（Q2）のうち「子育てに関する専門機関へのつなぎ」を実施している学校（つなぎ実施群）と実施していない学校（つなぎ未実施群）を比較

【分析結果のポイント】

- つなぎ実施群は未実施群に比して、「教職員が、支援の届きにくい困難を抱える家庭の状況を理解し、協力できている」についての効果が有意に高いが、「教職員に過度な負担が集中している」についての効果が有意に低い

図表 3-72 専門機関へのつなぎ実施有無×学校の達成状況



【分析の視点 e】

- チーム型支援による学校への効果は、家庭教育支援チームへの助言をしている学校としていない学校とでは、どのような差があるか

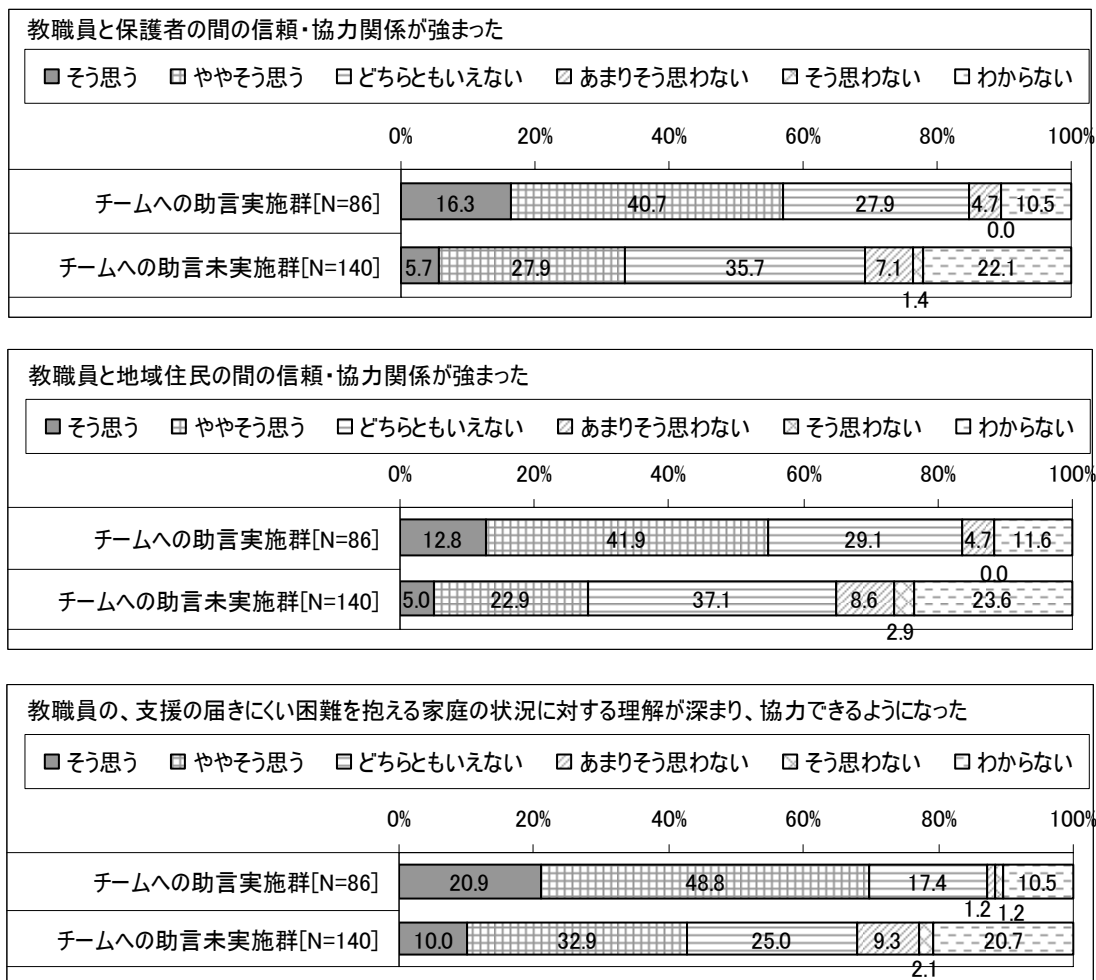
【分析の方法】

- チーム型支援による家庭への直接的な効果（Q8h-k）について、チーム型支援の実施状況（Q2）のうち「家庭教育支援チームへの助言」を実施している学校（チームへの助言実施群）と実施していない学校（チームへの助言未実施群）を比較

【分析結果のポイント】

- チームへの助言実施群は未実施群に比して、「教職員と保護者との信頼・協力関係が強まった」「教職員と地域住民との信頼・協力関係が強まった」「教職員の、支援の届きにくい困難を抱える家庭の状況に対する理解が深まり、協力できるようになった」についての効果が有意に高い

図表 3-73 家庭教育支援チームへの助言実施有無 × 学校への効果



【分析の視点 f】

- チーム型支援による学校への効果は、チーム等での情報共有会議を開催している学校としていない学校とでは、どのような差があるか

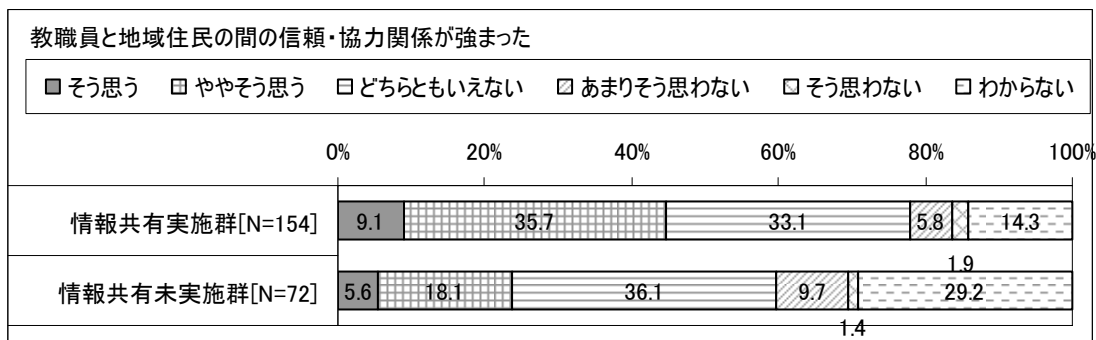
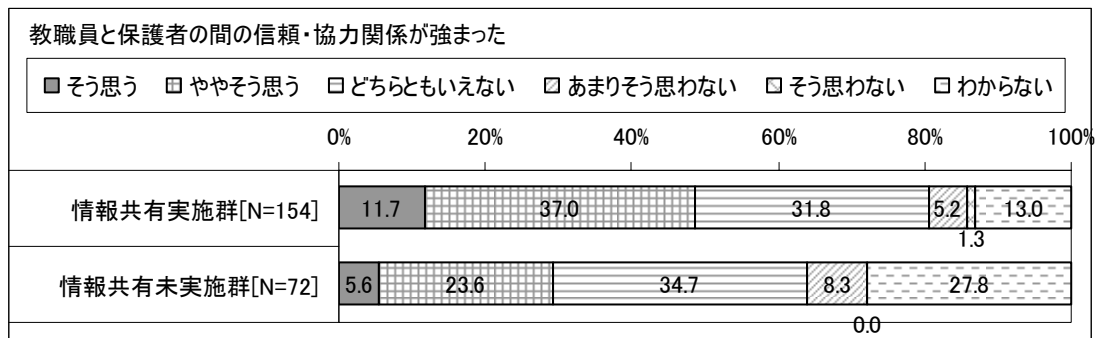
【分析の方法】

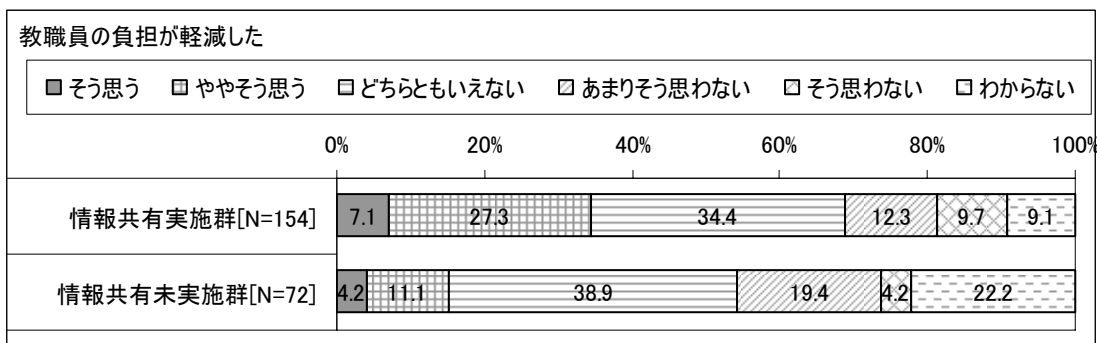
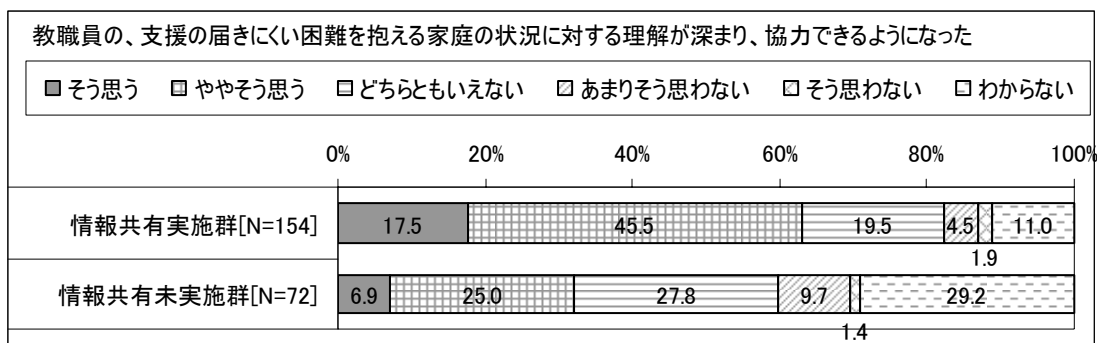
- チーム型支援による学校への直接的な効果（Q8h-k）について、チーム型支援の実施状況（Q2）のうち「教職員やチームでの情報共有会議」を実施している学校（情報共有実施群）と実施していない学校（情報共有未実施群）を比較

【分析結果のポイント】

- 情報共有実施群は未実施群に比して、「教職員と保護者との信頼・協力関係が強まった」「教職員と地域住民との信頼・協力関係が強まった」「教職員の、支援の届きにくい困難を抱える家庭の状況に対する理解が深まり、協力できるようになった」「教職員の負担が軽減した」についての効果が有意に高い

図表 3-74 教職員やチームでの情報共有会議助言実施有無×学校への効果





【分析の視点 g】

- チーム型支援による学校への効果は、チーム員の戸別訪問へ同行している学校と同行していない学校とでは、どのような差があるか

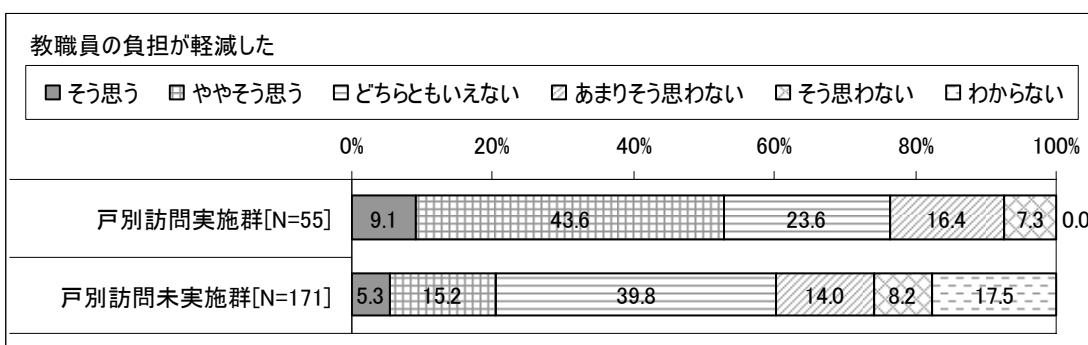
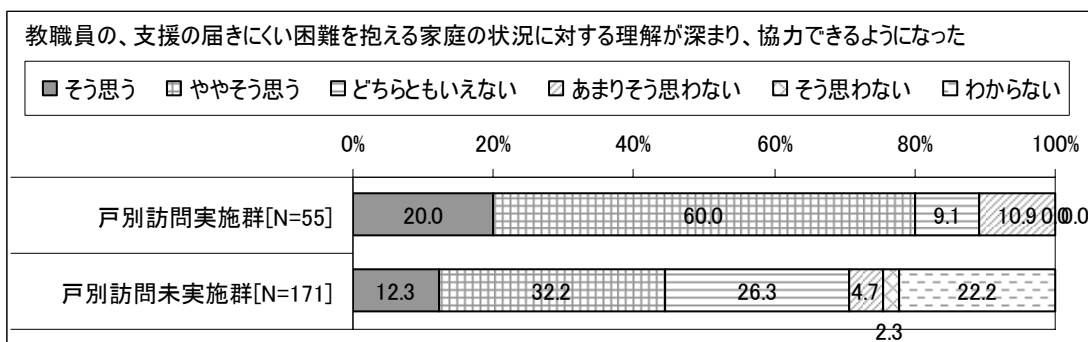
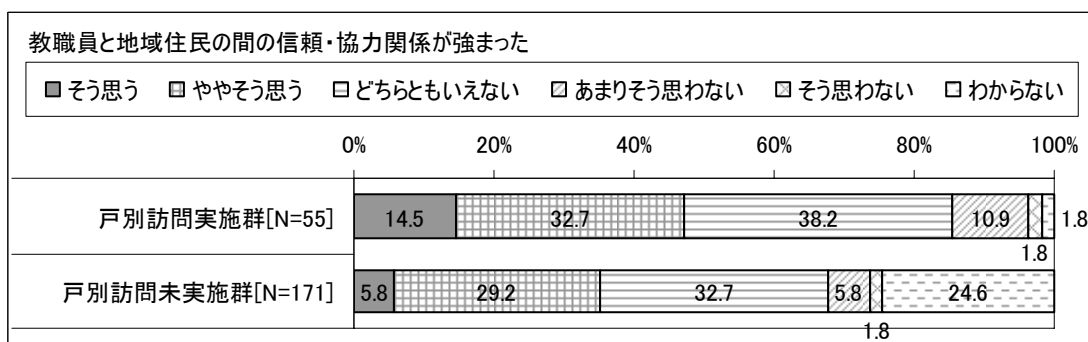
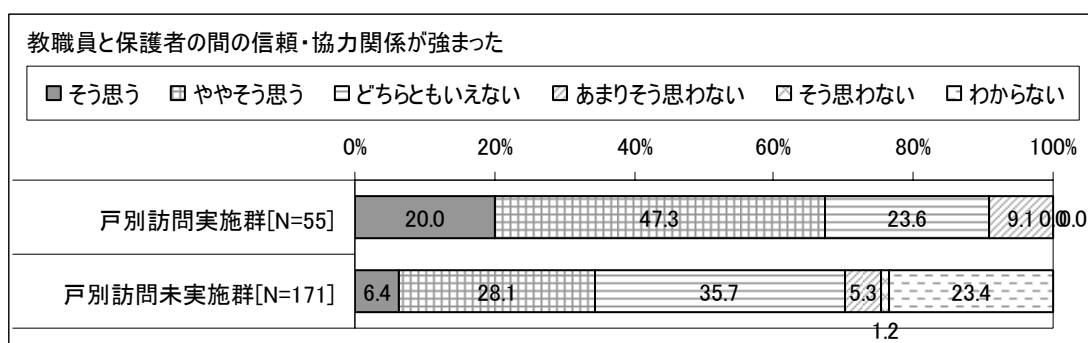
【分析の方法】

- チーム型支援による学校への直接的な効果（Q8h-k）について、チーム型支援の実施状況（Q2）のうち「チーム員の戸別訪問への同行」を実施している学校（戸別訪問実施群）と実施していない学校（戸別訪問未実施群）を比較

【分析結果のポイント】

- 戸別訪問実施群は未実施群に比して、「教職員と保護者との信頼・協力関係が強まった」「教職員と地域住民との信頼・協力関係が強まった」「教職員の、支援の届きにくい困難を抱える家庭の状況に対する理解が深まり、協力できるようになった」「教職員の負担が軽減した」についての効果が有意に高い

図表 3-75 チーム員による戸別訪問実施有無×学校への効果



【分析の視点 h】

- チーム型支援による学校への効果は、専門機関へのつなぎを行っている学校と行っていない学校とでは、どのような差があるか

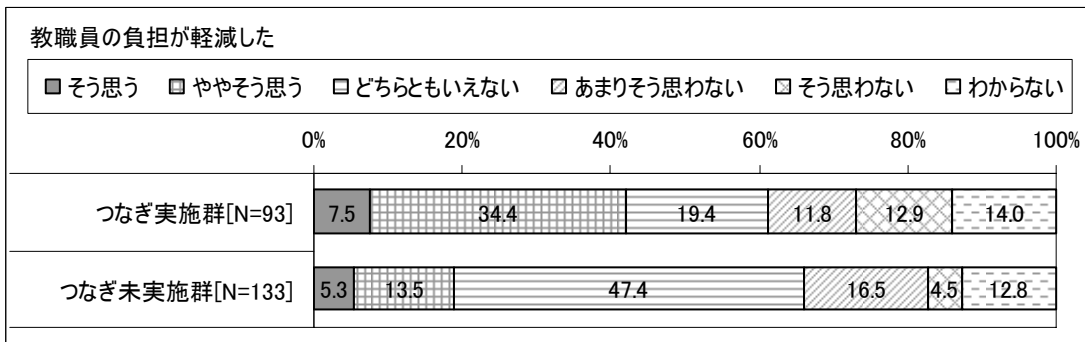
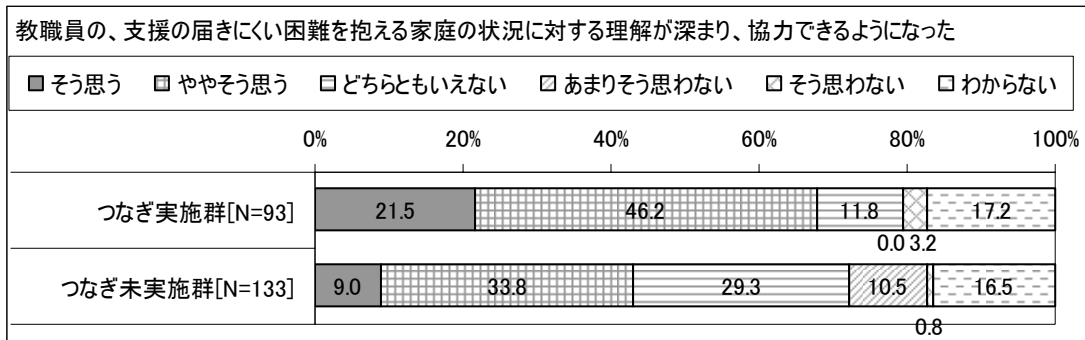
【分析の方法】

- チーム型支援による学校への直接的な効果（Q8h-k）について、チーム型支援の実施状況（Q2）のうち「子育てに関する専門機関へのつなぎ」を実施している学校（つなぎ実施群）と実施していない学校（つなぎ未実施群）を比較

【分析結果のポイント】

- つなぎ実施群は未実施群に比して、「教職員の、支援の届きにくい困難を抱える家庭の状況に対する理解が深まり、協力できるようになった」「教職員の負担が軽減した」についての効果が有意に高い

図表 3-76 専門機関へのつなぎ実施有無×学校への効果



【分析の視点 i】

- チーム型支援による学校への効果は、取組に係る協力・工夫の実施状況による差があるか

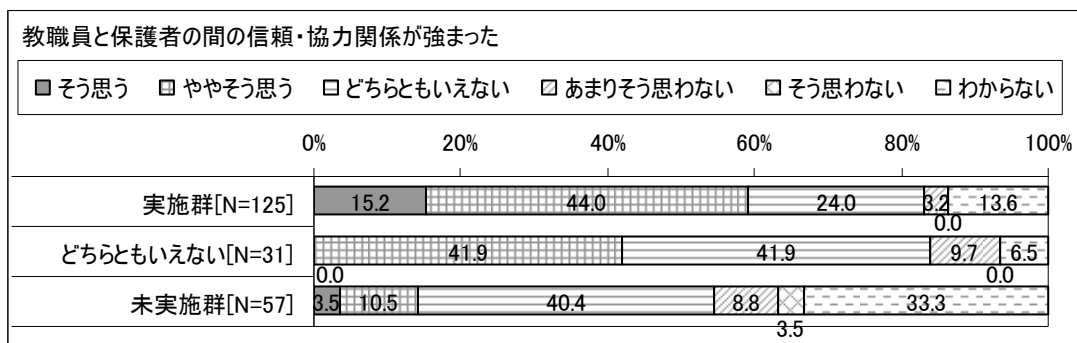
【分析の方法】

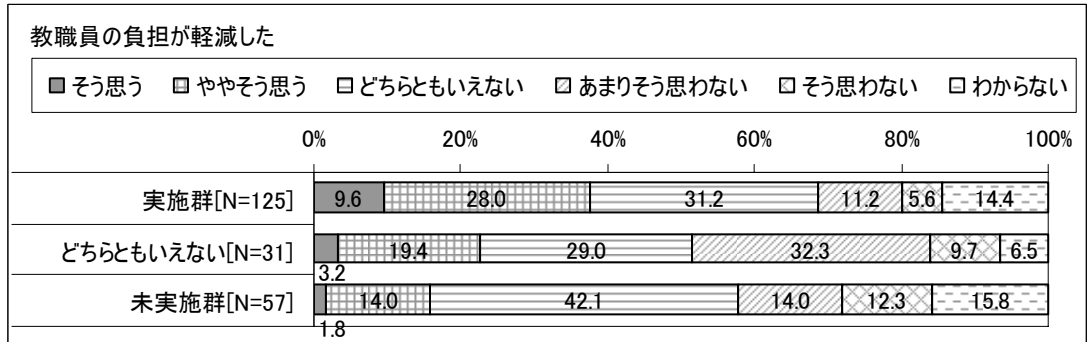
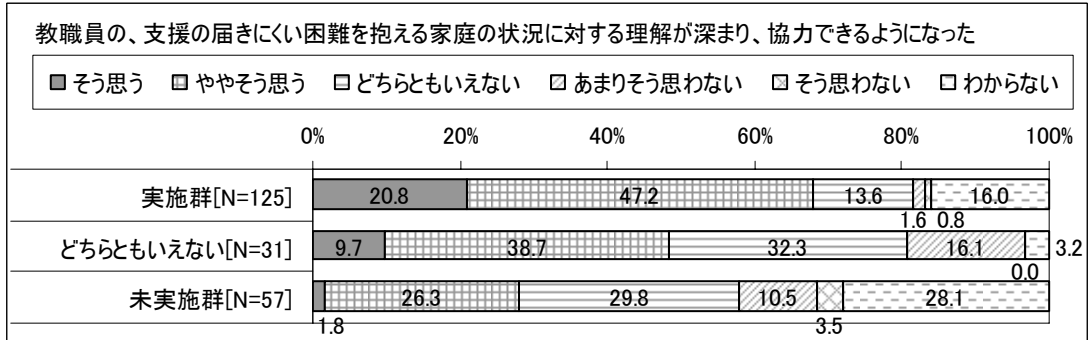
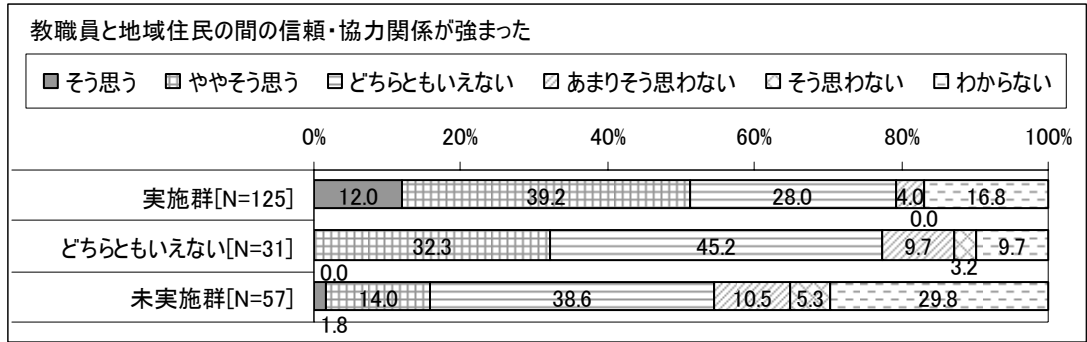
- チーム型支援による学校への直接的な効果（Q8h-k）について、取組に係る協力・工夫の実施状況（Q4）の各項目を実施している学校（実施群）と実施していない学校（未実施群）を比較

【分析結果のポイント】

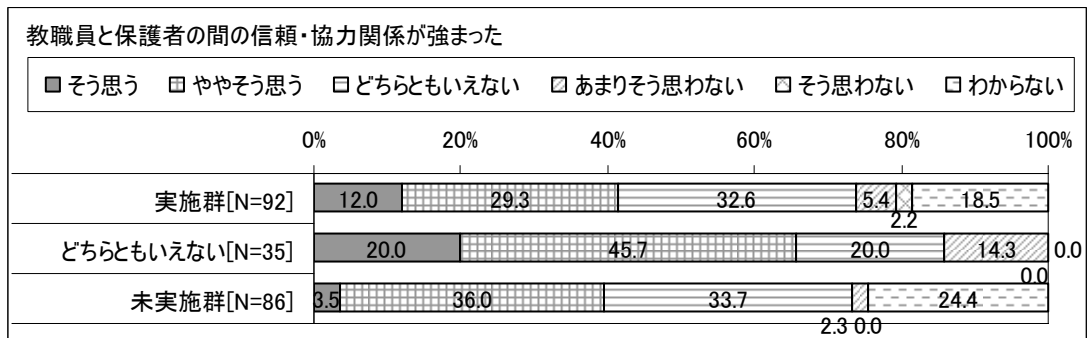
- 「企画や実施にあたって、地域の支援人材と定期的に意見交換を行っている」実施群は未実施群に比して、「教職員と保護者の間の信頼・協力関係が強まった」「教職員と地域住民の間の信頼・協力関係が強まった」「教職員の、支援の届きにくい困難を抱える家庭の状況に対する理解が深まり、協力できるようになった」「教職員の負担が軽減した」についての効果が有意に高い
- 「企画や実施にあたって、地域の支援人材等に学校の空きスペース等の場所を提供している」実施群は未実施群に比して、「教職員と保護者の間の信頼・協力関係が強まった」「教職員と地域住民の間の信頼・協力関係が強まった」についての効果が有意に高いが、「教職員の、支援の届きにくい困難を抱える家庭の状況に対する理解が深まり、協力できるようになった」「教職員の負担が軽減した」についての効果が有意に低い

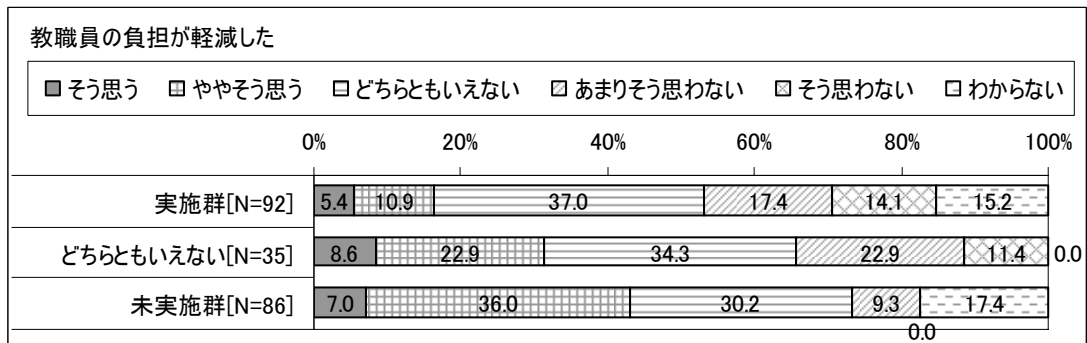
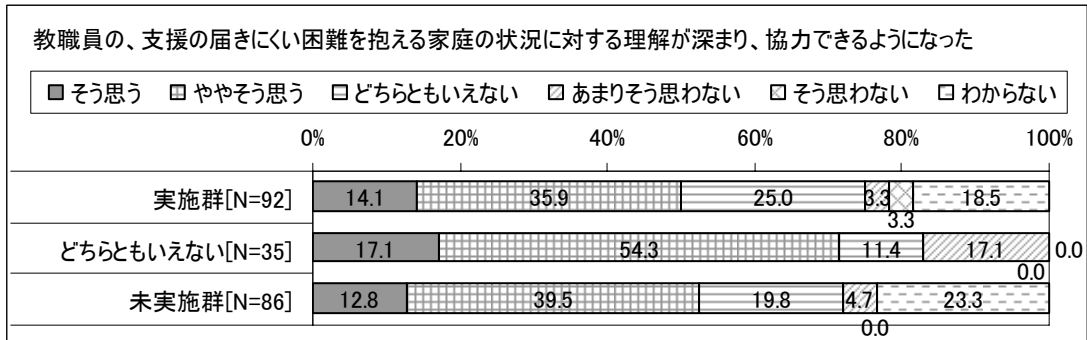
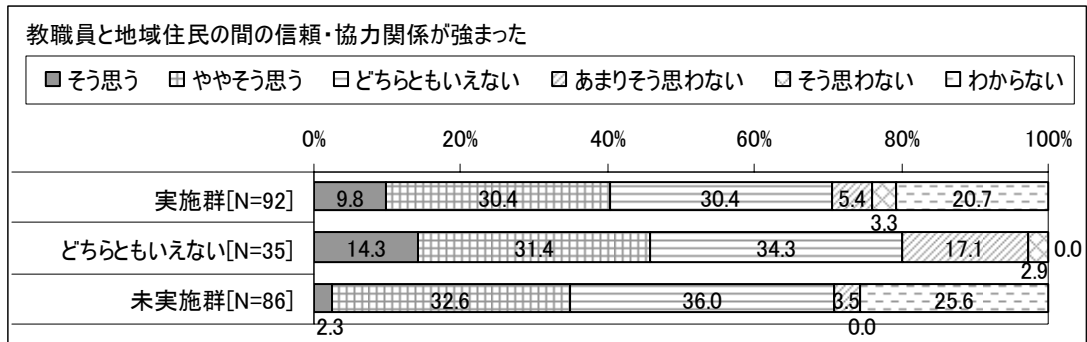
図表 3-77 「企画や実施にあたって、地域の支援人材と定期的に意見交換を行っている」実施有無×学校への効果





図表 3-78 「企画や実施にあたって、地域の支援人材等に学校の空きスペース等の場所を提供している」
実施有無×学校への効果





3) 地域への効果

【分析の視点】

- a 地域の子育てに対する意識等について、家庭教育支援チームへの助言をしている学校としていない学校とでは、どのような差があるか
- b 地域の子育てに対する意識等について、チーム等での情報共有会議を開催している学校としていない学校とでは、どのような差があるか
- c 地域の子育てに対する意識等について、チーム員の戸別訪問へ同行している学校としていない学校とでは、どのような差があるか
- d 地域の子育てに対する意識等について、専門機関へのつなぎを行っている学校と行っていない学校とでは、どのような差があるか
- e チーム型支援による地域への効果は、家庭教育支援チームへの助言をしている学校としていない学校とでは、どのような差があるか
- f チーム型支援による地域への効果は、チーム等での情報共有会議を開催している学校としていない学校とでは、どのような差があるか
- g チーム型支援による地域への効果は、チーム員の戸別訪問へ同行している学校としていない学校とでは、どのような差があるか
- h チーム型支援による地域への効果は、専門機関へのつなぎを行っている学校と行っていない学校とでは、どのような差があるか
- i チーム型支援による地域への効果は、取組に係る協力・工夫の実施状況による差があるか

【分析の視点 a】

- 地域の子育てに対する意識等について、家庭教育支援チームへの助言をしている学校としていない学校とでは、どのような差があるか

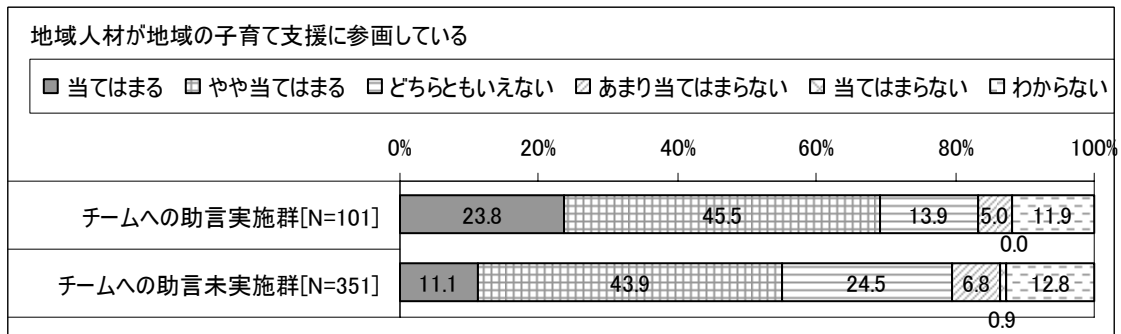
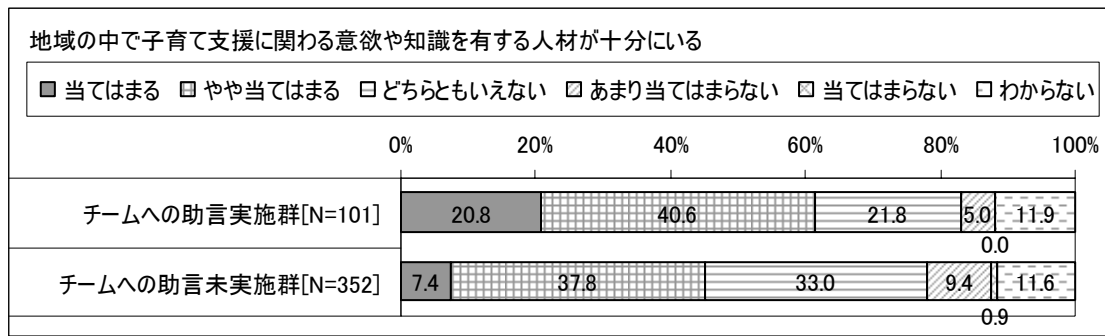
【分析の方法】

- 地域の子育てに対する意識や参画等に関する現在の達成状況（Q5e-g）について、チーム型支援の実施状況（Q2）のうち「家庭教育支援チームへの助言」を実施している学校（チームへの助言実施群）と実施していない学校（チームへの助言未実施群）を比較

【分析結果のポイント】

- チームへの助言実施群は未実施群に比して、「地域の中で子育て支援に関わる意欲や知識を有する人材が十分にいる」「地域人材が地域の子育て支援に参画している」についての達成状況が有意に高い

図表 3-79 チームへの助言実施有無×地域の達成状況



【分析の視点 b】

- 地域の子育てに対する意識等について、チーム等での情報共有会議を開催している学校としていない学校とでは、どのような差があるか

【分析の方法】

- 地域の子育てに対する意識や参画等に関する現在の達成状況（Q5e-g）について、チーム型支援の実施状況（Q2）のうち「教職員やチームでの情報共有会議」を実施している学校（情報共有実施群）と実施していない学校（情報共有未実施群）を比較

【分析結果のポイント】

- いずれの項目においても、情報共有実施有無による有意差は見られない

【分析の視点 c】

- 地域の子育てに対する意識等について、チーム員の戸別訪問へ同行している学校としていない学校とでは、どのような差があるか

【分析の方法】

- 地域の子育てに対する意識や参画等に関する現在の達成状況（Q5e-g）について、チーム型支援の実施状況（Q2）のうち「チーム員の戸別訪問への同行」を実施している学校（戸別訪問実施群）と実施していない学校（戸別訪問未実施群）を比較

【分析結果のポイント】

- いずれの項目においても、戸別訪問実施有無による有意差は見られない

【分析の視点 d】

- 地域の子育てに対する意識等について、専門機関へのつなぎを行っている学校と行っていない学校とでは、どのような差があるか

【分析の方法】

- 地域の子育てに対する意識や参画等に関する現在の達成状況（Q5e-g）について、チーム型支援の実施状況（Q2）のうち「子育てに関する専門機関へのつなぎ」を実施している学校（つなぎ実施群）と実施していない学校（つなぎ未実施群）を比較

【分析結果のポイント】

- いずれの項目においても、つなぎ実施有無による有意差は見られない

【分析の視点 e】

- チーム型支援による地域への効果は、家庭教育支援チームへの助言をしている学校としていない学校とでは、どのような差があるか

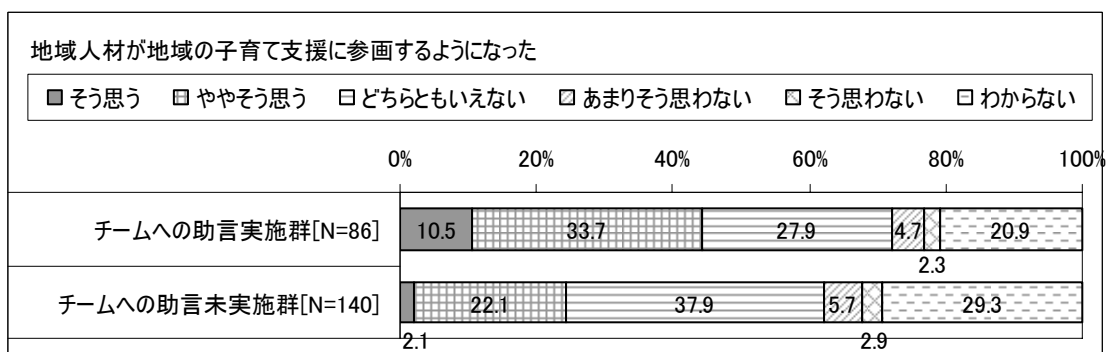
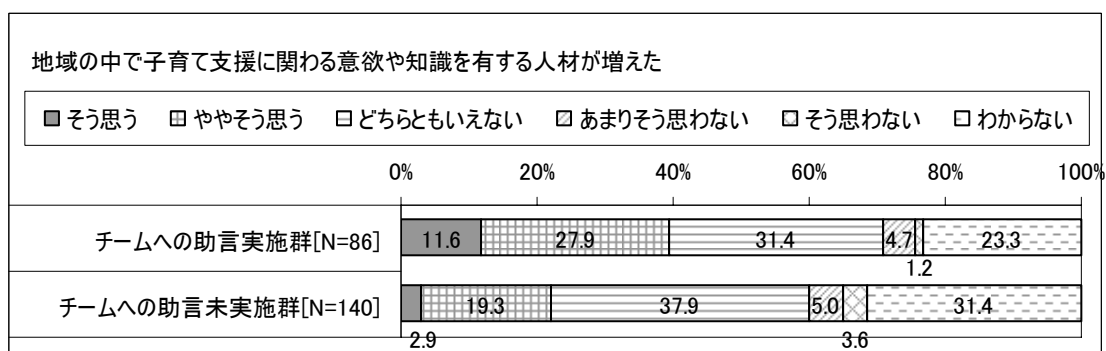
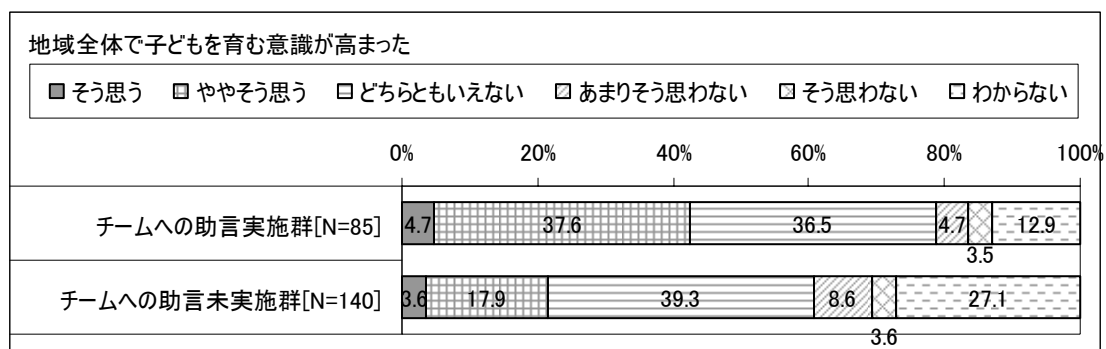
【分析の方法】

- チーム型支援による地域への直接的な効果（Q8 1-n）について、チーム型支援の実施状況（Q2）のうち「家庭教育支援チームへの助言」を実施している学校（チームへの助言実施群）と実施していない学校（チームへの助言未実施群）を比較

【分析結果のポイント】

- チームへの助言実施群は未実施群に比して、「地域全体で子どもを育む意識が高まった」「地域の中で子育て支援に関わる意欲や知識を有する人材が増えた」「地域人材が地域の子育て支援に参画するようになった」についての効果が有意に高い

図表 3-80 家庭教育支援チームへの助言実施有無×地域への効果



【分析の視点 f】

- チーム型支援による地域への効果は、チーム等での情報共有会議を開催している学校としていない学校とでは、どのような差があるか

【分析の方法】

- チーム型支援による地域への直接的な効果 (Q8 1-n) について、チーム型支援の実施状況 (Q2) のうち「教職員やチームでの情報共有会議」を実施している学校 (情報共有実施群) と実施していない学校 (情報共有未実施群) を比較

【分析結果のポイント】

- いずれの項目においても、情報共有実施有無による有意差は見られない

【分析の視点 g】

- チーム型支援による地域への効果は、チーム員の戸別訪問へ同行している学校としていない学校とでは、どのような差があるか

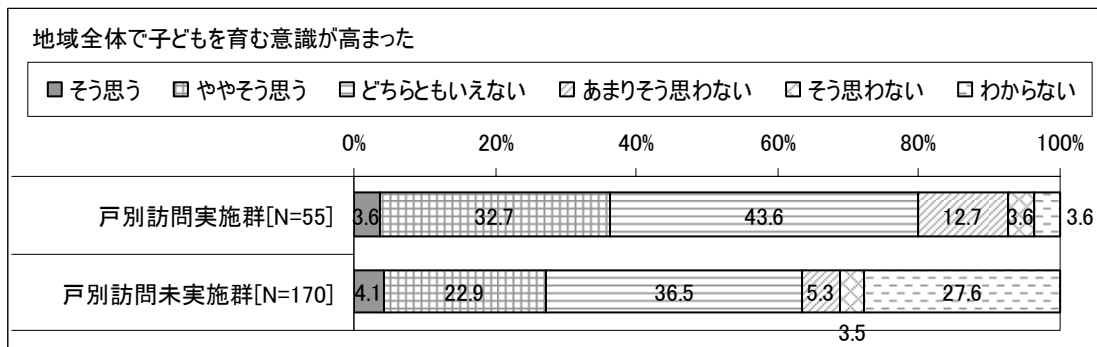
【分析の方法】

- チーム型支援による地域への直接的な効果（Q81-n）について、チーム型支援の実施状況（Q2）のうち「チーム員の戸別訪問への同行」を実施している学校（戸別訪問実施群）と実施していない学校（戸別訪問未実施群）を比較

【分析結果のポイント】

- 戸別訪問実施群は未実施群に比して、「地域全体で子どもを育む意識が高まった」についての効果が有意に高い

図表 3-81 チーム員による戸別訪問実施有無×地域への効果



【分析の視点 h】

- チーム型支援による地域への効果は、専門機関へのつながりを行っている学校と行っていない学校とでは、どのような差があるか

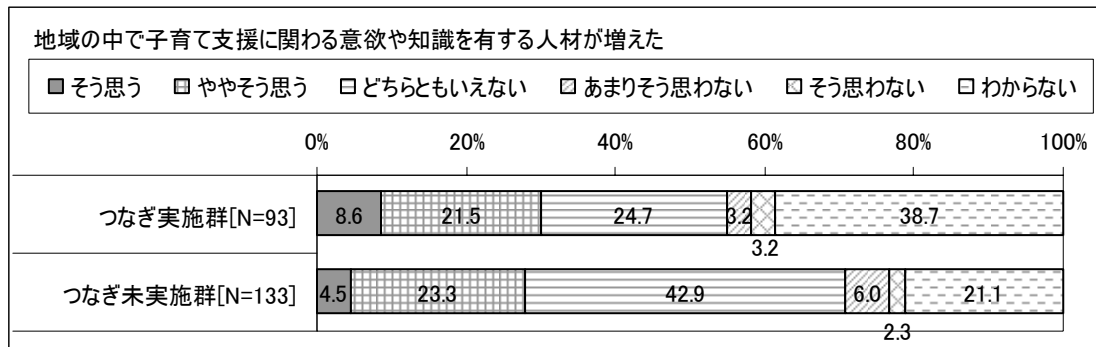
【分析の方法】

- チーム型支援による地域への直接的な効果（Q81-n）について、チーム型支援の実施状況（Q2）のうち「子育てに関する専門機関へのつながり」を実施している学校（つながり実施群）と実施していない学校（つながり未実施群）を比較

【分析結果のポイント】

- つながり実施群は未実施群に比して、「地域の中で子育て支援に関わる意欲や知識を有する人材が増えた」についての効果が有意に高い

図表 3-82 専門機関へのつなぎ実施有無×地域への効果



【分析の視点 i】

- チーム型支援による地域への効果は、取組に係る協力・工夫の実施状況による差があるか

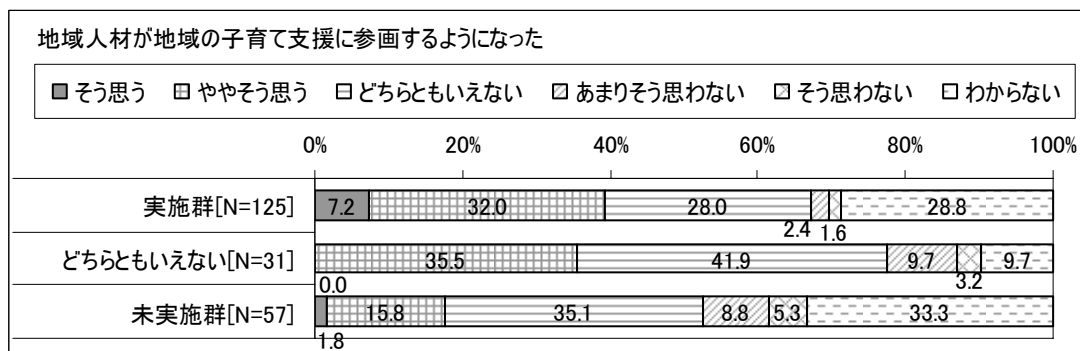
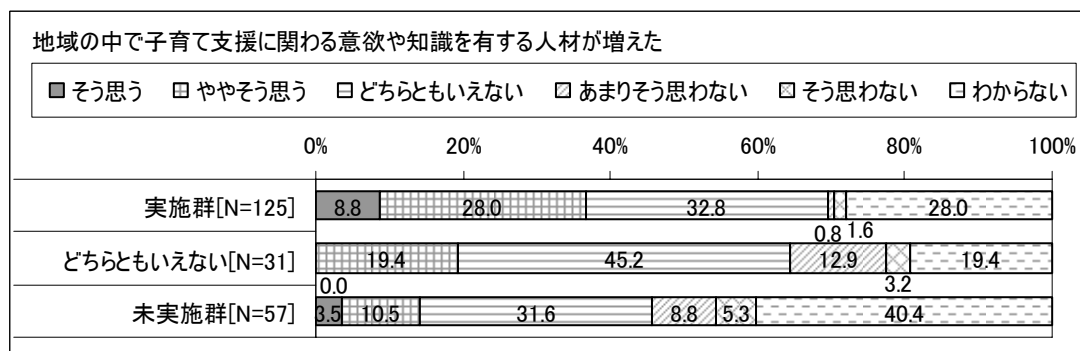
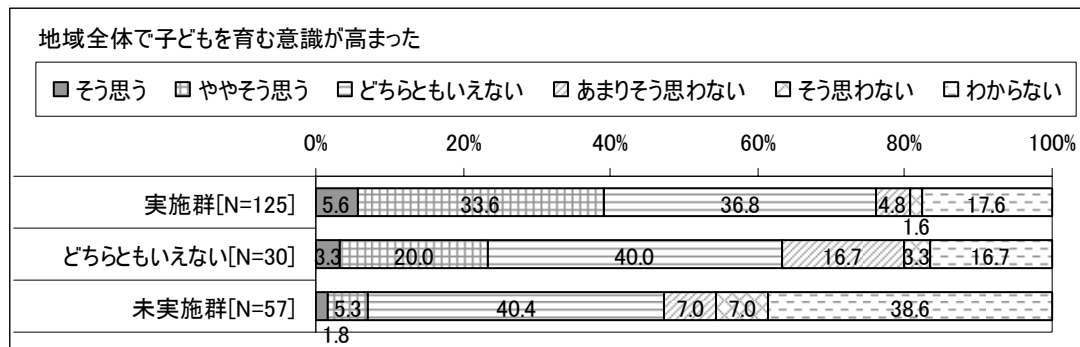
【分析の方法】

- チーム型支援による地域への直接的な効果（Q81-n）について、取組に係る協力・工夫の実施状況（Q4）の各項目を実施している学校（実施群）と実施していない学校（未実施群）を比較

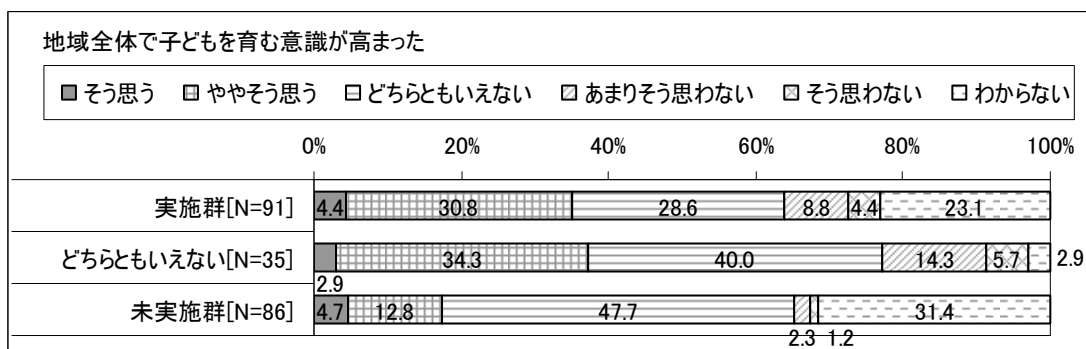
【分析結果のポイント】

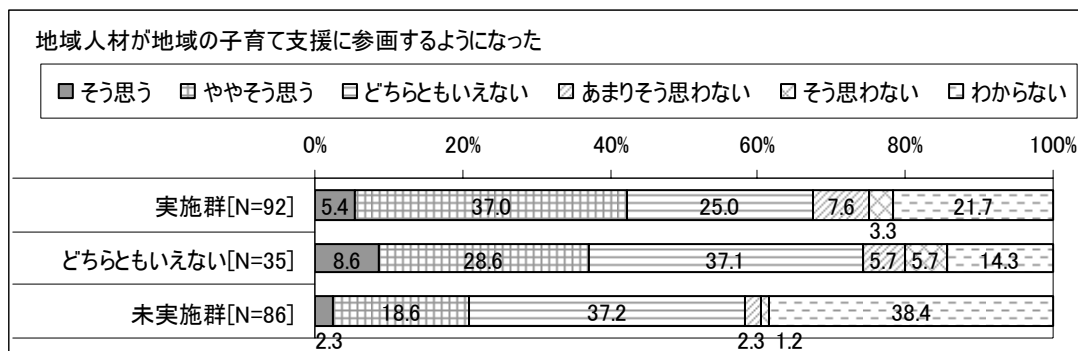
- 「企画や実施にあたって、地域の支援人材と定期的に意見交換を行っている」実施群は未実施群に比して、「地域全体で子どもを育む意識が高まった」「地域の中で子育て支援に関わる意欲や知識を有する人材が増えた」「地域人材が地域の子育て支援に参画するようになった」についての効果が有意に高い
- 「企画や実施にあたって、地域の支援人材等に学校の空きスペース等の場所を提供している」実施群は未実施群に比して、「地域全体で子どもを育む意識が高まった」「地域人材が地域の子育て支援に参画するようになった」についての効果が有意に高い

図表 3-83 「企画や実施にあたって、地域の支援人材と定期的に意見交換を行っている」実施有無×地域への効果



図表 3-84 「企画や実施にあたって、地域の支援人材等に学校の空きスペース等の場所を提供している」実施有無×地域への効果





4) 子どもへの効果

【分析の視点】

- 子どもの生活習慣等について、家庭教育支援チームへの助言をしている学校としていない学校とでは、どのような差があるか
- 子どもの生活習慣等について、チーム等での情報共有会議を開催している学校としていない学校とでは、どのような差があるか
- 子どもの生活習慣等について、チーム員の戸別訪問へ同行している学校としていない学校とでは、どのような差があるか
- 子どもの生活習慣等について、専門機関へのつなぎを行っている学校と行っていない学校とでは、どのような差があるか
- チーム型支援による子どもへの効果は、家庭教育支援チームへの助言をしている学校としていない学校とでは、どのような差があるか
- チーム型支援による子どもへの効果は、チーム等での情報共有会議を開催している学校としていない学校とでは、どのような差があるか
- チーム型支援による子どもへの効果は、チーム員の戸別訪問へ同行している学校としていない学校とでは、どのような差があるか
- チーム型支援による子どもへの効果は、専門機関へのつなぎを行っている学校と行っていない学校とでは、どのような差があるか
- チーム型支援による子どもへの効果は、取組に係る協力・工夫の実施状況による差があるか

【分析の視点 a】

- 子どもの生活習慣等について、家庭教育支援チームへの助言をしている学校としていない学校とでは、どのような差があるか

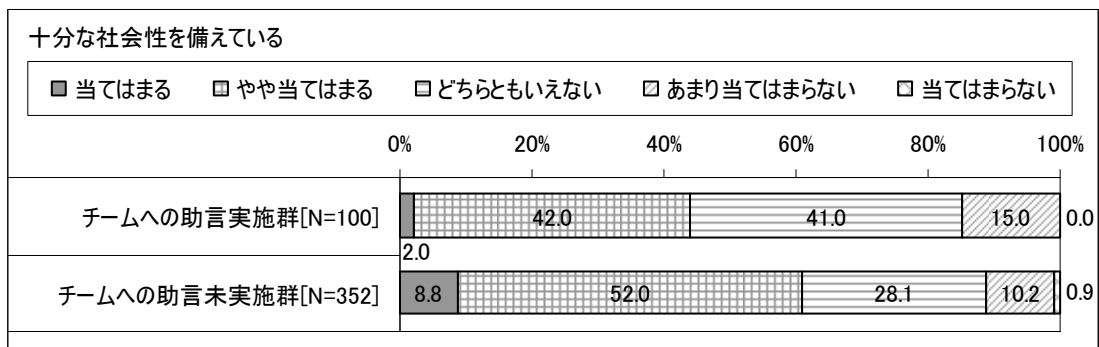
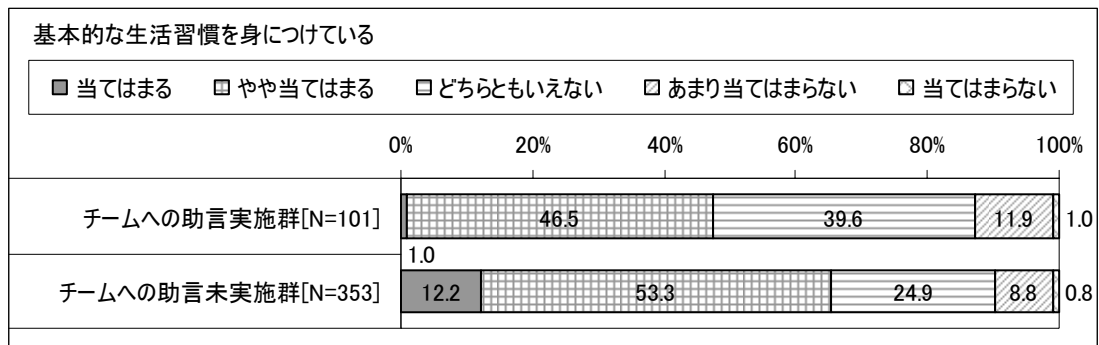
【分析の方法】

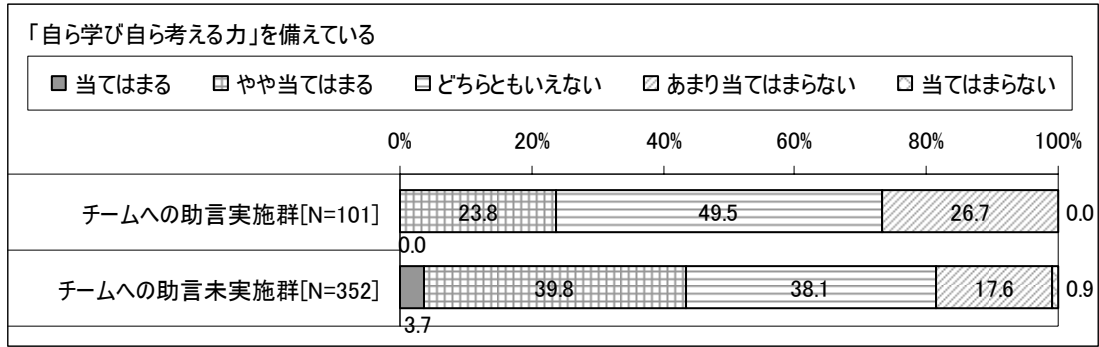
- 子どもの生活習慣や能力等に関する現在の達成状況 (Q6) について、チーム型支援の実施状況 (Q2) のうち「家庭教育支援チームへの助言」を実施している学校 (チームへの助言実施群) と実施していない学校 (チームへの助言未実施群) を比較

【分析結果のポイント】

- チームへの助言実施群は未実施群に比して、「基本的な生活習慣を身につけている」「十分な社会性を備えている」「自ら学び自ら考える力」を備えている」についての達成状況が有意に低い

図表 3-85 チームへの助言実施有無×子どもの達成状況





【分析の視点 b】

- 子どもの生活習慣等について、チーム等での情報共有会議を開催している学校としていない学校とでは、どのような差があるか

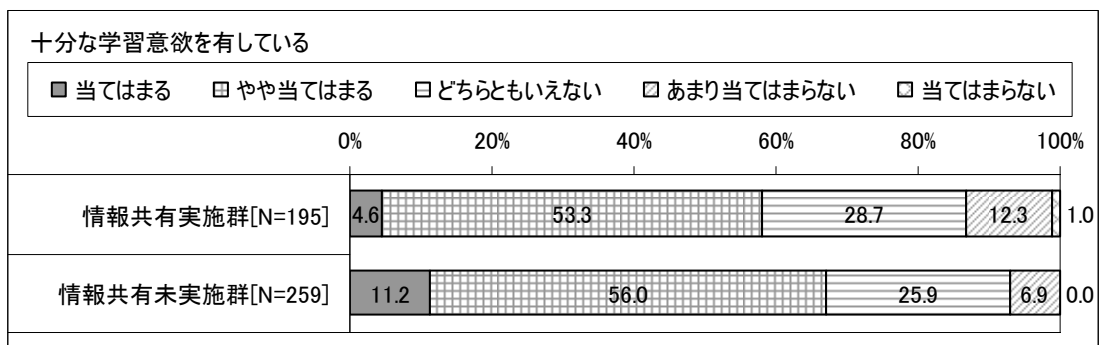
【分析の方法】

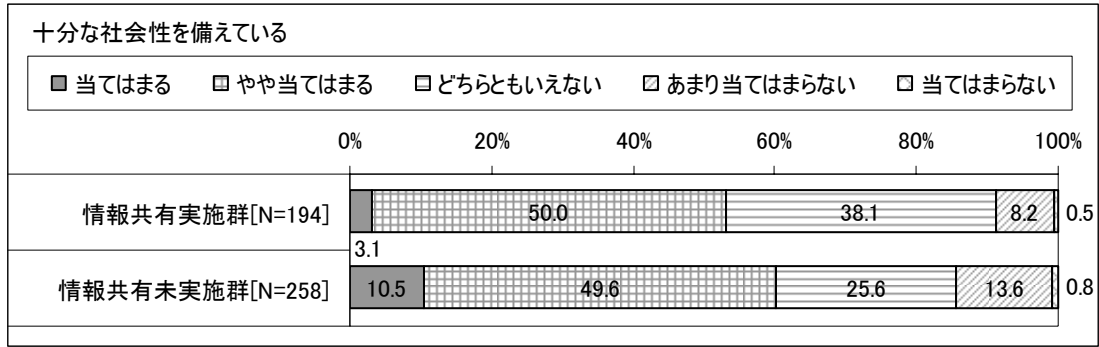
- 子どもの生活習慣や能力等に関する現在の達成状況 (Q6) について、チーム型支援の実施状況 (Q2) のうち「教職員やチームでの情報共有会議」を実施している学校 (情報共有実施群) と実施していない学校 (情報共有未実施群) を比較

【分析結果のポイント】

- 情報共有実施群は未実施群に比して、「十分な学習意欲を有している」「十分な社会性を備えている」についての達成状況が有意に低い
- その他の項目については、情報共有実施有無による有意差は見られない

図表 3-86 教職員やチームでの情報共有会議実施有無 × 子どもの達成状況





【分析の視点 c】

- 子どもの生活習慣等について、チーム員の戸別訪問へ同行している学校としていない学校とでは、どのような差があるか

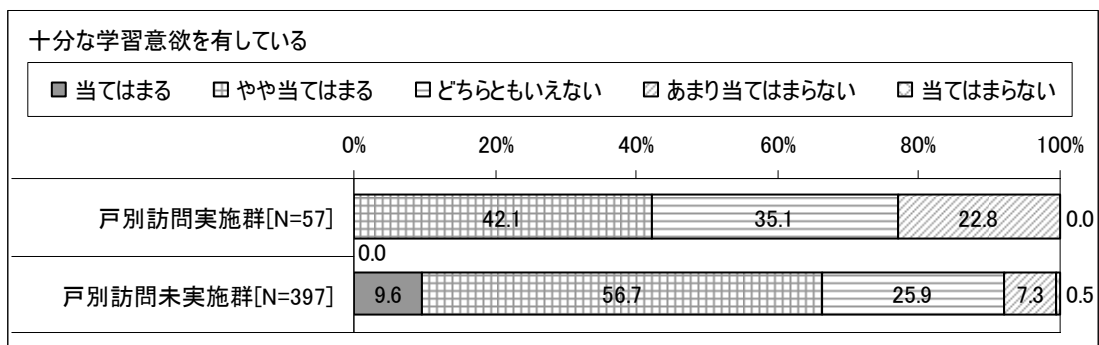
【分析の方法】

- 子どもの生活習慣や能力等に関する現在の達成状況 (Q6) について、チーム型支援の実施状況 (Q2) のうち「チーム員の戸別訪問への同行」を実施している学校 (戸別訪問実施群) と実施していない学校 (戸別訪問未実施群) を比較

【分析結果のポイント】

- 戸別訪問実施群は未実施群に比して、「十分な学習意欲を有している」についての効果 (「当てはまる」「やや当てはまる」の合計回答割合) が有意に低い
- その他の項目については、戸別訪問実施有無による有意差は見られない

図表 3-87 チーム員による戸別訪問実施有無×子どもの達成状況



【分析の視点 d】

- 子どもの生活習慣等について、専門機関へのつなぎを行っている学校と行っていない学校とでは、どのような差があるか

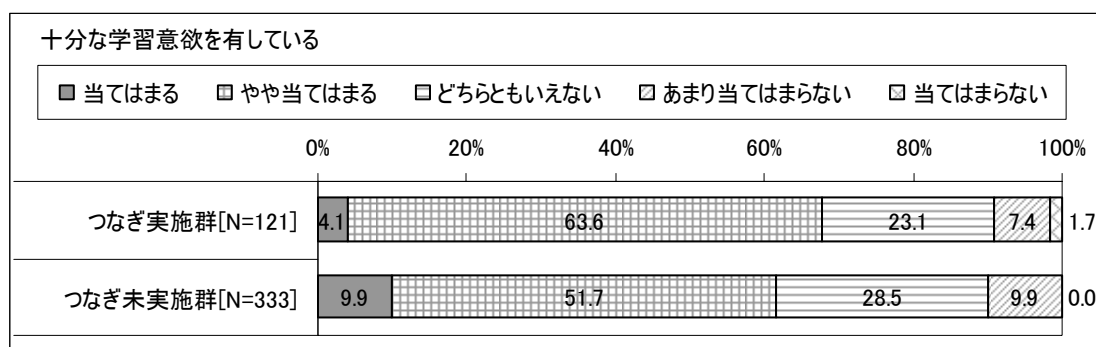
【分析の方法】

- 子どもの生活習慣や能力等に関する現在の達成状況 (Q6) について、チーム型支援の実施状況 (Q2) のうち「子育てに関する専門機関へのつなぎ」を実施している学校 (つなぎ実施群) と実施していない学校 (つなぎ未実施群) を比較

【分析結果のポイント】

- つなぎ実施群は未実施群に比して、「十分な学習意欲を有している」についての効果 (「当てはまる」「やや当てはまる」の合計回答割合) が有意に高い
- その他の項目については、つなぎ実施有無による有意差は見られない

図表 3-88 専門機関へのつなぎ実施有無 × 子どもの達成状況



【分析の視点 e】

- チーム型支援による子どもへの効果は、家庭教育支援チームへの助言をしている学校としていない学校とでは、どのような差があるか

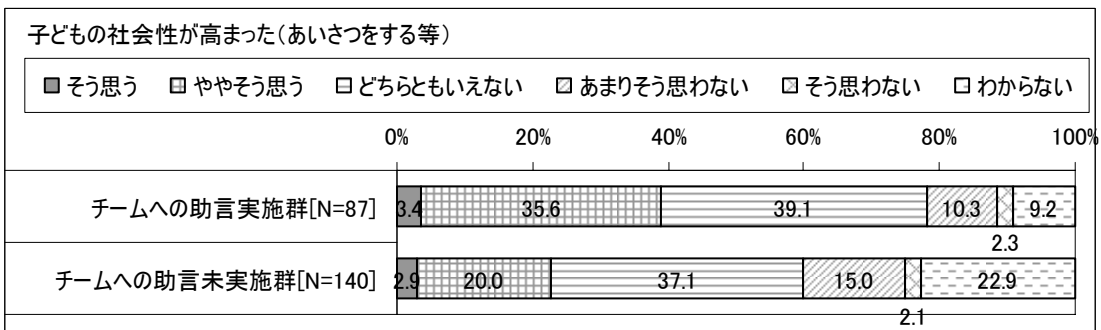
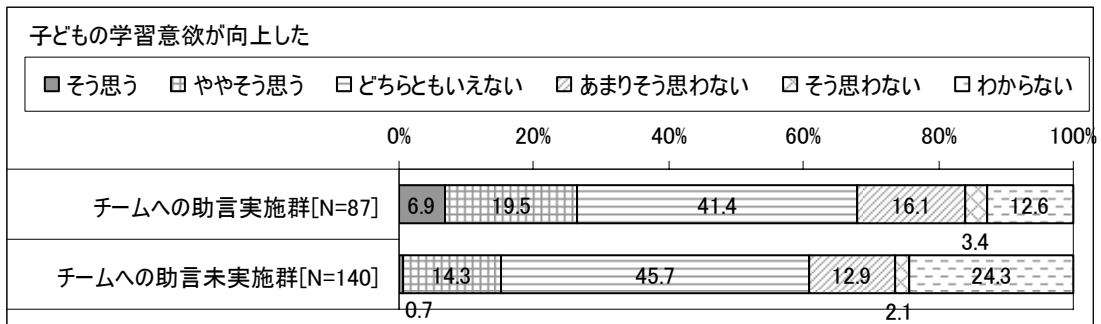
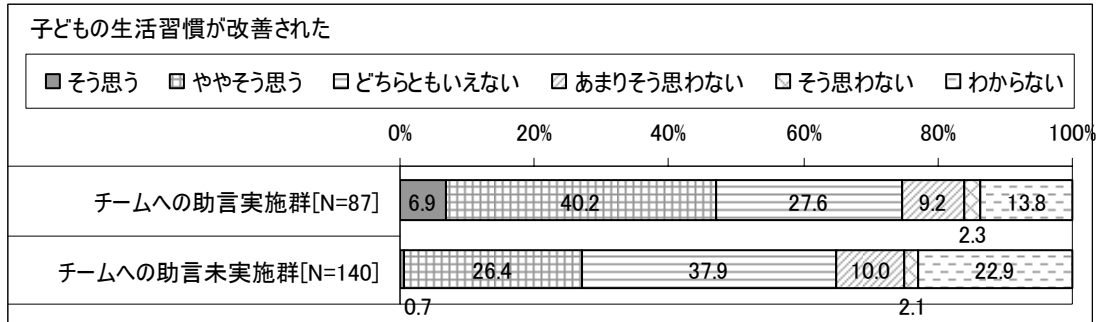
【分析の方法】

- チーム型支援による子どもへの直接的な効果 (Q8a-e) について、チーム型支援の実施状況 (Q2) のうち「家庭教育支援チームへの助言」を実施している学校 (チームへの助言実施群) と実施していない学校 (チームへの助言未実施群) を比較

【分析結果のポイント】

- チームへの助言実施群は未実施群に比して、「子どもの生活習慣が改善された」「子どもの学習意欲が向上した」「子どもの社会性が高まった (あいさつをする等)」についての効果が有意に高い

図表 3-89 家庭教育支援チームへの助言実施有無×子どもへの効果



【分析の視点 f】

- チーム型支援による子どもへの効果は、チーム等での情報共有会議を開催している学校としていない学校とでは、どのような差があるか

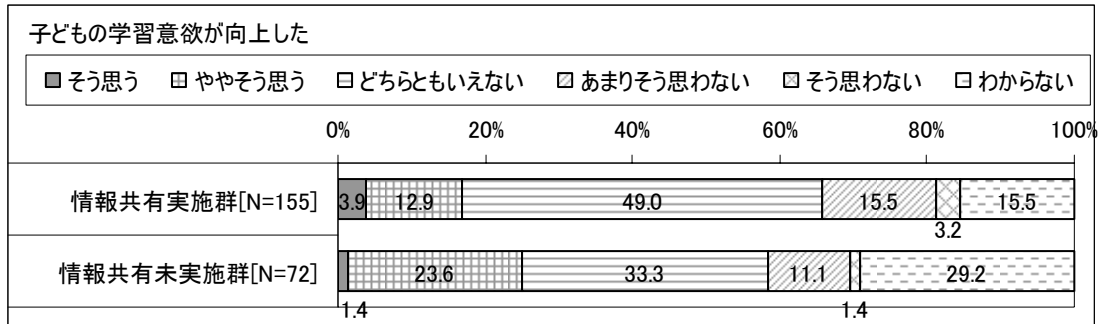
【分析の方法】

- チーム型支援による子どもへの直接的な効果 (Q8a-e) について、チーム型支援の実施状況 (Q2) のうち「教職員やチームでの情報共有会議」を実施している学校 (情報共有実施群) と実施していない学校 (情報共有未実施群) を比較

【分析結果のポイント】

- 情報共有実施群は未実施群に比して、「子どもの学習意欲が向上した」についての効果が有意に低い

図表 3-90 教職員やチームでの情報共有会議助言実施有無×子どもへの効果



【分析の視点 g】

- チーム型支援による子どもへの効果は、チーム員の戸別訪問へ同行している学校としていない学校とでは、どのような差があるか

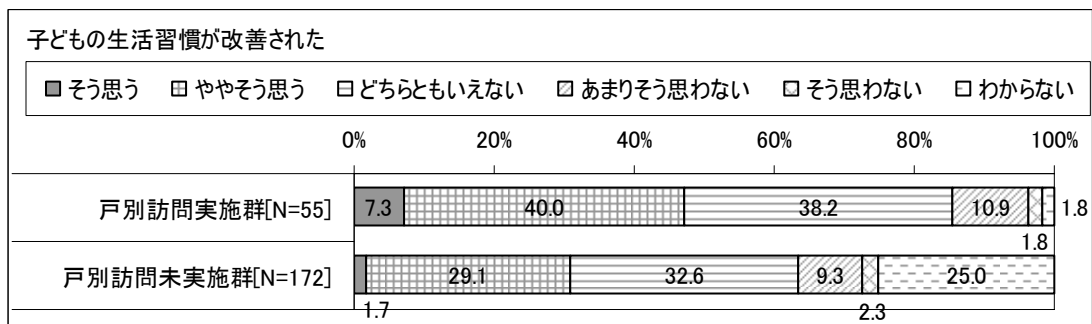
【分析の方法】

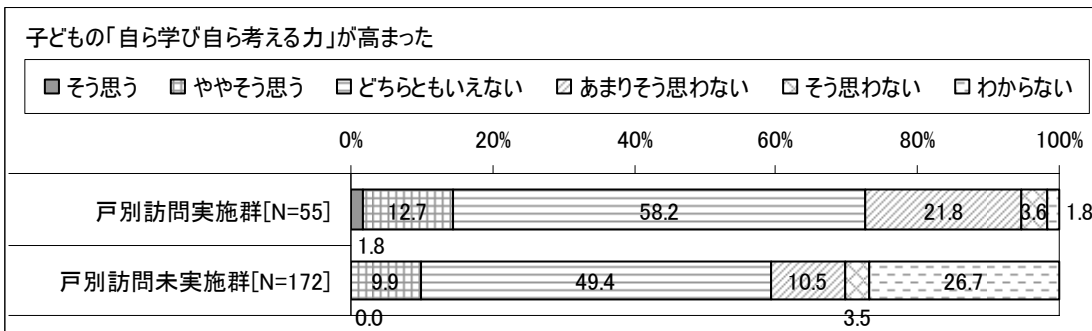
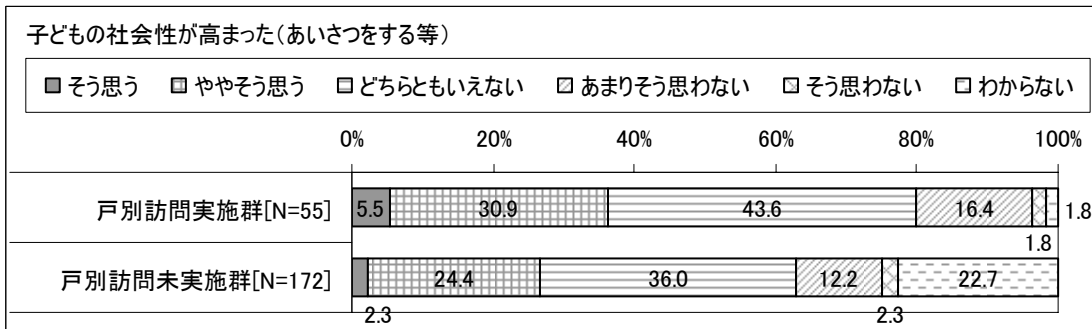
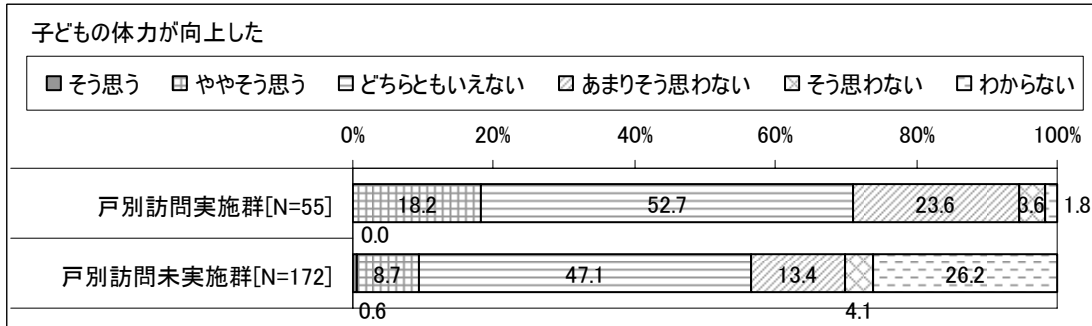
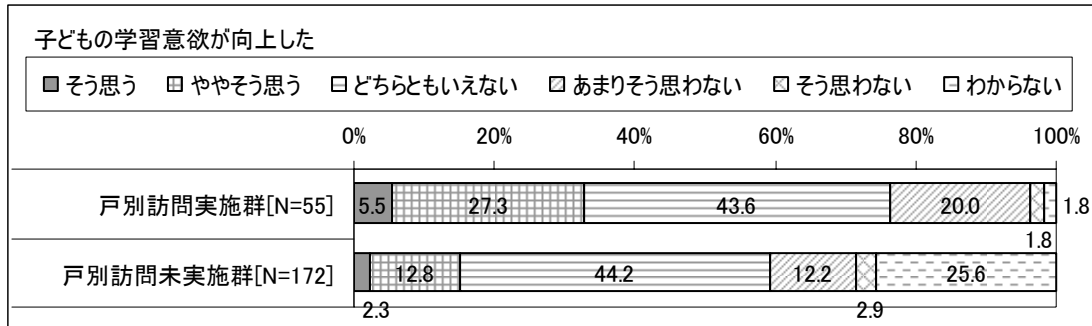
- チーム型支援による子どもへの直接的な効果（Q8a-e）について、チーム型支援の実施状況（Q2）のうち「チーム員の戸別訪問への同行」を実施している学校（戸別訪問実施群）と実施していない学校（戸別訪問未実施群）を比較

【分析結果のポイント】

- 戸別訪問実施群は未実施群に比して、「子どもの生活習慣が改善された」「子どもの学習意欲が向上した」「子どもの体力が向上した」「子どもの社会性が高まった（あいさつをする等）」「子どもの「自ら学び自ら考える力」が高まった」についての効果が有意に高い

図表 3-91 チーム員による戸別訪問実施有無×子どもへの効果





【分析の視点 h】

- チーム型支援による子どもへの効果は、専門機関へのつなぎを行っている学校と行っていない学校とでは、どのような差があるか

【分析の方法】

- チーム型支援による子どもへの直接的な効果（Q8a-e）について、チーム型支援の実施状況（Q2）のうち「子育てに関する専門機関へのつなぎ」を実施している学校（つなぎ実施群）と実施していない学校（つなぎ未実施群）を比較

【分析結果のポイント】

- いずれの項目についても、つなぎ実施有無による有意差は見られない

【分析の視点 i】

- チーム型支援による子どもへの効果は、取組に係る協力・工夫の実施状況による差があるか

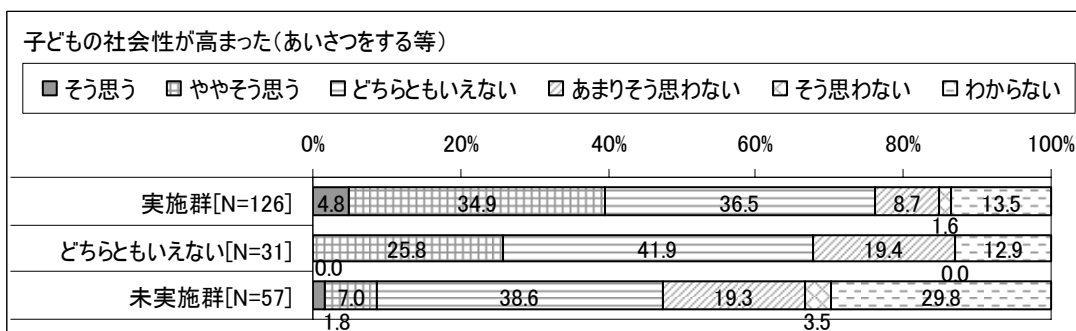
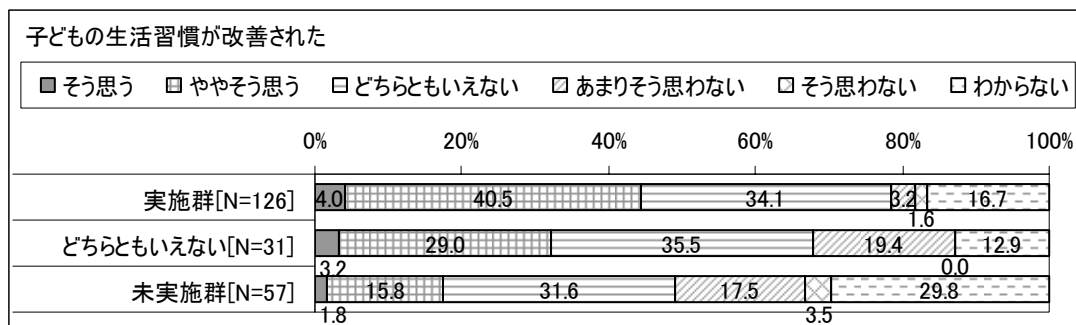
【分析の方法】

- チーム型支援による子どもへの直接的な効果（Q8a-e）について、取組に係る協力・工夫の実施状況（Q4）の各項目を実施している学校（実施群）と実施していない学校（未実施群）を比較

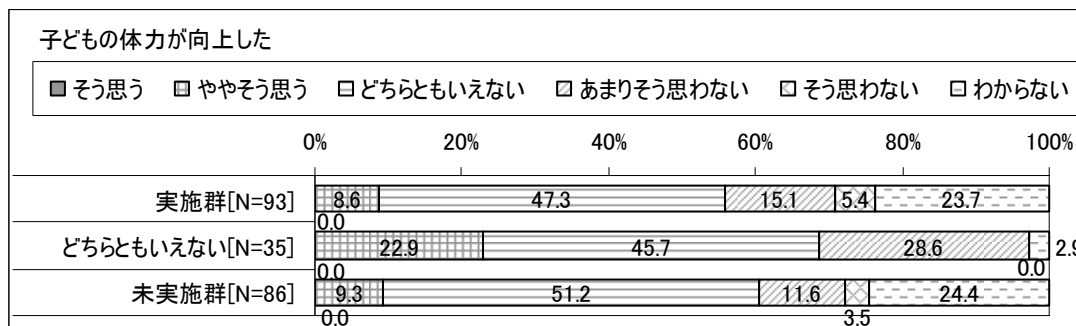
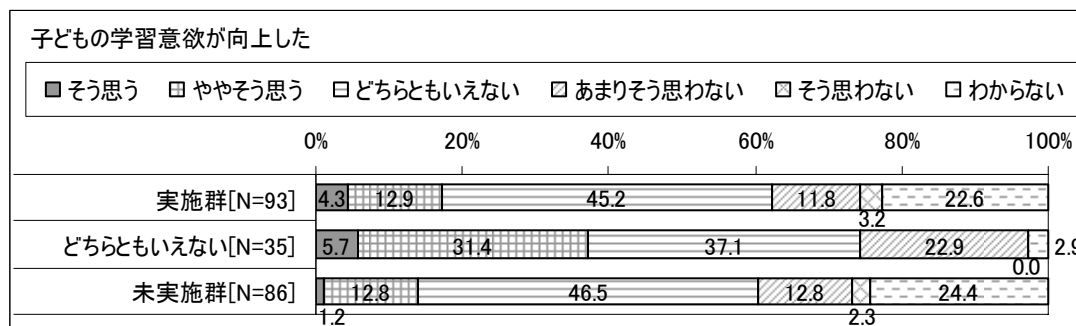
【分析結果のポイント】

- 「企画や実施にあたって、地域の支援人材と定期的に意見交換を行っている」実施群は未実施群に比して、「子どもの生活習慣が改善された」「子どもの社会性が高まった（あいさつをする等）」についての効果が有意に高い
- 「企画や実施にあたって、地域の支援人材等に学校の空きスペース等の場所を提供している」実施群は未実施群に比して、「子どもの学習意欲が向上した」についての効果が有意に高いが、「子どもの体力が向上した」についての効果が有意に低い

図表 3-92 「企画や実施にあたって、地域の支援人材と定期的に意見交換を行っている」実施有無×子どもへの効果



図表 3-93 「企画や実施にあたって、地域の支援人材等に学校の空きスペース等の場所を提供している」実施有無×子どもへの効果



5) 問題の予防・解決への効果

【分析の視点】

- a 多様な家庭への対応等について、家庭教育支援チームへの助言をしている学校としていない学校とでは、どのような差があるか
- b 多様な家庭への対応等について、チーム等での情報共有会議を開催している学校としていない学校とでは、どのような差があるか
- c 多様な家庭への対応等について、チーム員の戸別訪問へ同行している学校としていない学校とでは、どのような差があるか
- d 多様な家庭への対応等について、専門機関へのつなぎを行っている学校と行っていない学校とでは、どのような差があるか
- e チーム型支援による問題の予防・解決への効果は、家庭教育支援チームへの助言をしている学校としていない学校とでは、どのような差があるか
- f チーム型支援による問題の予防・解決への効果は、チーム等での情報共有会議を開催している学校としていない学校とでは、どのような差があるか
- g チーム型支援による問題の予防・解決への効果は、チーム員の戸別訪問へ同行している学校としていない学校とでは、どのような差があるか
- h チーム型支援による問題の予防・解決への効果は、専門機関へのつなぎを行っている学校と行っていない学校とでは、どのような差があるか
- i チーム型支援による問題の予防・解決への効果は、取組に係る協力・工夫の実施状況による差があるか

【分析の視点 a】

- 多様な家庭への対応等について、家庭教育支援チームへの助言をしている学校としていない学校とでは、どのような差があるか

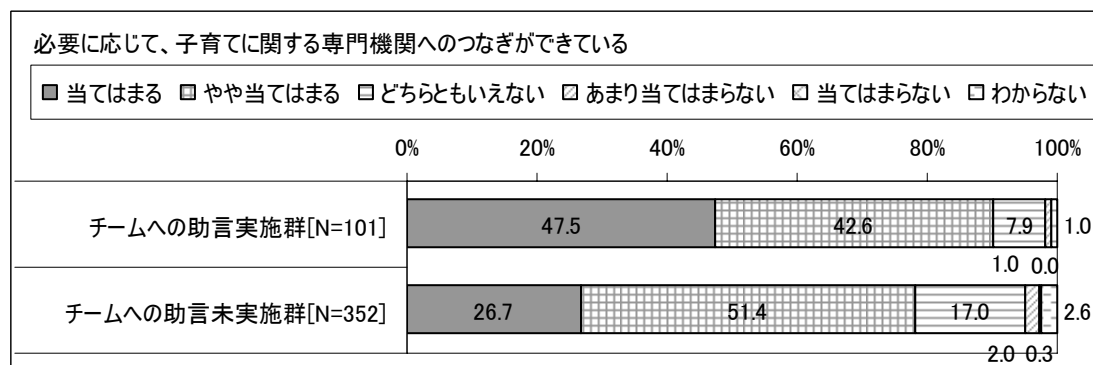
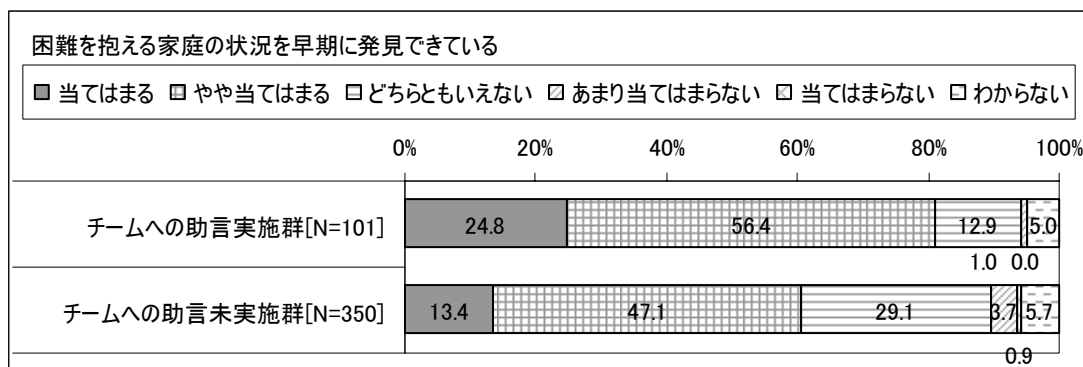
【分析の方法】

- 多様な家庭への対応や専門機関へのつなぎ等に関する現在の達成状況（Q5h-k）について、チーム型支援の実施状況（Q2）のうち「家庭教育支援チームへの助言」を実施している学校（チームへの助言実施群）と実施していない学校（チームへの助言未実施群）を比較

【分析結果のポイント】

- チームへの助言実施群は未実施群に比して、「困難を抱える家庭の状況を早期に発見できている」「必要に応じて、子育てに関する専門機関へのつなぎができています」についての達成状況が有意に高い
- その他の項目については、チームへの助言実施有無による有意差は見られない

図表 3-94 チームへの助言実施有無×問題の予防・解決の達成状況



【分析の視点 b】

- 多様な家庭への対応等について、チーム等での情報共有会議を開催している学校としていない学校とでは、どのような差があるか

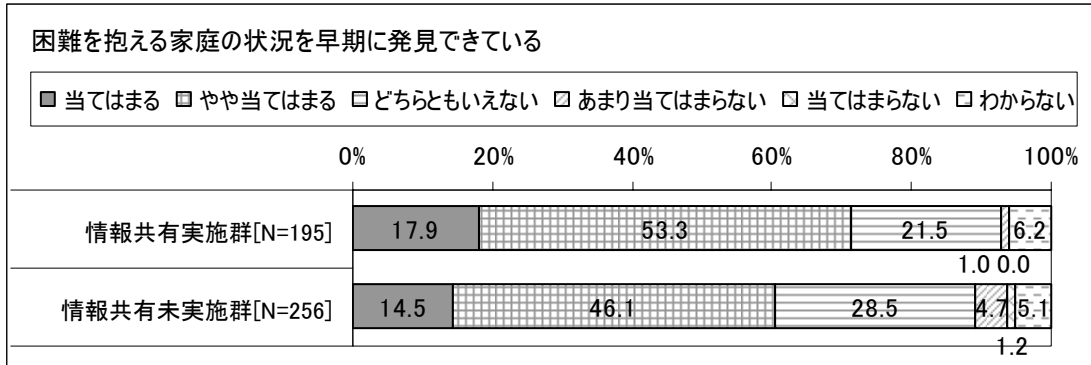
【分析の方法】

- 多様な家庭への対応や専門機関へのつながり等に関する現在の達成状況（Q5h-k）について、チーム型支援の実施状況（Q2）のうち「教職員やチームでの情報共有会議」を実施している学校（情報共有実施群）と実施していない学校（情報共有未実施群）を比較

【分析結果のポイント】

- 情報共有実施群は未実施群に比して、「困難を抱える家庭の状況を早期に発見できている」についての達成状況が有意に高い
- その他の項目については、情報共有実施有無による有意差は見られない

図表 3-95 教職員やチームでの情報共有会議実施有無 × 問題の予防・解決の達成状況



【分析の視点 c】

- 多様な家庭への対応等について、チーム員の戸別訪問へ同行している学校としていない学校とでは、どのような差があるか

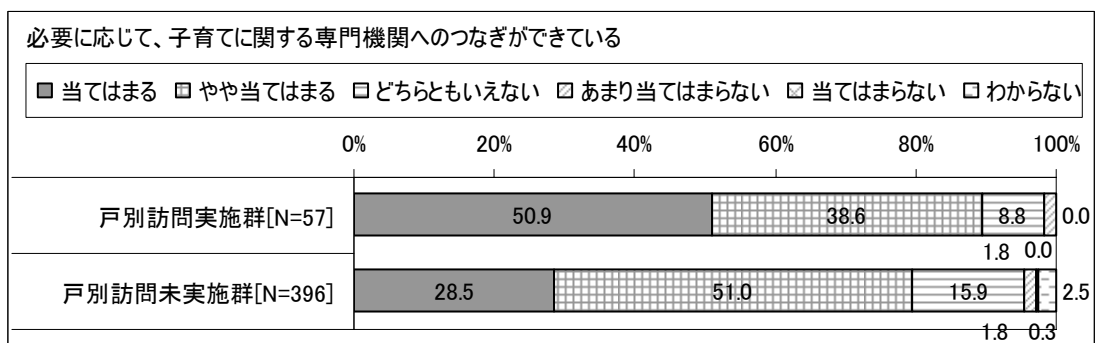
【分析の方法】

- 多様な家庭への対応や専門機関へのつなぎ等に関する現在の達成状況（Q5h-k）について、チーム型支援の実施状況（Q2）のうち「チーム員の戸別訪問への同行」を実施している学校（戸別訪問実施群）と実施していない学校（戸別訪問未実施群）を比較

【分析結果のポイント】

- 戸別訪問実施群は未実施群に比して、「必要に応じて、子育てに関する専門機関へのつなぎができています」についての達成状況が有意に高い
- その他の項目については、戸別訪問実施有無による有意差は見られない

図表 3-96 チーム員による戸別訪問実施有無 × 問題の予防・解決の達成状況



【分析の視点 d】

- 多様な家庭への対応等について、専門機関へのつなぎを行っている学校と行っていない学校とでは、どのような差があるか

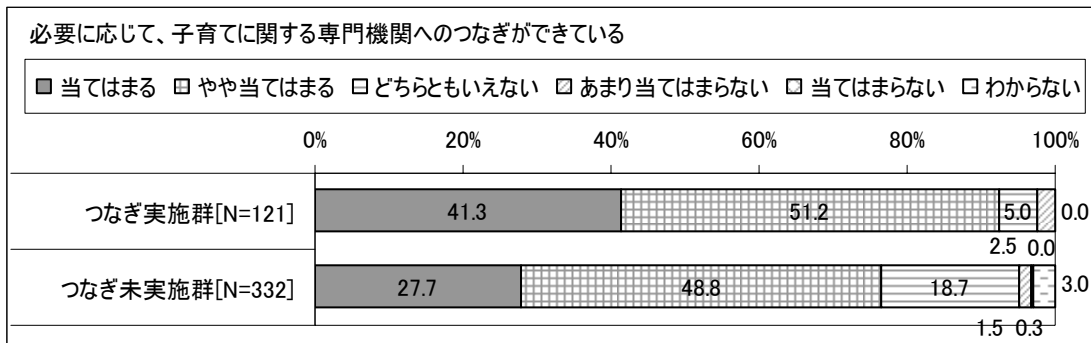
【分析の方法】

- 多様な家庭への対応や専門機関へのつなぎ等に関する現在の達成状況（Q5h-k）について、チーム型支援の実施状況（Q2）のうち「子育てに関する専門機関へのつなぎ」を実施している学校（つなぎ実施群）と実施していない学校（つなぎ未実施群）を比較

【分析結果のポイント】

- つなぎ実施群は未実施群に比して、「必要に応じて、子育てに関する専門機関へのつなぎができています」についての達成状況が有意に高い
- その他の項目については、つなぎ実施有無による有意差は見られない

図表 3-97 専門機関へのつなぎ実施有無×問題の予防・解決の達成状況



【分析の視点 e】

- チーム型支援による問題の予防・解決への効果は、家庭教育支援チームへの助言をしている学校としていない学校とでは、どのような差があるか

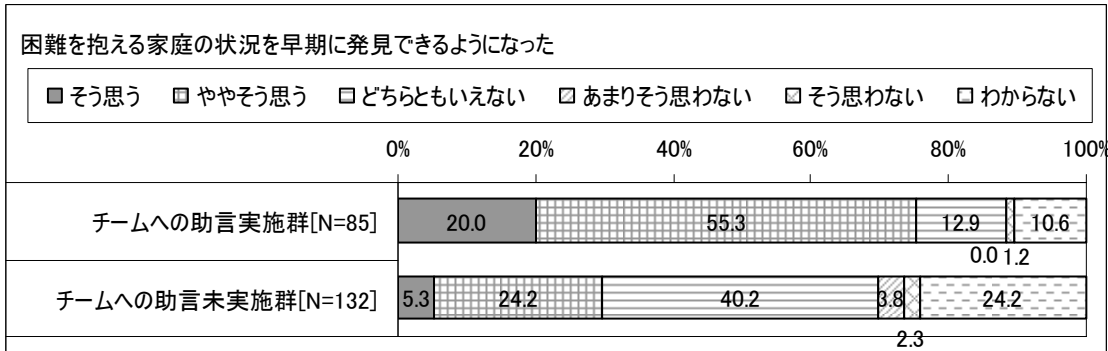
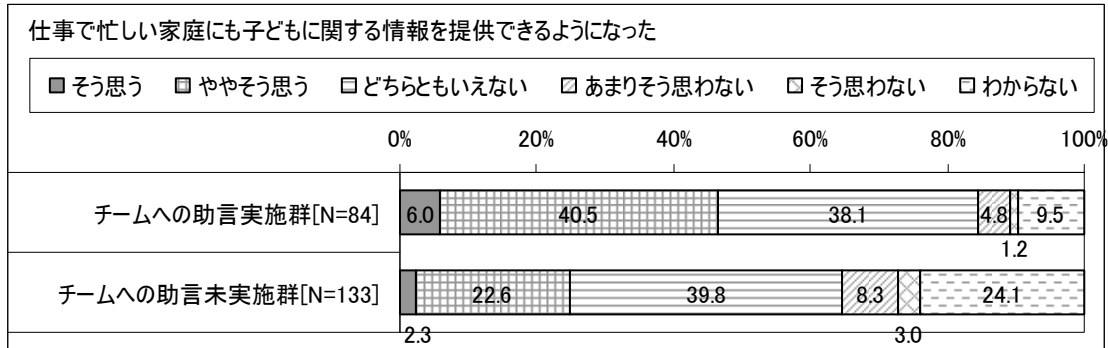
【分析の方法】

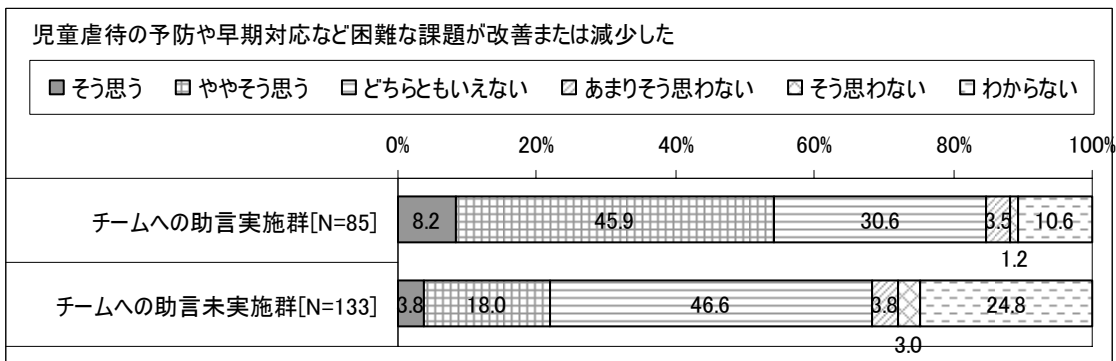
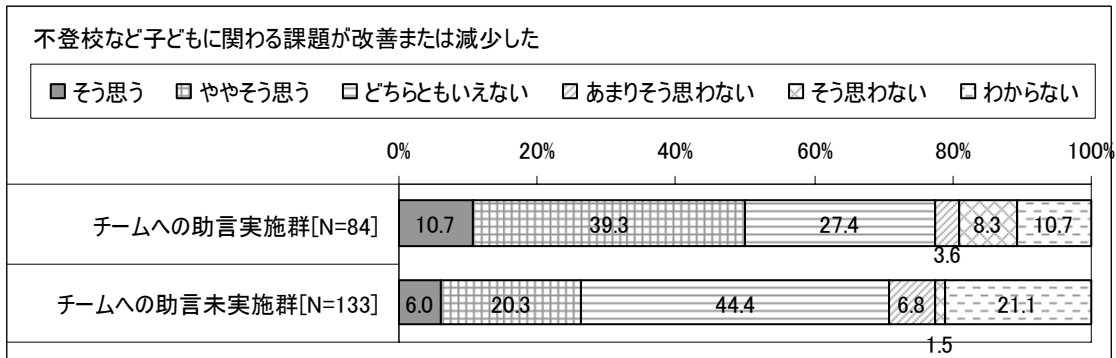
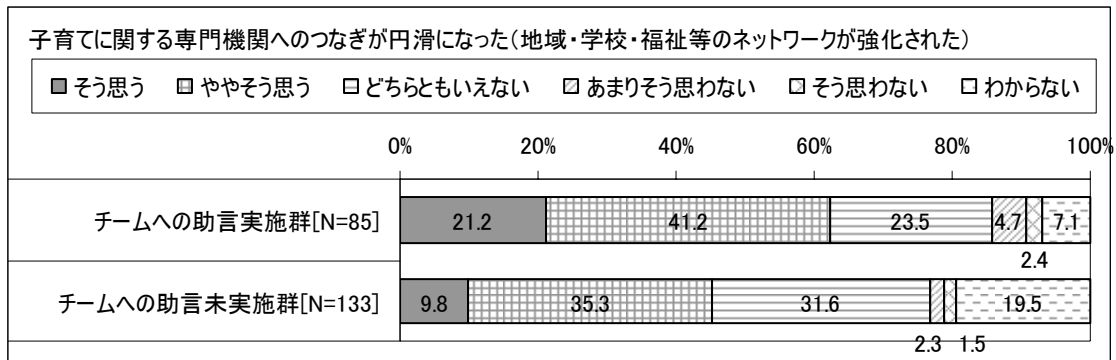
- チーム型支援による問題の予防・解決への直接的な効果（Q8o-t）について、チーム型支援の実施状況（Q2）のうち「家庭教育支援チームへの助言」を実施している学校（チームへの助言実施群）と実施していない学校（チームへの助言未実施群）を比較

【分析結果のポイント】

- チームへの助言実施群は未実施群に比して、「仕事で忙しい家庭にも子どもに関する情報を提供できるようになった」「困難を抱える家庭の状況を早期に発見できるようになった」「子育てに関する専門機関へのつながりが円滑になった（地域・学校・福祉等のネットワークが強化された）」「不登校など子どもに関わる課題が改善または減少した」「児童虐待の予防や早期対応など困難な課題が改善または減少した」についての効果が有意に高い

図表 3-98 家庭教育支援チームへの助言実施有無×問題の予防・解決の達成状況





【分析の視点 f】

- チーム型支援による問題の予防・解決への効果は、チーム等での情報共有会議を開催している学校としていない学校とでは、どのような差があるか

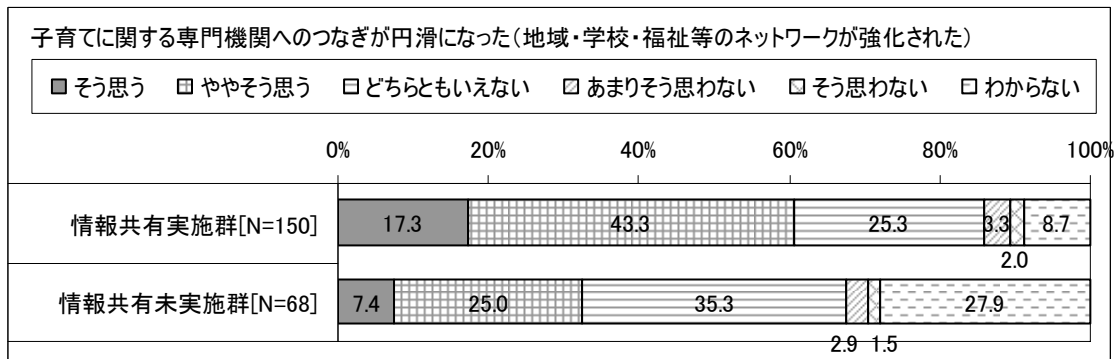
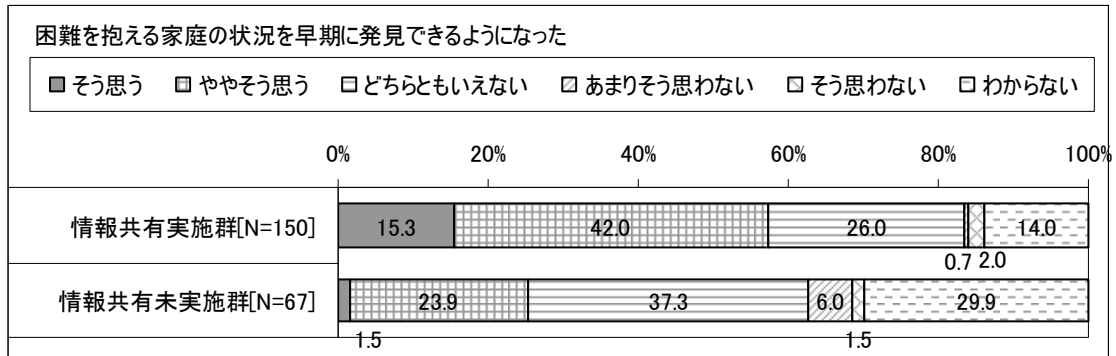
【分析の方法】

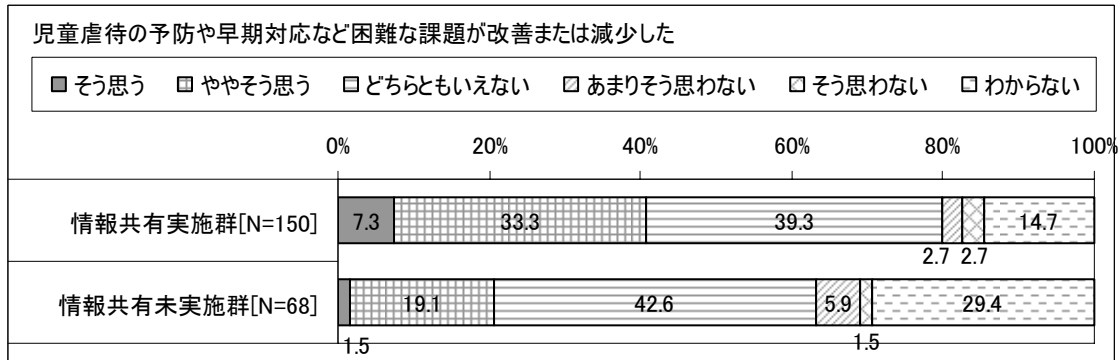
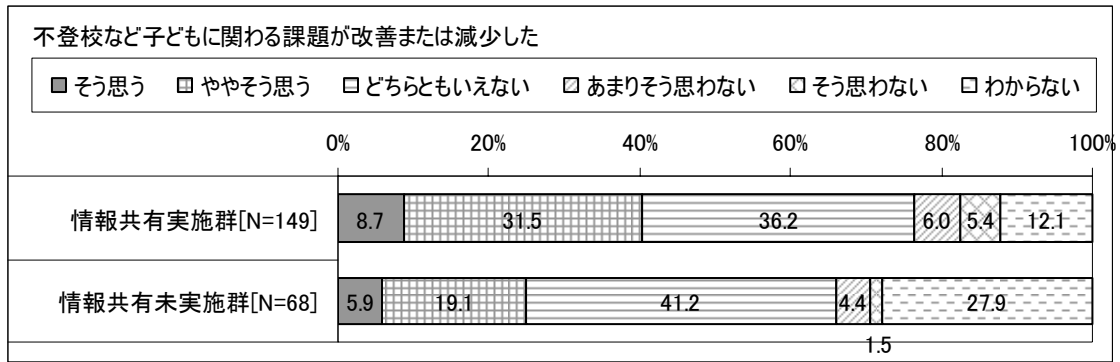
- チーム型支援による問題の予防・解決への直接的な効果（Q8o-t）について、チーム型支援の実施状況（Q2）のうち「教職員やチームでの情報共有会議」を実施している学校（情報共有実施群）と実施していない学校（情報共有未実施群）を比較

【分析結果のポイント】

- 情報共有実施群は未実施群に比して、「困難を抱える家庭の状況を早期に発見できるようになった」「子育てに関する専門機関へのつながりが円滑になった（地域・学校・福祉等のネットワークが強化された）」「不登校など子どもに関わる課題が改善または減少した」「児童虐待の予防や早期対応など困難な課題が改善または減少した」についての効果が有意に高い

図表 3-99 教職員やチームでの情報共有会議助言実施有無×問題の予防・解決への効果





【分析の視点 g】

- チーム型支援による問題の予防・解決への効果は、チーム員の戸別訪問へ同行している学校としていない学校とでは、どのような差があるか

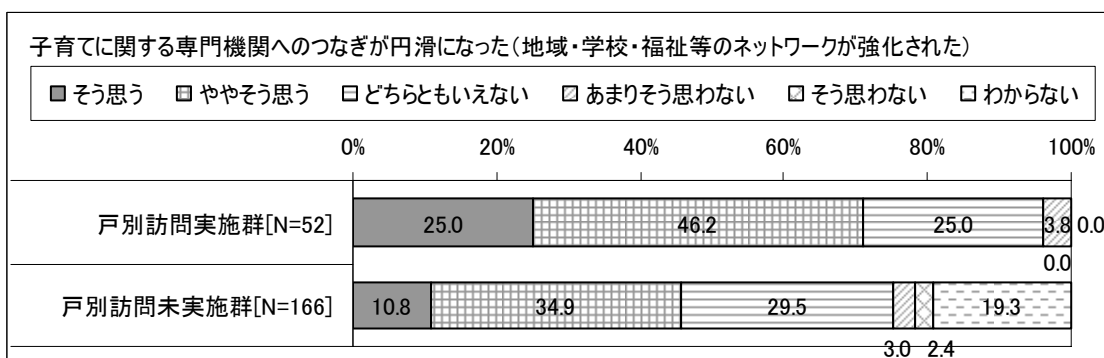
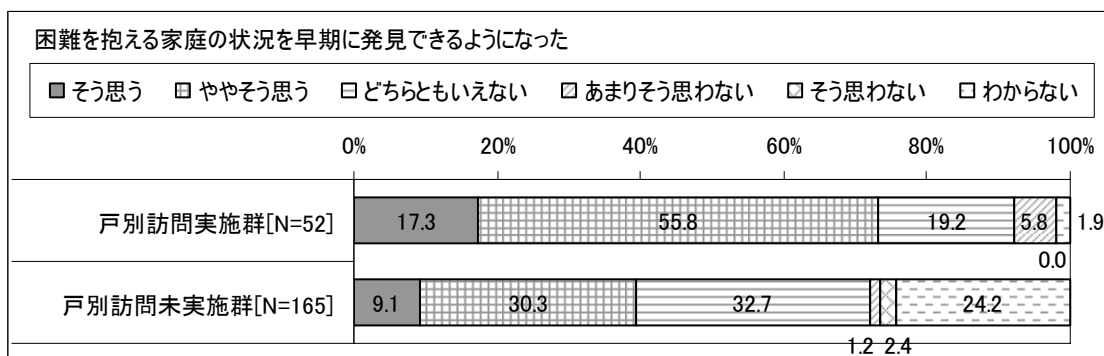
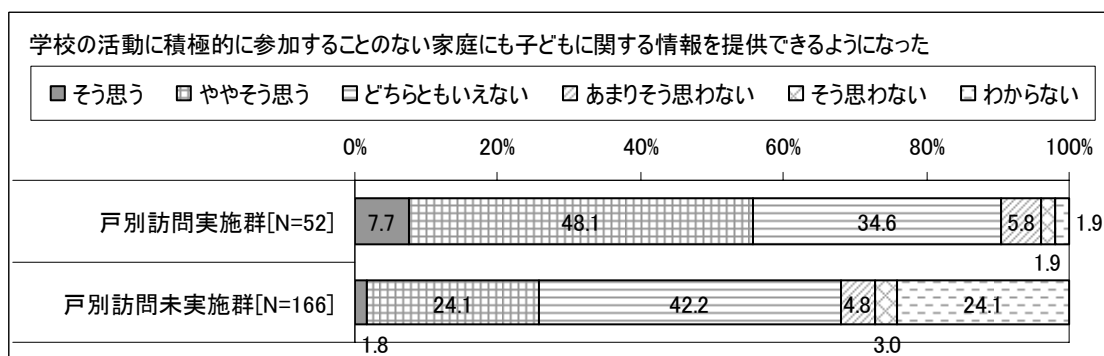
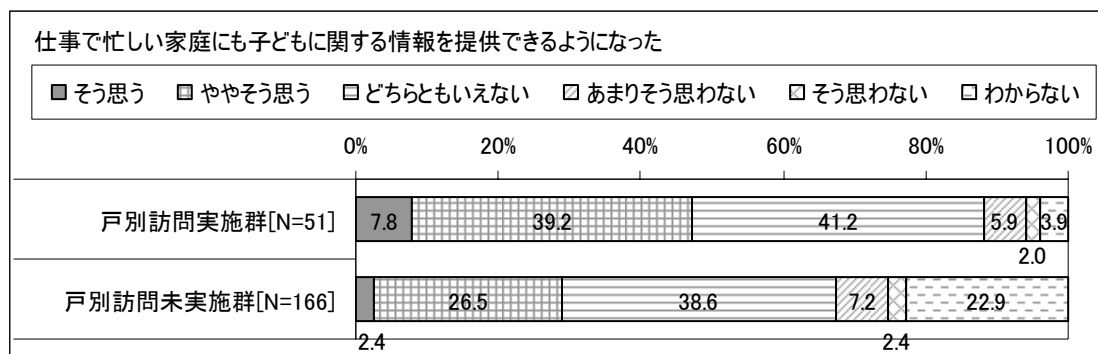
【分析の方法】

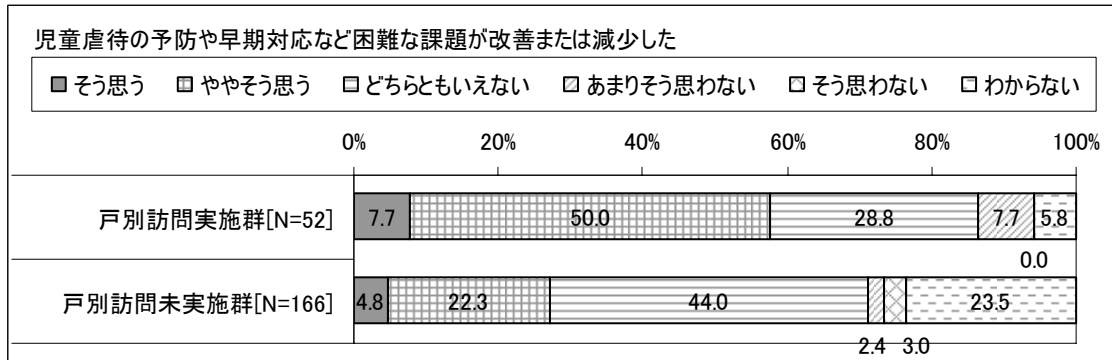
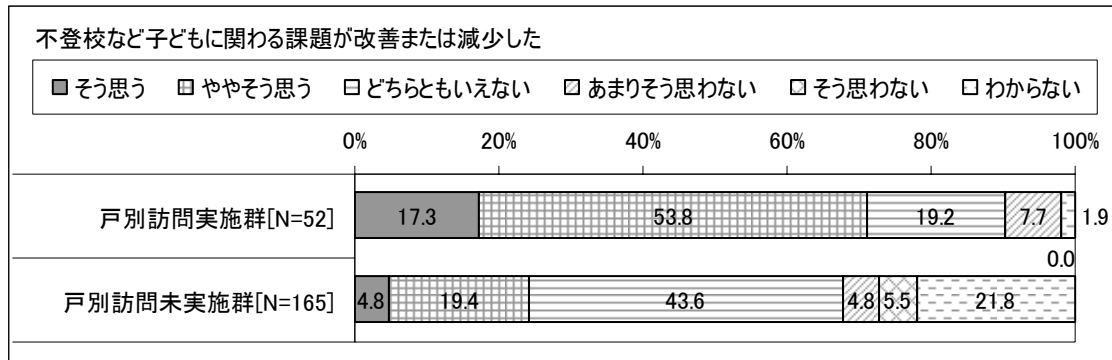
- チーム型支援による問題の予防・解決への直接的な効果（Q8o-t）について、チーム型支援の実施状況（Q2）のうち「チーム員の戸別訪問への同行」を実施している学校（戸別訪問実施群）と実施していない学校（戸別訪問未実施群）を比較

【分析結果のポイント】

- 戸別訪問実施群は未実施群に比して、「仕事で忙しい家庭にも子どもに関する情報を提供できるようになった」「学校の活動に積極的に参加することのない家庭にも子どもに関する情報を提供できるようになった」「困難を抱える家庭の状況を早期に発見できるようになった」「子育てに関する専門機関へのつながりが円滑になった（地域・学校・福祉等のネットワークが強化された）」「不登校など子どもに関わる課題が改善または減少した」「児童虐待の予防や早期対応など困難な課題が改善または減少した」についての効果が有意に高い

図表 3-100 チーム員による戸別訪問実施有無×問題の予防・解決への効果





【分析の視点 h】

- チーム型支援による問題の予防・解決への効果は、専門機関へのつながりを行っている学校と行っていない学校とでは、どのような差があるか

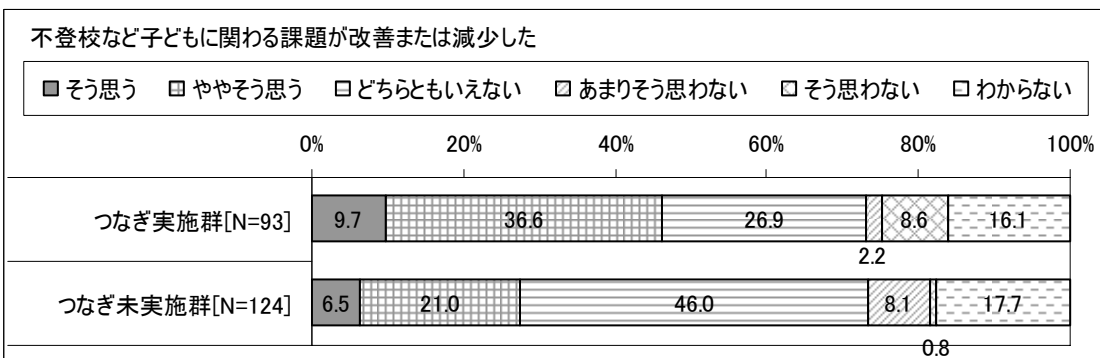
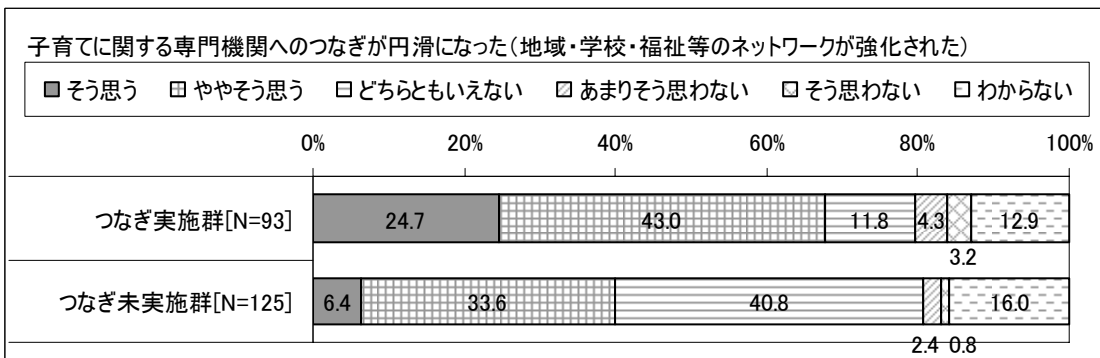
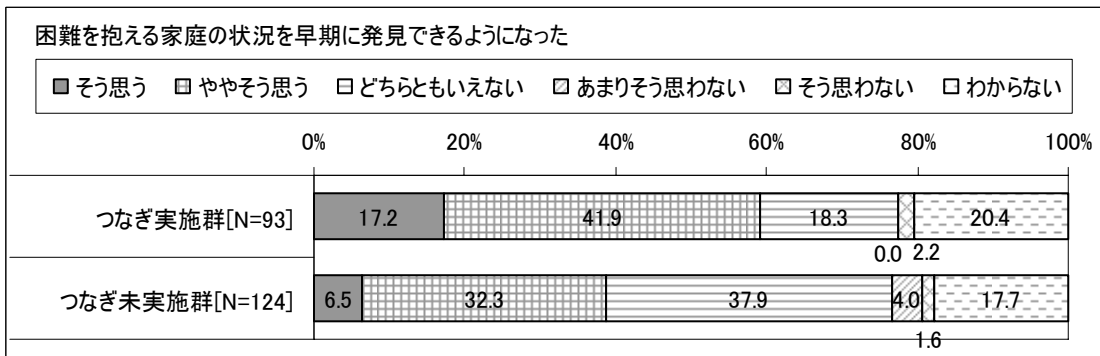
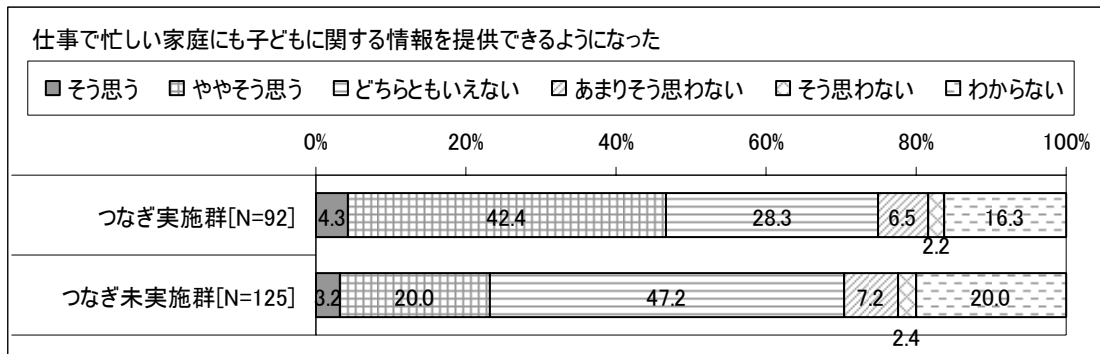
【分析の方法】

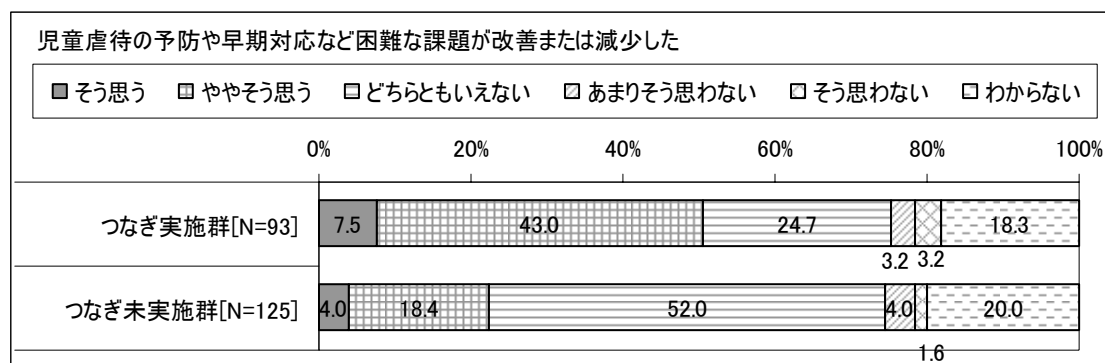
- チーム型支援による問題の予防・解決への直接的な効果 (Q8o-t) について、チーム型支援の実施状況 (Q2) のうち「子育てに関する専門機関へのつながり」を実施している学校 (つながり実施群) と実施していない学校 (つながり未実施群) を比較

【分析結果のポイント】

- つながり実施群は未実施群に比して、「仕事で忙しい家庭にも子どもに関する情報を提供できるようになった」「困難を抱える家庭の状況を早期に発見できるようになった」「子育てに関する専門機関へのつながりが円滑になった (地域・学校・福祉等のネットワークが強化された)」「不登校など子どもに関わる課題が改善または減少した」「児童虐待の予防や早期対応など困難な課題が改善または減少した」についての効果が有意に高い

図表 3-101 専門機関へのつなぎ実施有無×問題の予防・解決への効果





【分析の視点 i】

- チーム型支援による問題の予防・解決への効果は、取組に係る協力・工夫の実施状況による差があるか

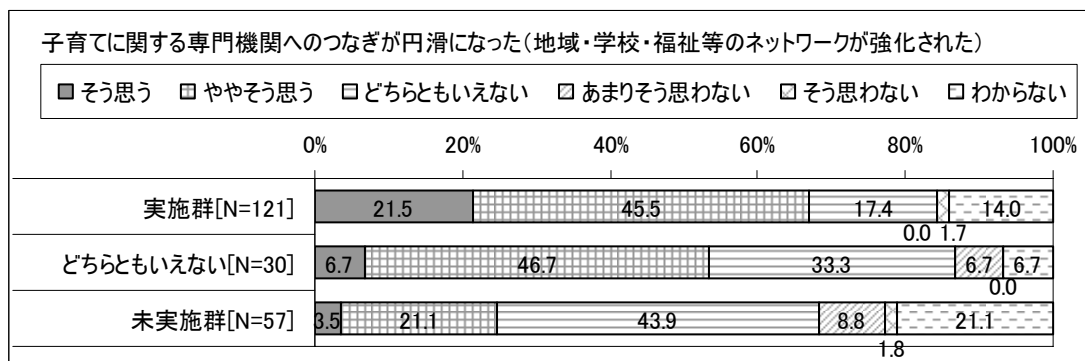
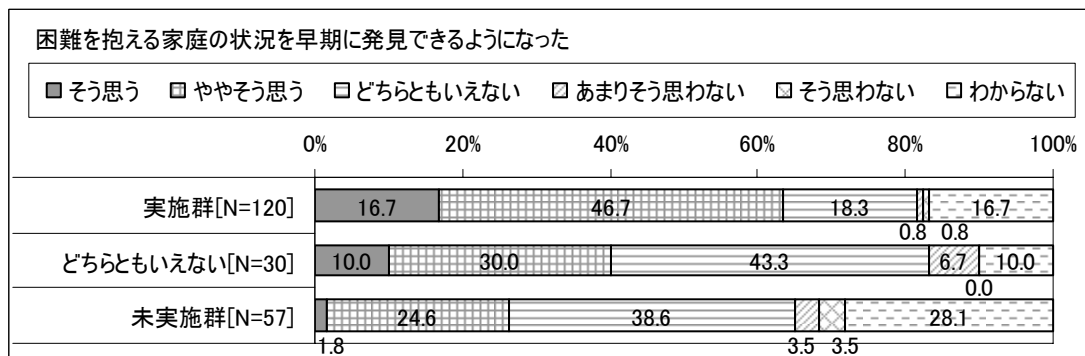
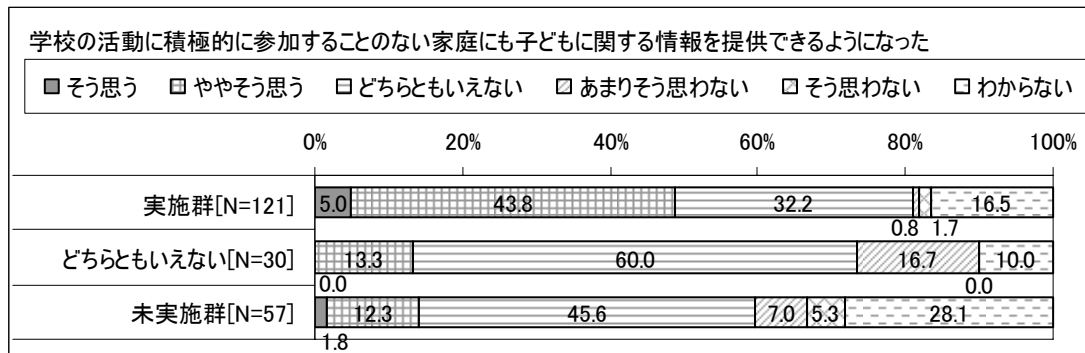
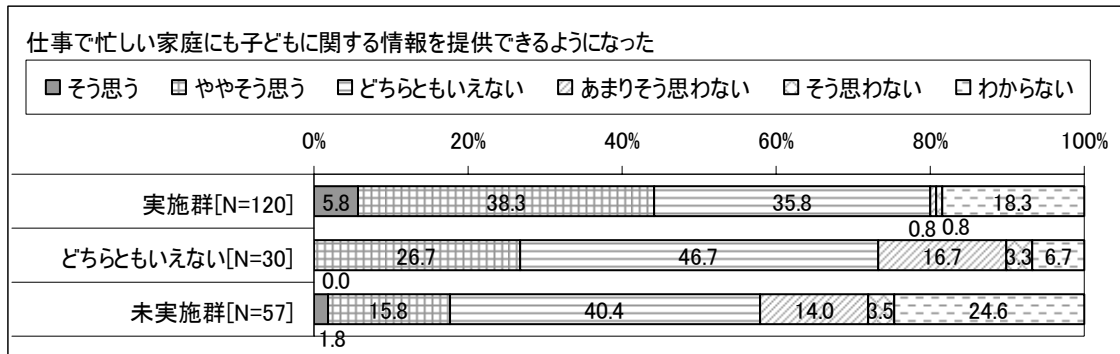
【分析の方法】

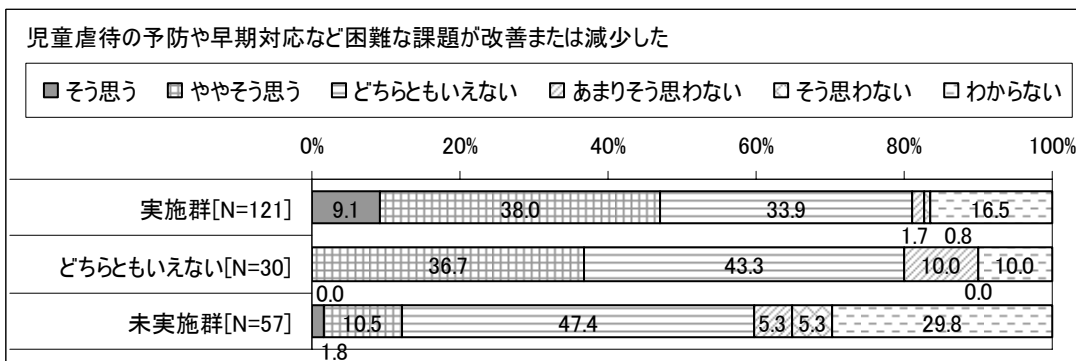
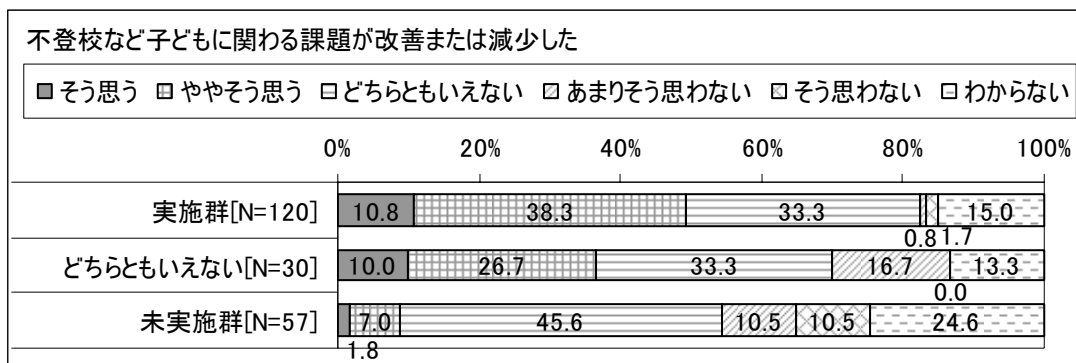
- チーム型支援による問題の予防・解決への直接的な効果（Q8o-t）について、取組に係る協力・工夫の実施状況（Q4）の各項目を実施している学校（実施群）と実施していない学校（未実施群）を比較

【分析結果のポイント】

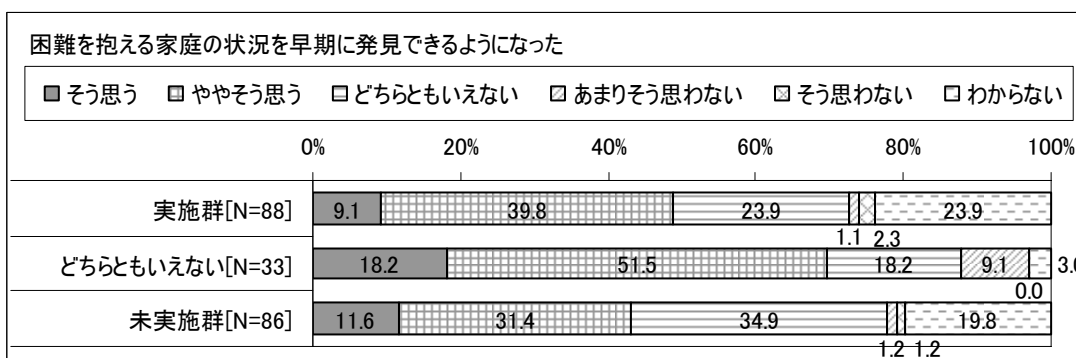
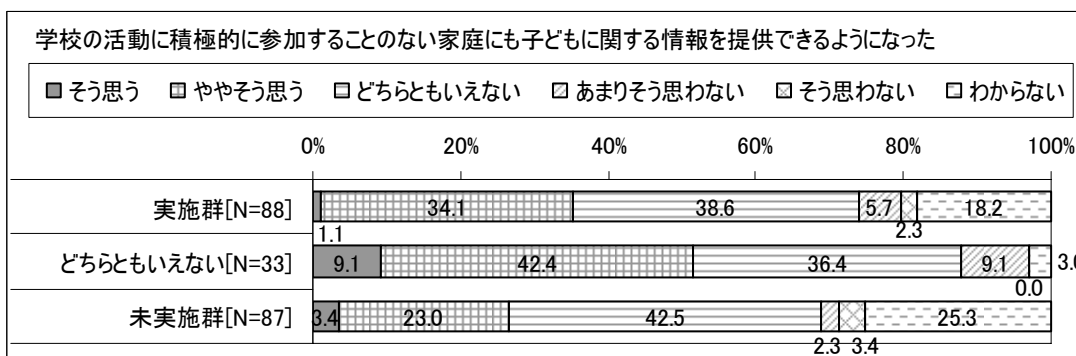
- 「企画や実施にあたって、地域の支援人材と定期的に意見交換を行っている」実施群は未実施群に比して、「仕事で忙しい家庭にも子どもに関する情報を提供できるようになった」「学校の活動に積極的に参加することのない家庭にも子どもに関する情報を提供できるようになった」「困難を抱える家庭の状況を早期に発見できるようになった」「子育てに関する専門機関へのつながりが円滑になった（地域・学校・福祉等のネットワークが強化された）」「不登校など子どもに関わる課題が改善または減少した」「児童虐待の予防や早期対応など困難な課題が改善または減少した」についての効果が有意に高い
- 「企画や実施にあたって、地域の支援人材等に学校の空きスペース等の場所を提供している」実施群は未実施群に比して、「学校の活動に積極的に参加することのない家庭にも子どもに関する情報を提供できるようになった」「困難を抱える家庭の状況を早期に発見できるようになった」「子育てに関する専門機関へのつながりが円滑になった（地域・学校・福祉等のネットワークが強化された）」についての効果が有意に高いが、「不登校など子どもに関わる課題が改善または減少した」「児童虐待の予防や早期対応など困難な課題が改善または減少した」についての効果が有意に低い

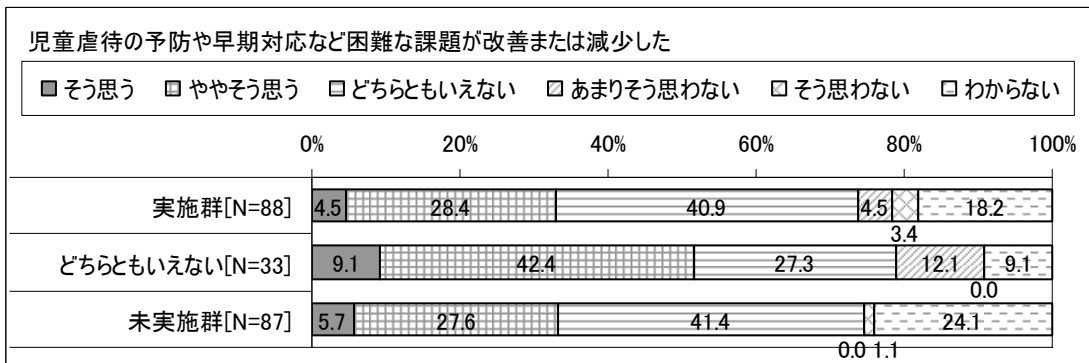
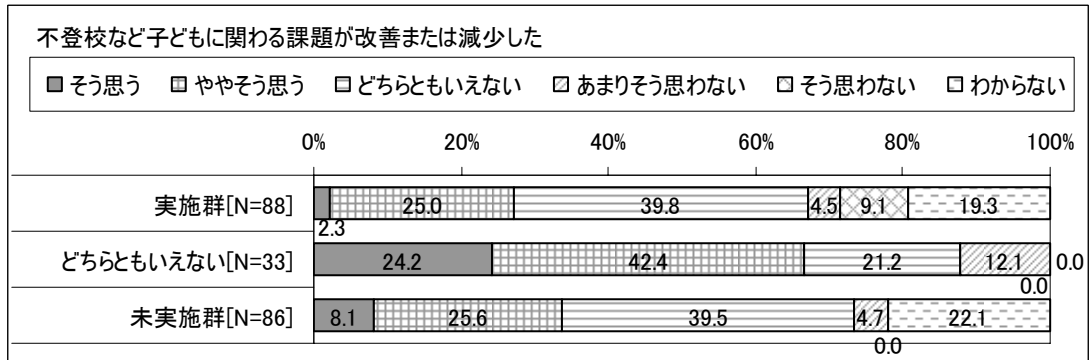
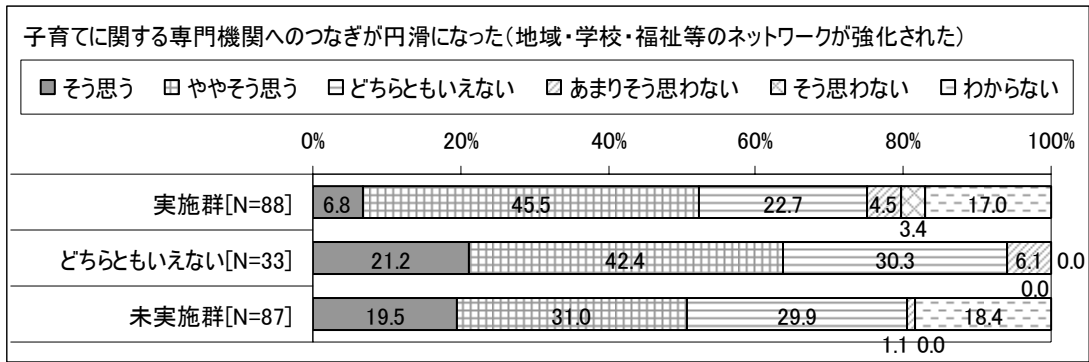
図表 3-102 「企画や実施にあたって、地域の支援人材と定期的に意見交換を行っている」実施有無×問題の予防・解決への効果





図表 3-103 「企画や実施にあたって、地域の支援人材等に学校の空きスペース等の場所を提供している」
実施有無×問題の予防・解決への効果





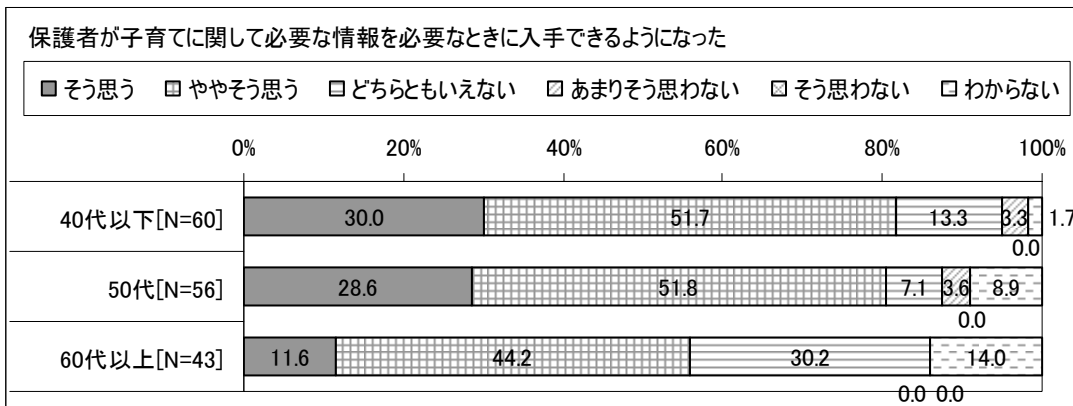
(3) 支援者・企画者票

1) 家庭への効果

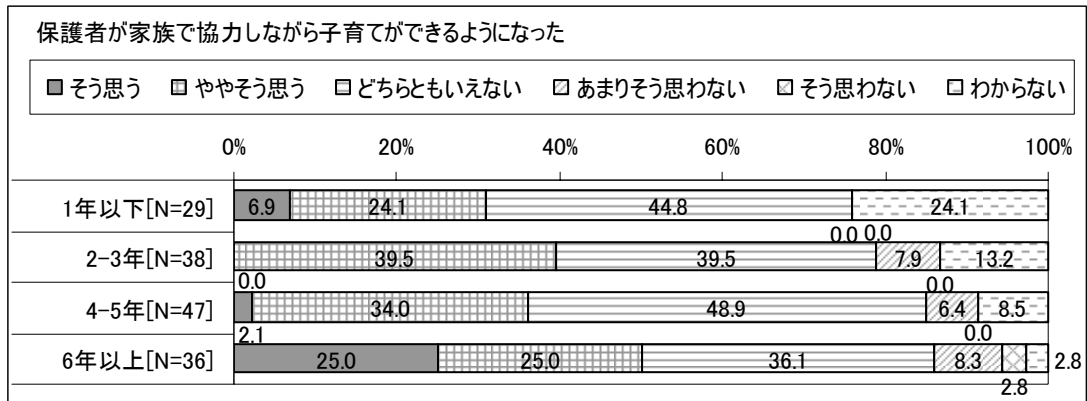
<p>【分析の視点】</p> <p>a チーム型支援による家庭への効果は、支援者等の属性による差があるか</p> <p>b チーム型支援による家庭への効果は、支援の内容等による差があるか</p> <p>c チーム型支援による家庭への効果は、取組に係る協力・工夫の実施状況による差があるか</p>
--

<p>【分析の視点 a】</p> <ul style="list-style-type: none"> チーム型支援による家庭への効果は、支援者等の属性による差があるか
<p>【分析の方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> チーム型支援による家庭への直接的な効果 (Q15a-f) について、支援者・企画者の年代 (Q1)、取組期間 (Q4)、研修参加経験 (Q6) 別に比較
<p>【分析結果のポイント】</p> <ul style="list-style-type: none"> 支援者・企画者の年代による有意差が見られるのは、「保護者が子育てに関して必要な情報を必要なときに入手できるようになった」であり、40代以下がもっとも高い 支援者・企画者の取組期間による有意差が見られるのは、「保護者が家族で協力しながら子育てができるようになった」であり、6年以上がもっとも高い 支援者・企画者の研修参加経験による有意差が見られるのは、「保護者の子育てに必要な知識や意欲が高まった」であり、3-4回がもっとも高い

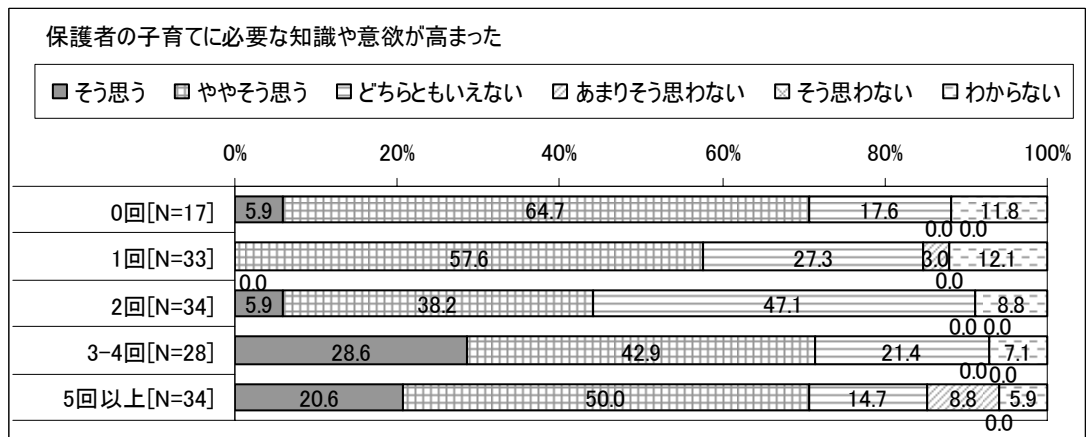
図表 3-104 支援者・企画者の年代×家庭への効果



図表 3-105 支援者・企画者の取組期間×家庭への効果



図表 3-106 支援者・企画者の研修参加経験×家庭への効果



【分析の視点 b】

- チーム型支援による家庭への効果は、支援の内容等による差があるか

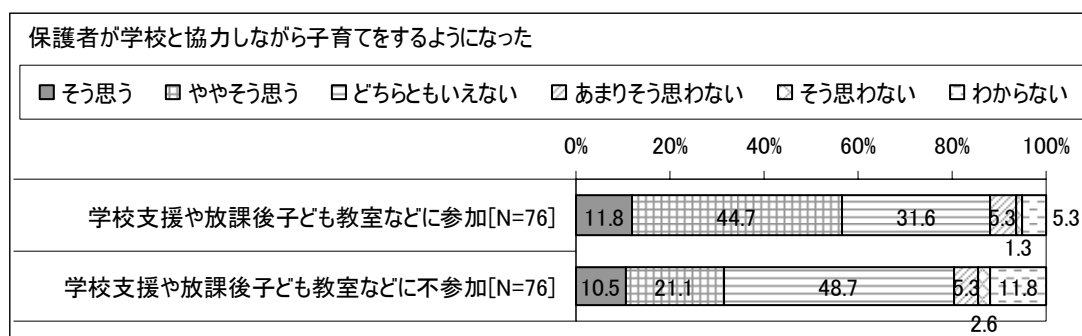
【分析の方法 1】

- チーム型支援による家庭への直接的な効果 (Q15a-f) について、取組内容 (Q8) の各項目を実施しているチームと実施していないチームを比較

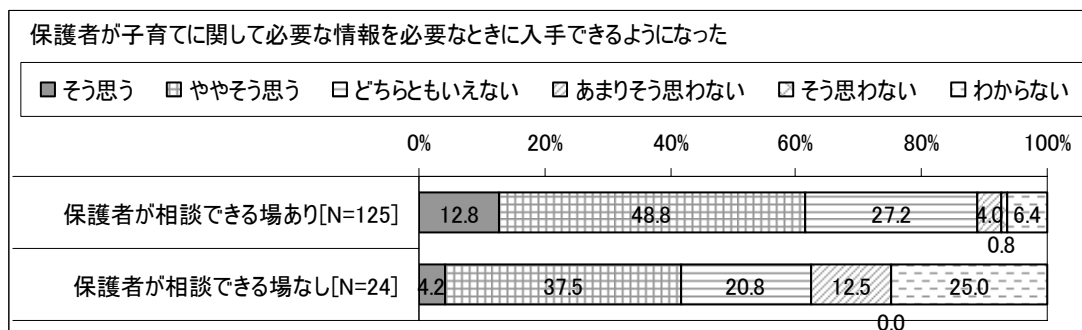
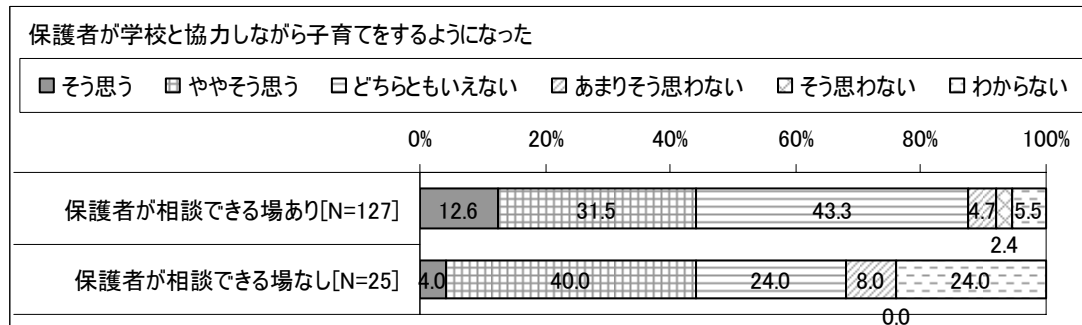
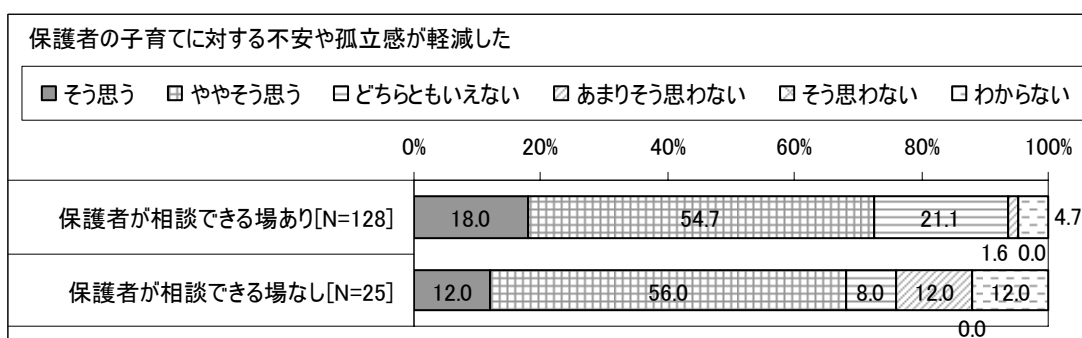
【分析結果のポイント】

- 「学校支援や放課後子ども教室などにも参加し、子どもとの交流を深めている」実施群は未実施群に比して、「保護者が学校と協力しながら子育てをするようになった」についての効果が有意に高い
- 「保護者が自由に交流したり、相談できる場(居場所)を有している」実施群は未実施群に比して、「保護者の子育てに対する不安や孤立感が軽減した」「保護者が学校と協力しながら子育てをするようになった」「保護者が子育てに関して必要な情報を必要なときに入手できるようになった」についての効果が有意に高い
- 「保護者がニーズに応じて参加できるイベントや講座、交流の機会を定期的実施している」実施群は未実施群に比して、「保護者の子育てに対する不安や孤立感が軽減した」「保護者が子育てに関して必要な情報を必要なときに入手できるようになった」についての効果が有意に高い
- 「概ね全戸の見守り訪問や情報誌の提供を行っている」実施群は未実施群に比して、「保護者の子育てに必要な知識や意欲が高まった」「保護者が家族で協力しながら子育てができるようになった」「保護者が子育てに関して必要なときに身近な相手に相談できるようになった」についての効果が有意に高い
- 「気になる家庭や、課題が顕在化している家庭の訪問を実施している」実施群は未実施群に比して、「保護者の子育てに必要な知識や意欲が高まった」「保護者の子育てに対する不安や孤立感が軽減した」についての効果が有意に高い
- 「日常的にあいさつ運動や見守りを実施している」「企業への出前講座を行っている」については、いずれの項目においても実施群と未実施群の間に有意差は見られない

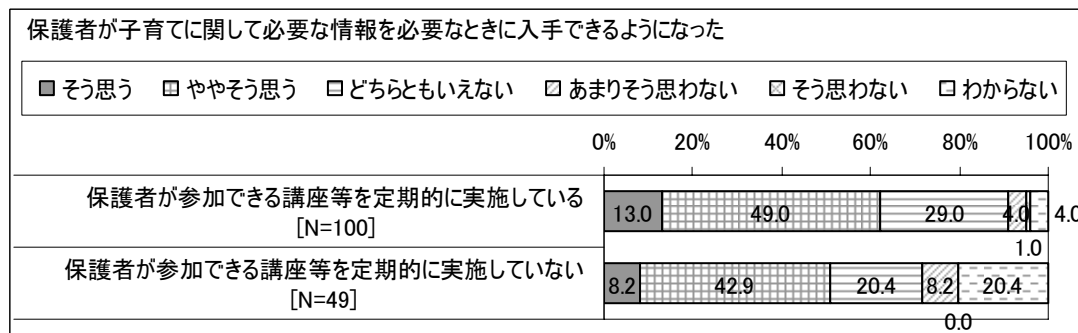
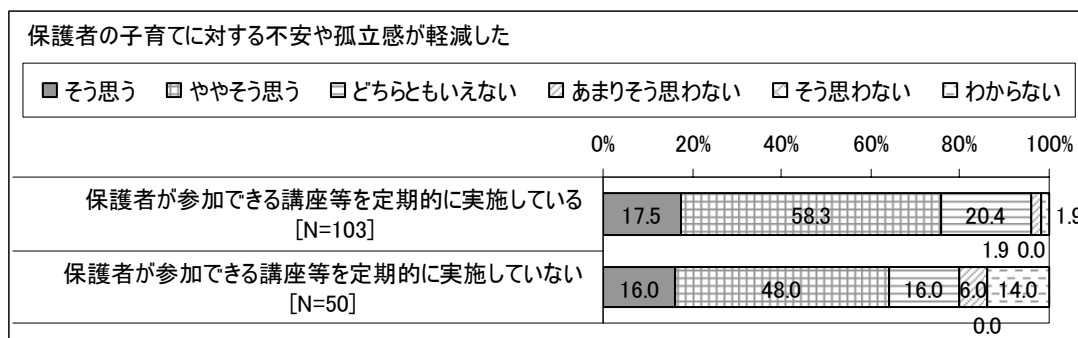
図表 3-107 「学校支援や放課後子ども教室などにも参加し、子どもとの交流を深めている」実施有無×家庭への効果



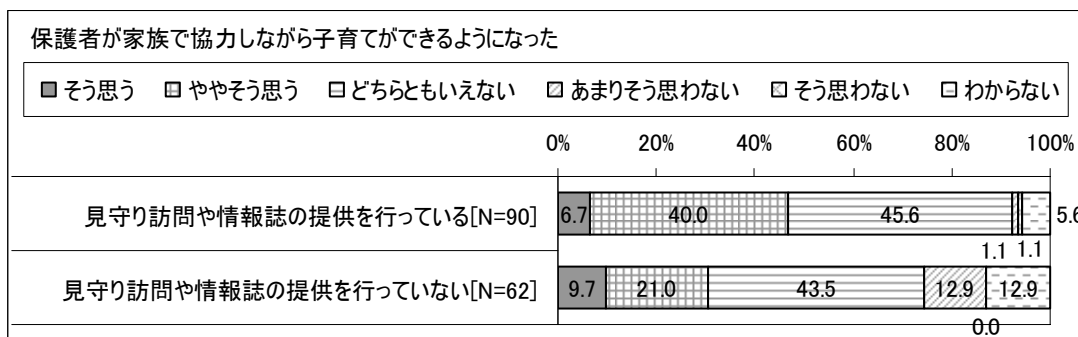
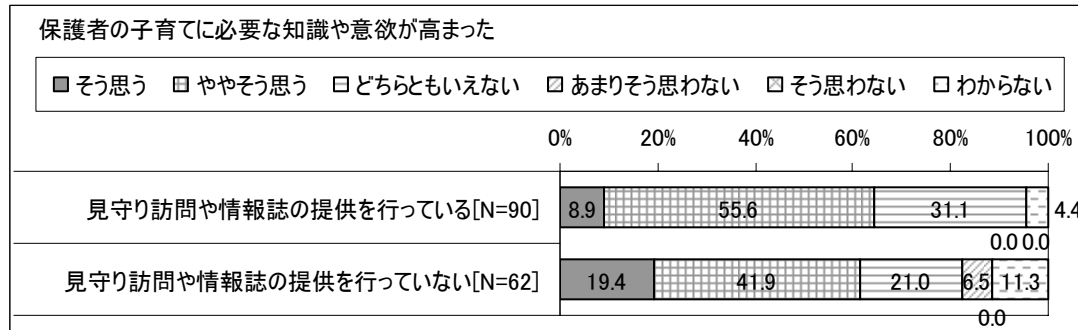
図表 3-108 「保護者が自由に交流したり、相談できる場(居場所)を有している」実施有無×家庭への効果

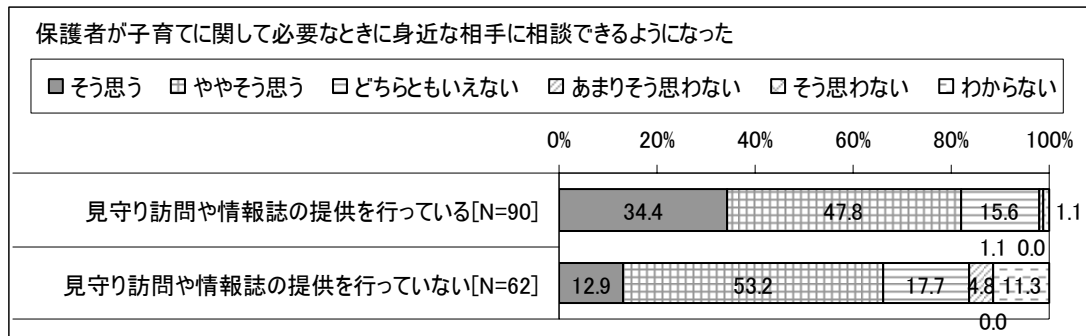


図表 3-109 「保護者がニーズに応じて参加できるイベントや講座、交流の機会を定期的実施している」実施有無×家庭への効果

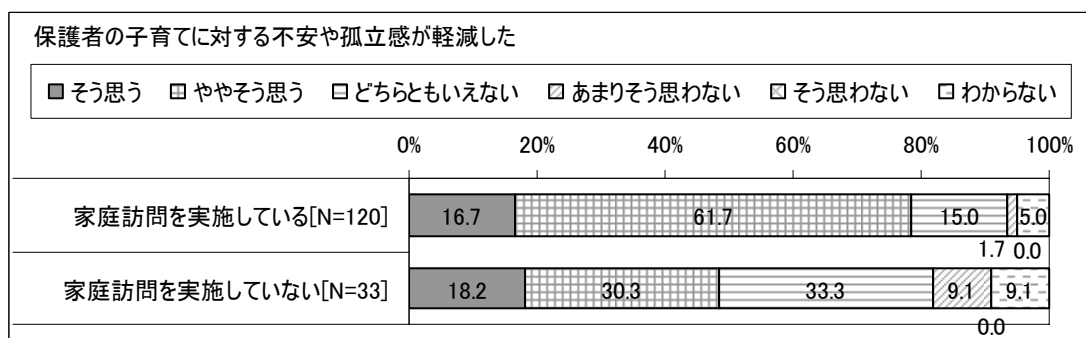
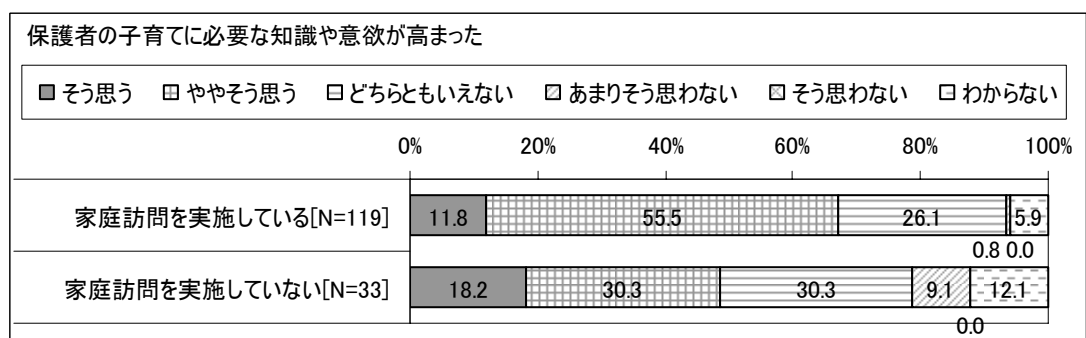


図表 3-110 「概ね全戸の見守り訪問や情報誌の提供を行っている」実施有無×家庭への効果





図表 3-111 「気になる家庭や、課題が顕在化している家庭の訪問を実施している」実施有無×家庭への効果



【分析の視点 b】

- チーム型支援による家庭への効果は、支援の内容等による差があるか

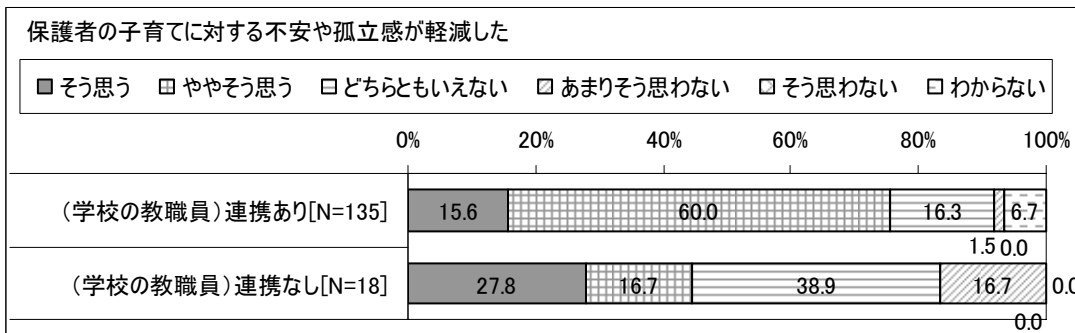
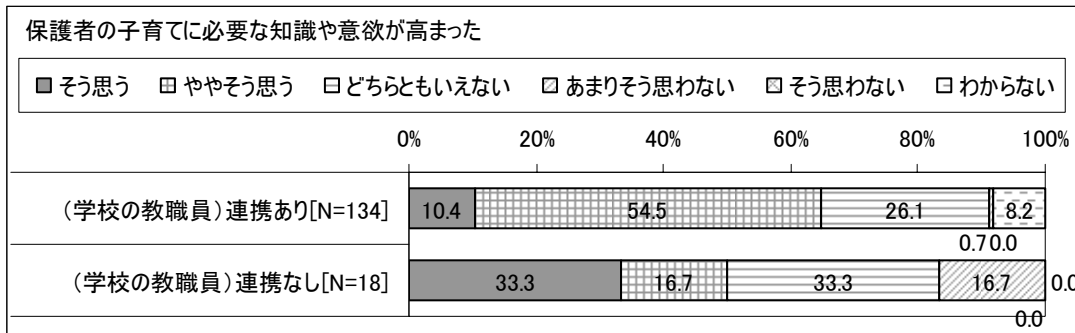
【分析の方法 2】

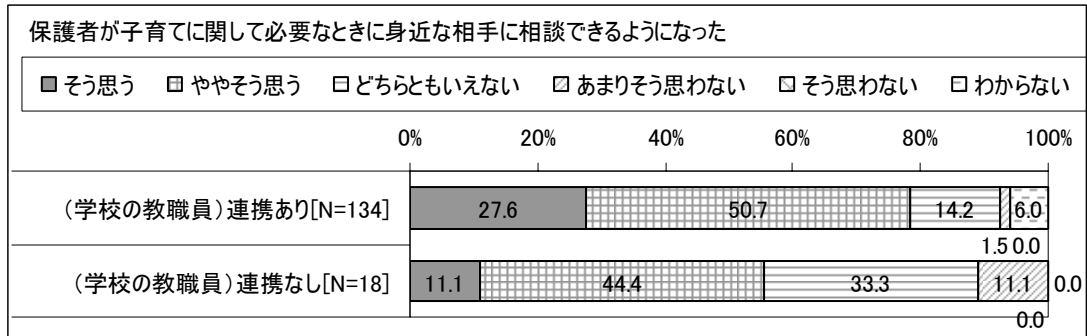
- チーム型支援による家庭への直接的な効果 (Q15a-f) について、他の人材・機関と連携しているチームと連携していないチーム (Q11) を比較

【分析結果のポイント】

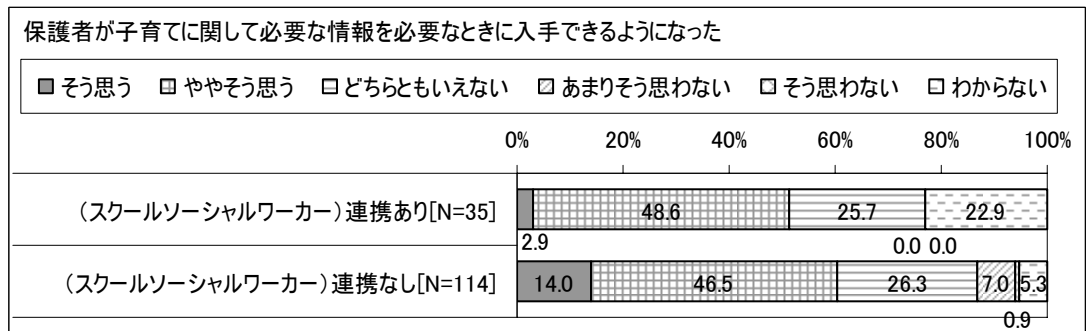
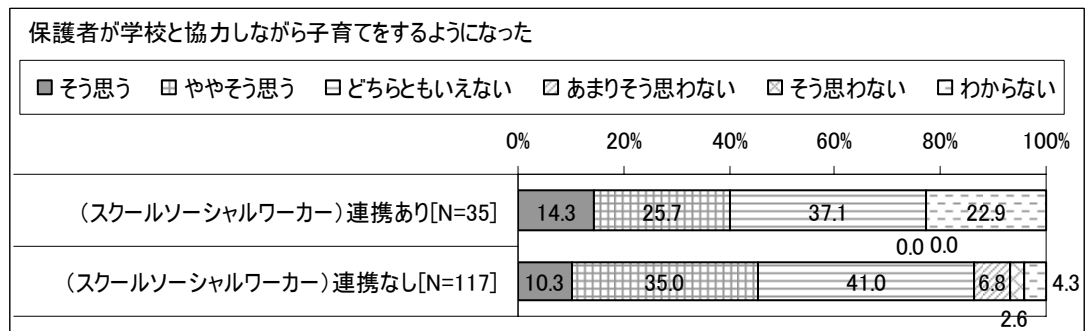
- 「学校の教職員」と連携しているチームはしていないチームに比して、「保護者の子育てに必要な知識や意欲が高まった」「保護者の子育てに対する不安や孤立感が軽減した」「保護者が子育てに関して必要なときに身近な相手に相談できるようになった」についての効果が有意に高い
- 「スクールソーシャルワーカー」と連携しているチームはしていないチームに比して、「保護者が学校と協力しながら子育てをするようになった」「保護者が子育てに関して必要な情報を必要なときに入手できるようになった」についての効果が有意に低い

図表 3-112 「学校の教職員」との連携有無×家庭への効果





図表 3-113 「スクールソーシャルワーカー」との連携有無×家庭への効果



【分析の視点 c】

- チーム型支援による家庭への効果は、取組に係る協力・工夫の実施状況による差があるか

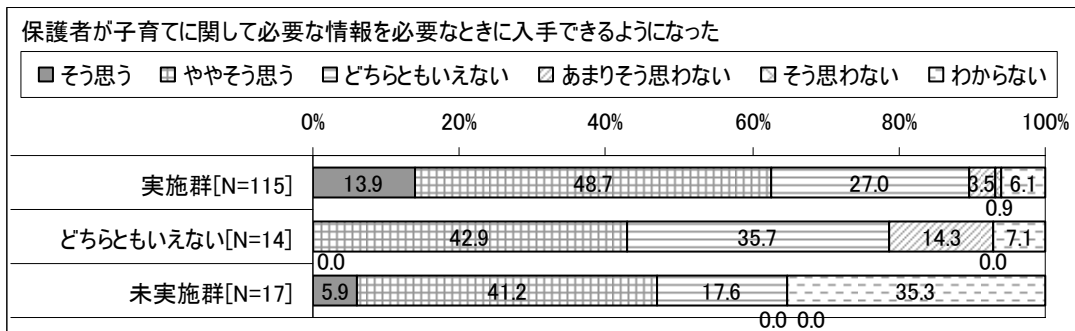
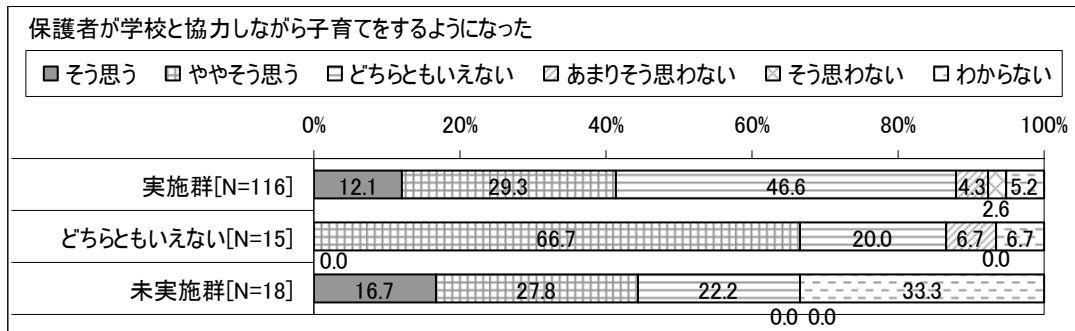
【分析の方法】

- チーム型支援による家庭への直接的な効果 (Q15a-f) について、取組に係る協力・工夫 (Q13) の各項目を実施している学校 (実施群) と実施していない学校 (未実施群) を比較

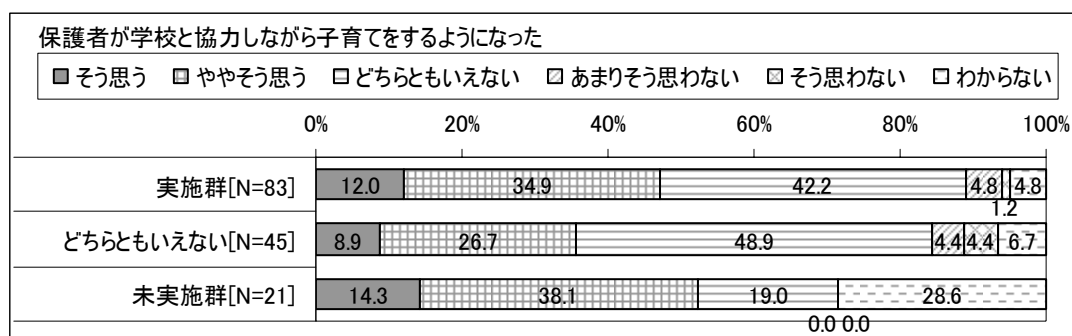
【分析結果のポイント】

- 「多くの保護者が参画できる (支援が届く) よう、活動時間や場所を工夫している」実施群は未実施群に比して、「保護者が学校と協力しながら子育てをするようになった」についての効果が有意に低い、「保護者が子育てに関して必要な情報を必要とときに入手できるようになった」についての効果が有意に高い
- 「ワークショップや体験形式など、保護者が楽しく主体的に参画できる内容を取り入れている」実施群は未実施群に比して、「保護者が学校と協力しながら子育てをするようになった」についての効果が有意に低い
- 「企画や実施にあたって、学校の教職員と定期的に意識共有を図っている」実施群は未実施群に比して、「保護者が家族で協力しながら子育てができるようになった」「保護者が子育てに関して必要なときに身近な相手に相談できるようになった」についての効果が有意に高い

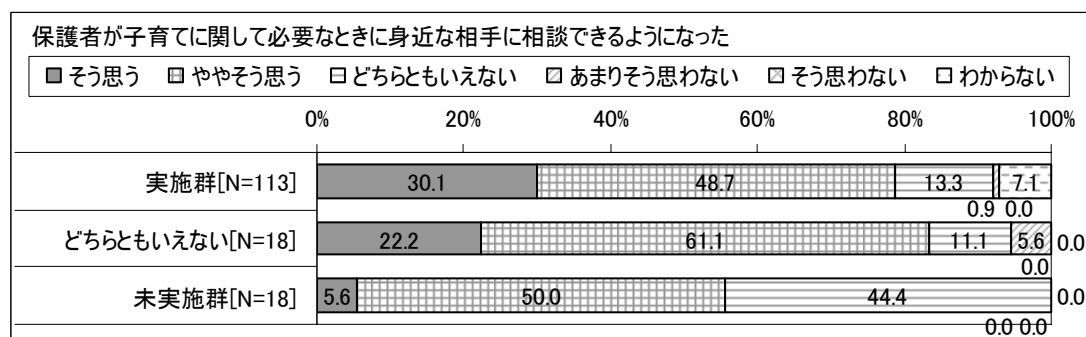
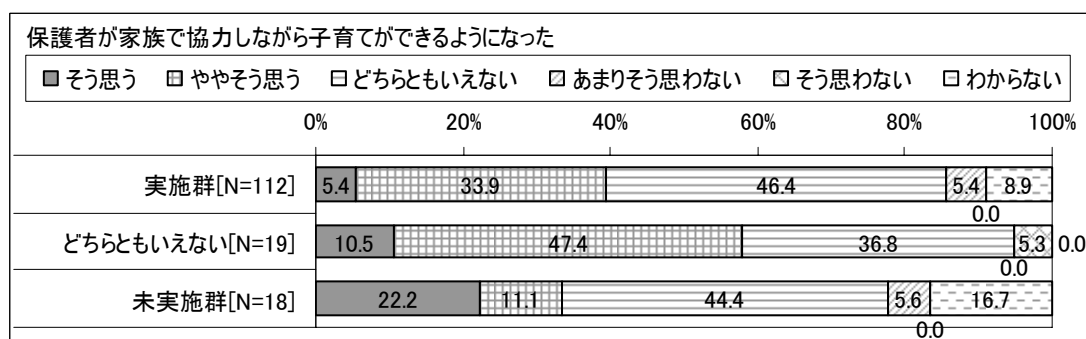
図表 3-114 「多くの保護者が参画できる (支援が届く) よう、活動時間や場所を工夫している」実施有無 × 家庭への効果



図表 3-115 「ワークショップや体験形式など、保護者が楽しく主体的に参画できる内容を取り入れている」
実施有無×家庭への効果



図表 3-116 「企画や実施にあたって、学校の教職員と定期的に意識共有を図っている」実施有無×家庭への効果



2) 学校への効果

【分析の視点】

- a チーム型支援による学校への効果は、支援者等の属性による差があるか
- b チーム型支援による学校への効果は、支援の内容等による差があるか
- c チーム型支援による学校への効果は、取組に係る協力・工夫の実施状況による差があるか

【分析の視点 a】

- チーム型支援による学校への効果は、支援者等の属性による差があるか

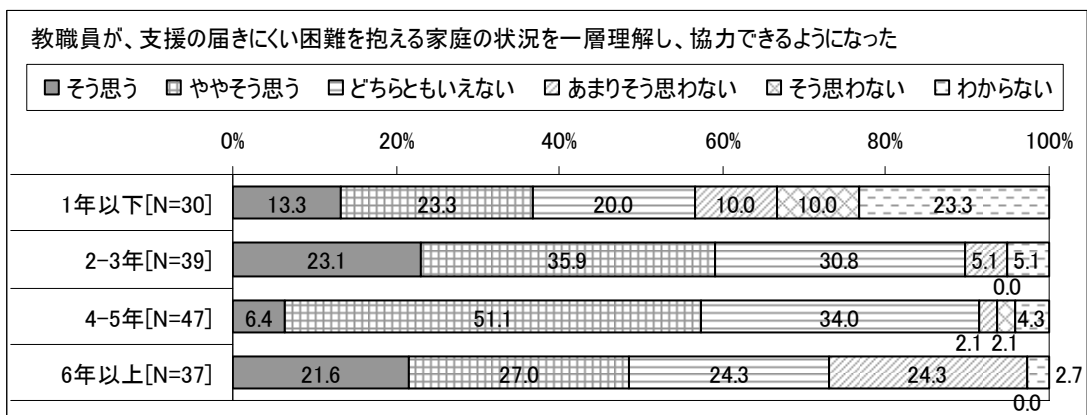
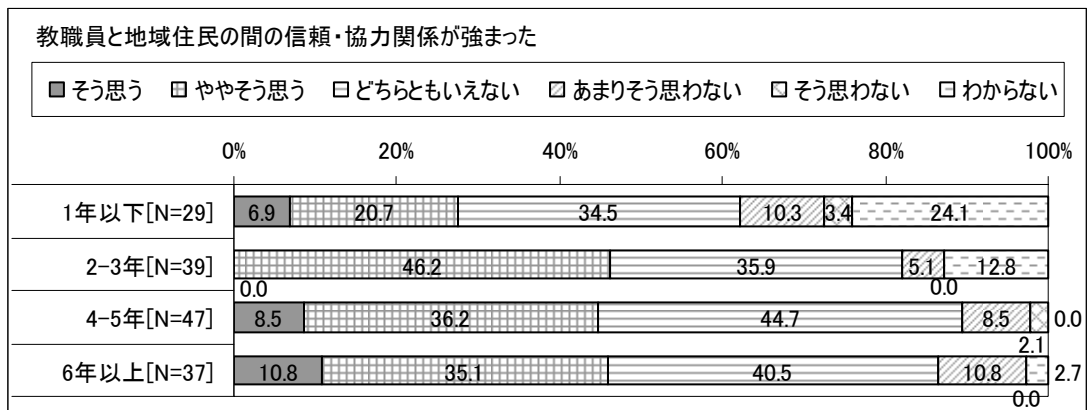
【分析の方法】

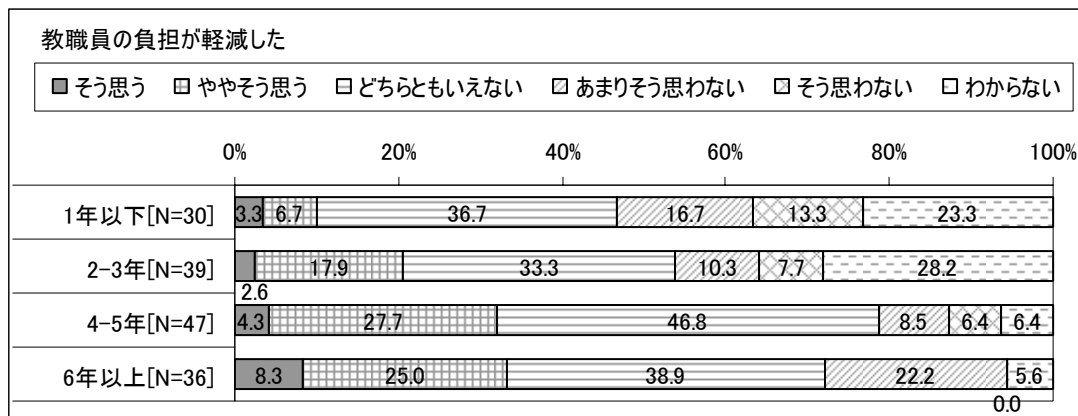
- チーム型支援による学校への直接的な効果 (Q15g-k) について、支援者・企画者の年代 (Q1)、取組期間 (Q4)、研修参加経験 (Q6) 別に比較

【分析結果のポイント】

- 支援者・企画者の年代については、いずれの項目においても有意差は見られない
- 支援者・企画者の取組期間による有意差が見られるのは、「教職員と地域住民の間の信頼・協力関係が強まった」「教職員が、支援の届きにくい困難を抱える家庭の状況を一層理解し、協力できるようになった」「教職員の負担が軽減した」であり、前二者は2-3年がもっとも高く、三点目は6年以上がもっとも高い
- 支援者・企画者の研修参加経験については、いずれの項目においても有意差は見られない

図表 3-117 支援者・企画者の取組期間×学校への効果





【分析の視点 b】

- チーム型支援による学校への効果は、支援の内容等による差があるか

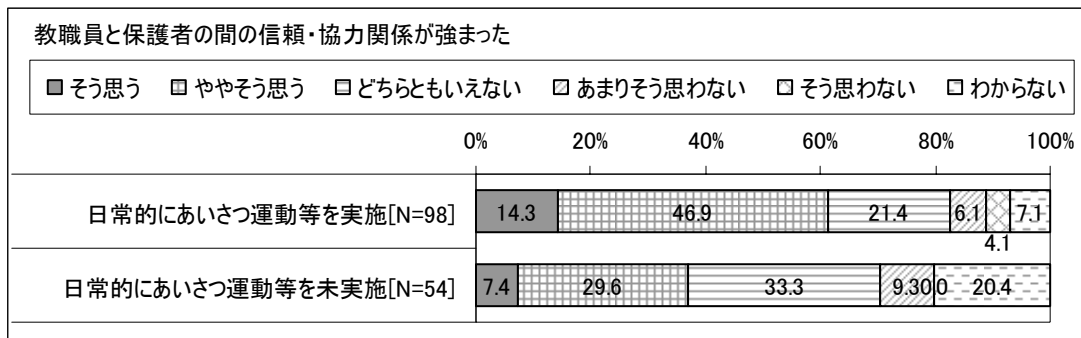
【分析の方法 1】

- チーム型支援による学校への直接的な効果 (Q15g-k) について、取組内容 (Q8) の各項目を実施しているチームと実施していないチームを比較

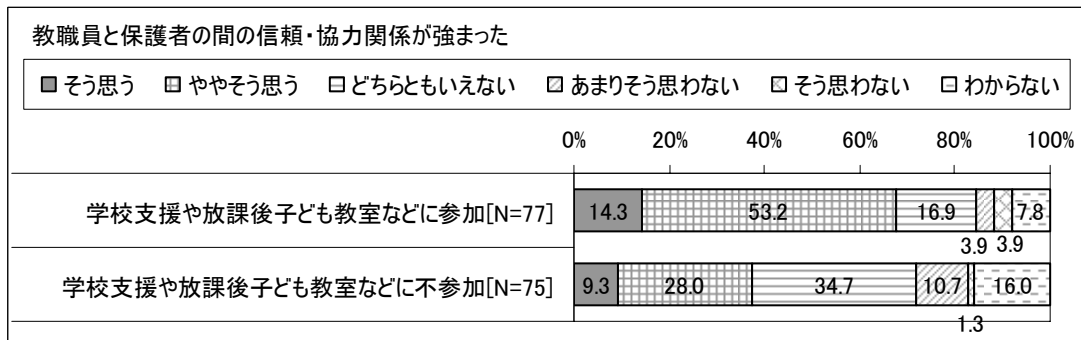
【分析結果のポイント】

- 「日常的にあいさつ運動や見守りを実施している」実施群は未実施群に比して、「教職員と保護者の間の信頼・協力関係が強まった」についての効果が有意に高い
- 「学校支援や放課後子ども教室などにも参加し、子どもとの交流を深めている」実施群は未実施群に比して、「教職員と保護者の間の信頼・協力関係が強まった」についての効果が有意に高い
- 「保護者が自由に交流したり、相談できる場(居場所)を有している」実施群は未実施群に比して、「教職員が、支援の届きにくい困難を抱える家庭の状況を一層理解し、協力できるようになった」についての効果が有意に低いが、「教職員の負担が軽減した」についての効果が有意に高い
- 「保護者がニーズに応じて参加できるイベントや講座、交流の機会を定期的実施している」実施群は未実施群に比して、「教職員の負担が軽減した」についての効果が有意に高い
- 「気になる家庭や、課題が顕在化している家庭の訪問を実施している」実施群は未実施群に比して、「教職員が、支援の届きにくい困難を抱える家庭の状況を一層理解し、協力できるようになった」についての効果が有意に高い
- 「企業への出前講座を行っている」実施群は未実施群に比して、「教職員と保護者の間の信頼・協力関係が強まった」についての効果が有意に高い
- 「保護者が自由に交流したり、相談できる場(居場所)を有している」「概ね全戸の見守り訪問や情報誌の提供を行っている」については、いずれの項目においても実施群と未実施群の間に有意差は見られない

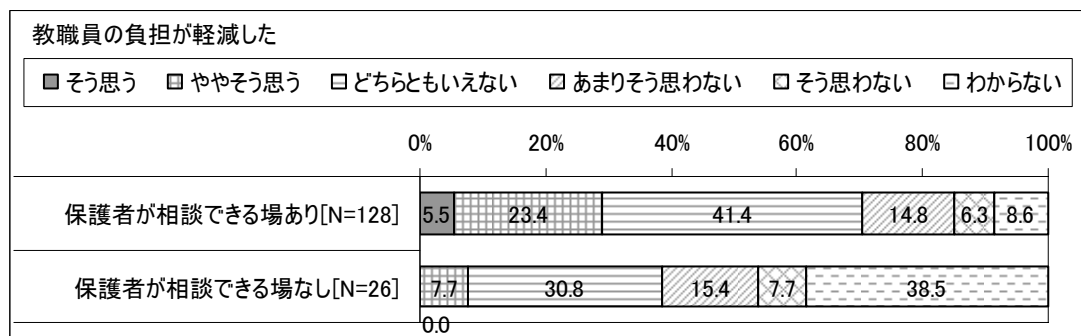
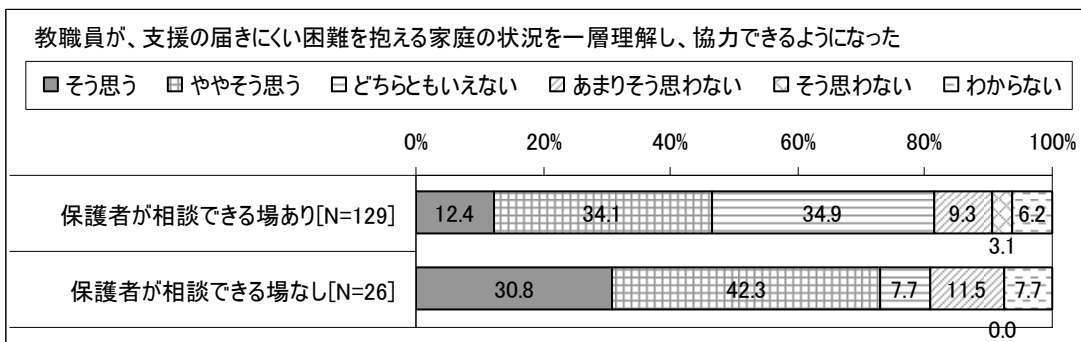
図表 3-118 「日常的にあいさつ運動や見守りを実施している」実施有無×学校への効果



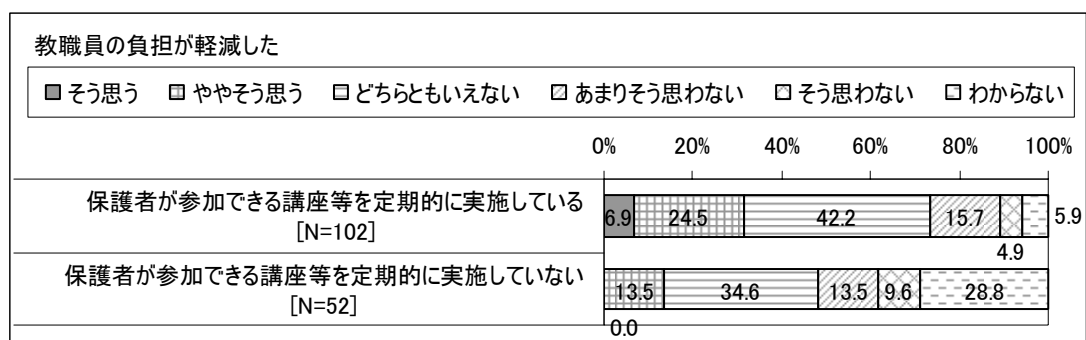
図表 3-119 「学校支援や放課後子ども教室などにも参加し、子どもとの交流を深めている」実施有無×学校への効果



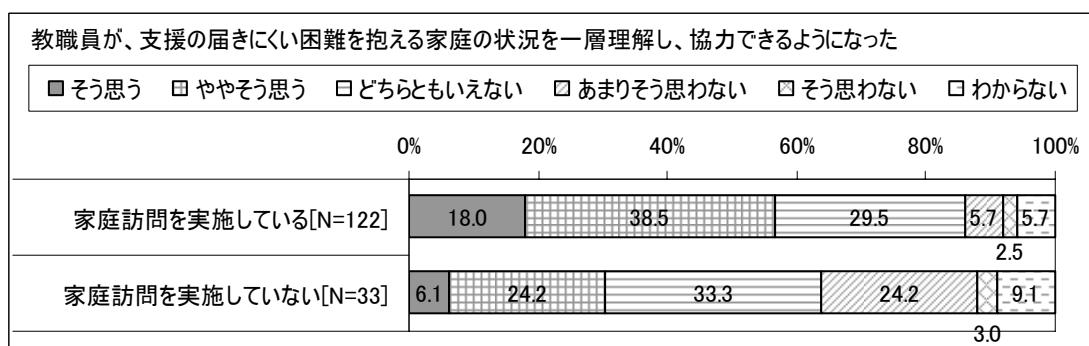
図表 3-120 「保護者が自由に交流したり、相談できる場(居場所)を有している」実施有無×学校への効果



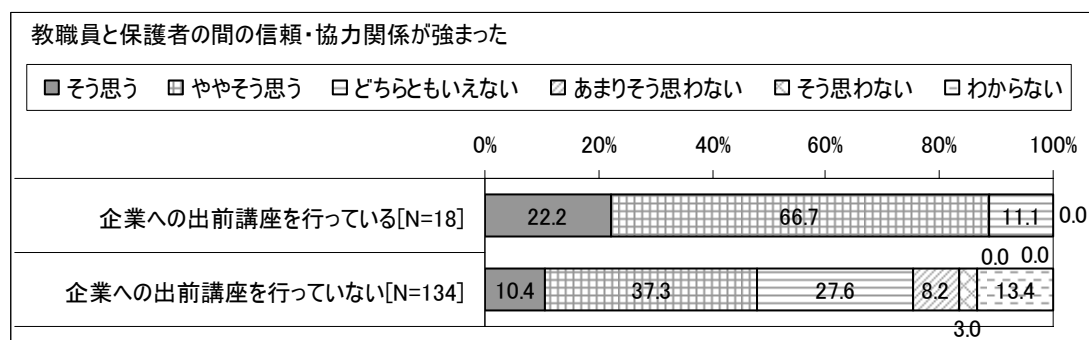
図表 3-121 「保護者がニーズに応じて参加できるイベントや講座、交流の機会を定期的実施している」実施有無×学校への効果



図表 3-122 「気になる家庭や、課題が顕在化している家庭の訪問を実施している」実施有無×学校への効果



図表 3-123 「企業への出前講座を行っている」実施有無×学校への効果



【分析の視点 b】

- チーム型支援による学校への効果は、支援の内容等による差があるか

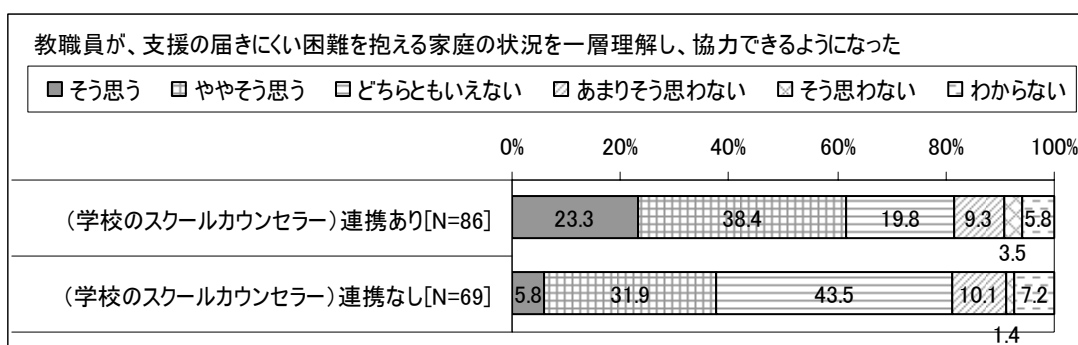
【分析の方法 2】

- チーム型支援による学校への直接的な効果（Q15g-k）について、他の人材・機関と連携しているチームと連携していないチーム（Q11）を比較

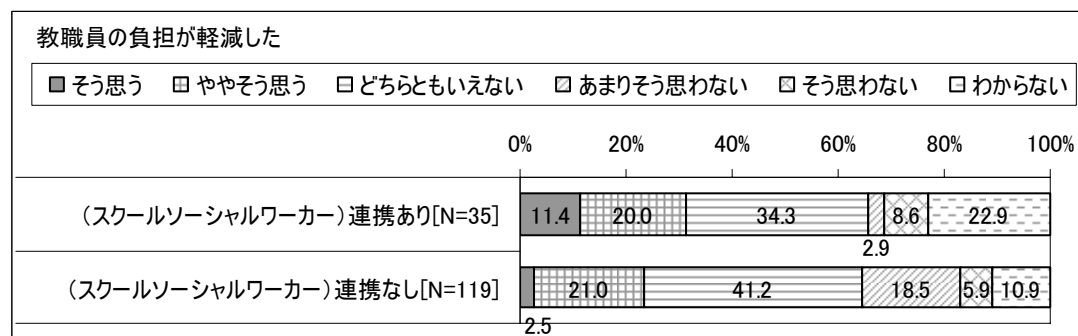
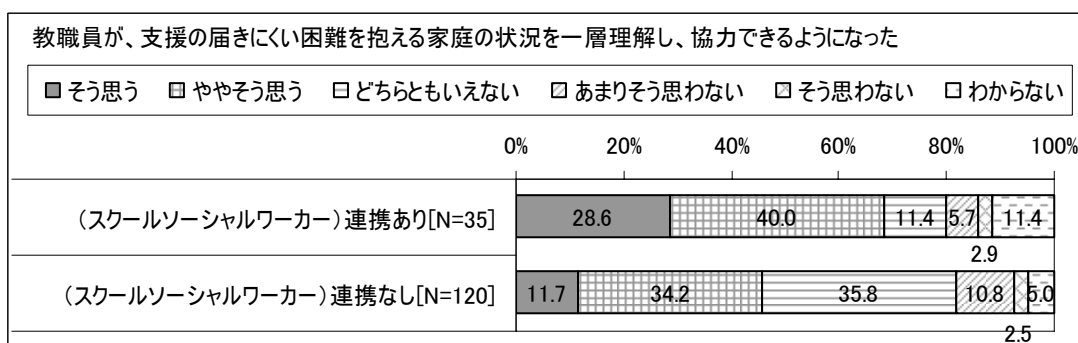
【分析結果のポイント】

- 「学校のスクールカウンセラー」と連携しているチームはしていないチームに比して、「教職員が、支援の届きにくい困難を抱える家庭の状況を一層理解し、協力できるようになった」についての効果が有意に高い
- 「スクールソーシャルワーカー」と連携しているチームはしていないチームに比して、「教職員が、支援の届きにくい困難を抱える家庭の状況を一層理解し、協力できるようになった」「教職員の負担が軽減した」についての効果が有意に高い

図表 3-124 「学校のスクールカウンセラー」との連携有無 × 学校への効果



図表 3-125 「スクールソーシャルワーカー」との連携有無 × 学校への効果



【分析の視点 c】

- チーム型支援による学校への効果は、取組に係る協力・工夫の実施状況による差があるか

【分析の方法】

- チーム型支援による学校への直接的な効果 (Q15g-k) について、取組に係る協力・工夫 (Q13) の各項目を実施している学校 (実施群) と実施していない学校 (未実施群) を比較

【分析結果のポイント】

- いずれの協力・工夫についても、実施群と未実施群の間に有意差は見られない

3) 地域への効果

【分析の視点】

- a チーム型支援による地域への効果は、支援者等の属性による差があるか
- b チーム型支援による地域への効果は、支援の内容等による差があるか
- c チーム型支援による地域への効果は、取組に係る協力・工夫の実施状況による差があるか

【分析の視点 a】

- チーム型支援による地域への効果は、支援者等の属性による差があるか

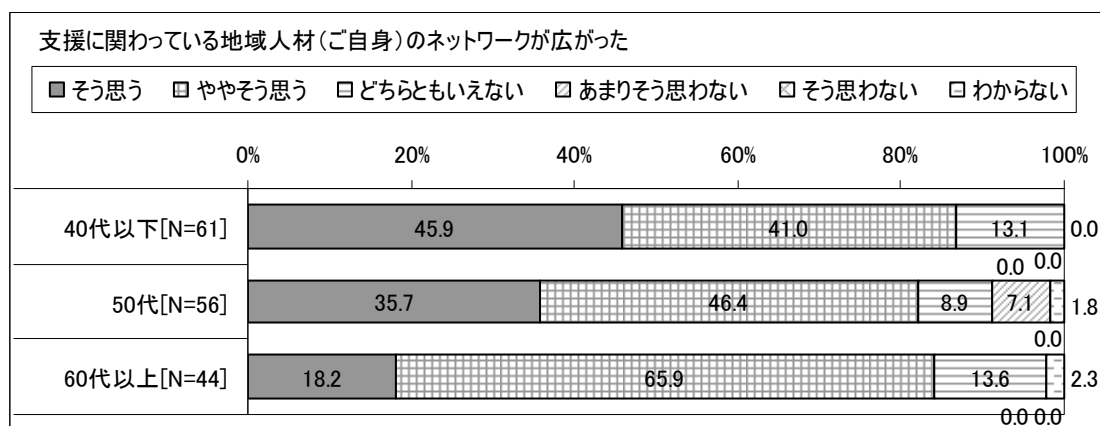
【分析の方法】

- チーム型支援による地域への直接的な効果 (Q151-p) について、支援者・企画者の年代 (Q1)、取組期間 (Q4)、研修参加経験 (Q6) 別に比較

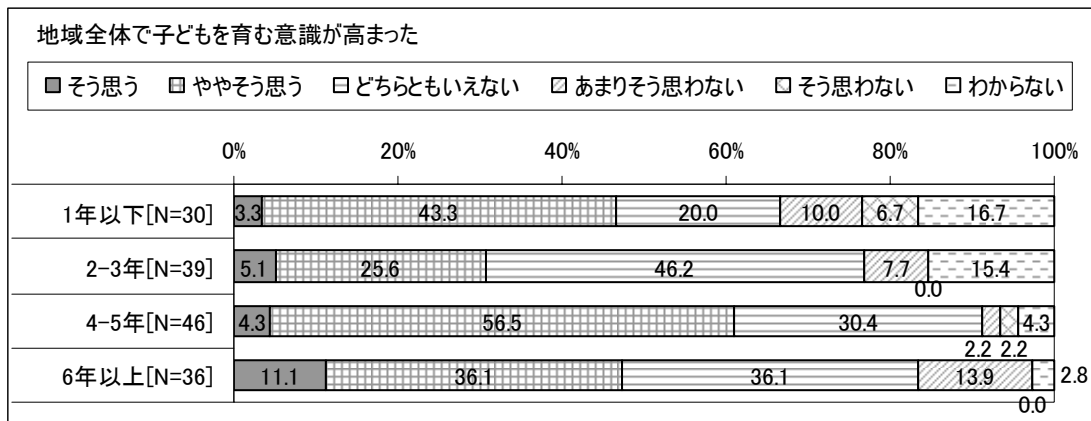
【分析結果のポイント】

- 支援者・企画者の年代による有意差が見られるのは、「支援に関わっている地域人材（ご自身）のネットワークが広がった」であり、40代以下がもっとも高い
- 支援者・企画者の取組期間による有意差が見られるのは、「地域全体で子どもを育む意識が高まった」であり、4-5年がもっとも高い
- 支援者・企画者の研修参加経験による有意差が見られるのは、「支援に関わっている地域人材（ご自身）のネットワークが広がった」であり、5回以上がもっとも高い

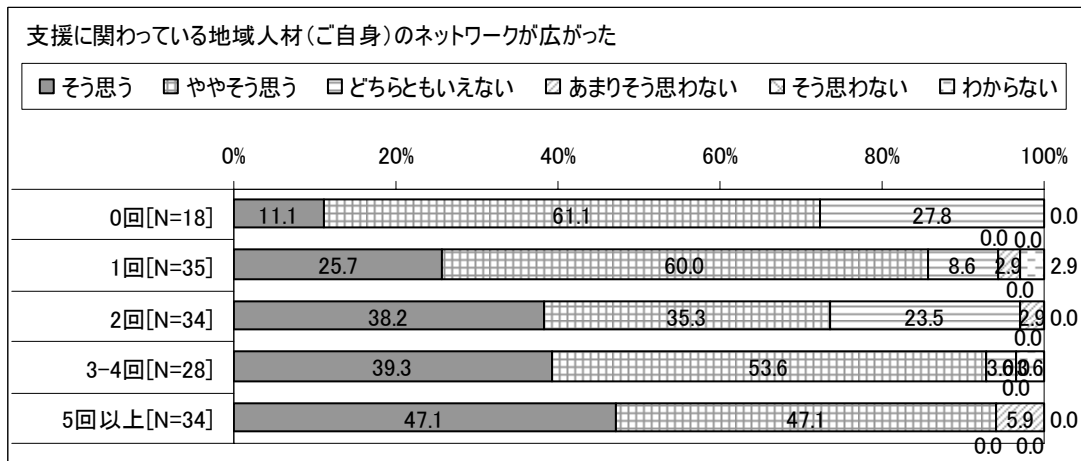
図表 3-126 支援者・企画者の年代×地域への効果



図表 3-127 支援者・企画者の取組期間×地域への効果



図表 3-128 支援者・企画者の研修参加経験×地域への効果



【分析の視点 b】

- チーム型支援による地域への効果は、支援の内容等による差があるか

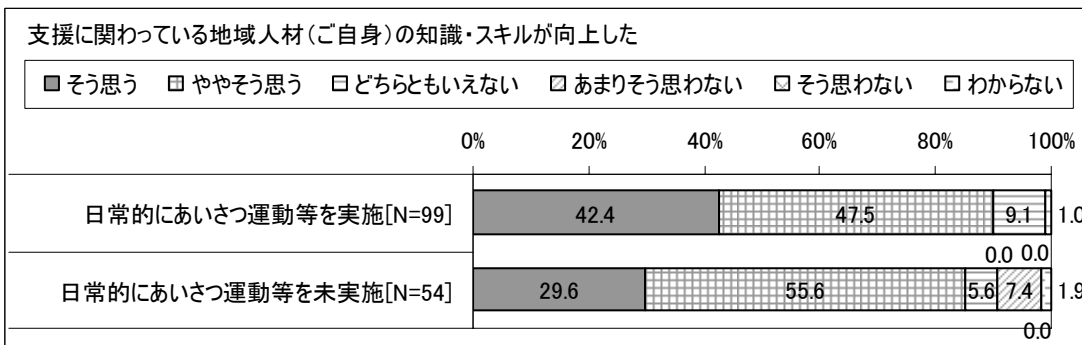
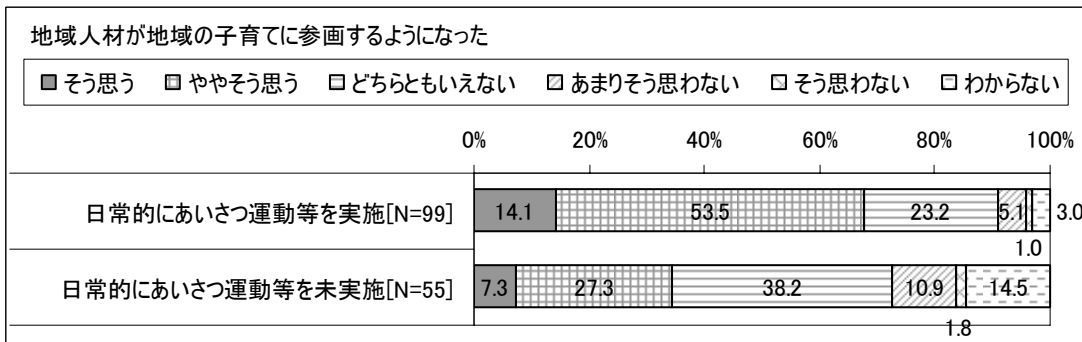
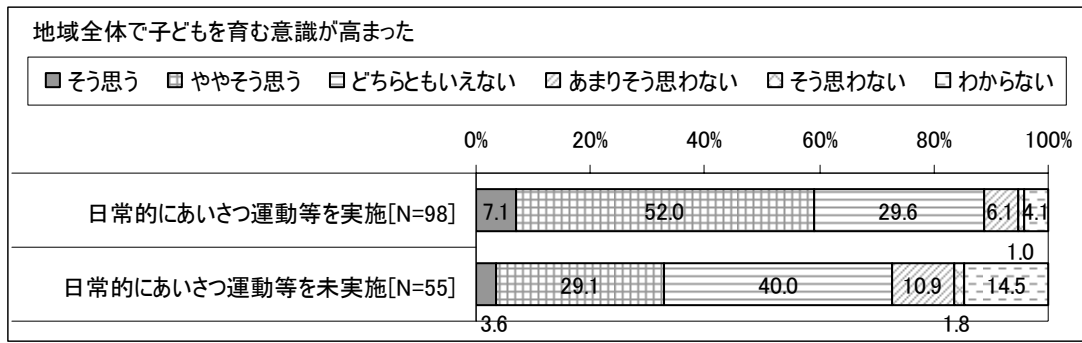
【分析の方法 1】

- チーム型支援による地域への直接的な効果 (Q151-p) について、取組内容 (Q8) の各項目を実施しているチームと実施していないチームを比較

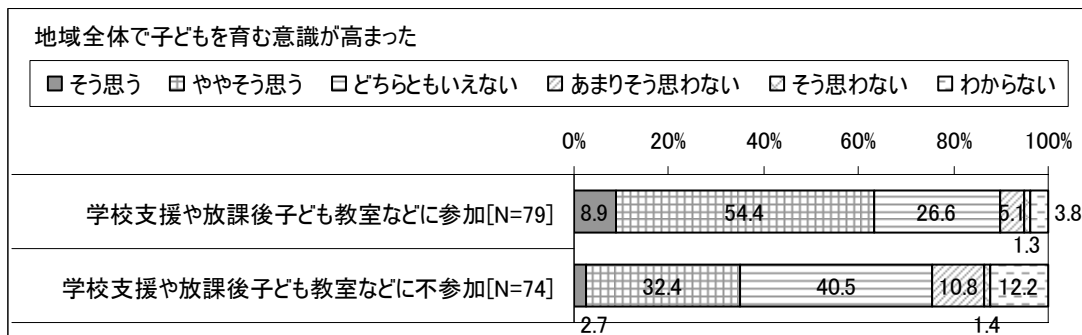
【分析結果のポイント】

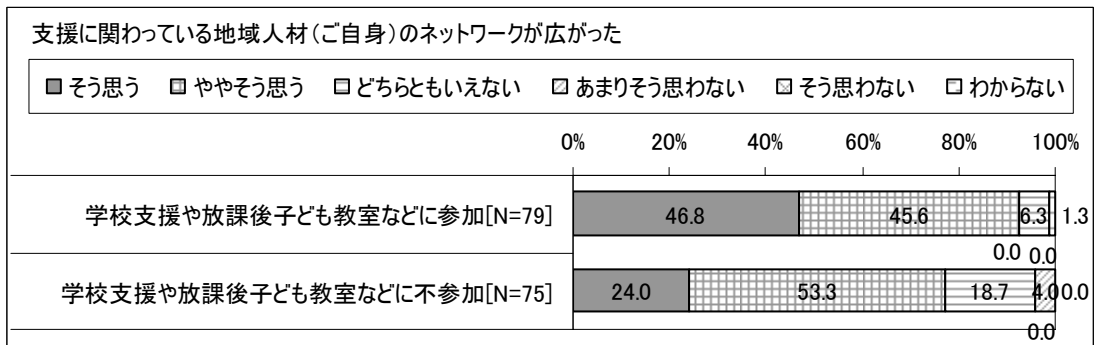
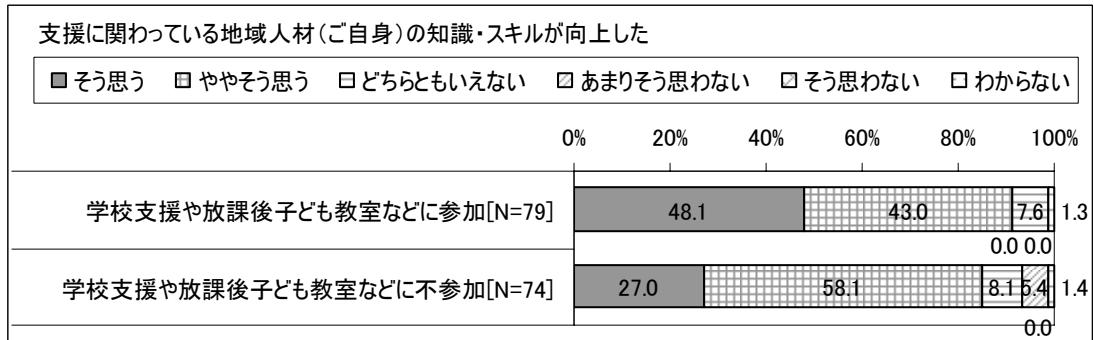
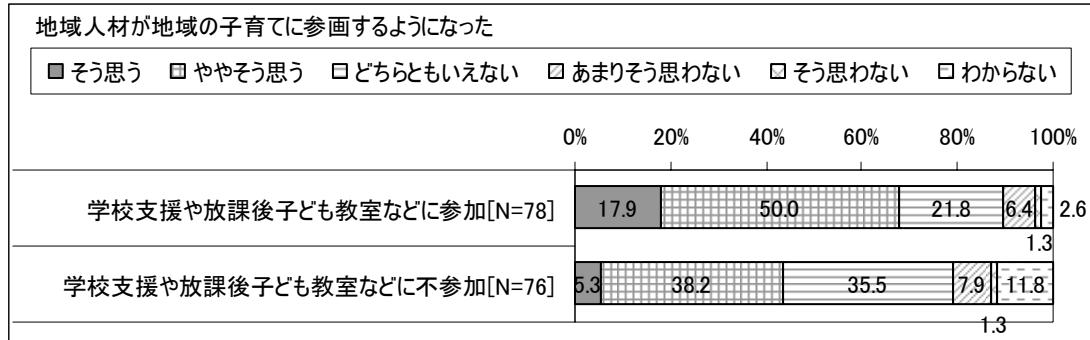
- 「日常的にあいさつ運動や見守りを実施している」実施群は未実施群に比して、「地域全体で子どもを育む意識が高まった」「地域人材が地域の子育てに参画するようになった」「支援に関わっている地域人材（ご自身）の知識・スキルが向上した」についての効果が有意に高い
- 「学校支援や放課後子ども教室などにも参加し、子どもとの交流を深めている」実施群は未実施群に比して、「地域全体で子どもを育む意識が高まった」「地域人材が地域の子育てに参画するようになった」「支援に関わっている地域人材（ご自身）の知識・スキルが向上した」「支援に関わっている地域人材（ご自身）のネットワークが広がった」についての効果が有意に高い
- 「保護者が自由に交流したり、相談できる場（居場所）を有している」実施群は未実施群に比して、「支援に関わっている地域人材（ご自身）の知識・スキルが向上した」「支援に関わっている地域人材（ご自身）のネットワークが広がった」についての効果が有意に高い
- 「保護者がニーズに応じて参加できるイベントや講座、交流の機会を定期的実施している」実施群は未実施群に比して、「地域の中で子育てに関わる知識・スキルを有する人材が増えた」「支援に関わっている地域人材（ご自身）の知識・スキルが向上した」「支援に関わっている地域人材（ご自身）の生きがいが強まった」についての効果が有意に高い
- 「気になる家庭や、課題が顕在化している家庭の訪問を実施している」実施群は未実施群に比して、「地域全体で子どもを育む意識が高まった」「地域の中で子育てに関わる知識・スキルを有する人材が増えた」「地域人材が地域の子育てに参画するようになった」「支援に関わっている地域人材（ご自身）の知識・スキルが向上した」「支援に関わっている地域人材（ご自身）のネットワークが広がった」「支援に関わっている地域人材（ご自身）の生きがいが強まった」についての効果が有意に高い
- 「概ね全戸の見守り訪問や情報誌の提供を行っている」「企業への出前講座を行っている」については、いずれの項目においても実施群と未実施群の間に有意差は見られない

図表 3-129 「日常的にあいさつ運動や見守りを実施している」実施有無×地域への効果

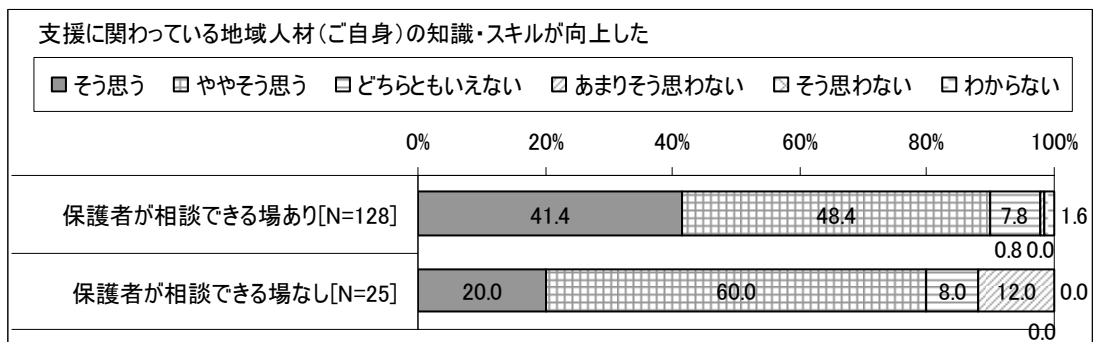


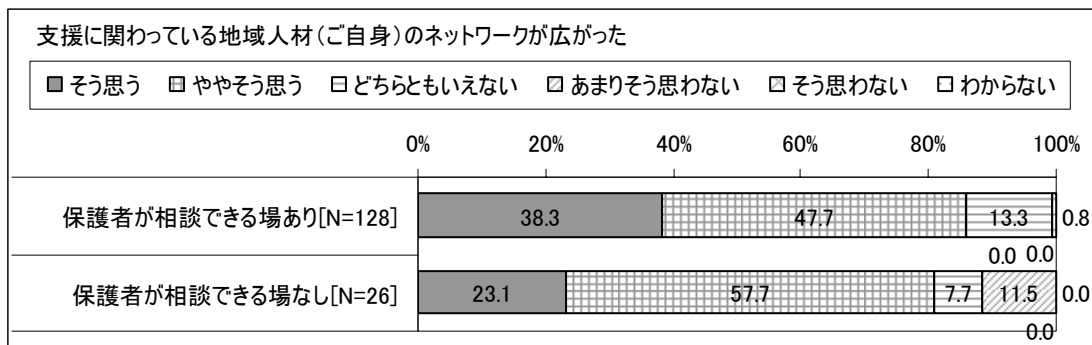
図表 3-130 「学校支援や放課後子ども教室などにも参加し、子どもとの交流を深めている」実施有無×地域への効果



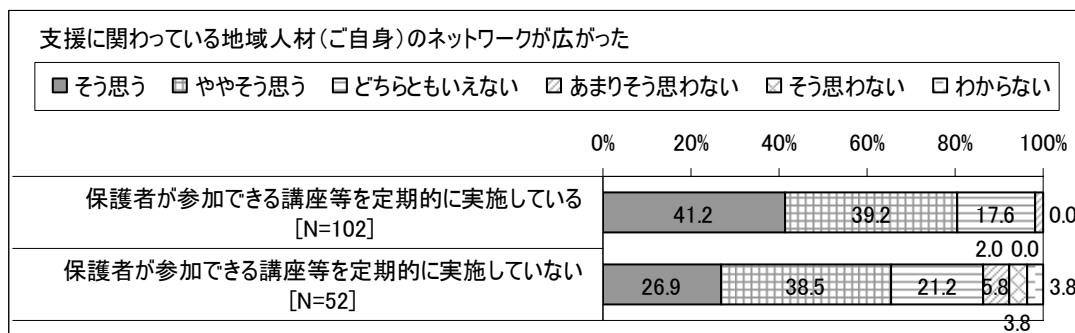
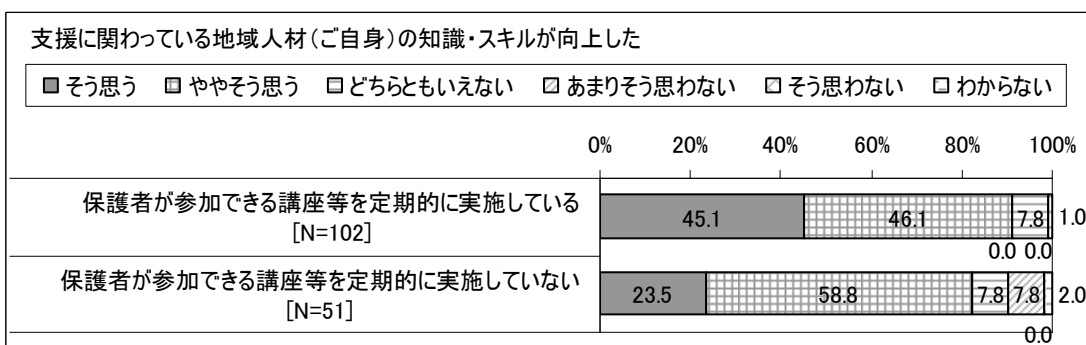
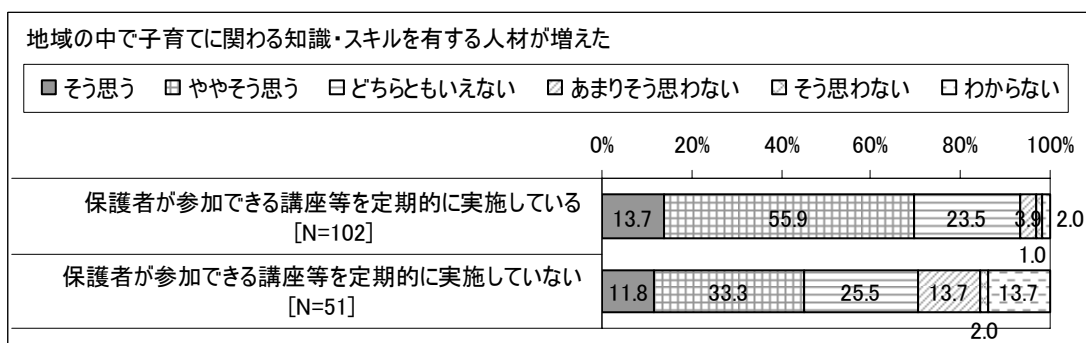


図表 3-131 「保護者が自由に交流したり、相談できる場(居場所)を有している」実施有無×地域への効果

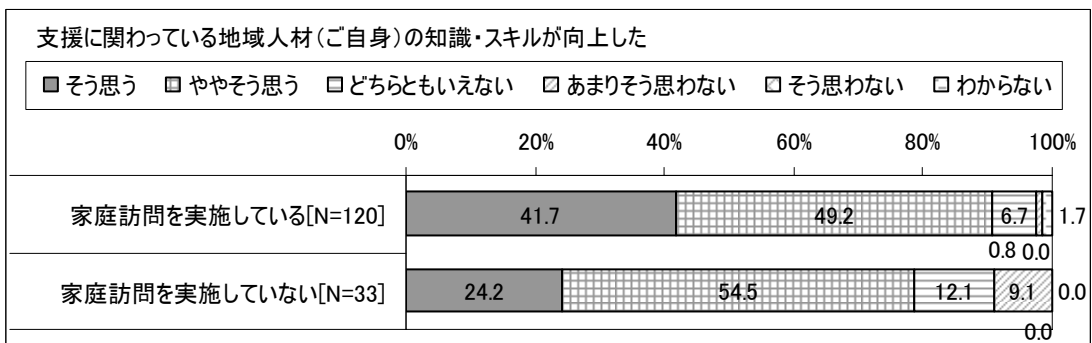
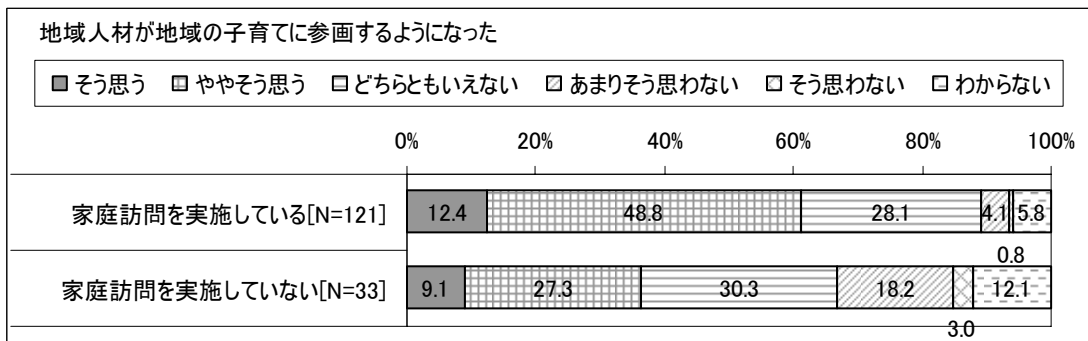
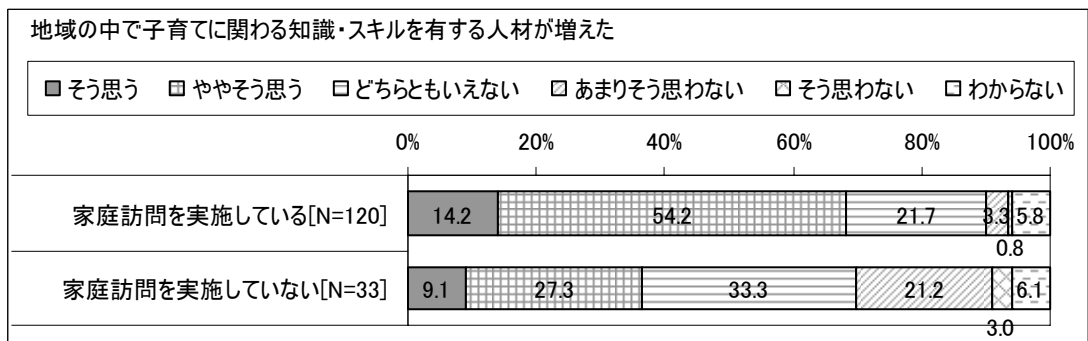
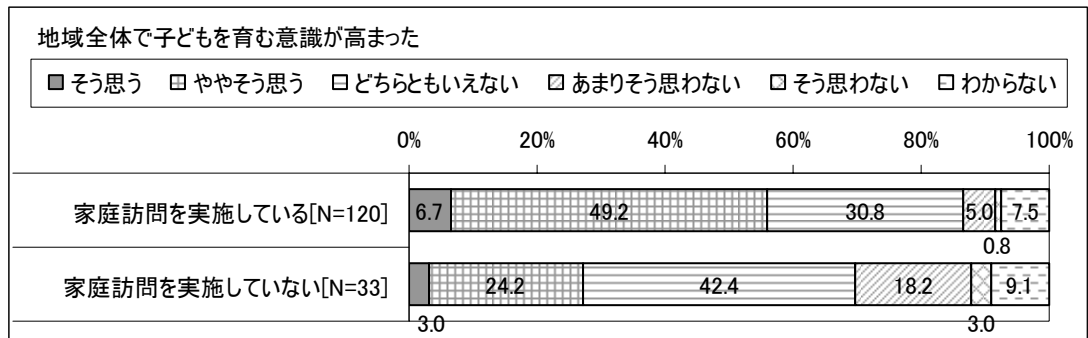


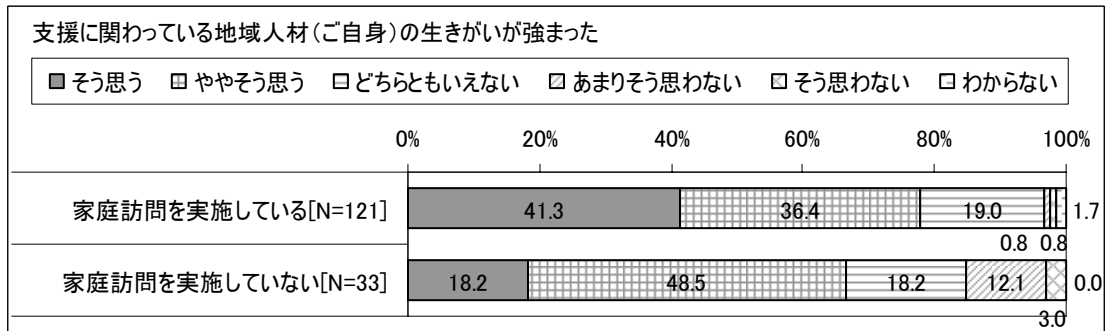
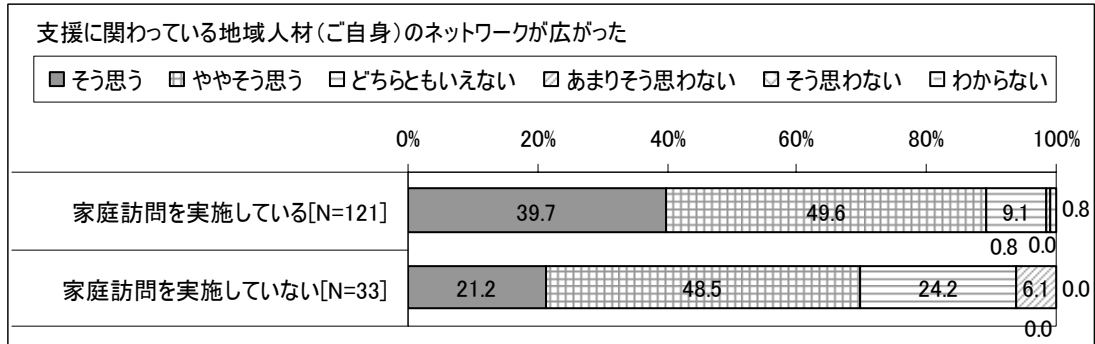


図表 3-132 「保護者がニーズに応じて参加できるイベントや講座、交流の機会を定期的実施している」
実施有無×地域への効果



図表 3-133 「気になる家庭や、課題が顕在化している家庭の訪問を実施している」実施有無×地域への効果





【分析の視点 b】

- チーム型支援による地域への効果は、支援の内容等による差があるか

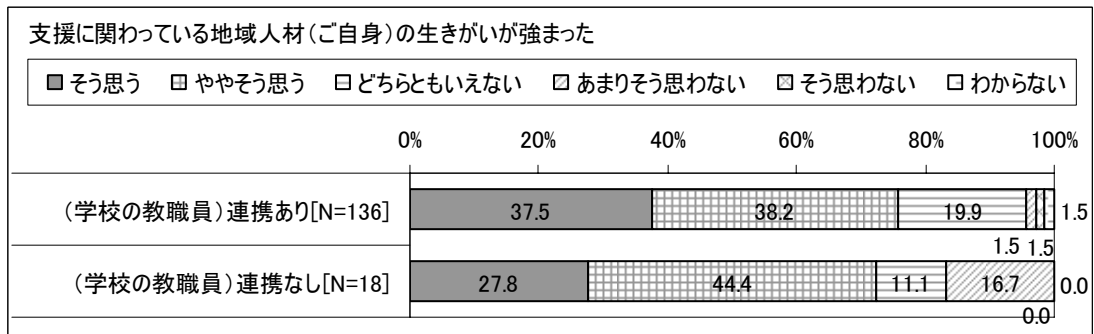
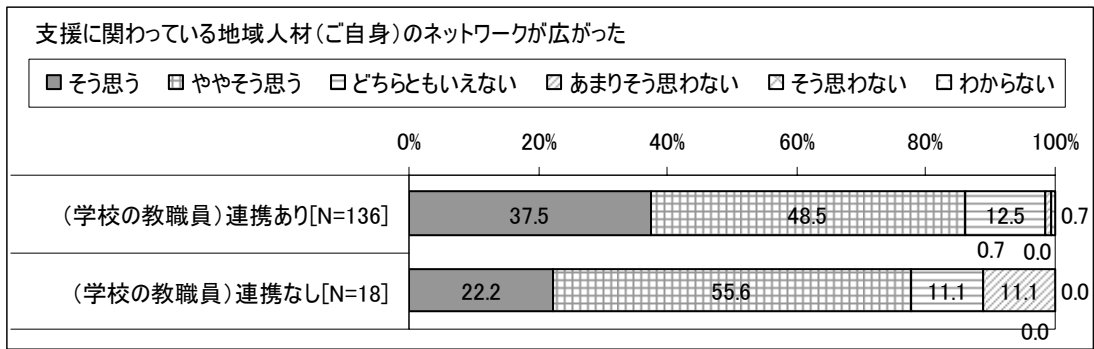
【分析の方法 2】

- チーム型支援による地域への直接的な効果 (Q151-p) について、他の人材・機関と連携しているチームと連携していないチーム (Q11) を比較

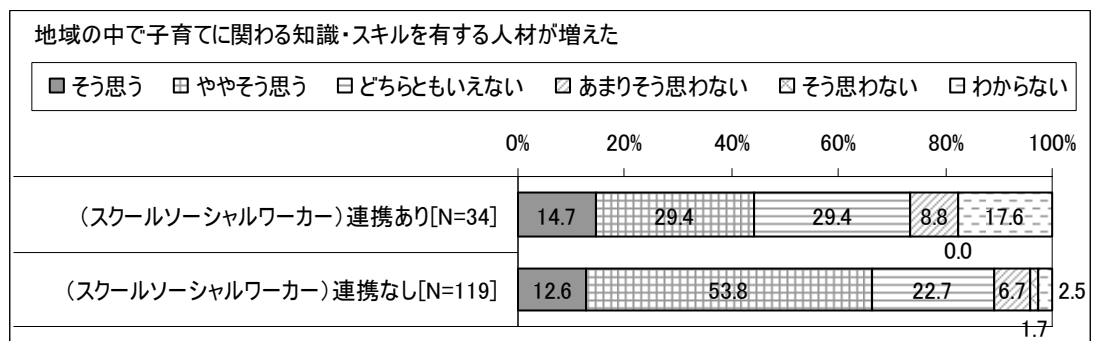
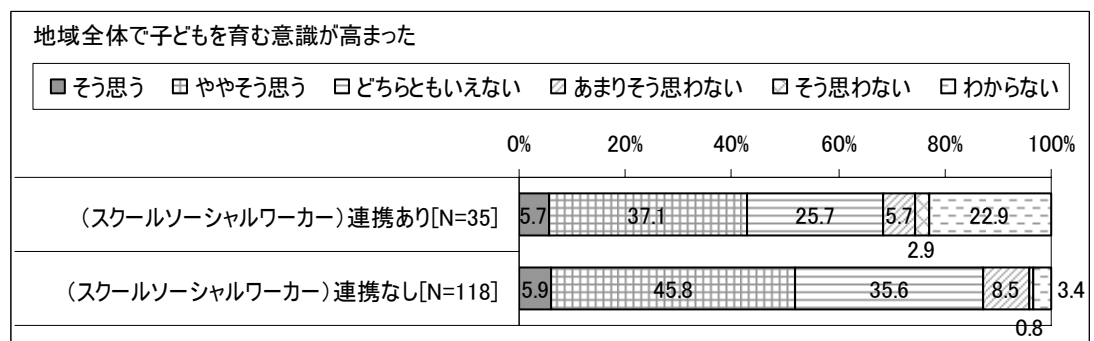
【分析結果のポイント】

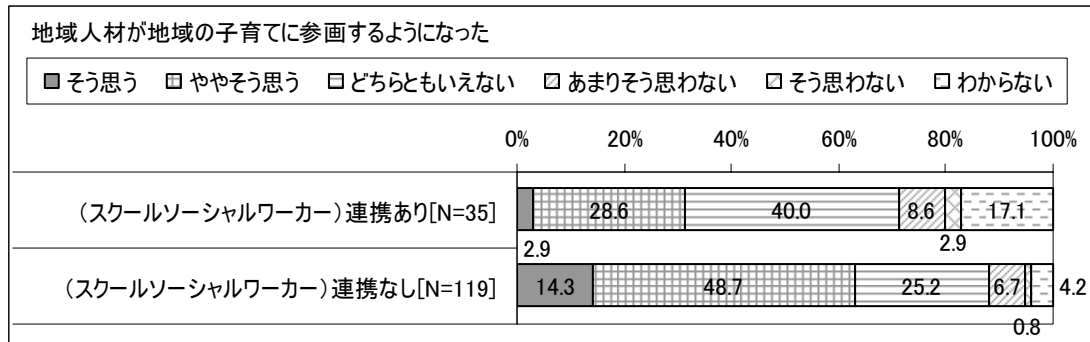
- 「学校の教職員」と連携しているチームはしていないチームに比して、「支援に関わっている地域人材(ご自身)のネットワークが広がった」「支援に関わっている地域人材(ご自身)の生きがいが強まった」についての効果が有意に高い
- 「スクールソーシャルワーカー」と連携しているチームはしていないチームに比して、「地域全体で子どもを育む意識が高まった」「地域の中で子育てに関わる知識・スキルを有する人材が増えた」「地域人材が地域の子育てに参画するようになった」についての効果が有意に低い

図表 3-134 「学校の教職員」との連携有無×地域への効果



図表 3-135 「スクールソーシャルワーカー」との連携有無×地域への効果





【分析の視点 c】

- チーム型支援による地域への効果は、取組に係る協力・工夫の実施状況による差があるか

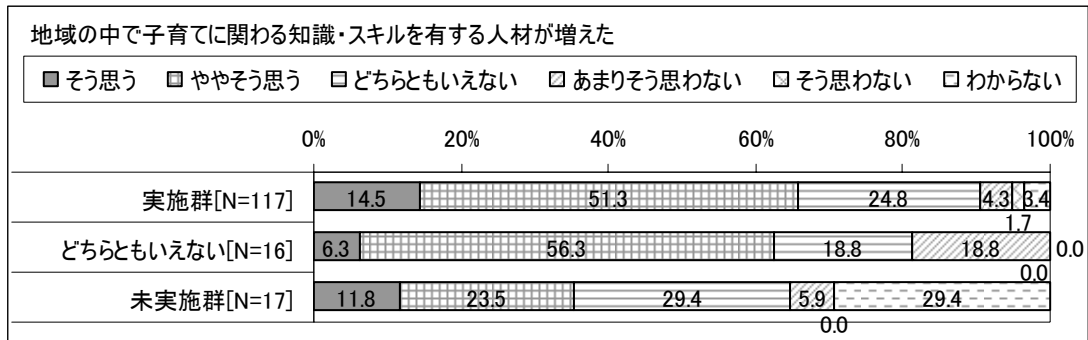
【分析の方法】

- チーム型支援による地域への直接的な効果 (Q151-p) について、取組に係る協力・工夫 (Q13) の各項目を実施している学校 (実施群) と実施していない学校 (未実施群) を比較

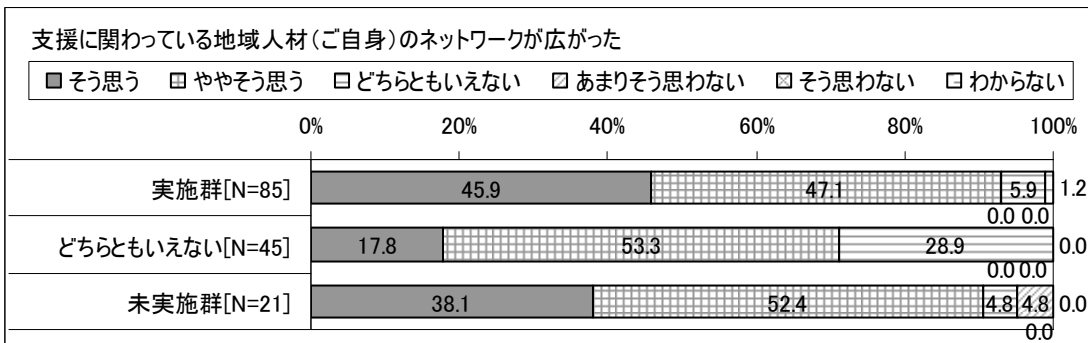
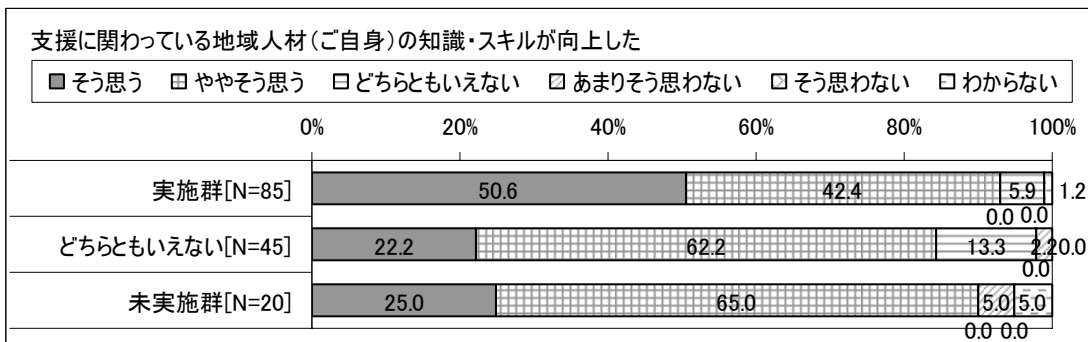
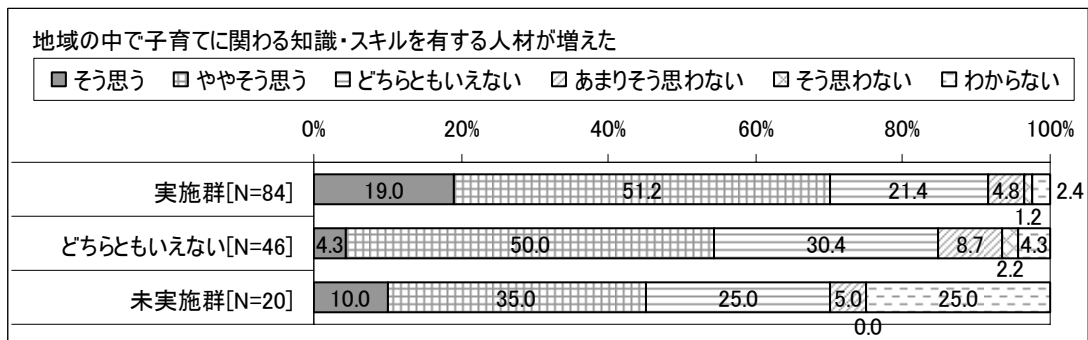
【分析結果のポイント】

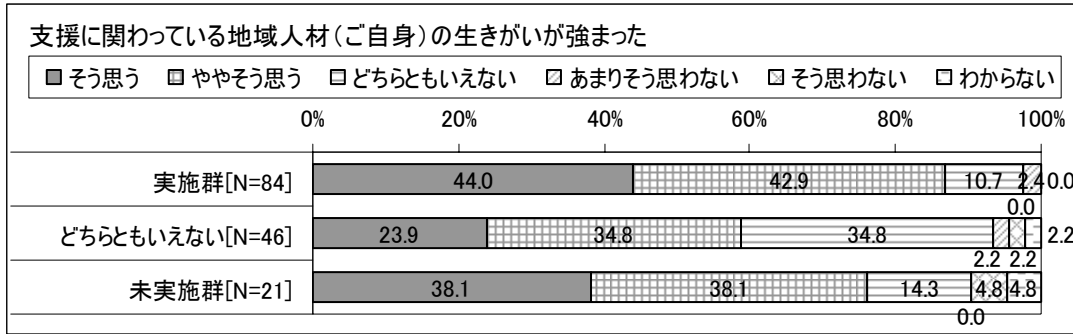
- 「多くの保護者が参画できる (支援が届く) よう、活動時間や場所を工夫している」実施群は未実施群に比して、「地域の中で子育てに関わる知識・スキルを有する人材が増えた」についての効果が有意に高い
- 「ワークショップや体験形式など、保護者が楽しく主体的に参画できる内容を取り入れている」実施群は未実施群に比して、「地域の中で子育てに関わる知識・スキルを有する人材が増えた」「支援に関わっている地域人材 (ご自身) の知識・スキルが向上した」「支援に関わっている地域人材 (ご自身) のネットワークが広がった」「支援に関わっている地域人材 (ご自身) の生きがいが強まった」についての効果が有意に高い
- 「企画や実施にあたって、学校の教職員と定期的に意識共有を図っている」実施群は未実施群に比して、「支援に関わっている地域人材 (ご自身) の知識・スキルが向上した」「支援に関わっている地域人材 (ご自身) の生きがいが強まった」についての効果が有意に高い

図表 3-136 「多くの保護者が参画できる(支援が届く)よう、活動時間や場所を工夫している」との連携有無×地域への効果

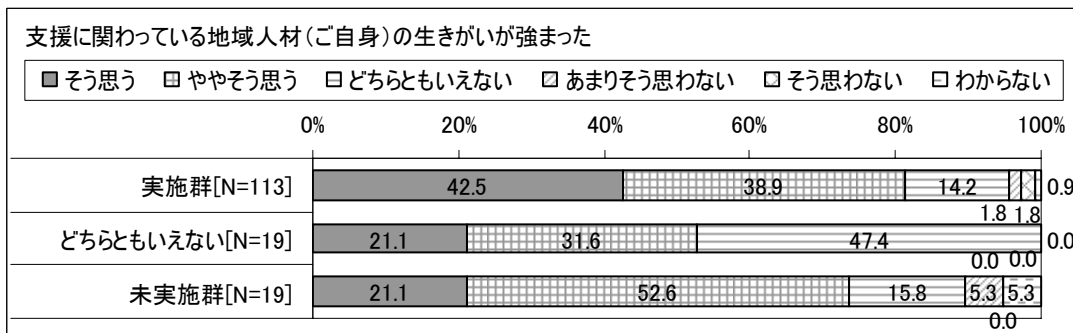
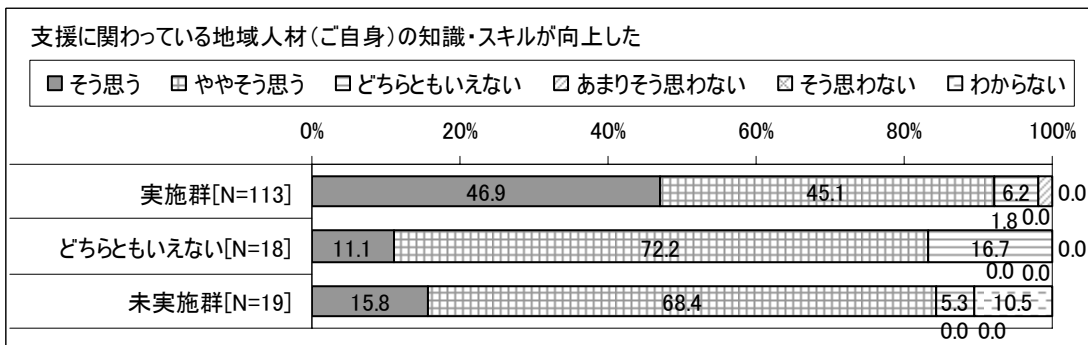


図表 3-137 「ワークショップや体験形式など、保護者が楽しく主体的に参画できる内容を取り入れている」との連携有無×地域への効果





図表 3-138 「企画や実施にあたって、学校の教職員と定期的に意識共有を図っている」との連携有無×地域への効果



4) 問題の予防・解決への効果

- 【分析の視点】
- a チーム型支援による問題の予防・解決への効果は、支援者等の属性による差があるか
 - b チーム型支援による問題の予防・解決への効果は、支援の内容等による差があるか
 - c チーム型支援による問題の予防・解決への効果は、取組に係る協力・工夫の実施状況による差があるか

【分析の視点 a】

- チーム型支援による問題の予防・解決への効果は、支援者等の属性による差があるか

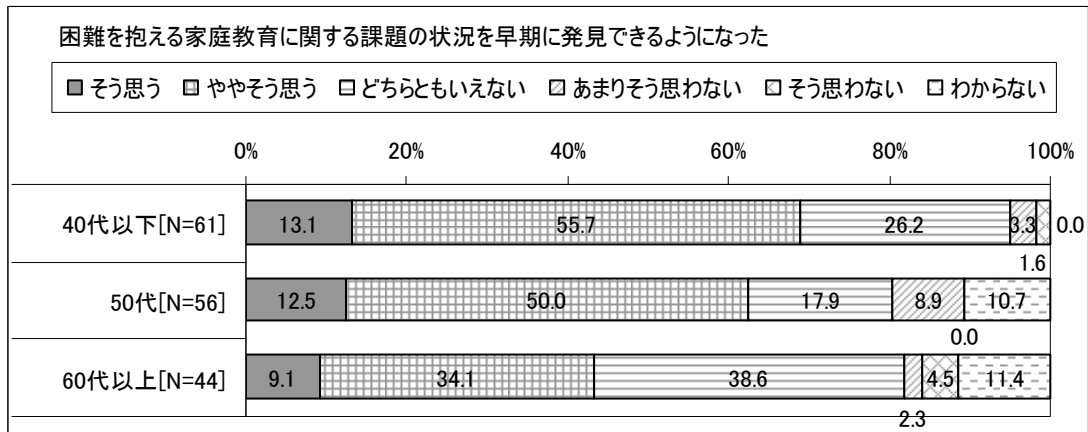
【分析の方法】

- チーム型支援による問題の予防・解決への直接的な効果 (Q15q-v) について、支援者・企画者の年代 (Q1)、取組期間 (Q4)、研修参加経験 (Q6) 別に比較

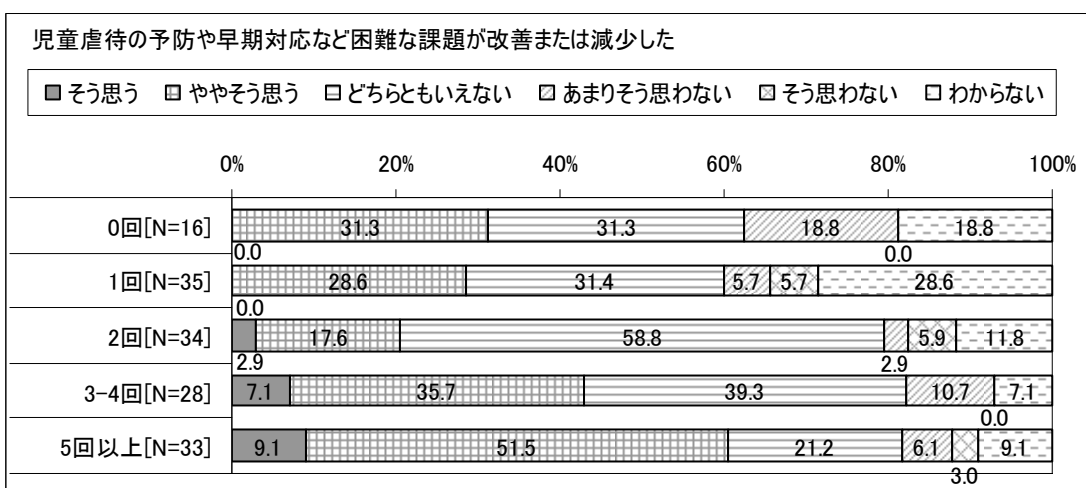
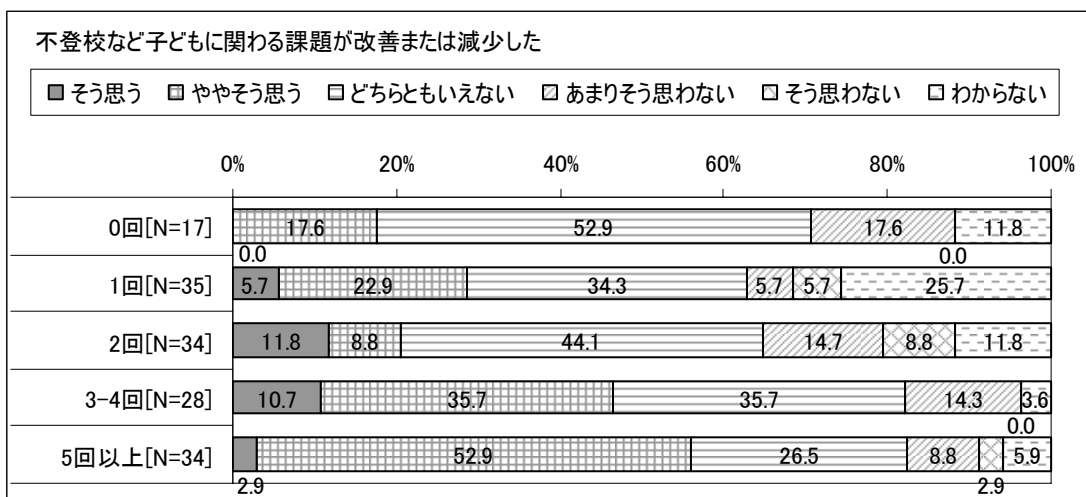
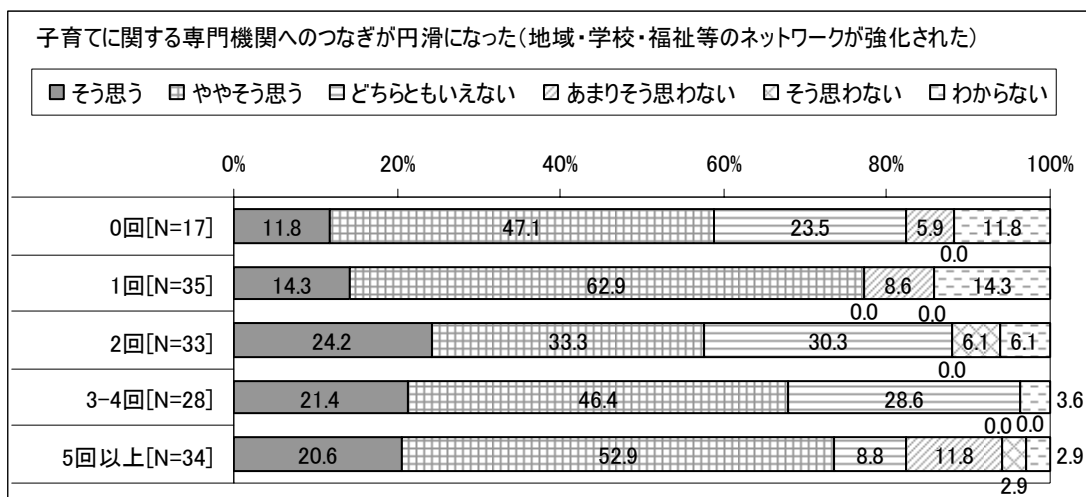
【分析結果のポイント】

- 支援者・企画者の年代による有意差が見られるのは、「困難を抱える家庭教育に関する課題の状況を早期に発見できるようになった」であり、40代以下がもっとも高い
- 支援者・企画者の取組期間については、いずれの項目においても有意差は見られない
- 支援者・企画者の研修参加経験による有意差が見られるのは、「育てに関する専門機関へのつながりが円滑になった(地域・学校・福祉等のネットワークが強化された)」「不登校など子どもに関わる課題が改善または減少した」「児童虐待の予防や早期対応など困難な課題が改善または減少した」であり、前者は1回がもっとも高く、後二者は5回以上がもっとも高い

図表 3-139 支援者・企画者の年代×問題の予防・解決への効果



図表 3-140 支援者・企画者の研修参加経験×問題の予防・解決への効果



【分析の視点 b】

- チーム型支援による問題の予防・解決への効果は、支援の内容等による差があるか

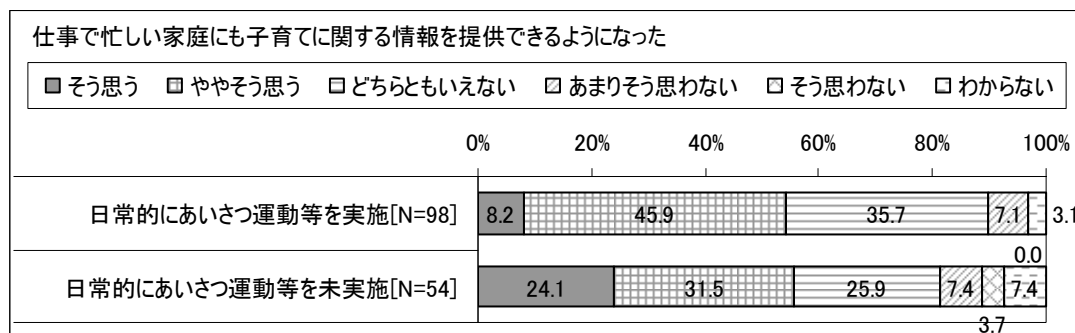
【分析の方法 1】

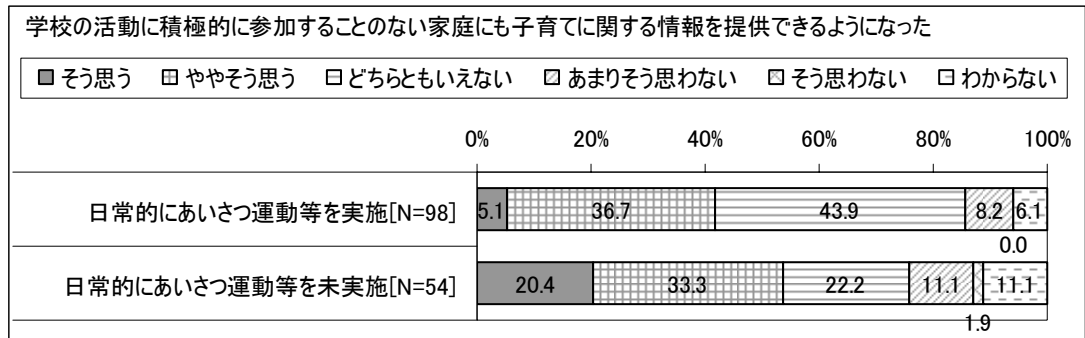
- チーム型支援による問題の予防・解決への直接的な効果 (Q15q-v) について、取組内容 (Q8) の各項目を実施しているチームと実施していないチームを比較

【分析結果のポイント】

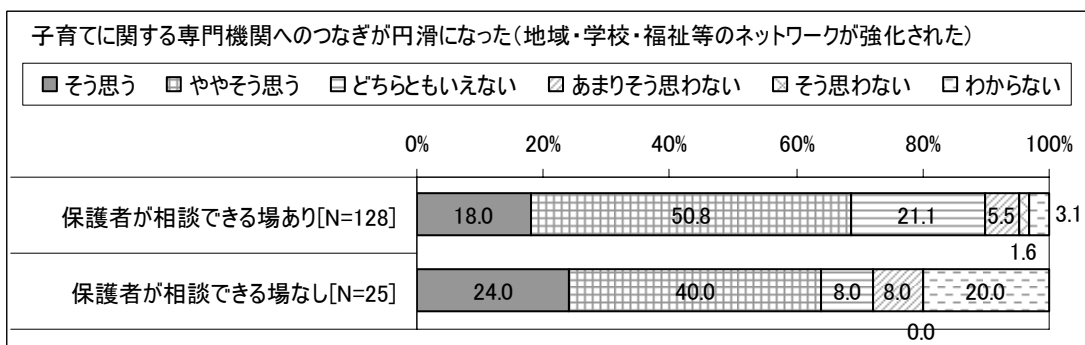
- 「日常的にあいさつ運動や見守りを実施している」実施群は未実施群に比して、「仕事で忙しい家庭にも子育てに関する情報を提供できるようになった」「学校の活動に積極的に参加することのない家庭にも子育てに関する情報を提供できるようになった」についての効果が有意に低い
- 「保護者が自由に交流したり、相談できる場(居場所)を有している」実施群は未実施群に比して、「子育てに関する専門機関へのつながりが円滑になった(地域・学校・福祉等のネットワークが強化された)」についての効果が有意に高い
- 「概ね全戸の見守り訪問や情報誌の提供を行っている」実施群は未実施群に比して、「仕事で忙しい家庭にも子育てに関する情報を提供できるようになった」「学校の活動に積極的に参加することのない家庭にも子育てに関する情報を提供できるようになった」についての効果が有意に高く、「不登校など子どもに関わる課題が改善または減少した」についての効果が有意に低い
- 「気になる家庭や、課題が顕在化している家庭の訪問を実施している」実施群は未実施群に比して、「学校の活動に積極的に参加することのない家庭にも子育てに関する情報を提供できるようになった」「子育てに関する専門機関へのつながりが円滑になった(地域・学校・福祉等のネットワークが強化された)」についての効果が有意に高い
- 「学校支援や放課後子ども教室などにも参加し、子どもとの交流を深めている」「保護者がニーズに応じて参加できるイベントや講座、交流の機会を定期的実施している」「企業への出前講座を行っている」については、いずれの項目においても実施群と未実施群の間に有意差は見られない

図表 3-141 「日常的にあいさつ運動や見守りを実施している」実施有無 × 問題の予防・解決への効果

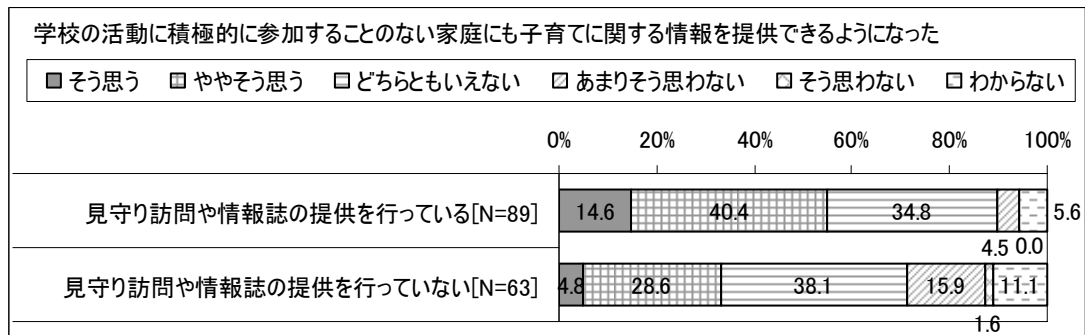
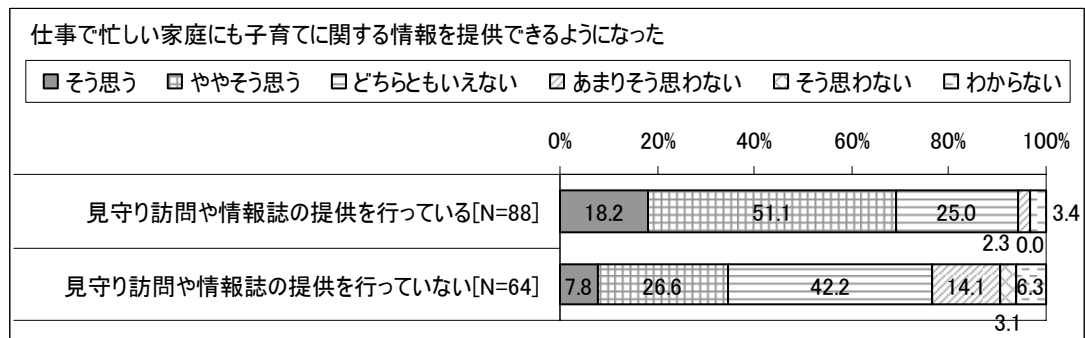


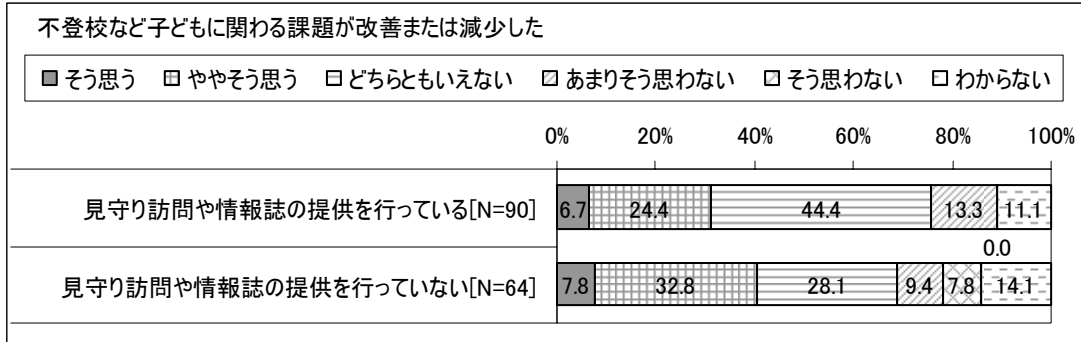


図表 3-142 「保護者が自由に交流したり、相談できる場(居場所)を有している」実施有無×問題の予防・解決への効果

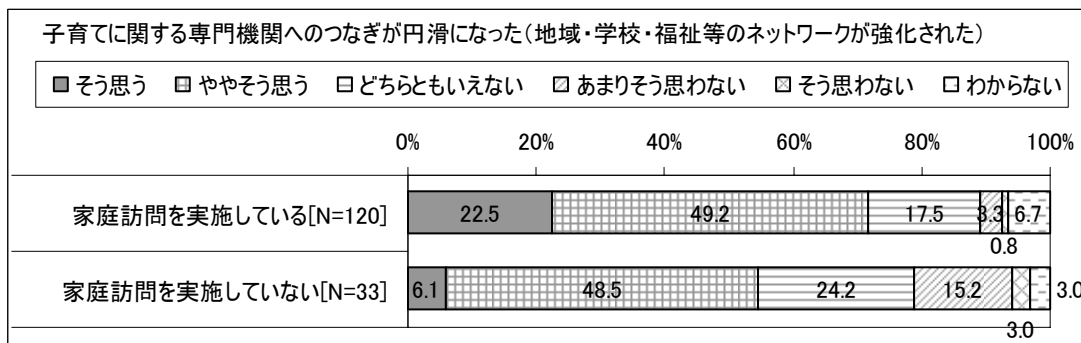
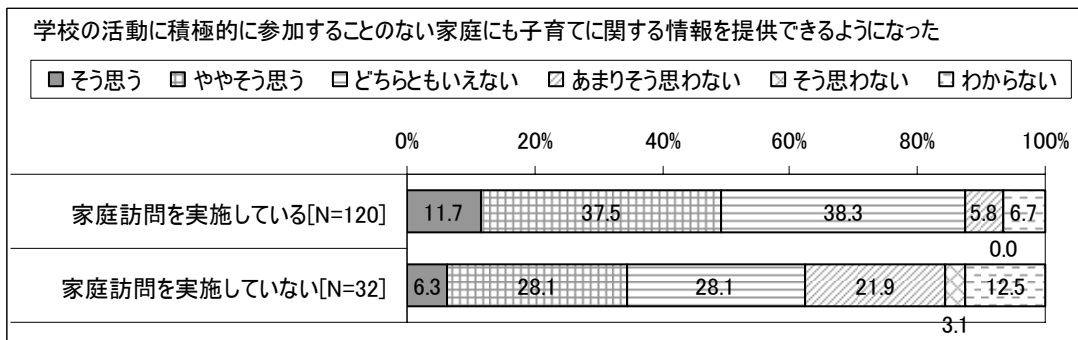


図表 3-143 「概ね全戸の見守り訪問や情報誌の提供を行っている」実施有無×問題の予防・解決への効果





図表 3-144 「気になる家庭や、課題が顕在化している家庭の訪問を実施している」実施有無 × 問題の予防・解決への効果



【分析の視点 b】

- チーム型支援による問題の予防・解決への効果は、支援の内容等による差があるか

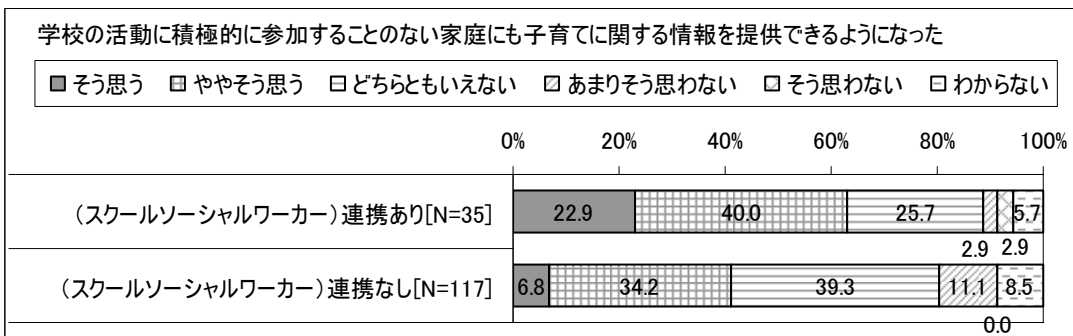
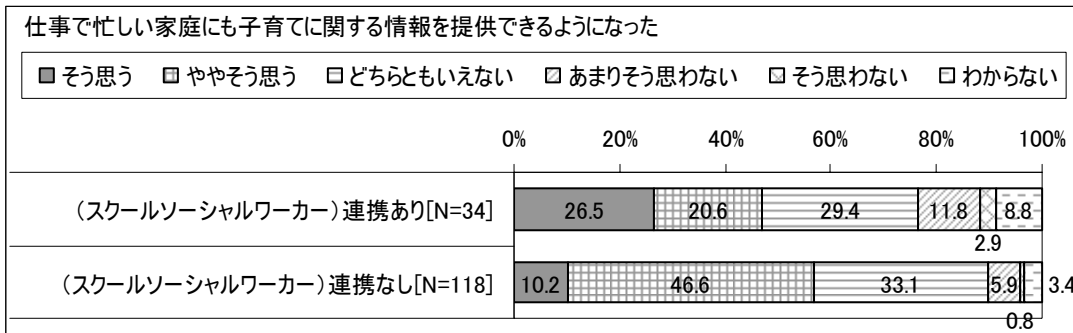
【分析の方法 2】

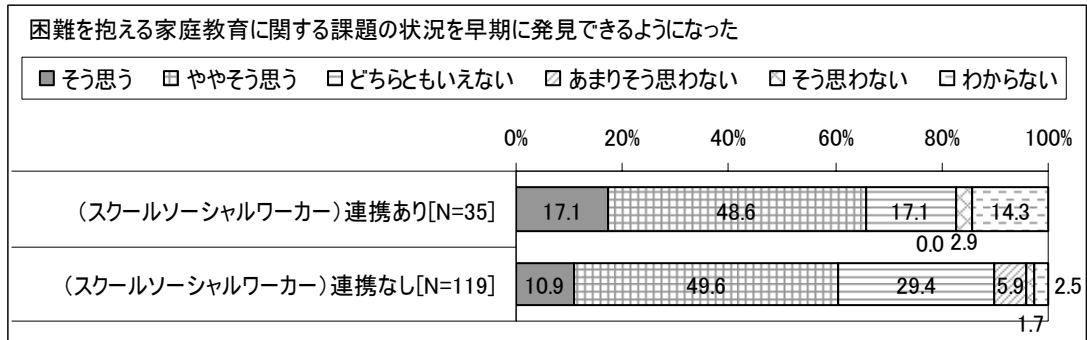
- チーム型支援による問題の予防・解決への直接的な効果 (Q15q-v) について、他の人材・機関と連携しているチームと連携していないチーム (Q11) を比較

【分析結果のポイント】

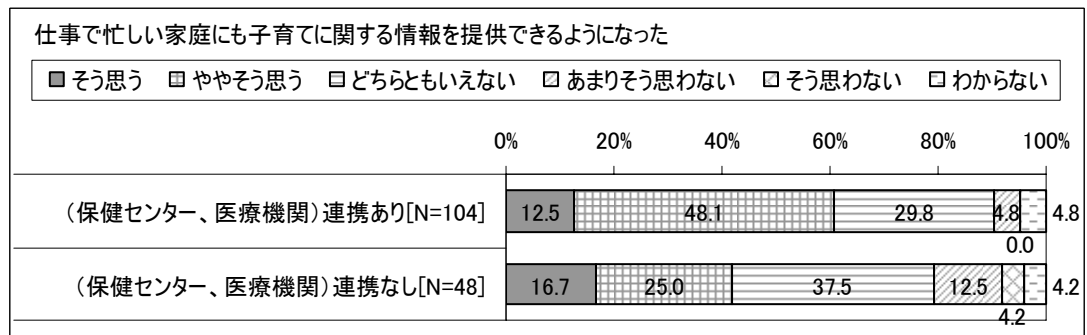
- 「スクールソーシャルワーカー」と連携しているチームはしていないチームに比して、「学校の活動に積極的に参加することのない家庭にも子育てに関する情報を提供できるようになった」「困難を抱える家庭教育に関する課題の状況を早期に発見できるようになった」についての効果が有意に高く、「仕事で忙しい家庭にも子育てに関する情報を提供できるようになった」についての効果が有意に低い
- 「保健センター、医療機関」との連携については、「仕事で忙しい家庭にも子育てに関する情報を提供できるようになった」についての効果が有意に高い

図表 3-145 「スクールソーシャルワーカー」との連携有無×問題の予防・解決への効果





図表 3-146 「保健センター、医療機関」との連携有無 × 問題の予防・解決への効果



【分析の視点 c】

- チーム型支援による問題の予防・解決への効果は、取組に係る協力・工夫の実施状況による差があるか

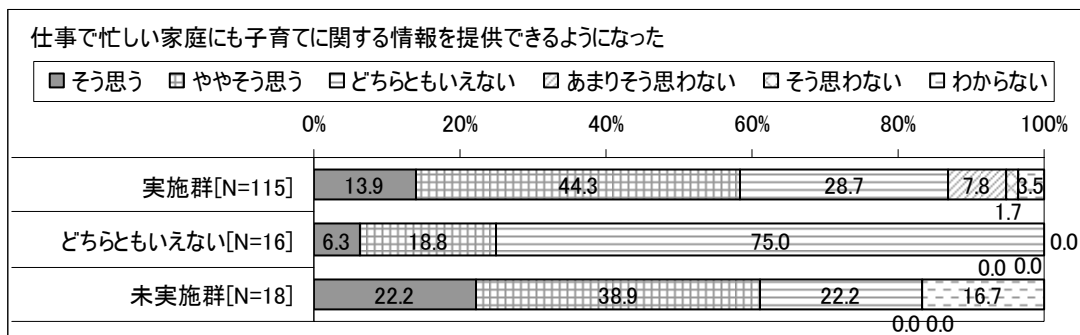
【分析の方法】

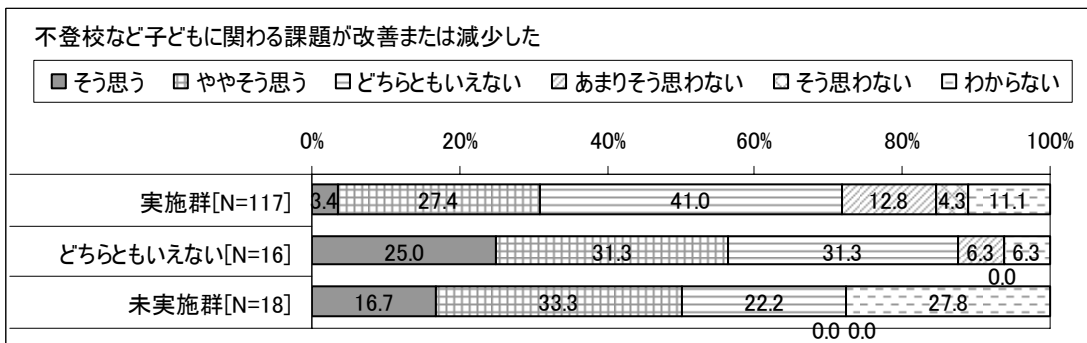
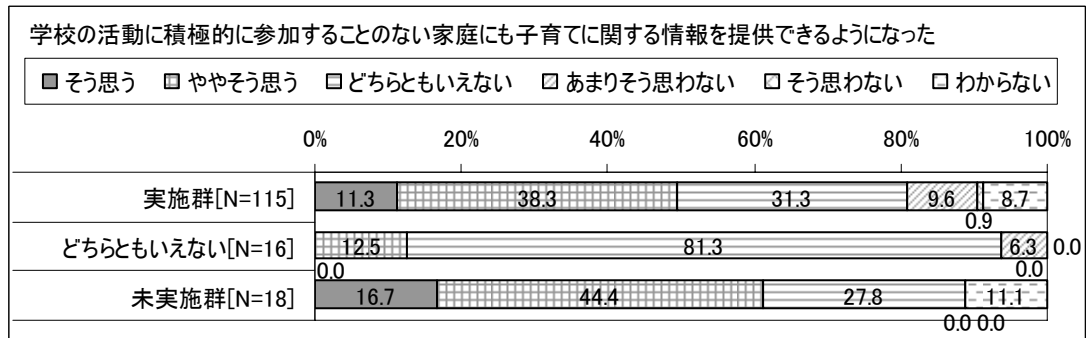
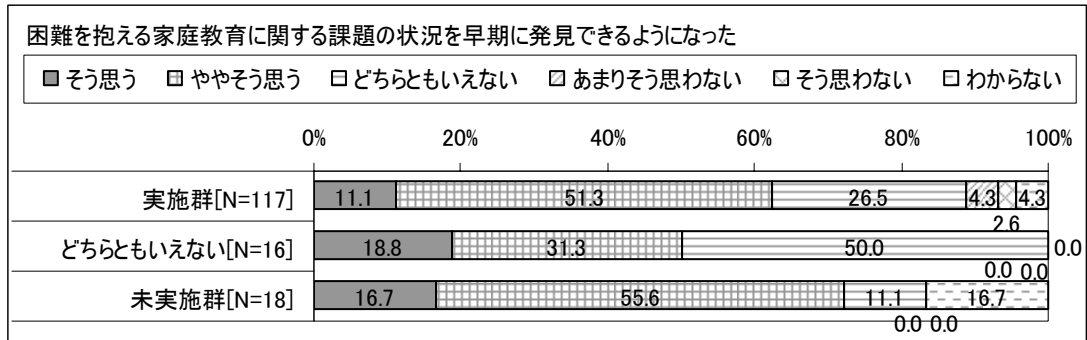
- チーム型支援による問題の予防・解決への直接的な効果 (Q15q-v) について、取組に係る協力・工夫 (Q13) の各項目を実施している学校 (実施群) と実施していない学校 (未実施群) を比較

【分析結果のポイント】

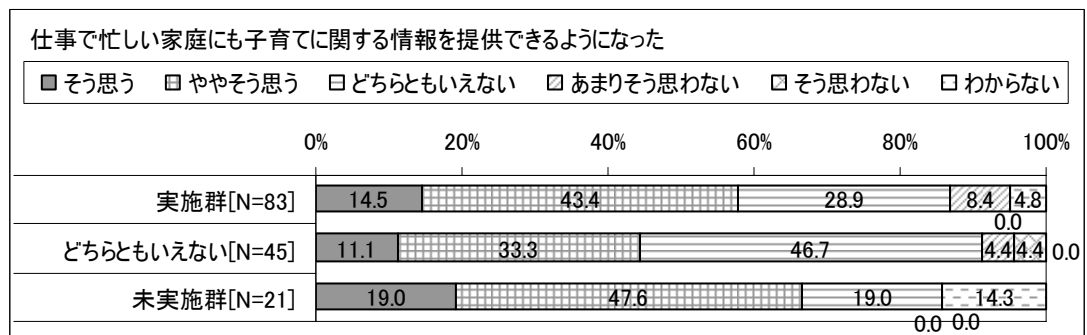
- 「多くの保護者が参画できる (支援が届く) よう、活動時間や場所を工夫している」実施群は未実施群に比して、「仕事で忙しい家庭にも子育てに関する情報を提供できるようになった」「困難を抱える家庭教育に関する課題の状況を早期に発見できるようになった」「学校の活動に積極的に参加することのない家庭にも子育てに関する情報を提供できるようになった」「不登校など子どもに関わる課題が改善または減少した」についての効果が有意に低い
- 「ワークショップや体験形式など、保護者が楽しく主体的に参画できる内容を取り入れている」実施群は未実施群に比して、「仕事で忙しい家庭にも子育てに関する情報を提供できるようになった」「困難を抱える家庭教育に関する課題の状況を早期に発見できるようになった」「不登校など子どもに関わる課題が改善または減少した」についての効果が有意に低い
- 「企画や実施にあたって、学校の教職員と定期的に意識共有を図っている」については、実施群と未実施群の間に有意差は見られない

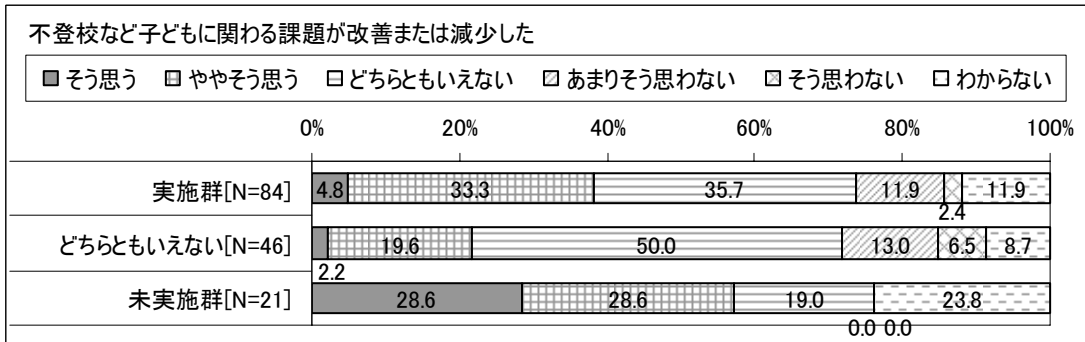
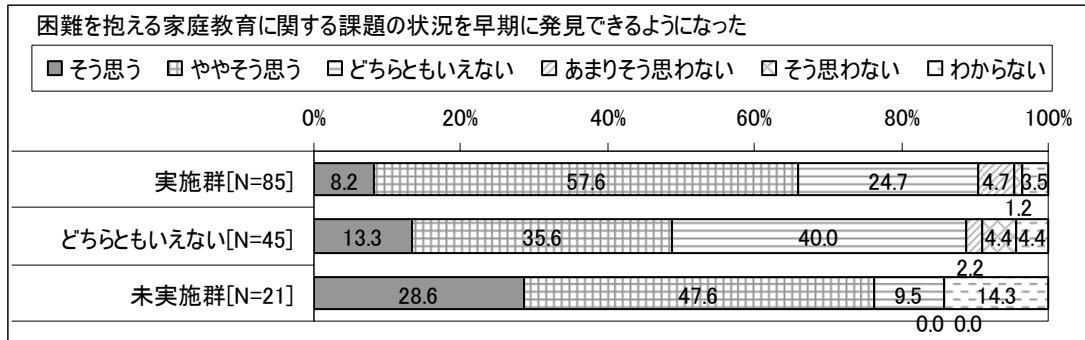
図表 3-147 「多くの保護者が参画できる (支援が届く) よう、活動時間や場所を工夫している」との連携有無 × 問題の予防・解決への効果





図表 3-148 「ワークショップや体験形式など、保護者が楽しく主体的に参画できる内容を取り入れている」との連携有無×問題の予防・解決への効果





(4) 補論：対象間比較

【分析の視点】

- チーム型支援による効果は、調査対象者による認識の差があるか

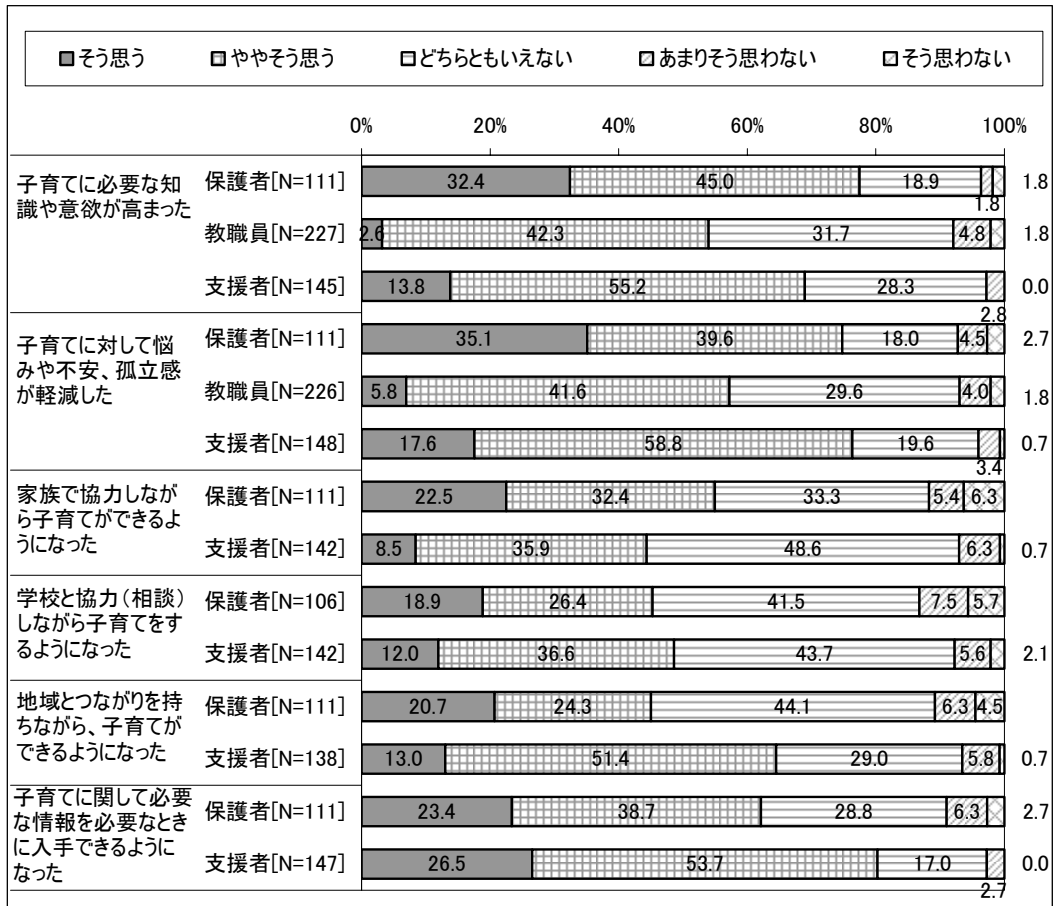
【分析の方法】

- 「家庭教育支援チーム」などのチーム型支援による家庭、学校、地域、問題の予防・解決への直接的な効果のうち、複数の調査対象者へ質問している項目について、調査対象者ごとの回答を比較

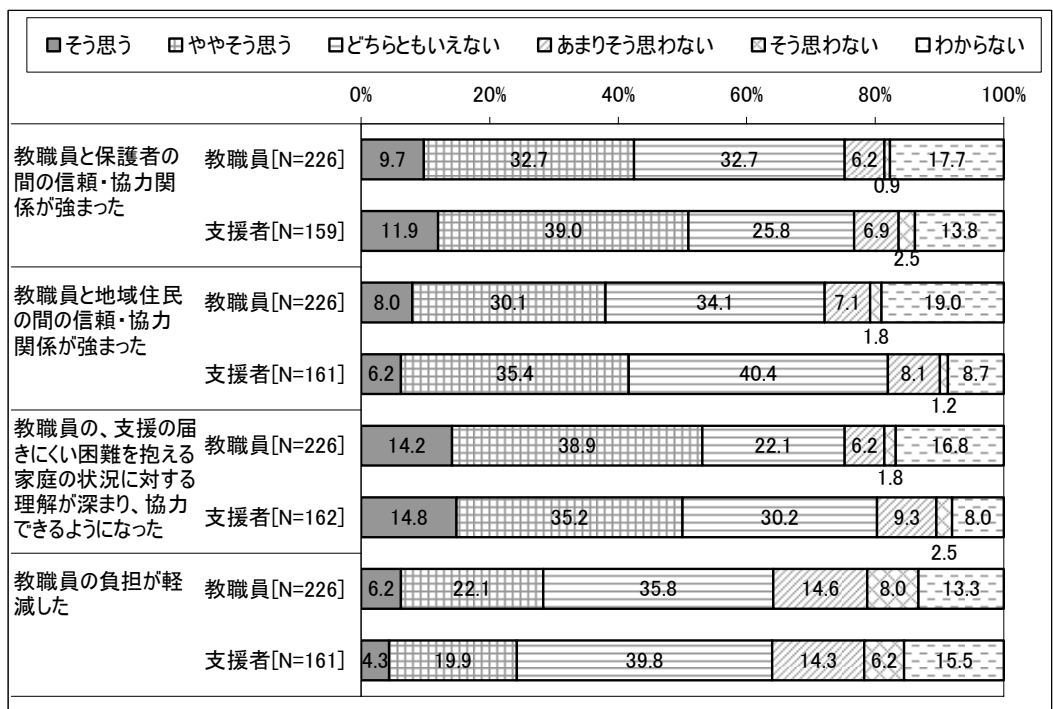
【分析結果のポイント】

- 家庭への効果については、「子育てに必要な知識や意欲が高まった」「家族で協力しながら子育てができるようになった」は保護者が支援者・企画者よりも肯定的に評価しており、「子育てに対して悩みや不安、孤立感が軽減した」「学校と協力（相談）しながら子育てをするようになった」「地域とつながりを持ちながら、子育てができるようになった」「子育てに関して必要な情報を必要なときに入手できるようになった」は支援者・企画者が保護者よりも肯定的に評価している
- 学校への効果については、「教職員と保護者の間の信頼・協力関係が強まった」「教職員と地域住民の間の信頼・協力関係が強まった」は支援者・企画者が教員よりも肯定的に評価しており、「教職員の、支援の届きにくい困難を抱える家庭の状況に対する理解が深まり、協力できるようになった」「教職員の負担が軽減した」は教員が支援者・企画者よりも肯定的に評価している
- 地域への効果については、すべての項目において、支援者・企画者が教員よりも肯定的に評価している
- 問題の予防・解決への効果については、「不登校など子どもに関わる課題が改善または減少した」は教員が支援者・企画者よりも肯定的に評価しており、その他の項目については支援者・企画者が教員よりも肯定的に評価している

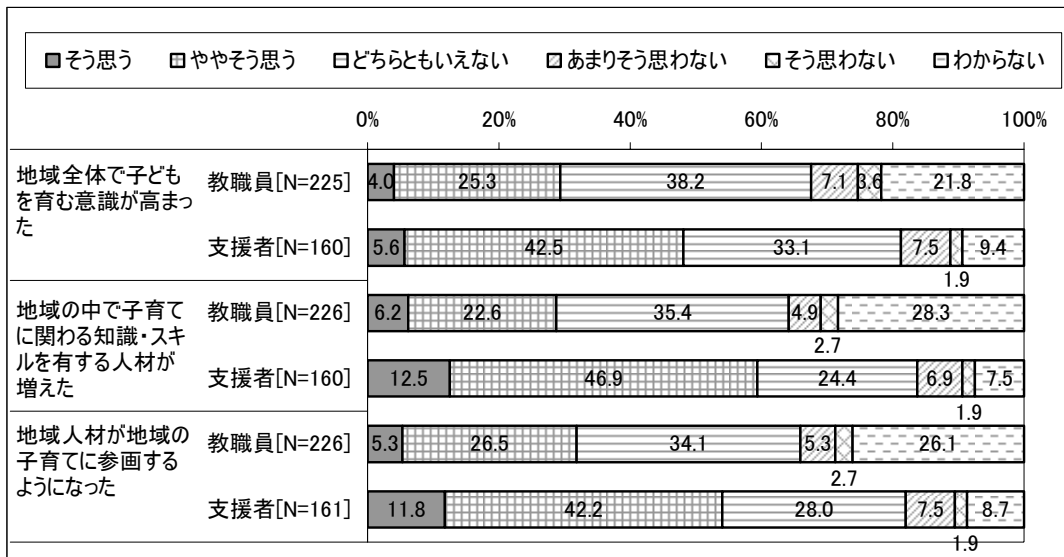
図表 3-149 調査対象者×家庭への効果



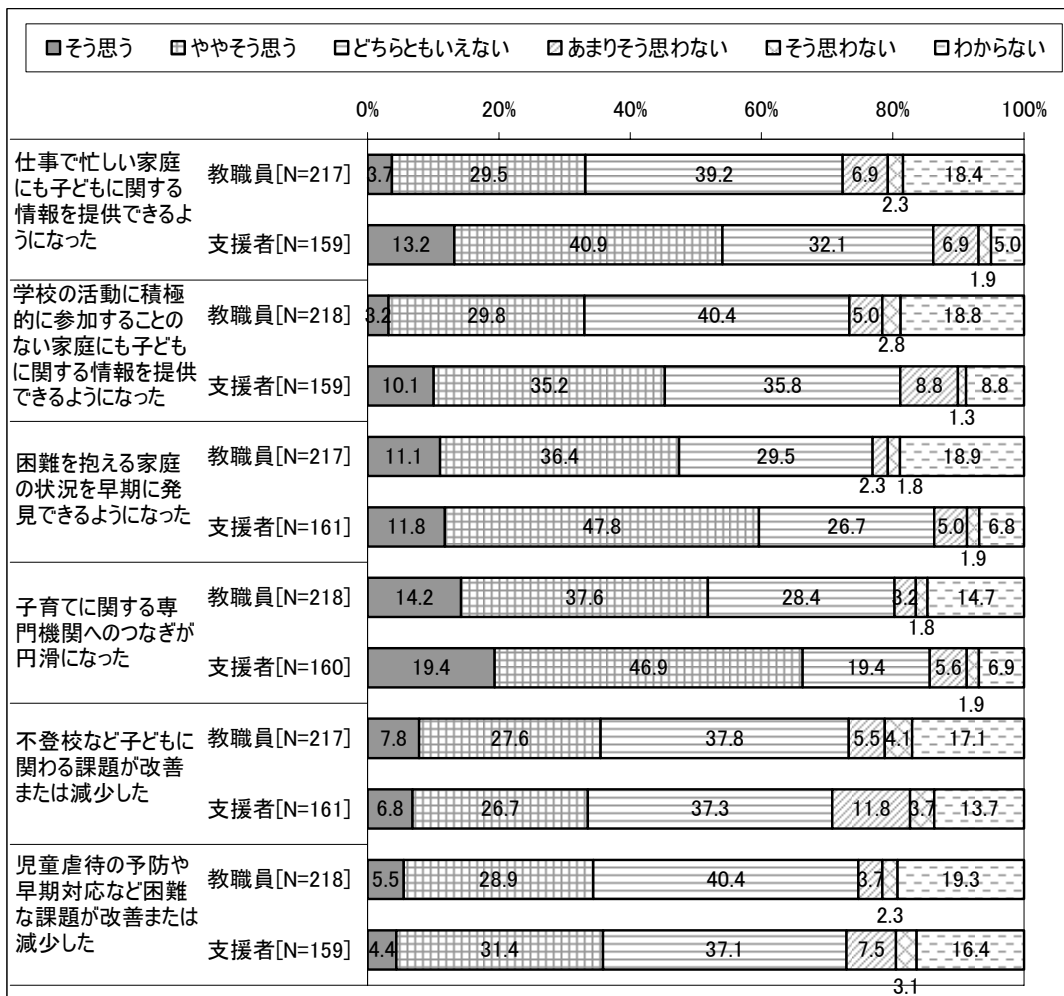
図表 3-150 調査対象者×学校への効果



図表 3-151 調査対象者×地域への効果



図表 3-152 調査対象者×問題の予防・解決への効果



3.7.3 早寝早起き朝ごはんの効果

(1) 保護者票

1) 属性ごとの「早寝早起き朝ごはん」運動参加状況

【分析の視点】

- a 「早寝早起き朝ごはん」運動の参加経験は、保護者の属性による差があるか

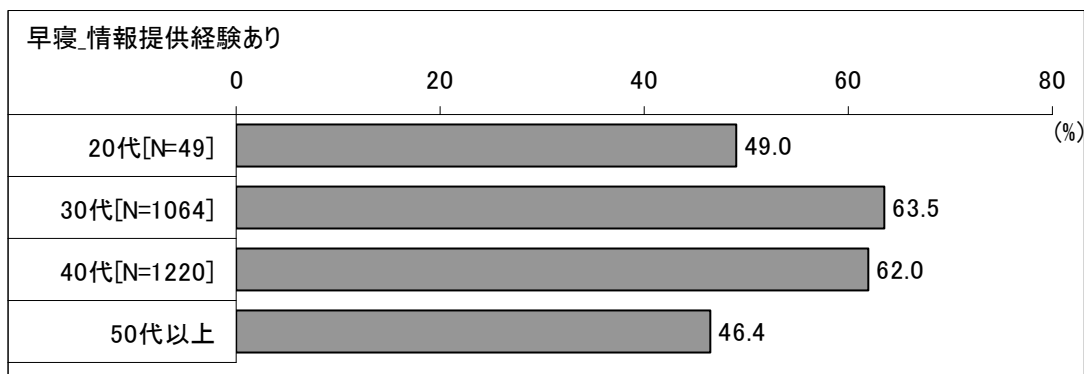
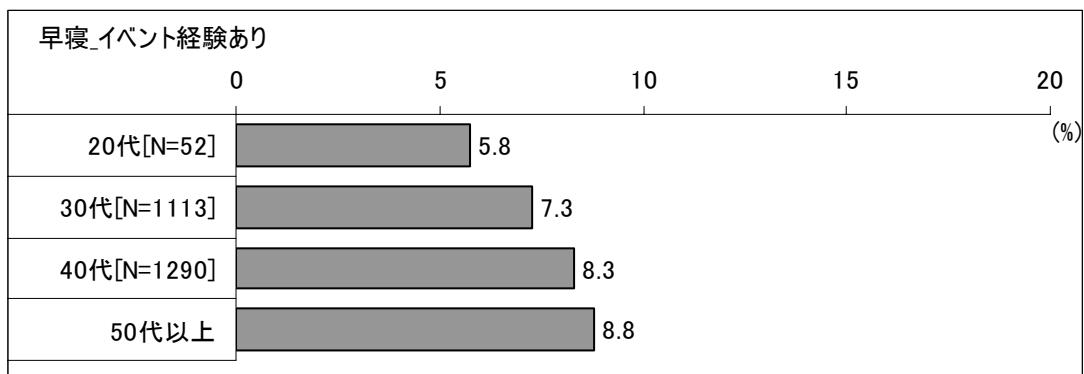
【分析の方法】

- 「早寝早起き朝ごはん」運動の参加経験 (Q14_11-12) について、保護者の年代 (Q1)、職業 (Q7)、経済状態 (Q9) 別に比較

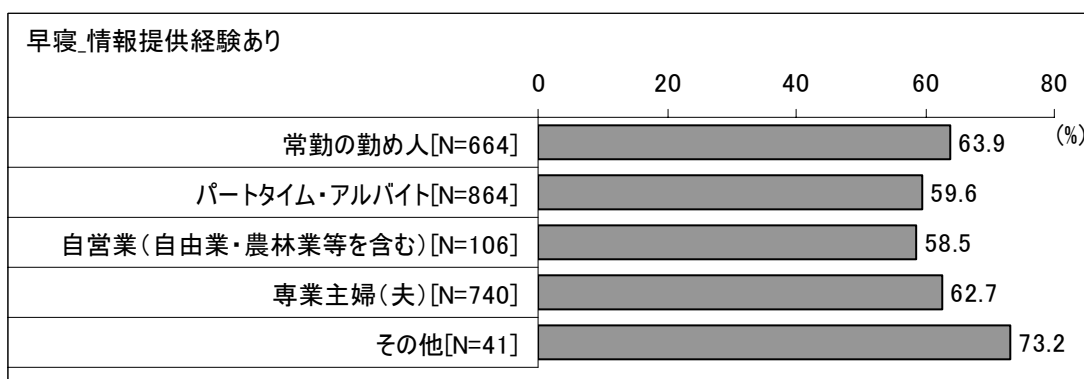
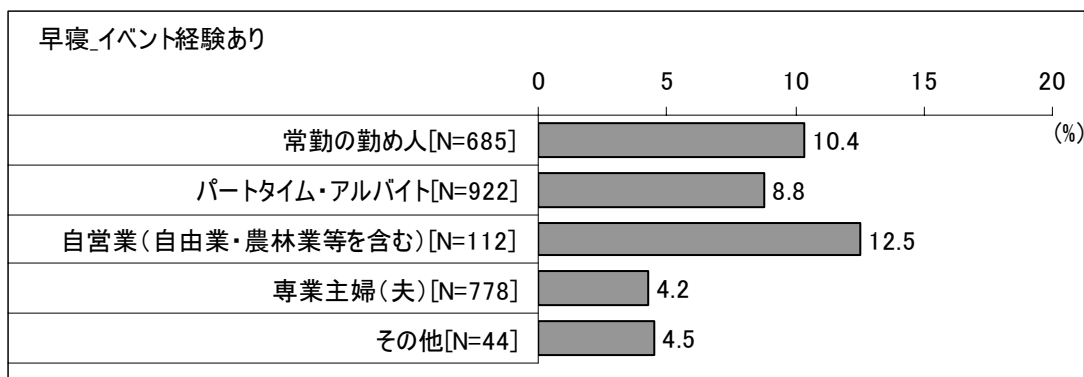
【分析結果のポイント】

- 関連イベント経験は 50 代以上、関連情報提供経験は 30 代の割合がもっとも高い
- 関連イベント経験は自営業、関連情報提供経験は常勤の勤め人の割合がもっとも高い
- 関連イベント経験についても関連情報提供経験についても、やや余裕がある人の割合がもっとも高い

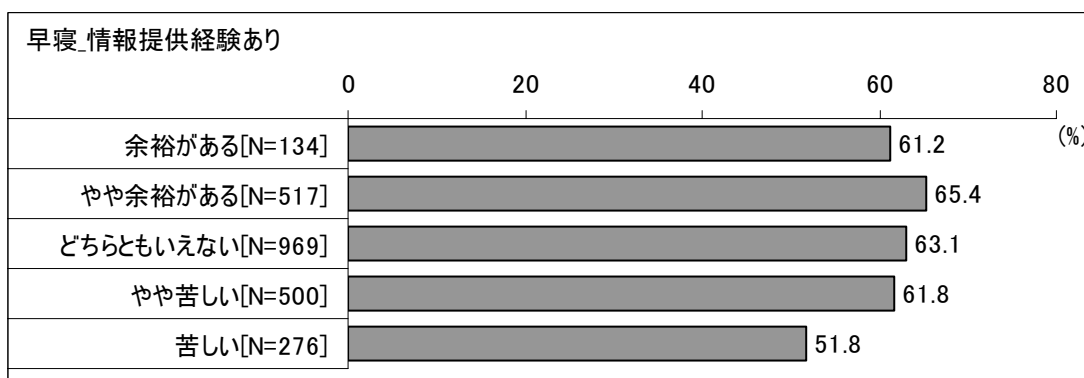
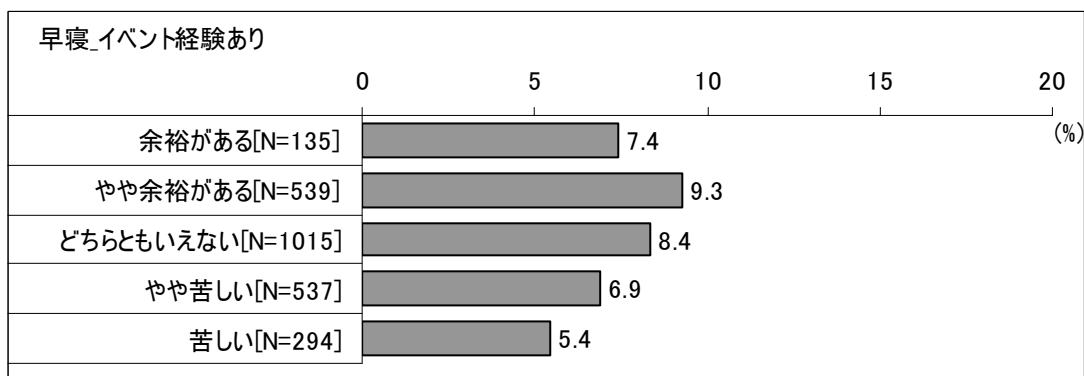
図表 3-153 保護者の年代×「早寝早起き朝ごはん」運動の受入経験



図表 3-154 保護者の職業×「早寝早起き朝ごはん」運動の受入経験



図表 3-155 保護者の経済状態×「早寝早起き朝ごはん」運動の受入経験



2) 家庭への効果

【分析の視点】

- a 保護者の子育てに関する知識等について、「早寝早起き朝ごはん」運動に関する経験による差があるか
- b 「早寝早起き朝ごはん」運動による家庭等への効果は、取組に係る協力・工夫の実施状況による差があるか

【分析の視点 a】

- 保護者の子育てに関する知識等について、「早寝早起き朝ごはん」運動に関する経験による差があるか

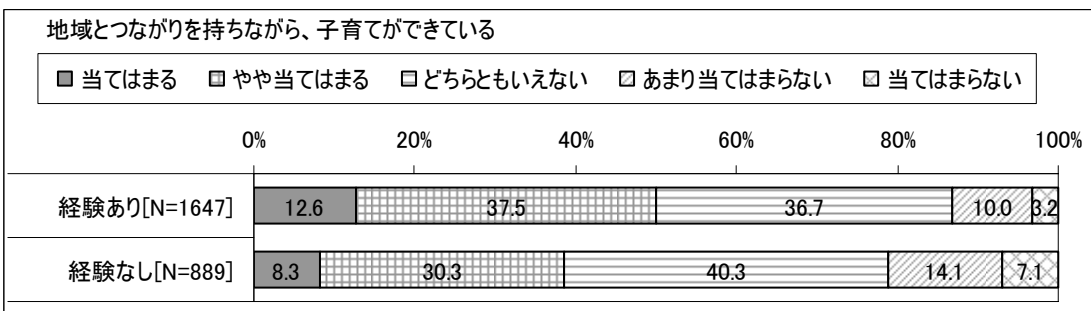
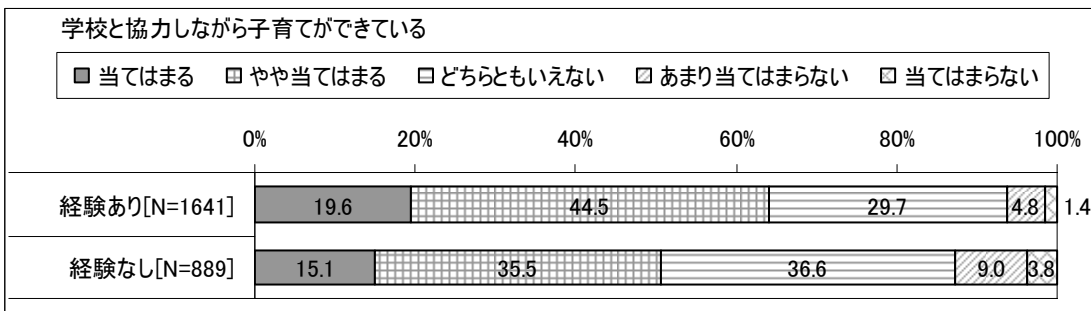
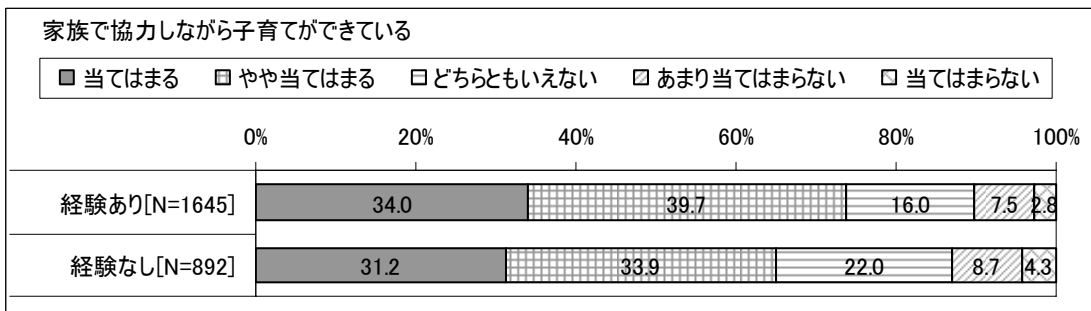
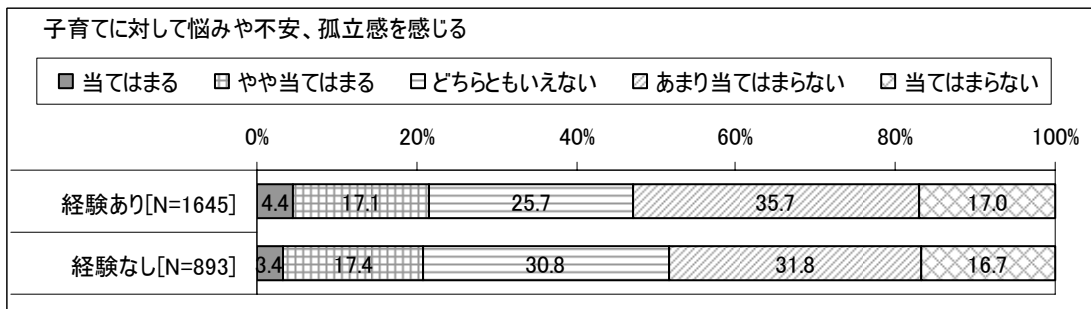
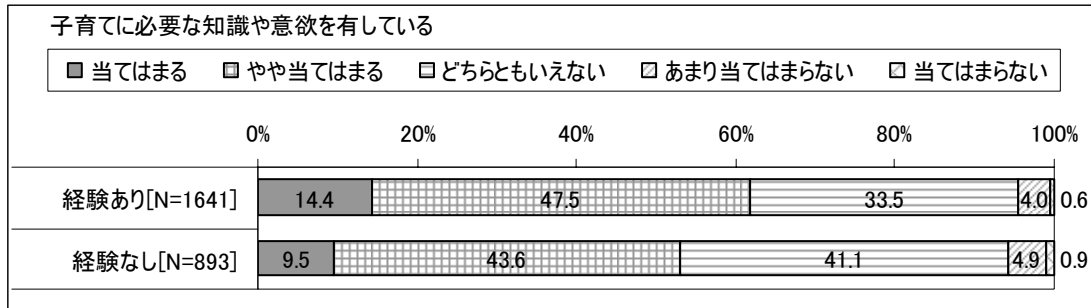
【分析の方法】

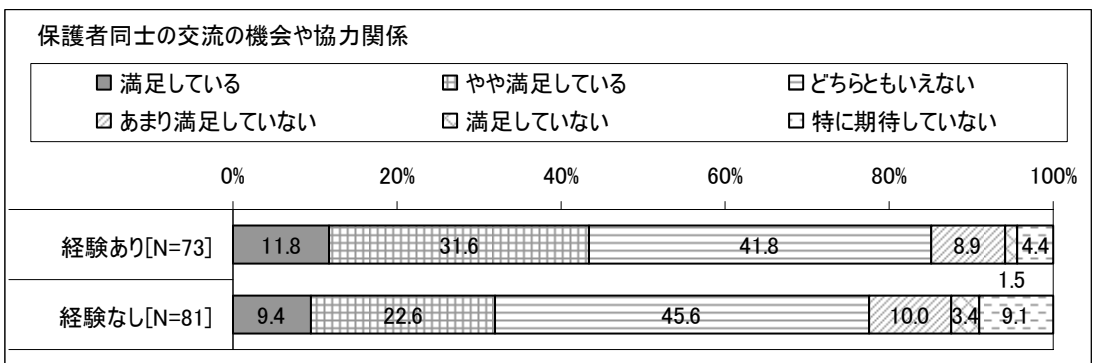
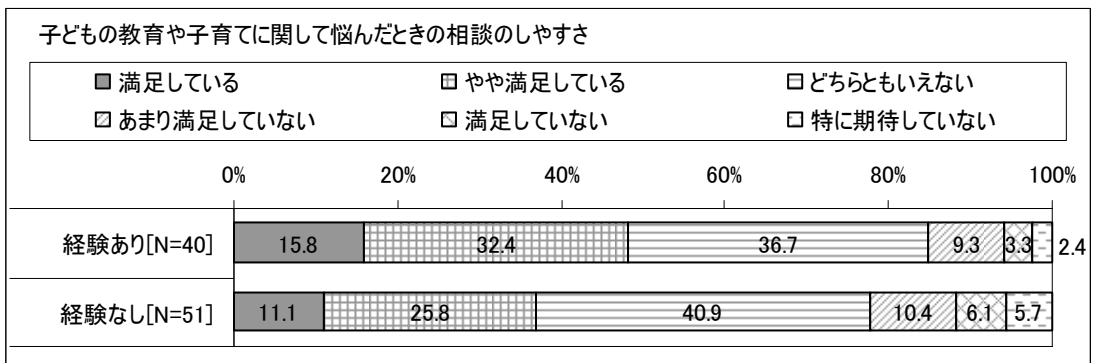
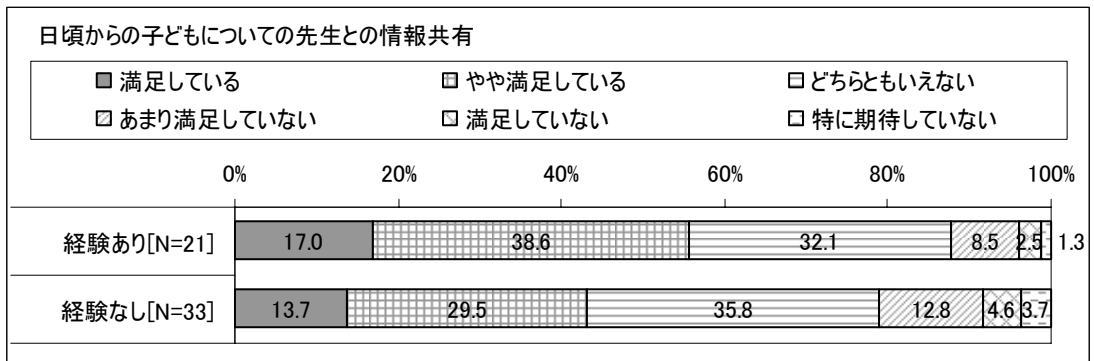
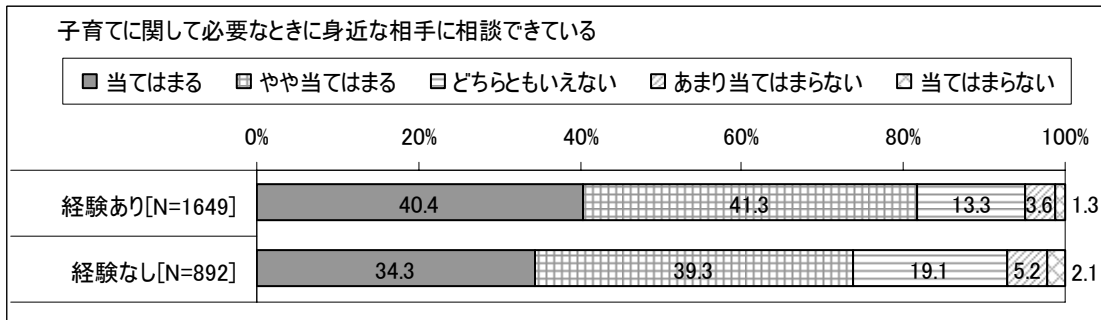
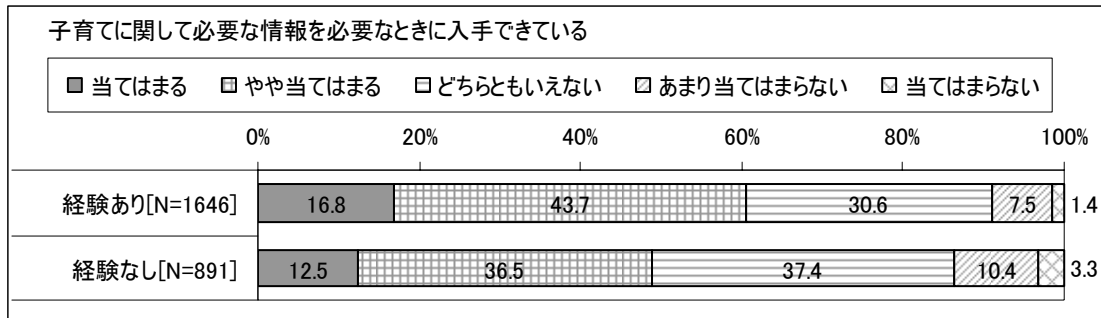
- 保護者の子育てに関する知識や意識、学校との関係、地域のサポート体制に対する満足度等、に関する現在の達成状況 (Q10, 11, 12) について、「早寝早起き朝ごはん」運動に関する経験の有無 (Q14_11-12) 別に比較

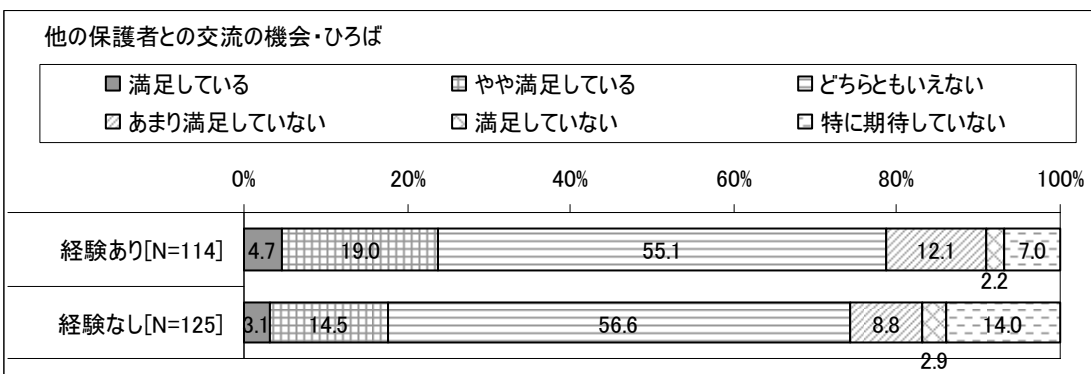
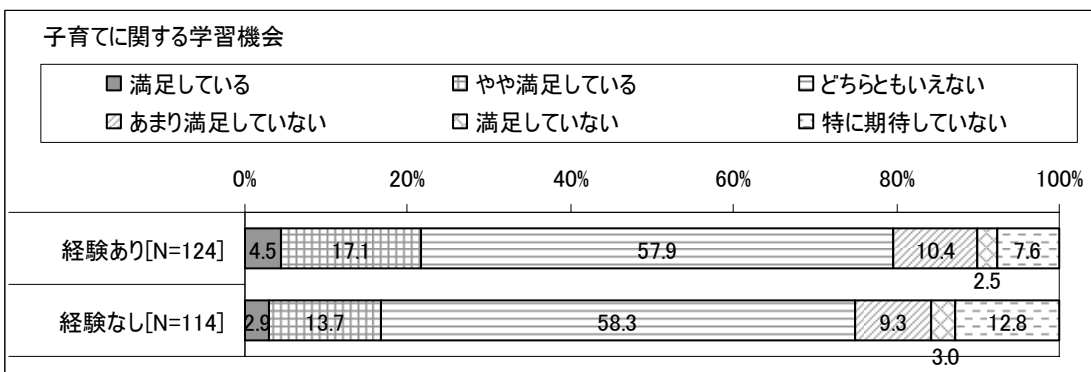
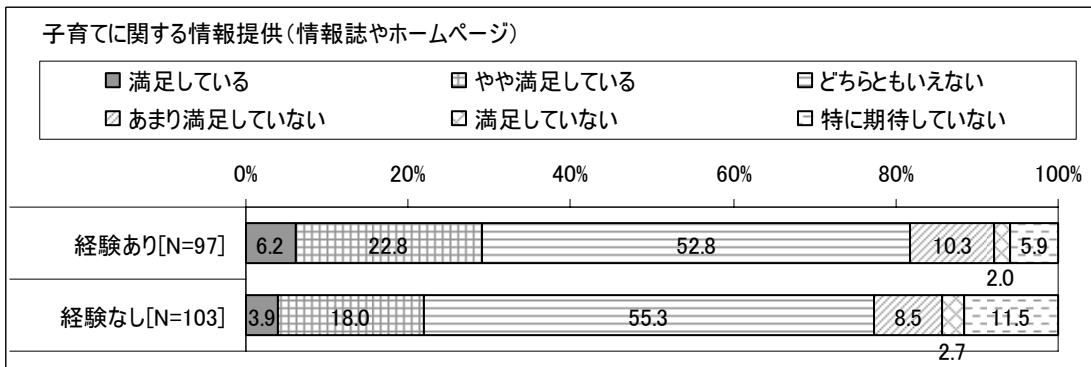
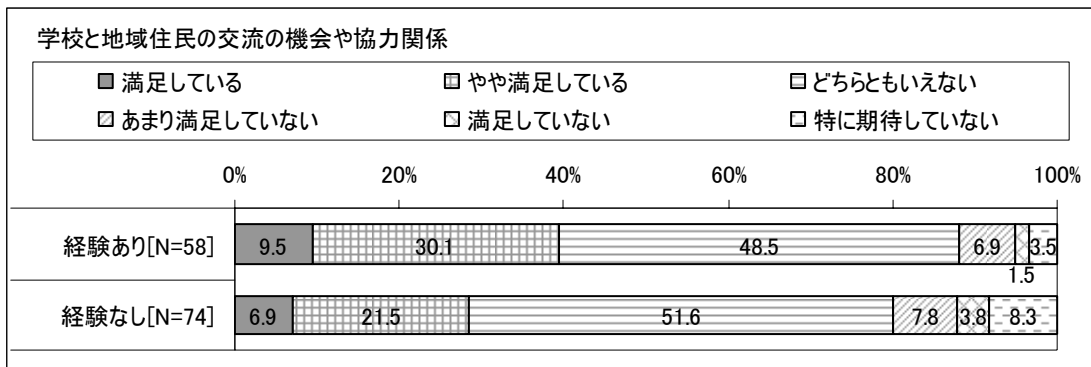
【分析結果のポイント】

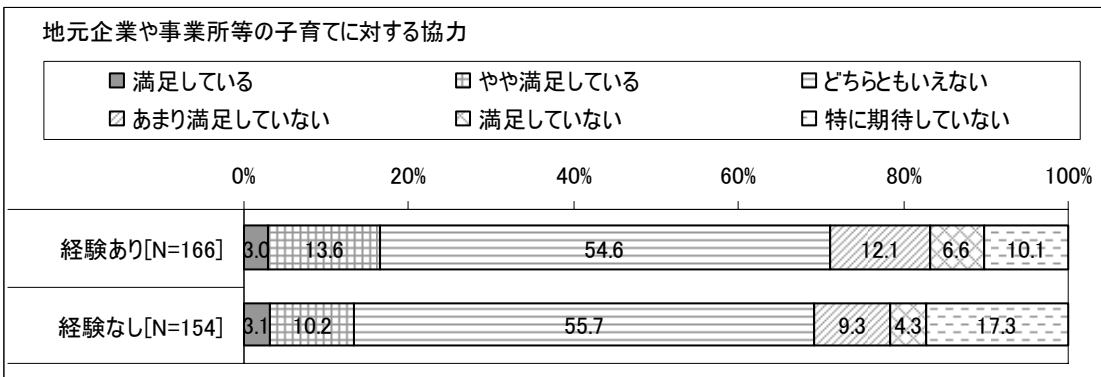
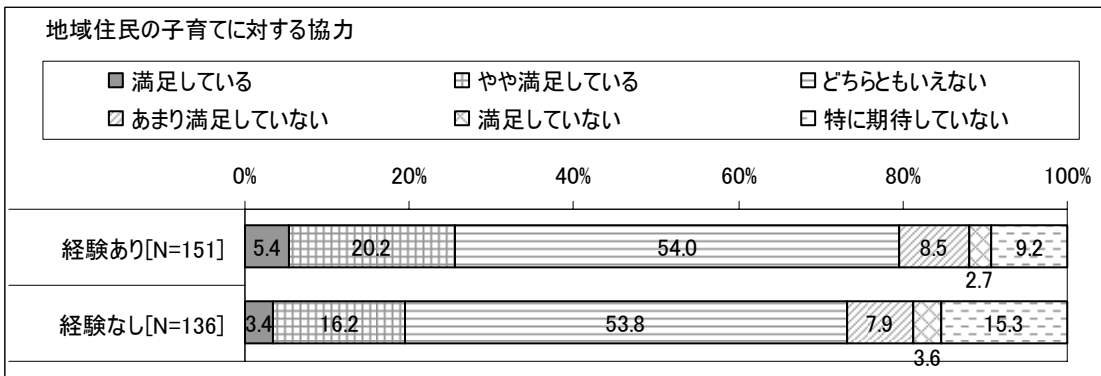
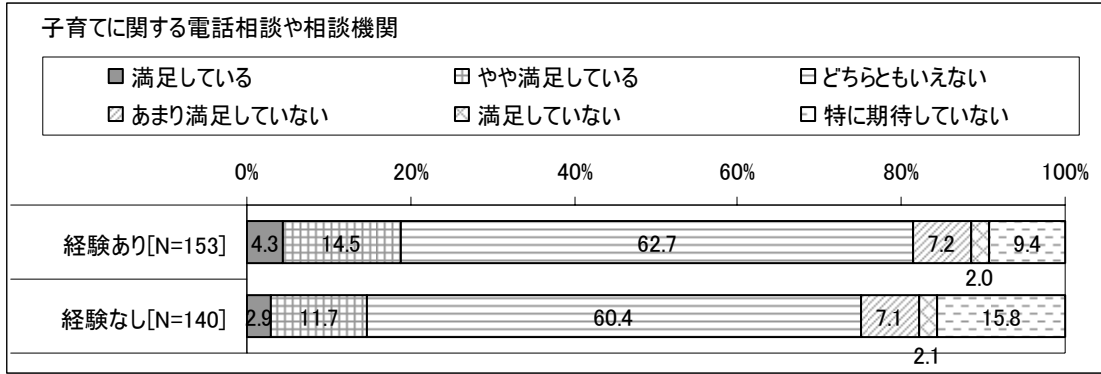
- 「早寝早起き朝ごはん」運動の経験がある人はない人に比して、「子育てに必要な知識や意欲を有している」「家族で協力しながら子育てができている」「学校と協力しながら子育てができている」「地域とつながりを持ちながら、子育てができている」「子育てに関して必要な情報を必要なときに入手できている」「子育てに関して必要なときに身近な相手に相談できている」「日頃からの子どもについての先生との情報共有」「子どもの教育や子育てに関して悩んだときの相談のしやすさ」「保護者同士の交流の機会や協力関係」「学校と地域住民の交流の機会や協力関係」「子育てに関する情報提供 (情報誌やホームページ)」「子育てに関する学習機会」「他の保護者との交流の機会・ひろば」「子育てに関する電話相談や相談機関」「地域住民の子育てに対する協力」「地元企業や事業所等の子育てに対する協力」についての達成状況が有意に高いが、「子育てに対して悩みや不安、孤立感を感じる」についての達成状況が有意に低い

図表 3-156 「早寝早起き朝ごはん」運動経験有無×家庭等の達成状況









【分析の視点 b】

- 「早寝早起き朝ごはん」運動による家庭等への効果は、取組に係る協力・工夫の実施状況による差があるか

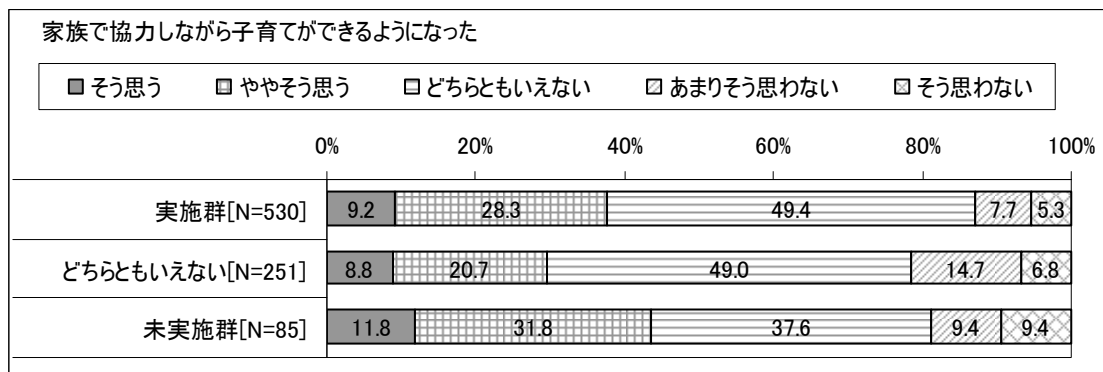
【分析の方法】

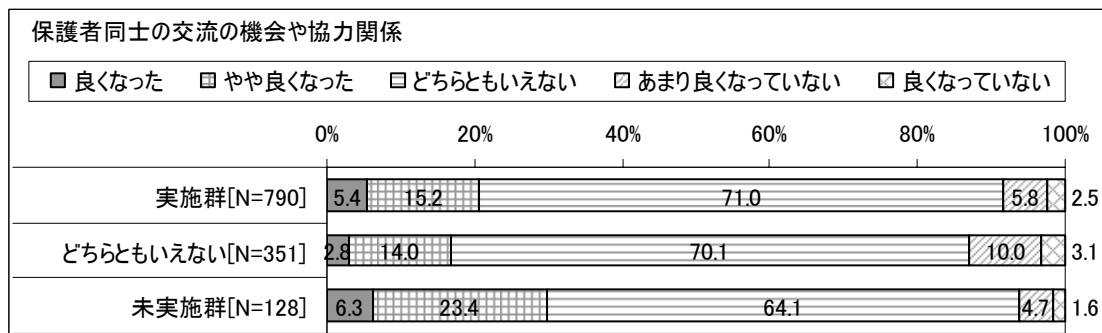
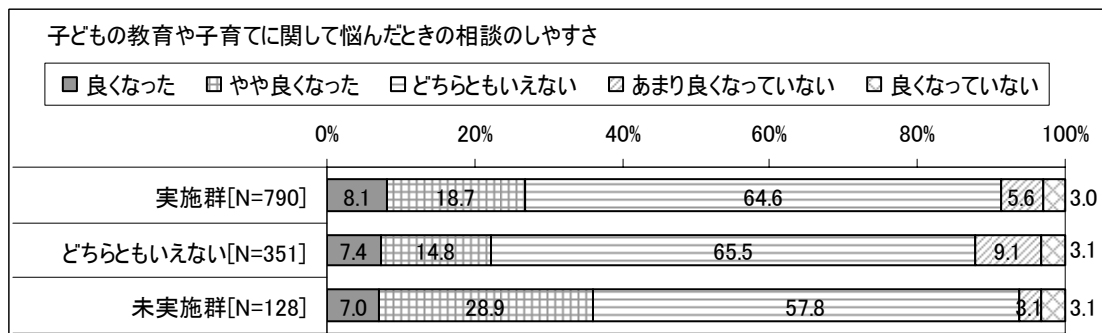
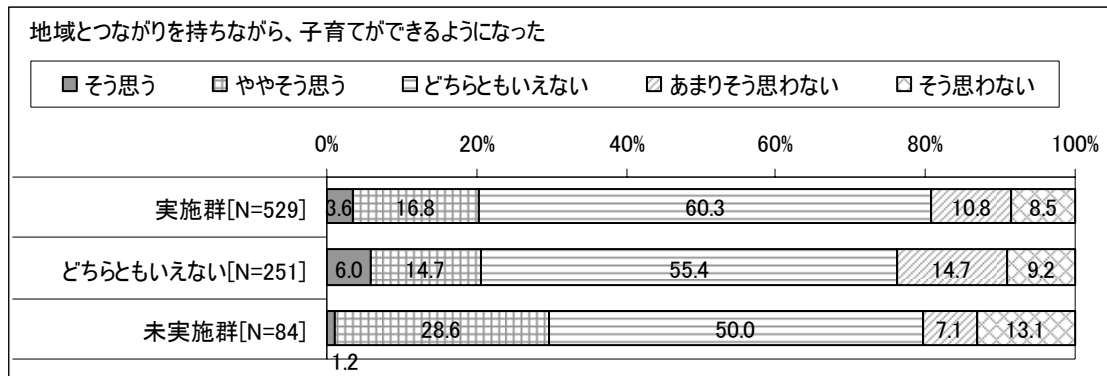
- 「早寝早起き朝ごはん」運動による家庭・学校への直接的な効果（Q15, Q18）について、取組に係る協力・工夫の実施状況（教員 Q2、支援者・企画者 Q8）の各項目を実施している学校（実施群）と実施していない学校（未実施群）を比較

【分析結果のポイント】

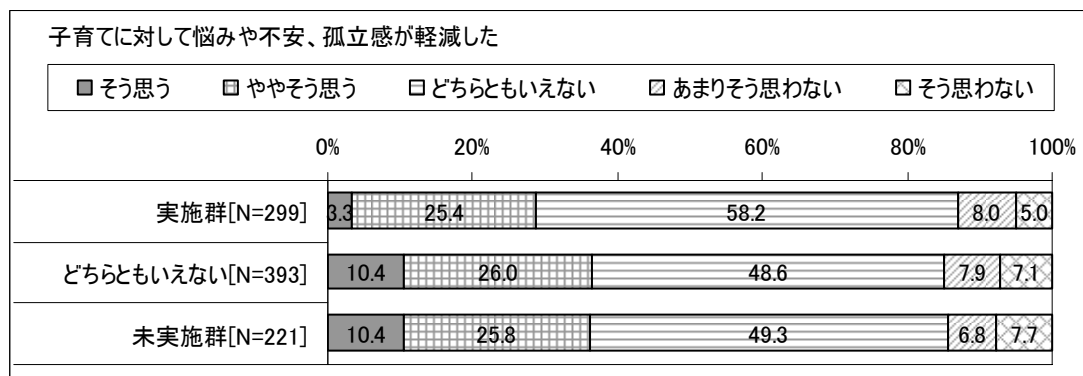
- 「企画や実施にあたって、地域の支援人材と定期的に意見交換を行っている」実施群は未実施群に比して、「家族で協力しながら子育てができるようになった」「地域とつながりを持ちながら、子育てができるようになった」「子どもの教育や子育てに関して悩んだときの相談のしやすさ」「保護者同士の交流の機会や協力関係」についての効果が有意に低い
- 「ワークショップや体験形式など、保護者が楽しく主体的に参画できる内容を取り入れている」実施群は未実施群に比して、「子育てに対して悩みや不安、孤立感が軽減した」「家族で協力しながら子育てができるようになった」「学校と協力（相談）しながら子育てをするようになった」についての効果が有意に低い
- 「近隣の企業と連携し、人材や資金等の提供を受けている」実施群は未実施群に比して、「子育てに必要な知識や意欲が高まった」「子育てに対して悩みや不安、孤立感が軽減した」「家族で協力しながら子育てができるようになった」「学校と協力（相談）しながら子育てをするようになった」「子育てに関して必要なときに身近な相手に相談できるようになった」についての効果が有意に低い

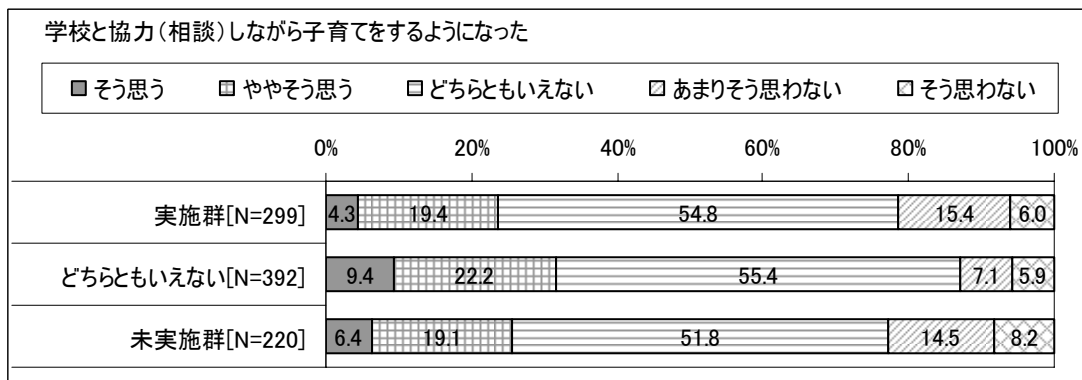
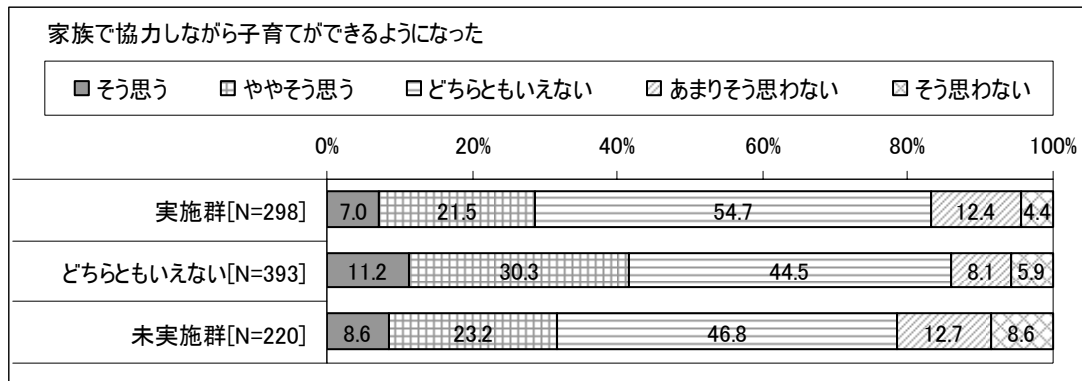
図表 3-157 「企画や実施にあたって、地域の支援人材と定期的に意見交換を行っている」実施有無 × 家庭等への効果



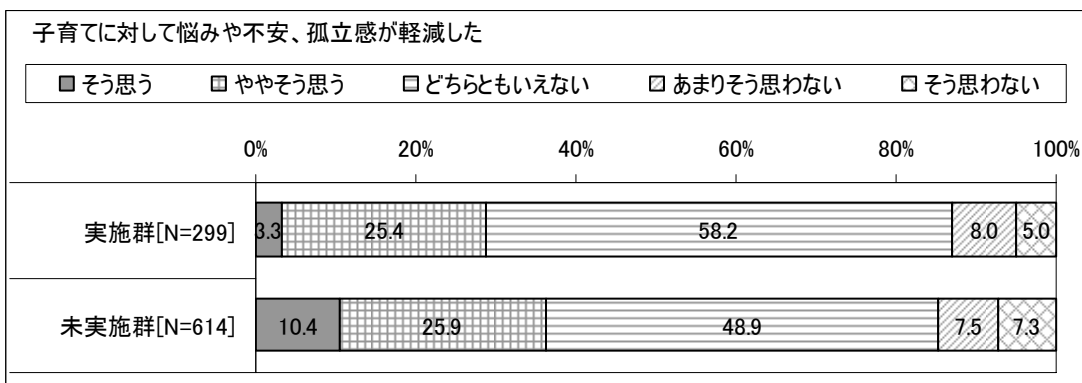
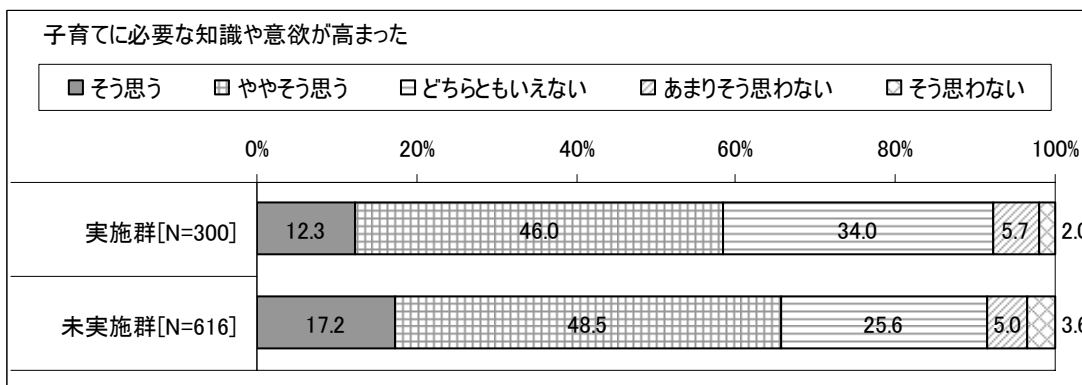


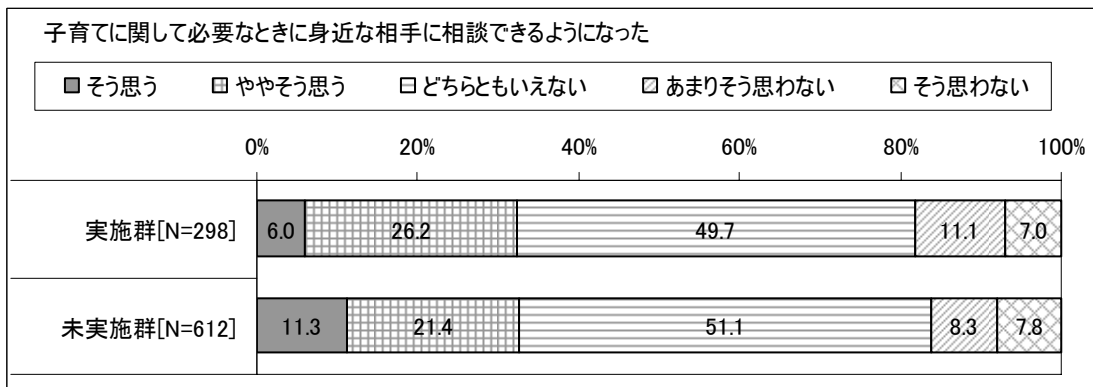
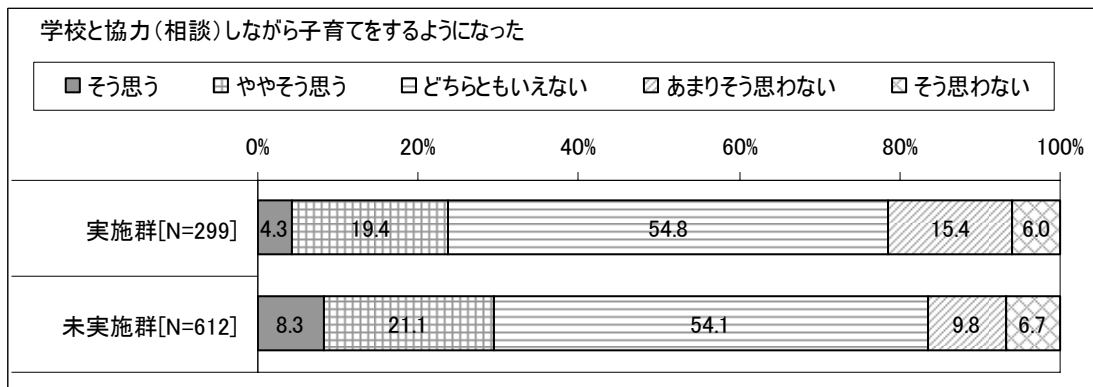
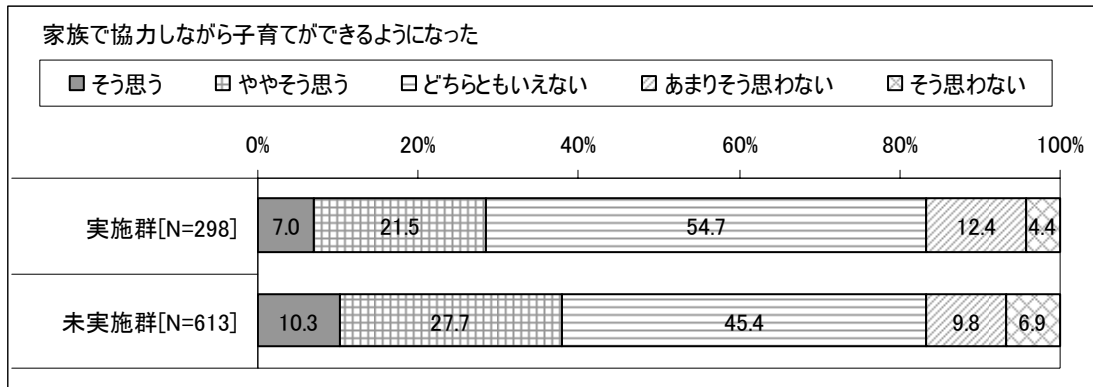
図表 3-158 「ワークショップや体験形式など、保護者が楽しく主体的に参画できる内容を取り入れている」
実施有無×家庭等への効果





図表 3-159 「近隣の企業と連携し、人材や資金等の提供を受けている」実施有無×家庭等への効果





3) 子どもへの効果

【分析の視点】

- a 子どもの生活習慣等について、保護者の属性による差があるか
- b 子どもの生活習慣等について、「早寝早起き朝ごはん」運動による差があるか
- c 「早寝早起き朝ごはん」運動による子どもへの効果は、取組に係る協力・工夫の実施状況による差があるか

【分析の視点 a】

- 子どもの生活習慣等について、保護者の属性による差があるか

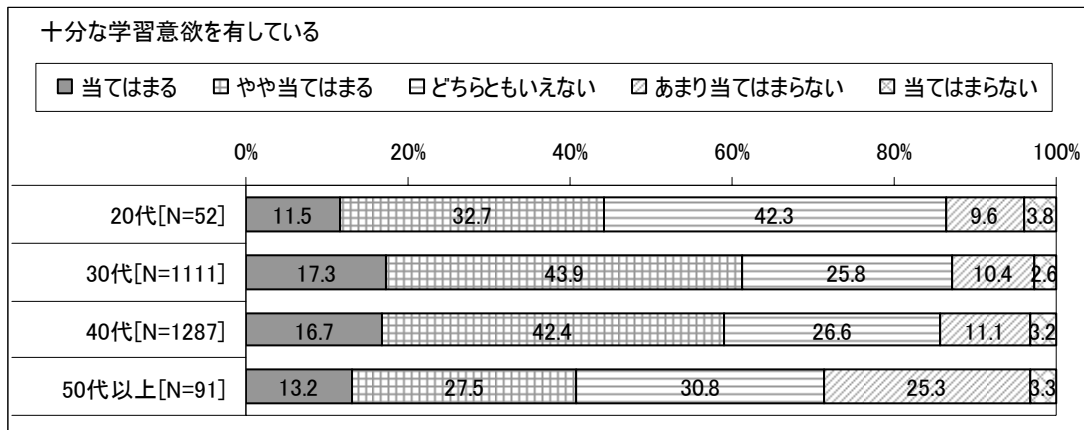
【分析の方法】

- 子どもの生活習慣や能力等に関する現在の達成状況（Q13）について、保護者の年代（Q1）、職業（Q7）、経済状態（Q9）別に比較

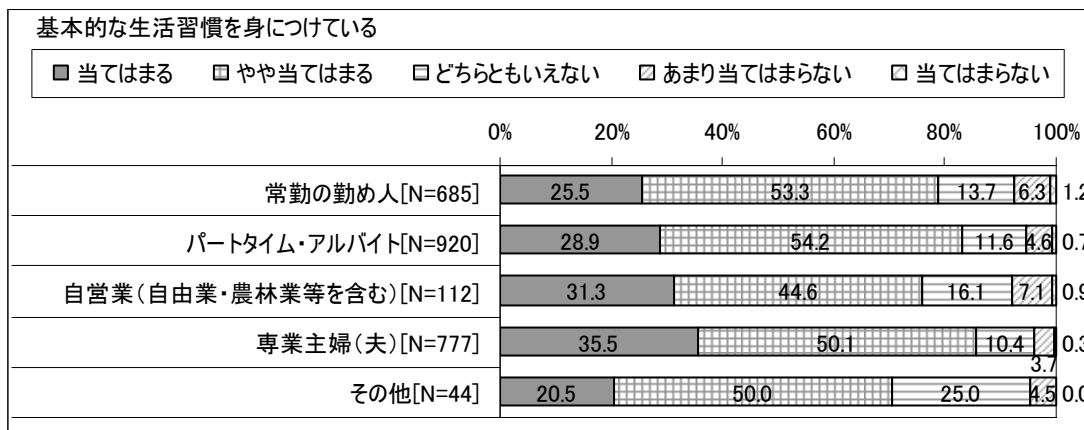
【分析結果のポイント】

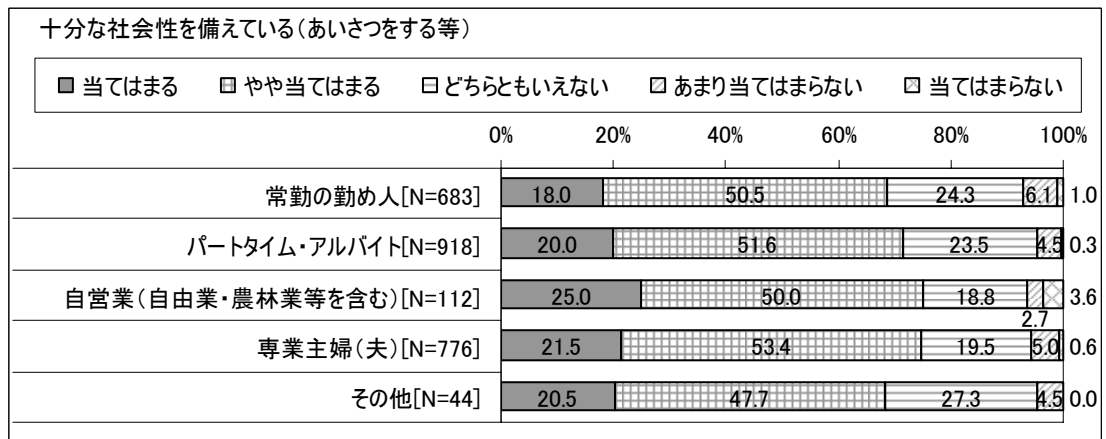
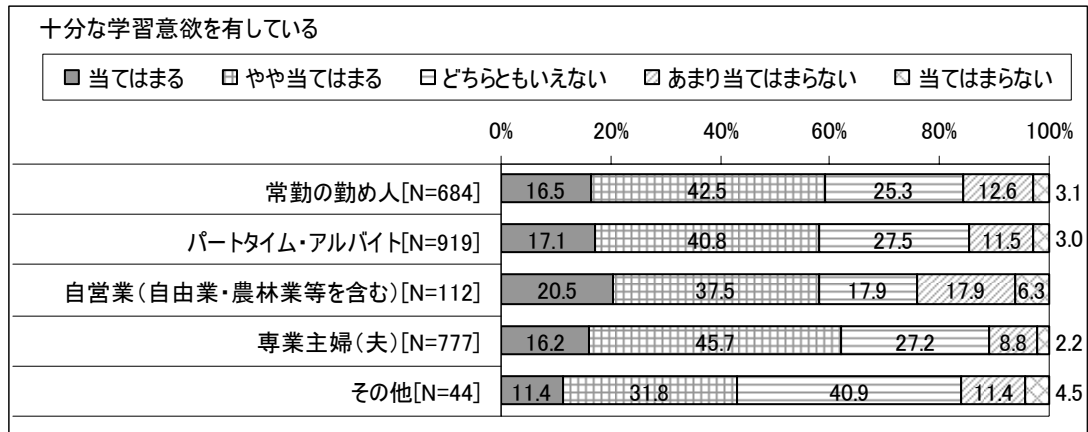
- 年代による有意差が見られるのは「十分な学習意欲を有している」であり、30代がもっとも高い達成状況を示している
- 職業による有意差が見られるのは「基本的な生活習慣を身につけている」「十分な学習意欲を有している」「十分な社会性を備えている（あいさつをする等）」であり、前二者は専業主婦（夫）、後者は自営業がもっとも高い達成状況を示している
- 経済状態による有意差が見られるのは「基本的な生活習慣を身につけている」「十分な体力を有している」「十分な学習意欲を有している」「十分な社会性を備えている（あいさつをする等）」「自ら学び自ら考える力」を備えている」であり、いずれも余裕がある人ほど高い達成状況を示している

図表 3-160 保護者の年代×子どもの達成状況

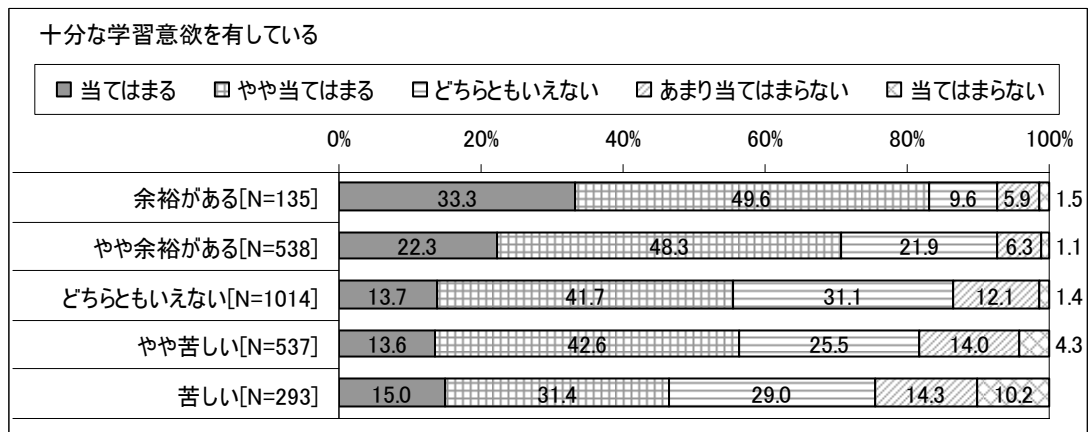


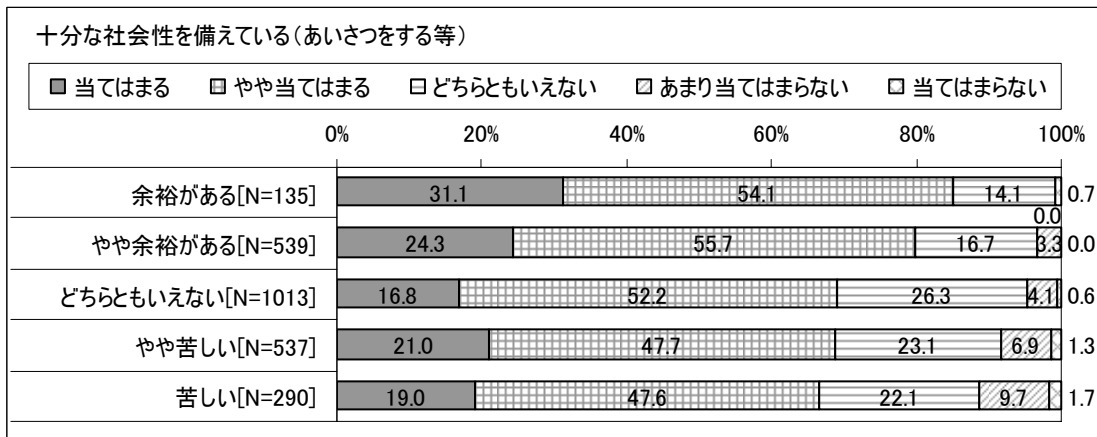
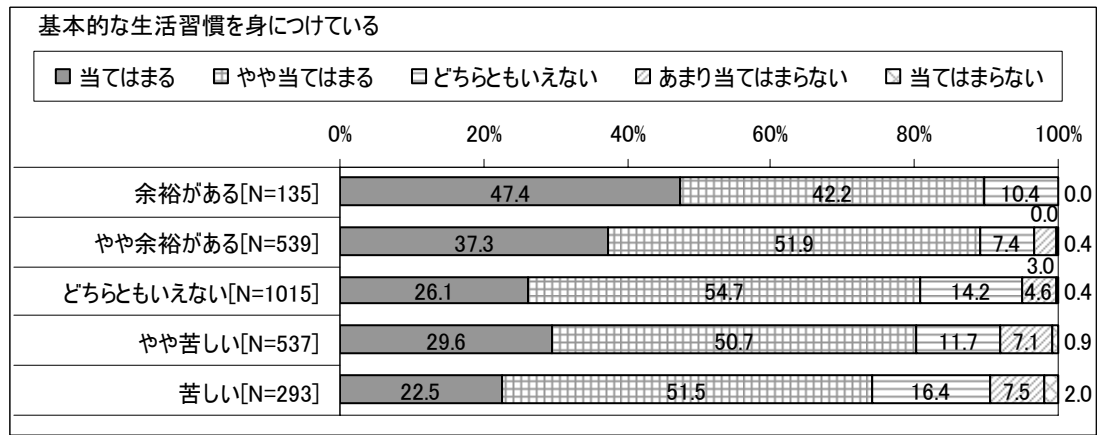
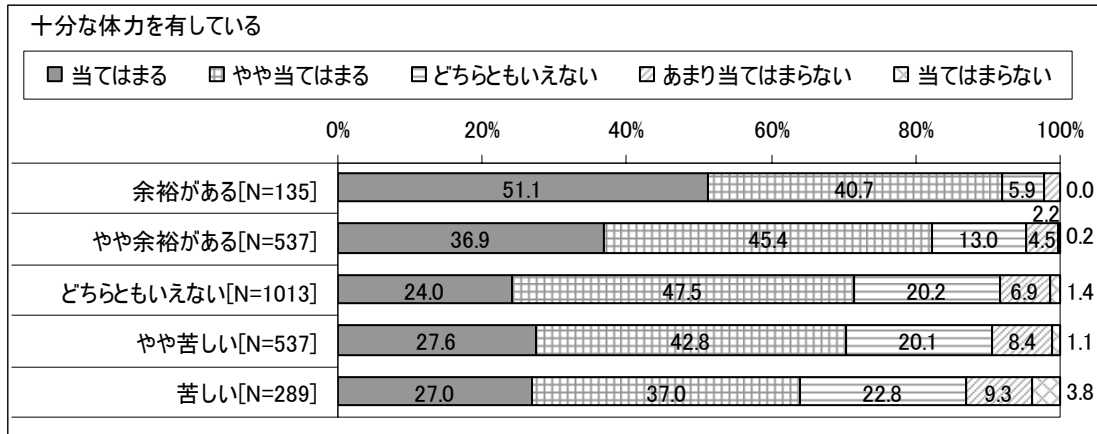
図表 3-161 保護者の職業×子どもの達成状況

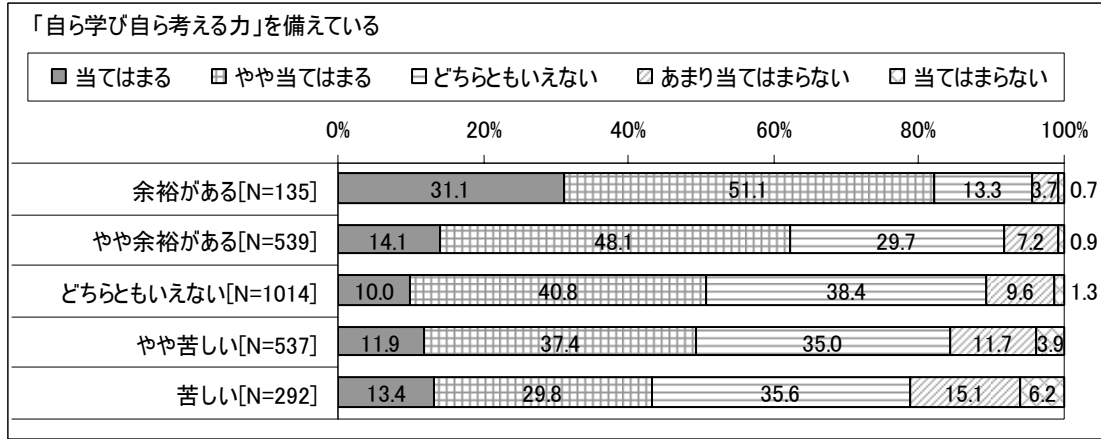




図表 3-162 保護者の経済状態 × 子どもの達成状況







【分析の視点 b】

- 子どもの生活習慣等について、「早寝早起き朝ごはん」運動による差があるか

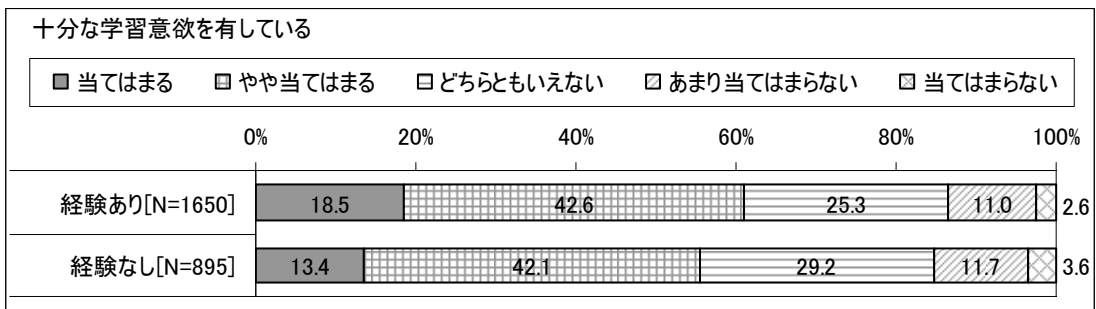
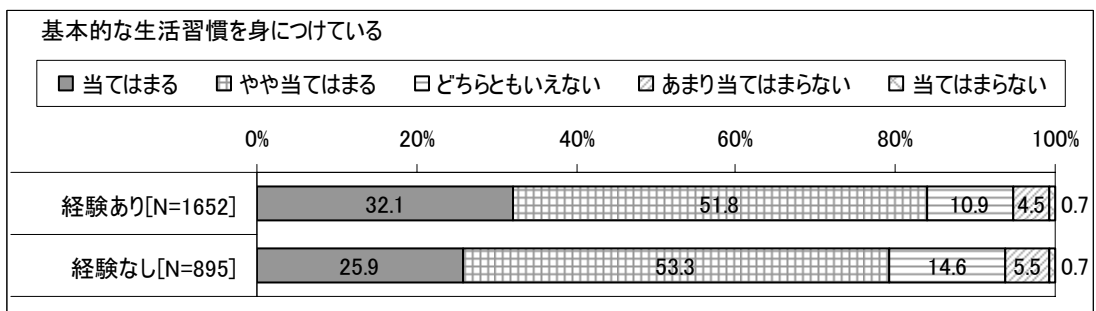
【分析の方法】

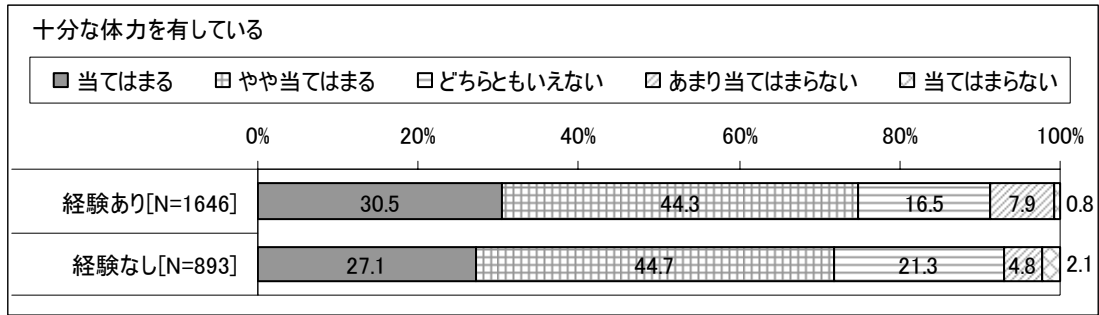
- 子どもの生活習慣や能力等に関する現在の達成状況 (Q13) について、「早寝早起き朝ごはん」運動に関する経験の有無 (Q14_11-12) 別に比較

【分析結果のポイント】

- 「早寝早起き朝ごはん」運動の経験がある人はない人に比して、「基本的な生活習慣を身につけている」「十分な学習意欲を有している」「十分な体力を有している」についての達成状況が有意に高い

図表 3-163 「早寝早起き朝ごはん」運動経験有無×子どもの達成状況





【分析の視点 c】

- 「早寝早起き朝ごはん」運動による子どもへの効果は、取組に係る協力・工夫の実施状況による差があるか

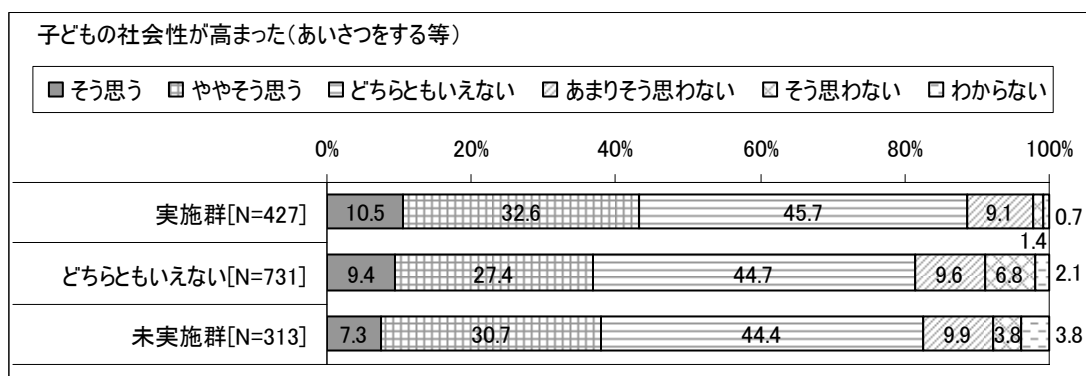
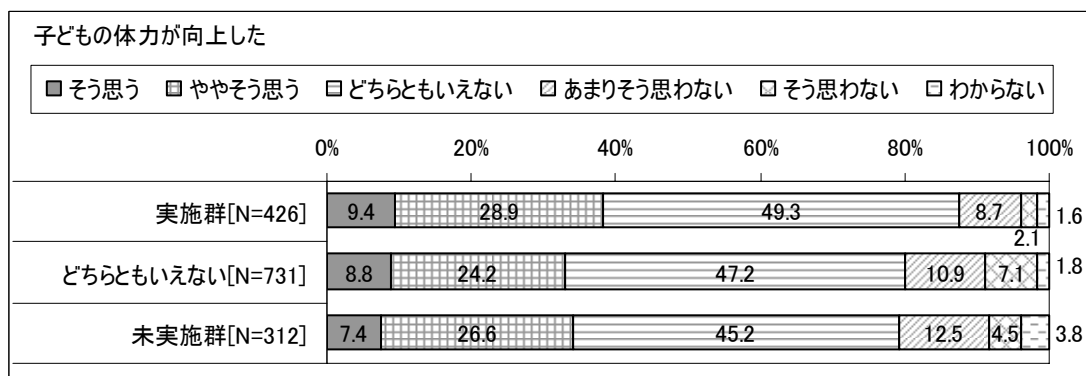
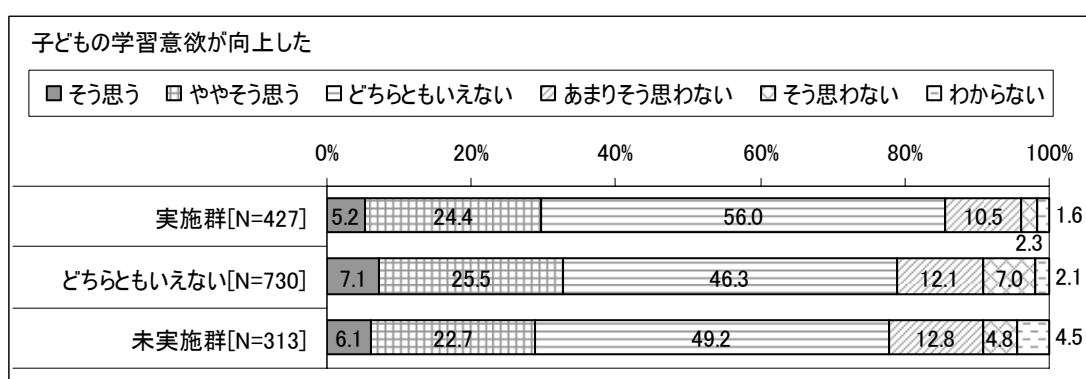
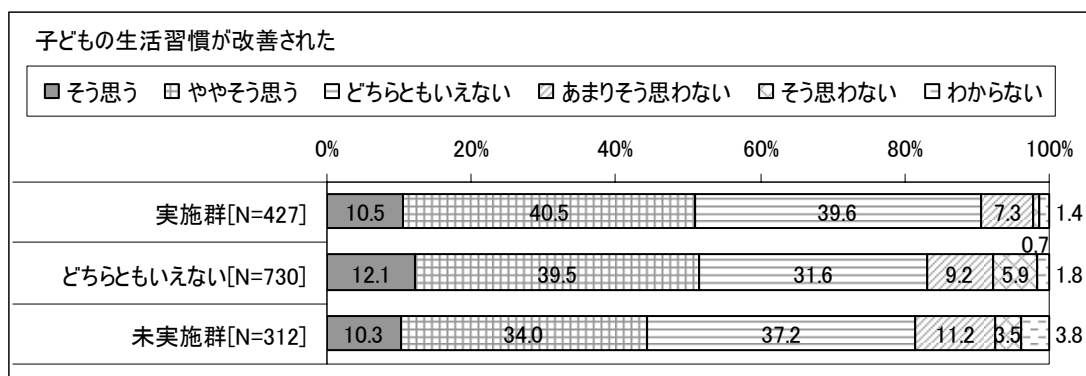
【分析の方法】

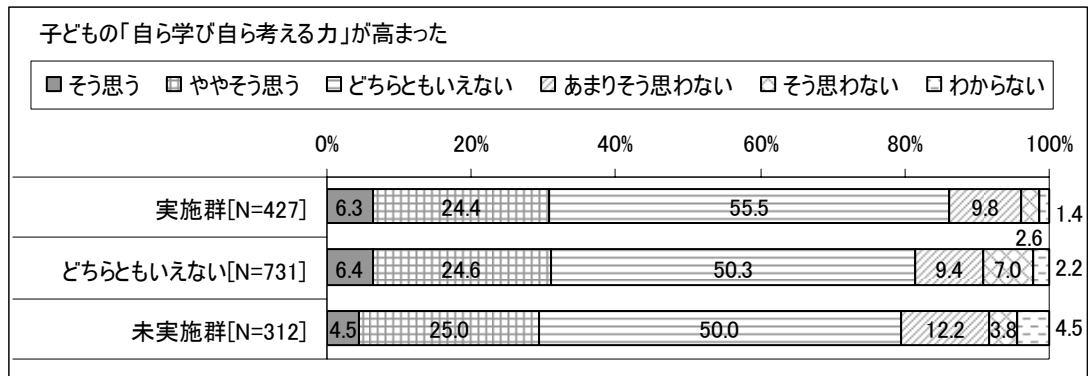
- 「早寝早起き朝ごはん」運動による子どもへの直接的な効果 (Q17) について、取組に係る協力・工夫の実施状況 (教員 Q2、支援者・企画者 Q8) の各項目を実施している学校 (実施群) と実施していない学校 (未実施群) を比較

【分析結果のポイント】

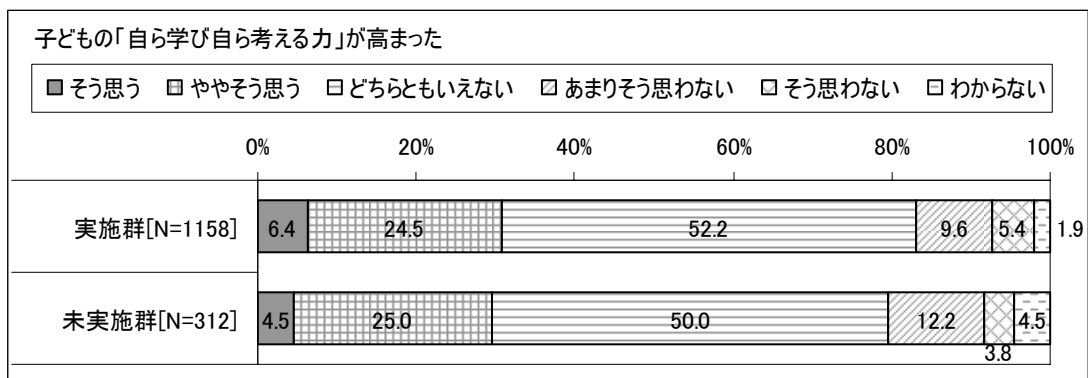
- 「ワークショップや体験形式など、保護者が楽しく主体的に参画できる内容を取り入れている」実施群は未実施群に比して、「子どもの生活習慣が改善された」「子どもの学習意欲が向上した」「子どもの体力が向上した」「子どもの社会性が高まった (あいさつをする等)」「子どもの「自ら学び自ら考える力」が高まった」についての効果が有意に高い
- 「保護者が主体的に自己の子育てを振り返ったり、悩みを語り合える内容を取り入れている」実施群は未実施群に比して、「子どもの「自ら学び自ら考える力」が高まった」についての効果が有意に高い
- 「企画や実施にあたって、学校の教職員と定期的に意識共有を図っている」実施群は未実施群に比して、「子どもの「自ら学び自ら考える力」が高まった」についての効果が有意に高い
- 「近隣の企業と連携し、人材や資金等の提供を受けている」実施群は未実施群に比して、「子どもの生活習慣が改善された」「子どもの体力が向上した」「子どもの社会性が高まった (あいさつをあする等)」「子どもの「自ら学び自ら考える力」が高まった」についての効果が有意に高いが、「子どもの学習意欲が向上した」についての効果が有意に低い

図表 3-164 「ワークショップや体験形式など、保護者が楽しく主体的に参画できる内容を取り入れている」
実施有無×子どもへの効果

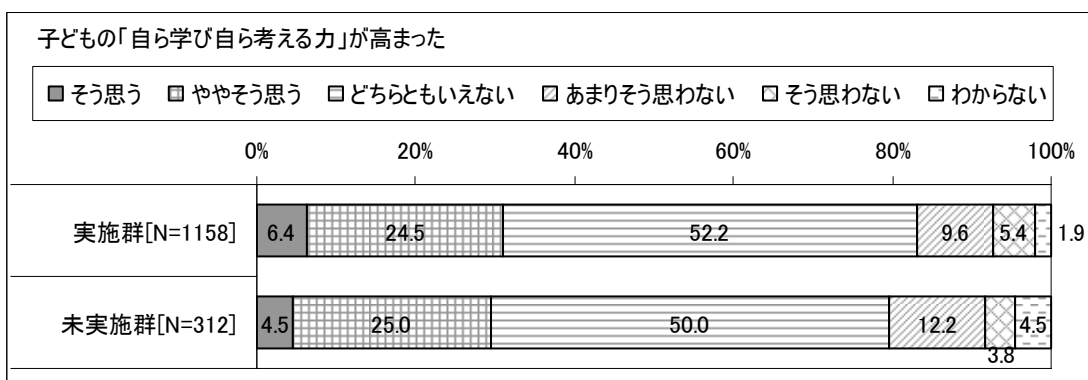




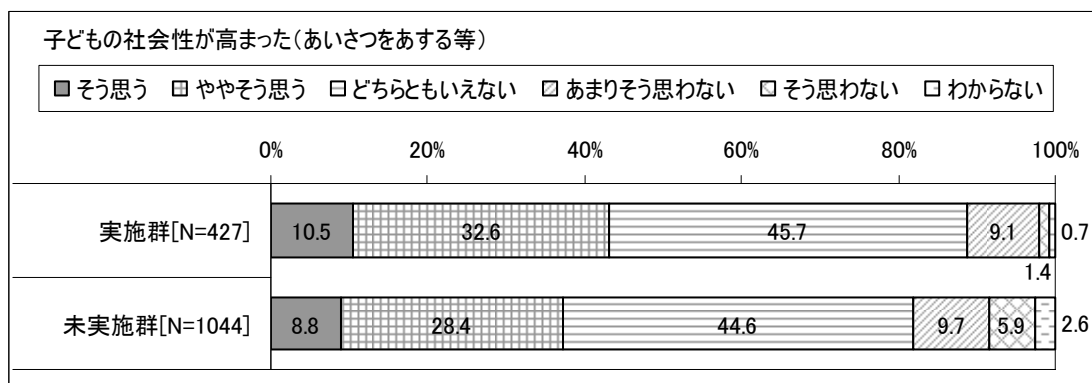
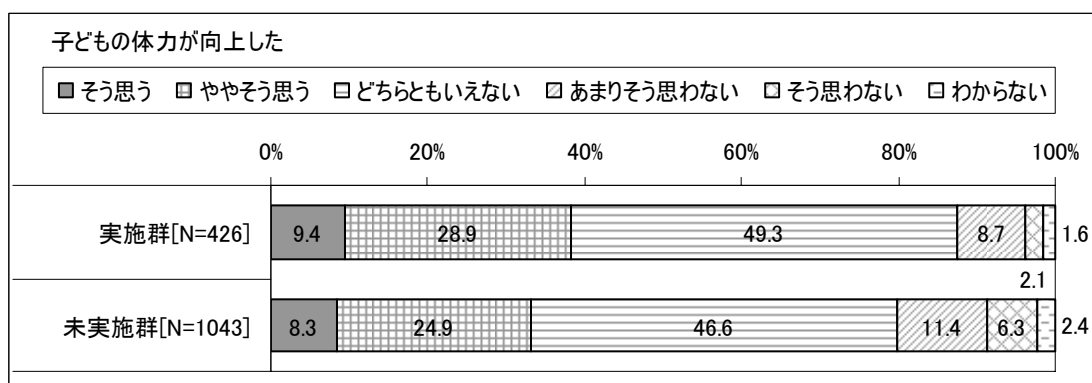
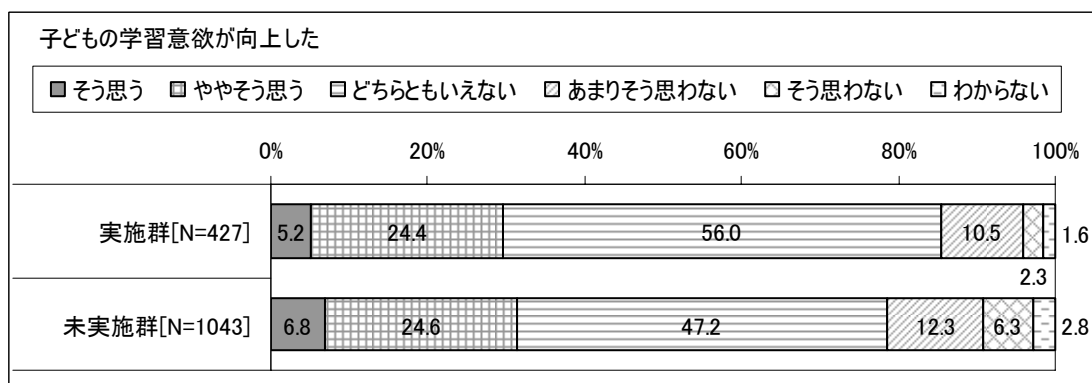
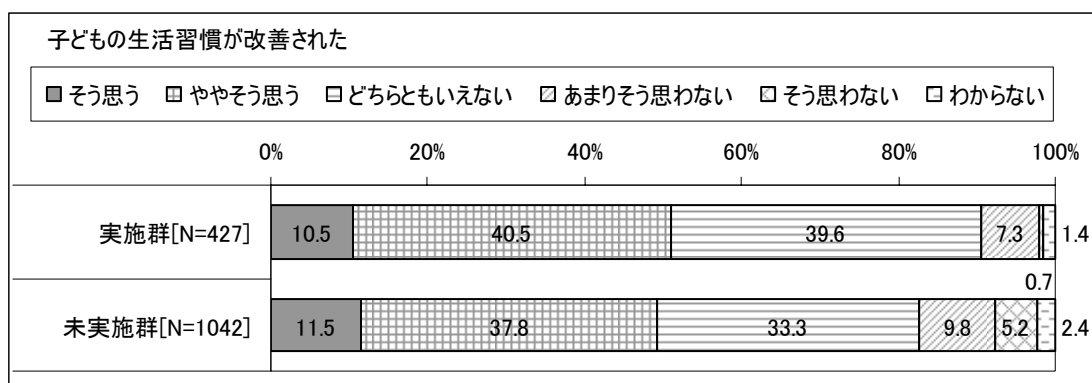
図表 3-165 「保護者が主体的に自己の子育てを振り返ったり、悩みを語り合える内容を取り入れている」実施有無×子どもへの効果

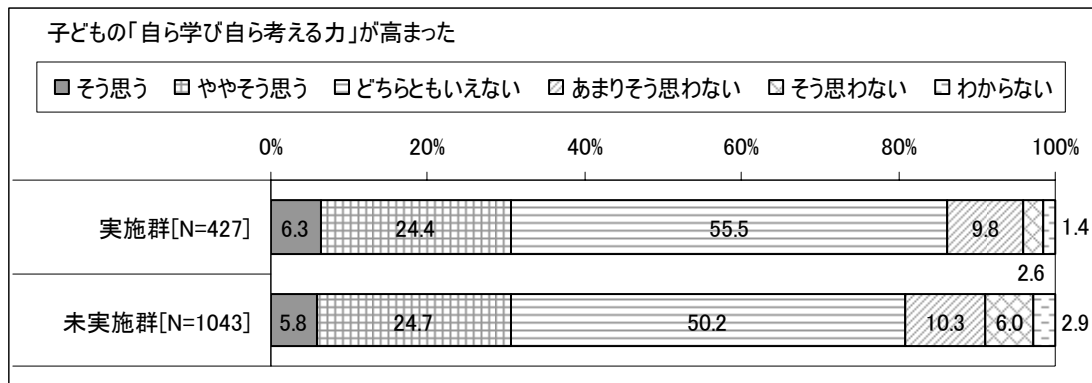


図表 3-166 「企画や実施にあたって、学校の教職員と定期的に意識共有を図っている」実施有無×子どもへの効果



図表 3-167 「近隣の企業と連携し、人材や資金等の提供を受けている」実施有無×子どもへの効果





(2) 教職員票

1) 家庭への効果

【分析の視点】

- 保護者の子育てに関する知識等について、「早寝早起き朝ごはん」運動を自治体全体で取り組んでいる学校と全体では取り組んでいない学校とでは、どのような差があるか
- 「早寝早起き朝ごはん」運動による保護者への効果は、運動の内容による差があるか
- 「早寝早起き朝ごはん」運動による保護者への効果は、取組に係る協力・工夫の実施状況による差があるか

【分析の視点 a】

- 保護者の子育てに関する知識等について、「早寝早起き朝ごはん」運動を自治体全体で取り組んでいる学校と全体では取り組んでいない学校とでは、どのような差があるか

【分析の方法】

- 保護者の子育てに関する知識や意識等に関する現在の達成状況 (Q4a-b) について、「早寝早起き朝ごはん」運動を所在地域 (自治体) 全体で取り組んでいる学校 (実施群) と所在地域 (自治体) 全体では取り組んでいない学校 (未実施群) (教育委員会 Q3) を比較

【分析結果のポイント】

- いずれの項目においても、実施群と未実施群の間に有意差は見られない

【分析の視点 b】

- 「早寝早起き朝ごはん」運動による保護者への効果は、運動の内容による差があるか

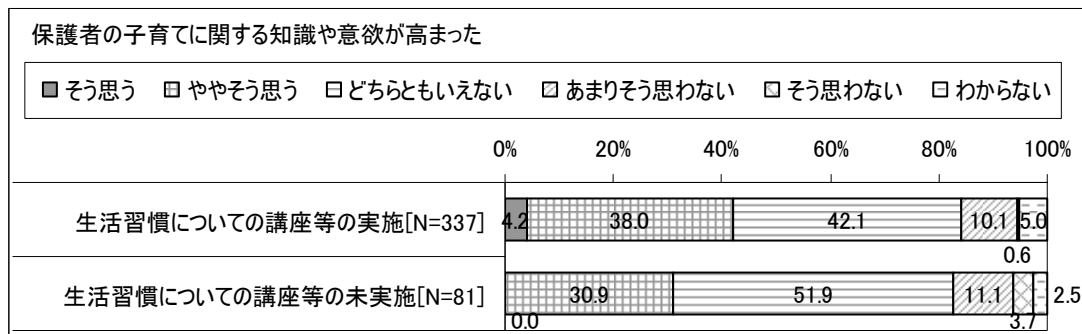
【分析の方法】

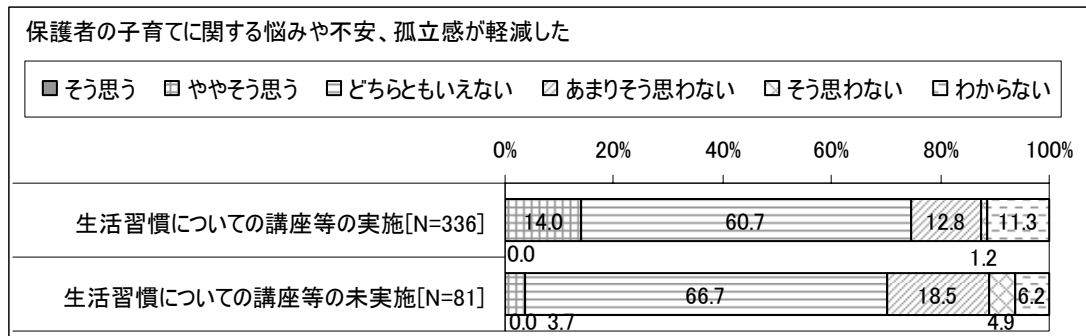
- 「早寝早起き朝ごはん」運動による家庭への直接的な効果（Q5f-g）について、運動の取組内容（Q1）の各項目を実施している学校（実施群）と実施していない学校（未実施群）を比較

【分析結果のポイント】

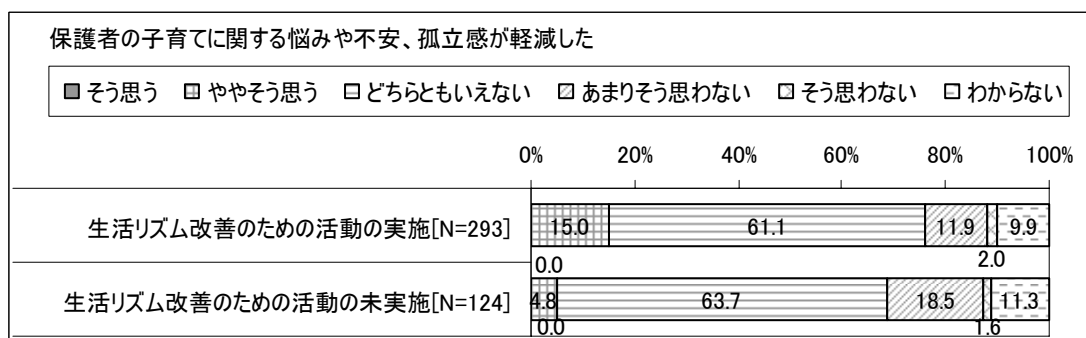
- 「学校での生活習慣についての講座や意見交換会等の開催」実施群は未実施群に比して、「保護者の子育てに関する知識や意欲が高まった」「保護者の子育てに関する悩みや不安、孤立感が軽減した」についての効果が有意に高い
- 「日誌記入や生活時間調査等を通じた、子どもの生活リズム改善のための活動」実施群は未実施群に比して、「保護者の子育てに関する悩みや不安、孤立感が軽減した」についての効果が有意に高い
- 「キャンプや通学合宿の実施」実施群は未実施群に比して、「保護者の子育てに関する悩みや不安、孤立感が軽減した」についての効果が有意に高い
- 「携帯電話やテレビ視聴時間に関する啓発活動の展開」実施群は未実施群に比して、「保護者の子育てに関する知識や意欲が高まった」についての効果が有意に高い
- 「学校だよりやホームページ等による情報提供」実施群は未実施群に比して、「保護者の子育てに関する知識や意欲が高まった」「保護者の子育てに関する悩みや不安、孤立感が軽減した」についての効果が有意に高い
- 「地元企業との連携による普及啓発活動の展開」実施群は未実施群に比して、「保護者の子育てに関する知識や意欲が高まった」「保護者の子育てに関する悩みや不安、孤立感が軽減した」についての効果が有意に高い
- その他の項目については、実施群と未実施群の間に有意差は見られない

図表 3-168 「学校での生活習慣についての講座や意見交換会等の開催」実施有無 × 家庭への効果

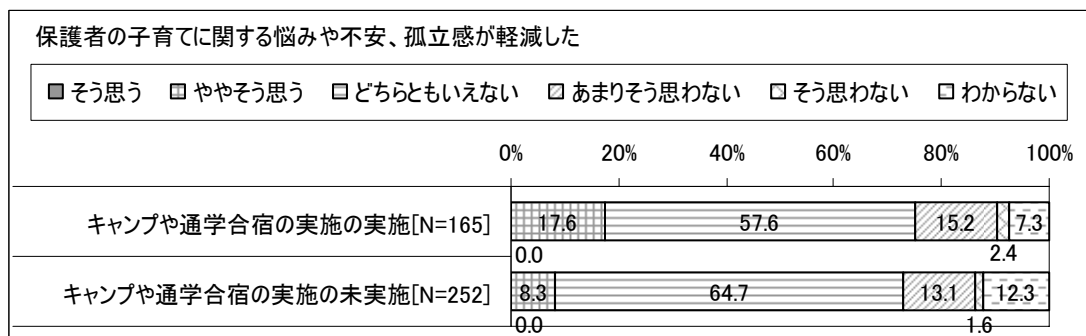




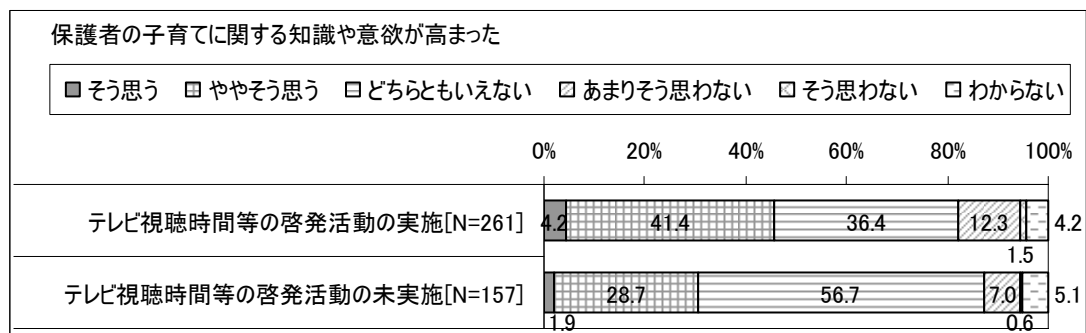
図表 3-169 「日誌記入や生活時間調査等を通じた、子どもの生活リズム改善のための活動」実施有無×家庭への効果



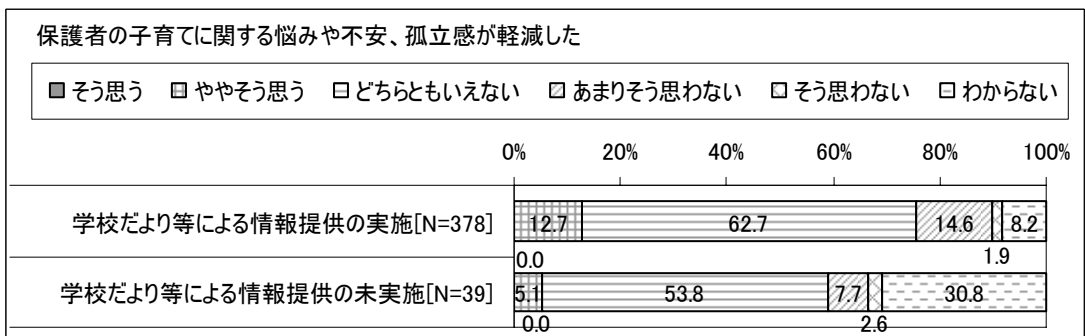
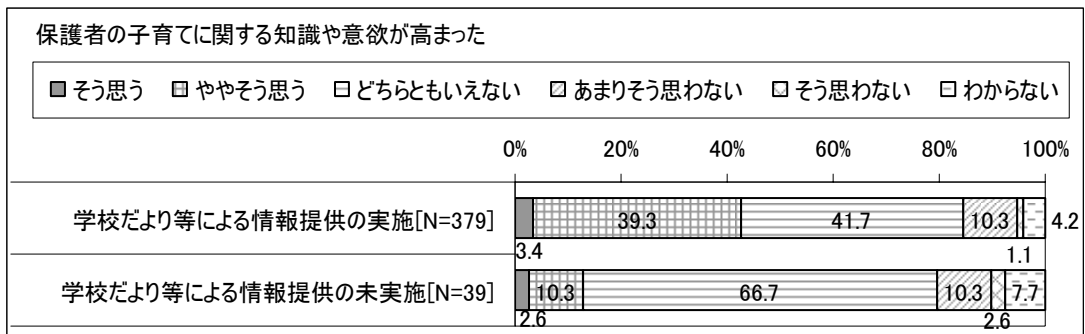
図表 3-170 「キャンプや通学合宿の実施」実施有無×家庭への効果



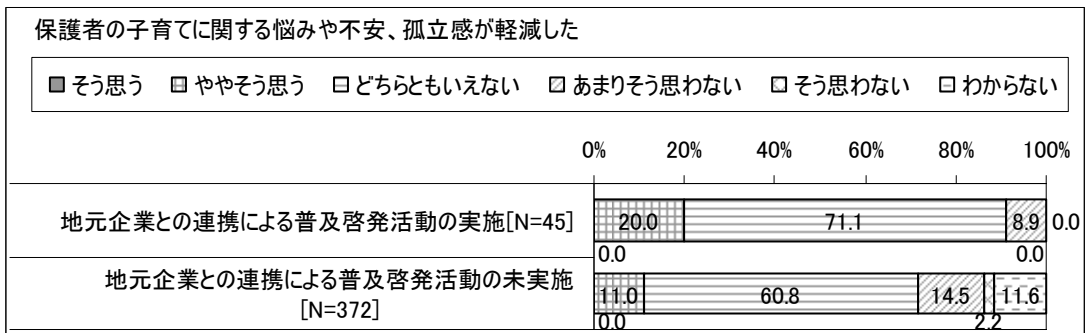
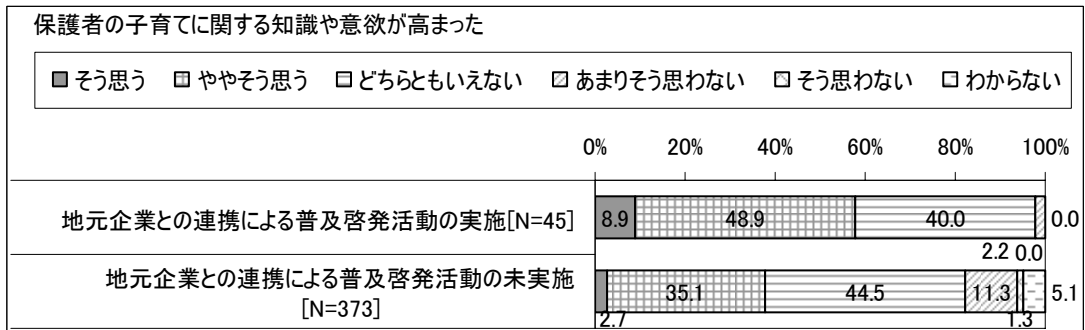
図表 3-171 「携帯電話やテレビ視聴時間に関する啓発活動の展開」実施有無×家庭への効果



図表 3-172 「学校だよりやホームページ等による情報提供」実施有無×家庭への効果



図表 3-173 「地元企業との連携による普及啓発活動の展開」実施有無×家庭への効果



【分析の視点 c】

- 「早寝早起き朝ごはん」運動による保護者への効果は、取組に係る協力・工夫の実施状況による差があるか

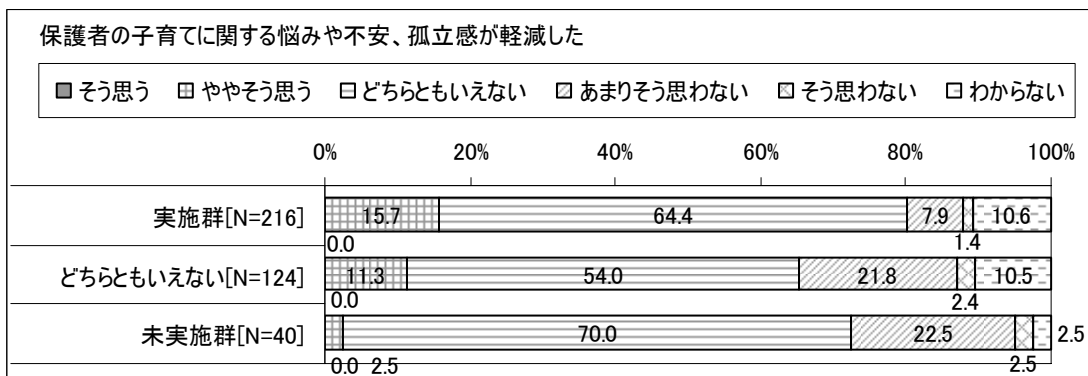
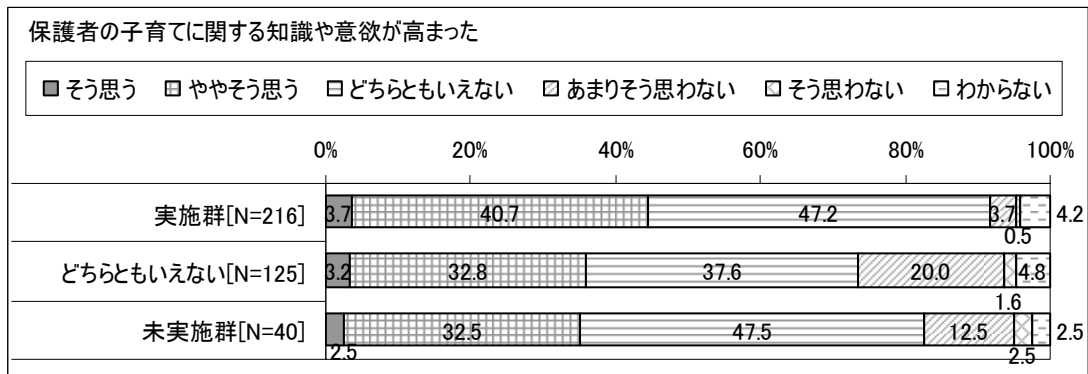
【分析の方法】

- 「早寝早起き朝ごはん」運動による家庭への直接的な効果（Q5f-g）について、取組に係る協力・工夫の実施状況（Q2）の各項目を実施している学校（実施群）と実施していない学校（未実施群）を比較

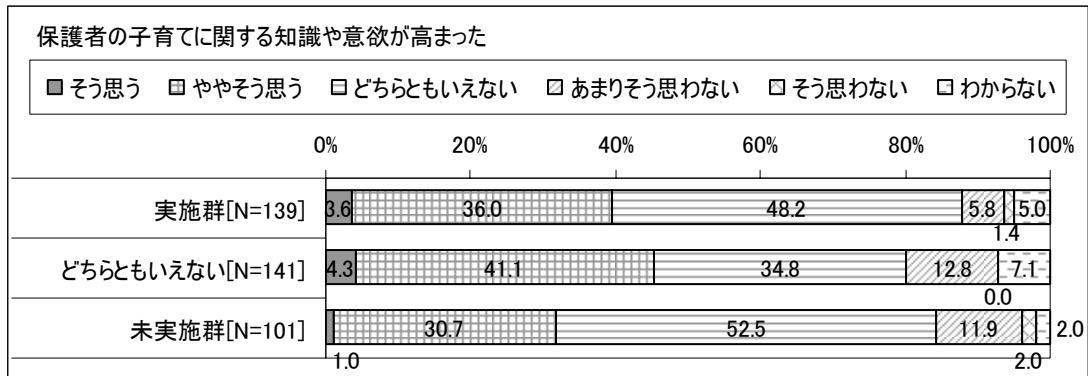
【分析結果のポイント】

- 「企画や実施にあたって、地域の支援人材と定期的に意見交換を行っている」実施群は未実施群に比して、「保護者の子育てに関する知識や意欲が高まった」「保護者の子育てに関する悩みや不安、孤立感が軽減した」についての効果が有意に高い
- 「企画や実施にあたって、地域の支援人材等に学校の空きスペース等の場所を提供している」実施群は未実施群に比して、「保護者の子育てに関する知識や意欲が高まった」についての効果が有意に高い

図表 3-174 「企画や実施にあたって、地域の支援人材と定期的に意見交換を行っている」実施有無×家庭への効果



図表 3-175 「企画や実施にあたって、地域の支援人材等に学校の空きスペース等の場所を提供している」
実施有無×家庭への効果



2) 学校への効果

【分析の視点】

- 保護者等との信頼関係について、「早寝早起き朝ごはん」運動を自治体全体で取り組んでいる学校と全体では取り組んでいない学校とでは、どのような差があるか
- 「早寝早起き朝ごはん」運動による学校への効果は、運動の内容による差があるか
- 「早寝早起き朝ごはん」運動による学校への効果は、取組に係る協力・工夫の実施状況による差があるか

【分析の視点 a】

- 保護者等との信頼関係について、「早寝早起き朝ごはん」運動を自治体全体で取り組んでいる学校と全体では取り組んでいない学校とでは、どのような差があるか

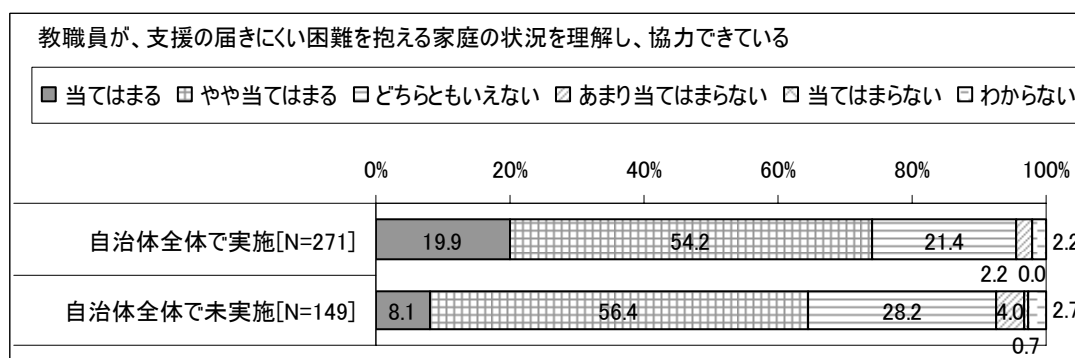
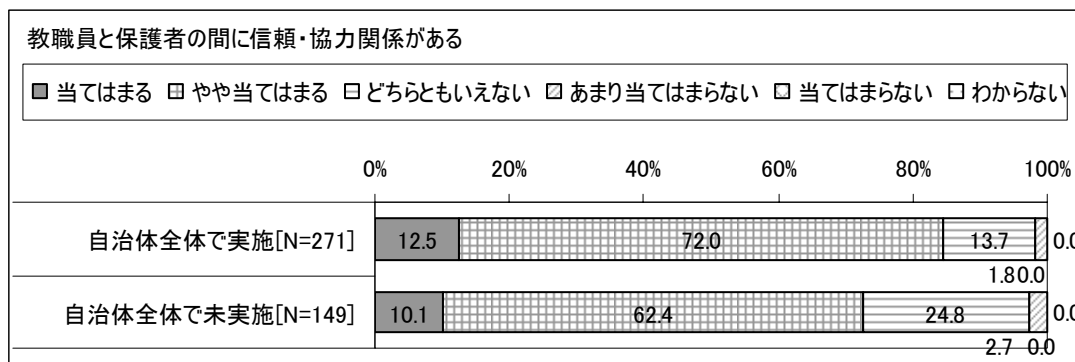
【分析の方法】

- 学校の保護者・地域住民との信頼・協力関係や負担等に関する現在の達成状況(Q4c-f)について、「早寝早起き朝ごはん」運動を所在地域(自治体)全体で取り組んでいる学校(実施群)と所在地域(自治体)全体では取り組んでいない学校(未実施群)(教育委員会 Q3)を比較

【分析結果のポイント】

- 実施群は未実施群に比して、「教職員と保護者の間に信頼・協力関係がある」「教職員が、支援の届きにくい困難を抱える家庭の状況を理解し、協力できている」についての効果が有意に高い
- その他の項目については、実施群と未実施群の間に有意差は見られない

図表 3-176 自治体全体での実施有無×学校の達成状況



【分析の視点 b】

- 「早寝早起き朝ごはん」運動による学校への効果は、運動の内容による差があるか

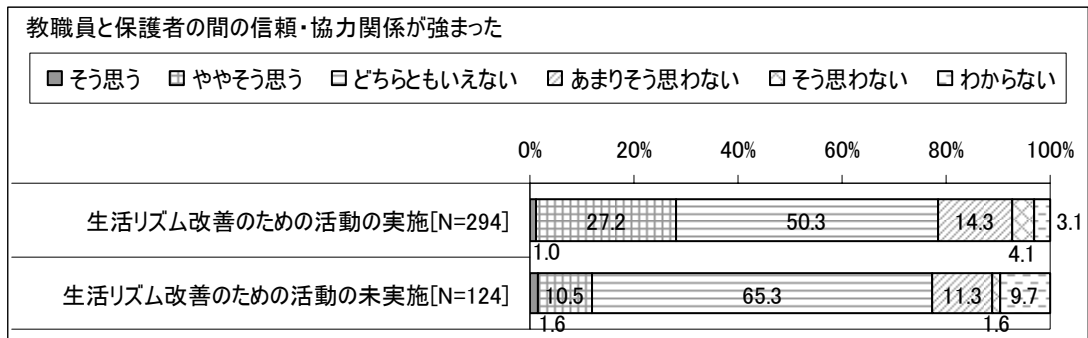
【分析の方法】

- 「早寝早起き朝ごはん」運動による学校への直接的な効果（Q5h-k）について、運動の取組内容（Q1）の各項目を実施している学校（実施群）と実施していない学校（未実施群）を比較

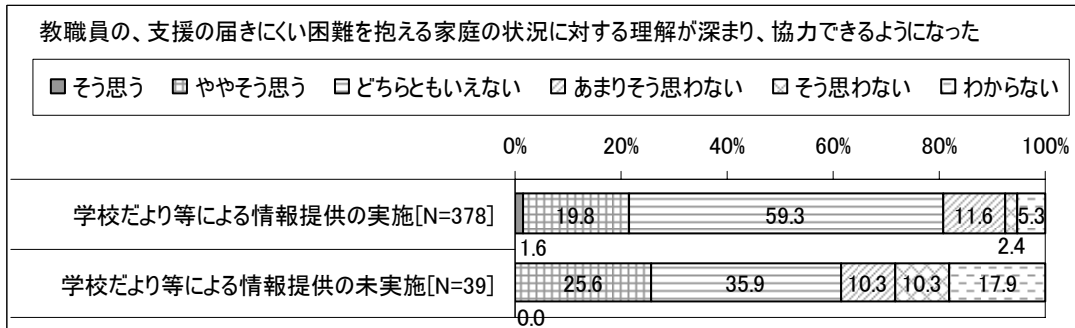
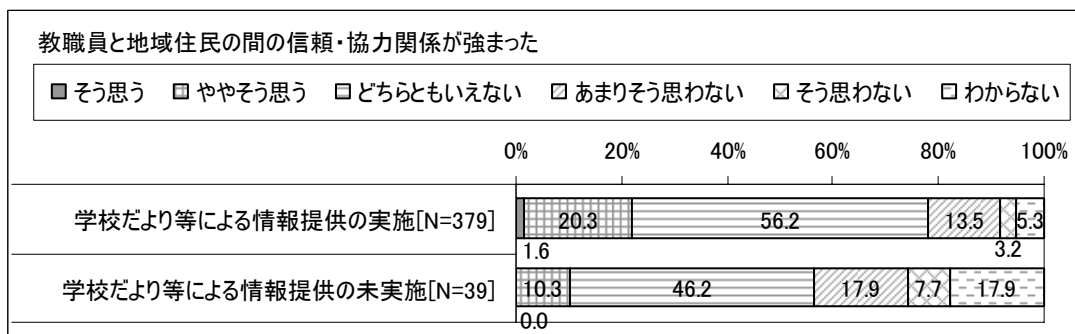
【分析結果のポイント】

- 「日誌記入や生活時間調査等を通じた、子どもの生活リズム改善のための活動」実施群は未実施群に比して、「教職員と保護者の間の信頼・協力関係が強まった」についての効果が有意に高い
- 「学校だよりやホームページ等による情報提供」実施群は未実施群に比して、「教職員と地域住民の間の信頼・協力関係が強まった」についての効果が有意に高いが、教職員の、支援の届きにくい困難を抱える家庭の状況に対する理解が深まり、協力できるようになった」についての効果が有意に低い
- 「地元企業との連携による普及啓発活動の展開」実施群は未実施群に比して、「教職員と地域住民の間の信頼・協力関係が強まった」についての効果が有意に低い
- その他の項目については、実施群と未実施群の間に有意差は見られない

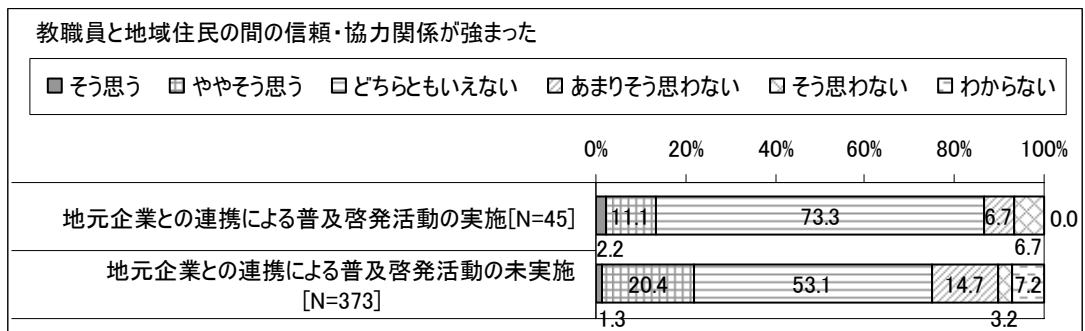
図表 3-177 「日誌記入や生活時間調査等を通じた、子どもの生活リズム改善のための活動」実施有無×学校への効果



図表 3-178 「学校だよりやホームページ等による情報提供」実施有無×学校への効果



図表 3-179 「地元企業との連携による普及啓発活動の展開」実施有無×学校への効果



【分析の視点 c】

- 「早寝早起き朝ごはん」運動による学校への効果は、取組に係る協力・工夫の実施状況による差があるか

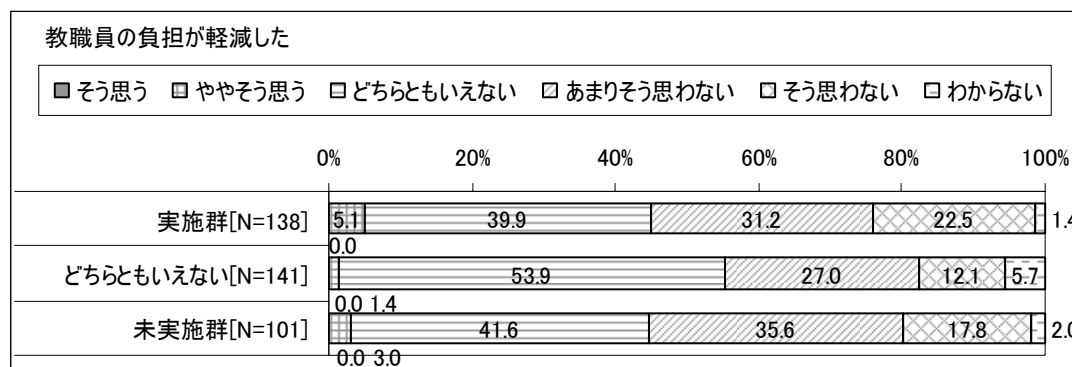
【分析の方法】

- 「早寝早起き朝ごはん」運動による学校への直接的な効果（Q5h-k）について、取組に係る協力・工夫の実施状況（Q2）の各項目を実施している学校（実施群）と実施していない学校（未実施群）を比較

【分析結果のポイント】

- 「企画や実施にあたって、地域の支援人材等に学校の空きスペース等の場所を提供している」実施群は未実施群に比して、「教職員の負担が軽減した」についての効果が有意に高い
- 「企画や実施にあたって、地域の支援人材と定期的に意見交換を行っている」実施群と未実施群の間に有意差は見られない

図表 3-180 「企画や実施にあたって、地域の支援人材等に学校の空きスペース等の場所を提供している」実施有無×学校への効果



3) 地域への効果

【分析の視点】

- 地域の子育てに対する意識等について、「早寝早起き朝ごはん」運動を自治体全体で取り組んでいる学校と全体では取り組んでいない学校とでは、どのような差があるか
- 「早寝早起き朝ごはん」運動による地域への効果は、運動の内容による差があるか
- 「早寝早起き朝ごはん」運動による地域への効果は、取組に係る協力・工夫の実施状況による差があるか

【分析の視点 a】

- 地域の子育てに対する意識等について、「早寝早起き朝ごはん」運動を自治体全体で取り組んでいる学校と全体では取り組んでいない学校とでは、どのような差があるか

【分析の方法】

- 学校の保護者・地域住民との信頼・協力関係や負担等に関する現在の達成状況（Q4g-i）について、「早寝早起き朝ごはん」運動を所在地域（自治体）全体で取り組んでいる学校（実施群）と所在地域（自治体）全体では取り組んでいない学校（未実施群）（教育委員会 Q3）を比較

【分析結果のポイント】

- いずれの項目においても、実施群と未実施群の間に有意差は見られない

【分析の視点 b】

- 「早寝早起き朝ごはん」運動による地域への効果は、運動の内容による差があるか

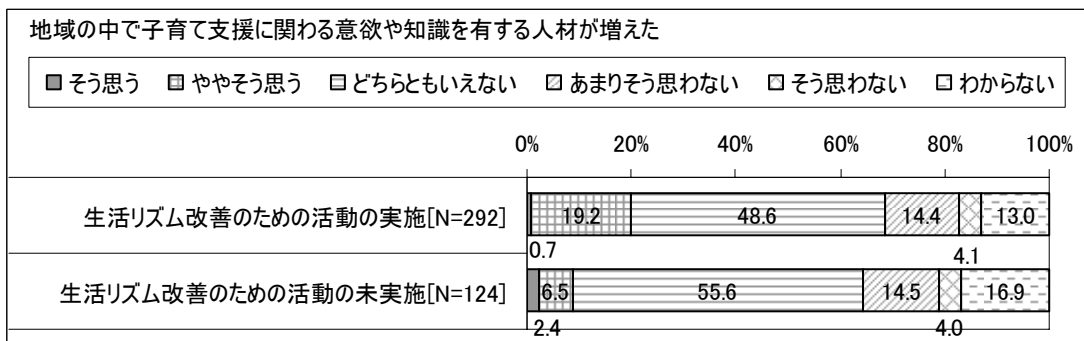
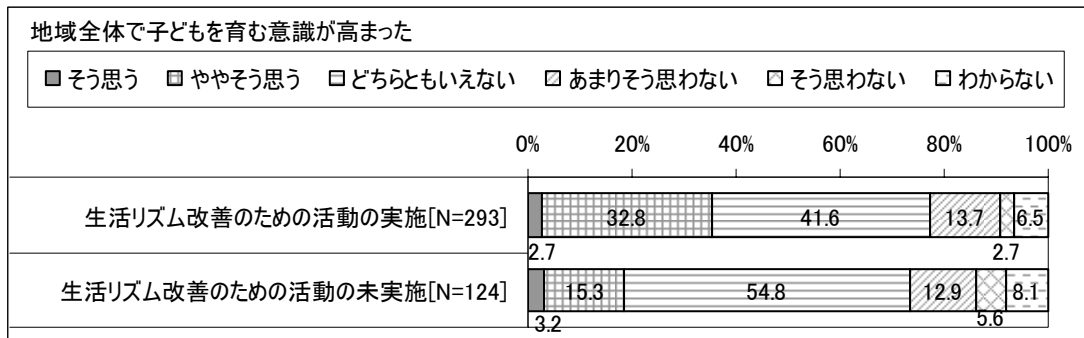
【分析の方法】

- 「早寝早起き朝ごはん」運動による地域への直接的な効果（Q51-n）について、運動の取組内容（Q1）の各項目を実施している学校（実施群）と実施していない学校（未実施群）を比較

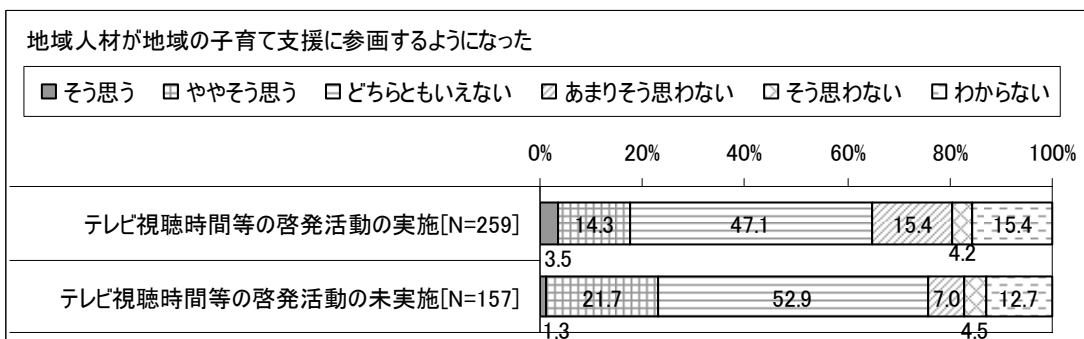
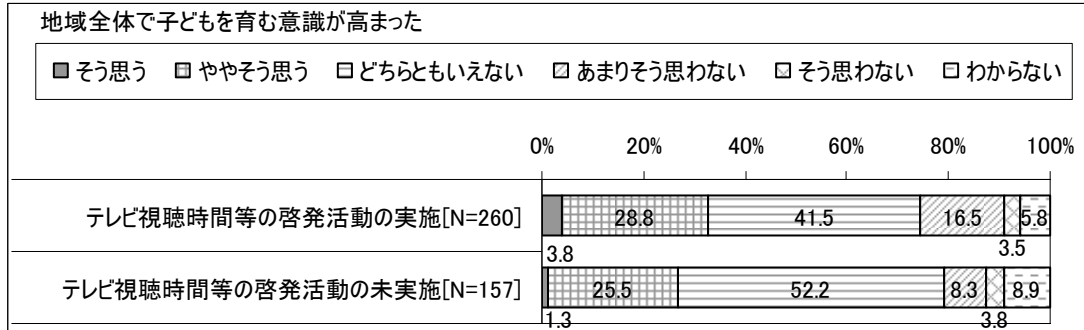
【分析結果のポイント】

- 「日誌記入や生活時間調査等を通じた、子どもの生活リズム改善のための活動」実施群は未実施群に比して、「地域全体で子どもを育む意識が高まった」「地域の中で子育て支援に関わる意欲や知識を有する人材が増えた」についての効果が有意に高い
- 「携帯電話やテレビ視聴時間に関する啓発活動の展開」実施群は未実施群に比して、「地域全体で子どもを育む意識が高まった」についての効果が有意に高いが、「地域人材が地域の子育て支援に参画するようになった」についての効果が有意に低い
- 「学校だよりやホームページ等による情報提供」実施群は未実施群に比して、「地域全体で子どもを育む意識が高まった」についての効果が有意に高いが、「地域人材が地域の子育て支援に参画するようになった」についての効果が有意に低い
- その他の項目については、実施群と未実施群の間に有意差は見られない

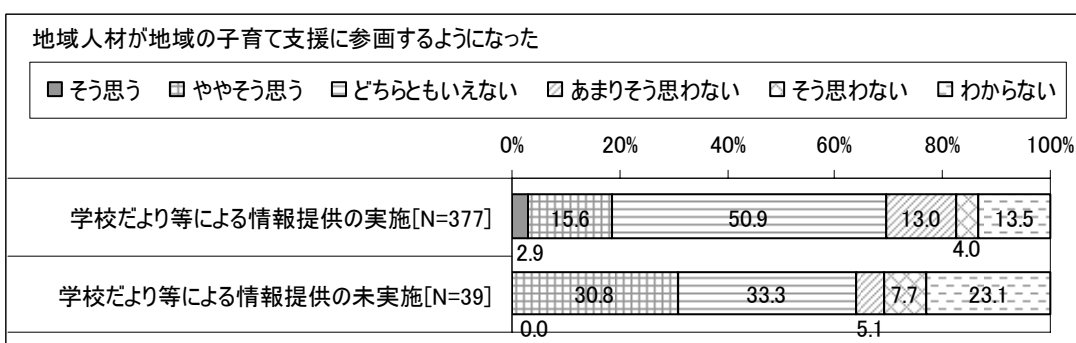
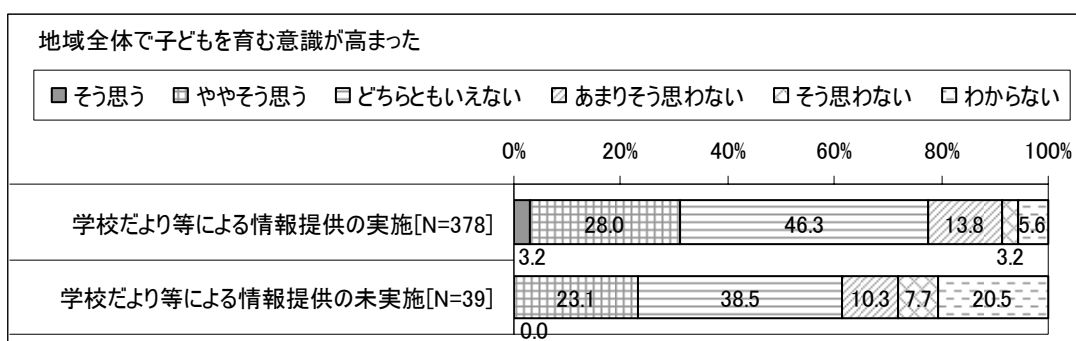
図表 3-181 「日誌記入や生活時間調査等を通じた、子どもの生活リズム改善のための活動」実施有無×地域への効果



図表 3-182 「携帯電話やテレビ視聴時間に関する啓発活動の展開」実施有無×地域への効果



図表 3-183 「学校だよりやホームページ等による情報提供」実施有無×地域への効果



【分析の視点 c】

- 「早寝早起き朝ごはん」運動による地域への効果は、取組に係る協力・工夫の実施状況による差があるか

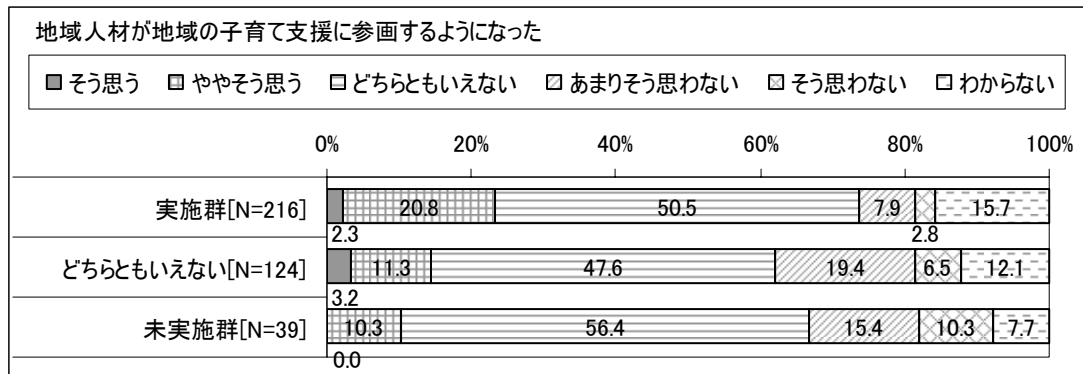
【分析の方法】

- 「早寝早起き朝ごはん」運動による地域への直接的な効果（Q51-n）について、取組に係る協力・工夫の実施状況（Q2）の各項目を実施している学校（実施群）と実施していない学校（未実施群）を比較

【分析結果のポイント】

- 「企画や実施にあたって、地域の支援人材と定期的に意見交換を行っている」実施群は未実施群に比して、「地域人材が地域の子育て支援に参画するようになった」についての効果が有意に高い
- 「企画や実施にあたって、地域の支援人材等に学校の空きスペース等の場所を提供している」実施群と未実施群の間に有意差は見られない

図表 3-184 「企画や実施にあたって、地域の支援人材と定期的に意見交換を行っている」実施有無×地域への効果



4) 子どもへの効果

【分析の視点】

- 子どもの生活習慣等について、「早寝早起き朝ごはん」運動を自治体全体で取り組んでいる学校と全体では取り組んでいない学校とでは、どのような差があるか
- 「早寝早起き朝ごはん」運動による子どもへの効果は、運動の内容による差があるか
- 「早寝早起き朝ごはん」運動による子どもへの効果は、取組に係る協力・工夫の実施状況による差があるか

【分析の視点 a】

- 子どもの生活習慣等について、「早寝早起き朝ごはん」運動を自治体全体で取り組んでいる学校と全体では取り組んでいない学校とでは、どのような差があるか

【分析の方法】

- 子どもの生活習慣や能力等に関する現在の達成状況 (Q3) について、「早寝早起き朝ごはん」運動を所在地域 (自治体) 全体で取り組んでいる学校 (実施群) と所在地域 (自治体) 全体では取り組んでいない学校 (未実施群) (教育委員会 Q3) を比較

【分析結果のポイント】

- いずれの項目においても、実施群と未実施群の間に有意差は見られない

【分析の視点 b】

- 「早寝早起き朝ごはん」運動による子どもへの効果は、運動の内容による差があるか

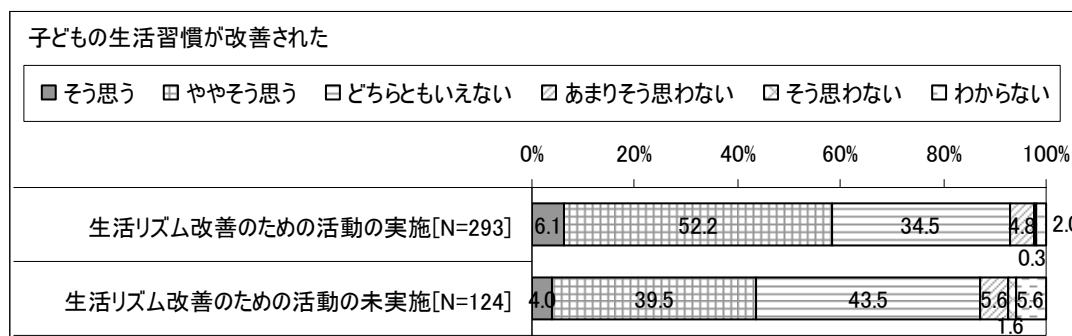
【分析の方法】

- 「早寝早起き朝ごはん」運動による子どもへの直接的な効果（Q5a-e）について、運動の取組内容（Q1）の各項目を実施している学校（実施群）と実施していない学校（未実施群）を比較

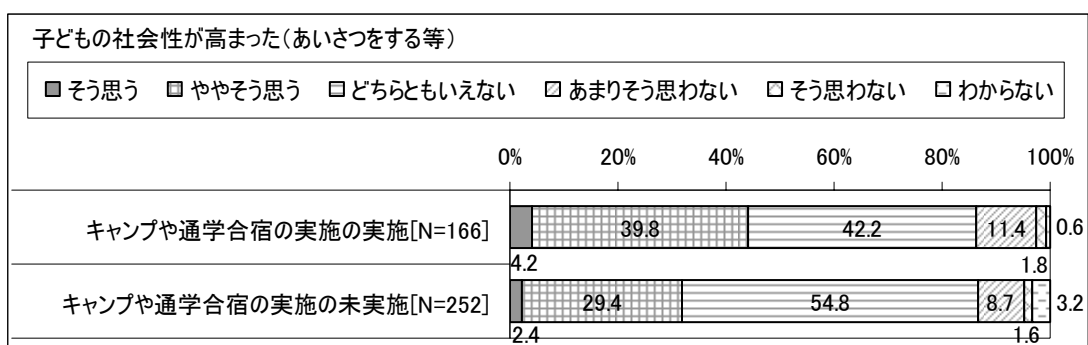
【分析結果のポイント】

- 「日誌記入や生活時間調査等を通じた、子どもの生活リズム改善のための活動」実施群は未実施群に比して、「子どもの生活習慣が改善された」についての効果が有意に高い
- 「キャンプや通学合宿の実施」実施群は未実施群に比して、「子どもの社会性が高まった（あいさつをする等）」についての効果が有意に高い
- 「携帯電話やテレビ視聴時間に関する啓発活動の展開」実施群は未実施群に比して、「子どもの「自ら学び自ら考える力」が高まった」についての効果が有意に高い
- 「学校だよりやホームページ等による情報提供」実施群は未実施群に比して、「子どもの「自ら学び自ら考える力」が高まった」についての効果が有意に高い
- 「関連イベントの企画・実施」実施群は未実施群に比して、「子どもの生活習慣が改善された」についての効果が有意に高い
- その他の項目については、実施群と未実施群の間に有意差は見られない

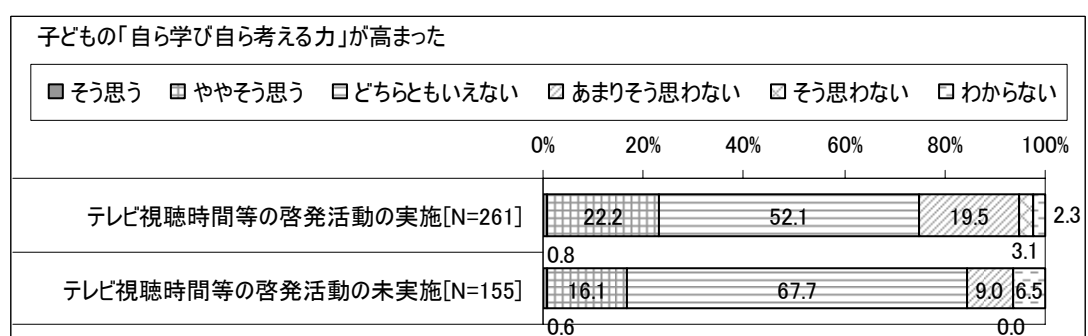
図表 3-185 「日誌記入や生活時間調査等を通じた、子どもの生活リズム改善のための活動」実施有無×子どもへの効果



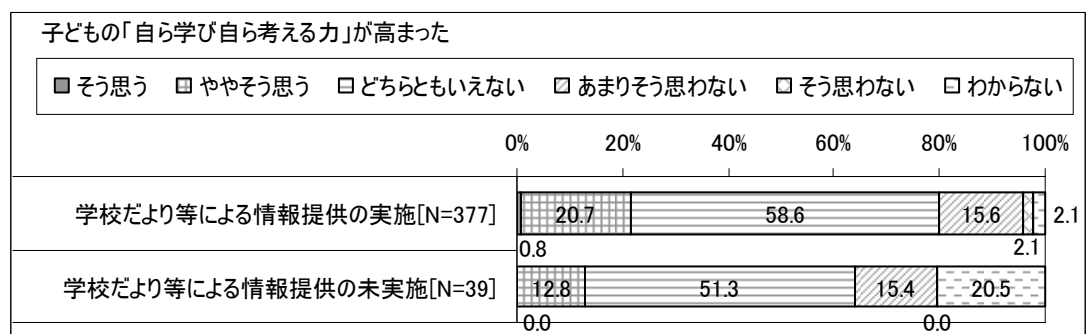
図表 3-186 「キャンプや通学合宿の実施」実施有無×子どもへの効果



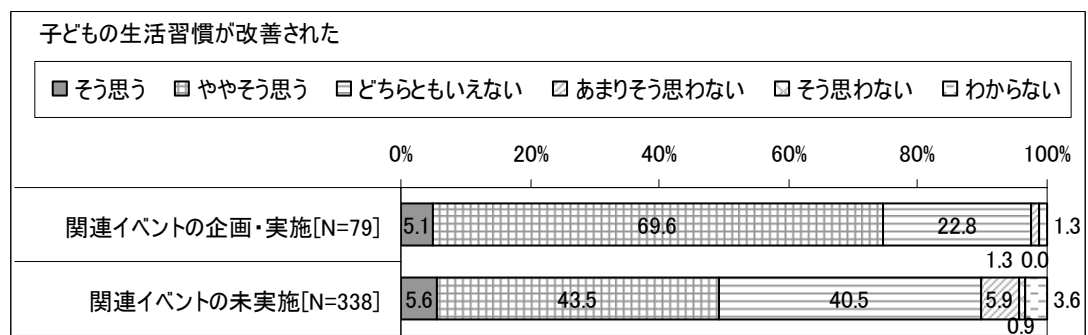
図表 3-187 「携帯電話やテレビ視聴時間に関する啓発活動の展開」実施有無×子どもへの効果



図表 3-188 「学校だよりやホームページ等による情報提供」実施有無×子どもへの効果



図表 3-189 「関連イベントの企画・実施」実施有無×子どもへの効果



【分析の視点 c】

- 「早寝早起き朝ごはん」運動による子どもへの効果は、取組に係る協力・工夫の実施状況による差があるか

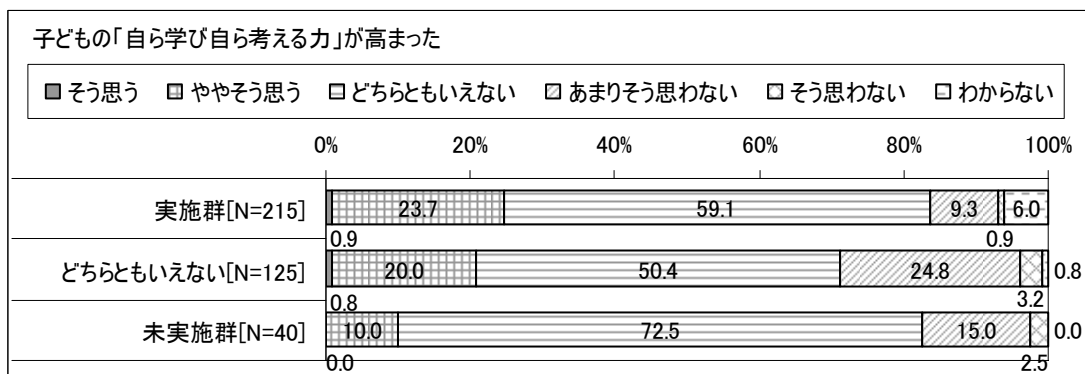
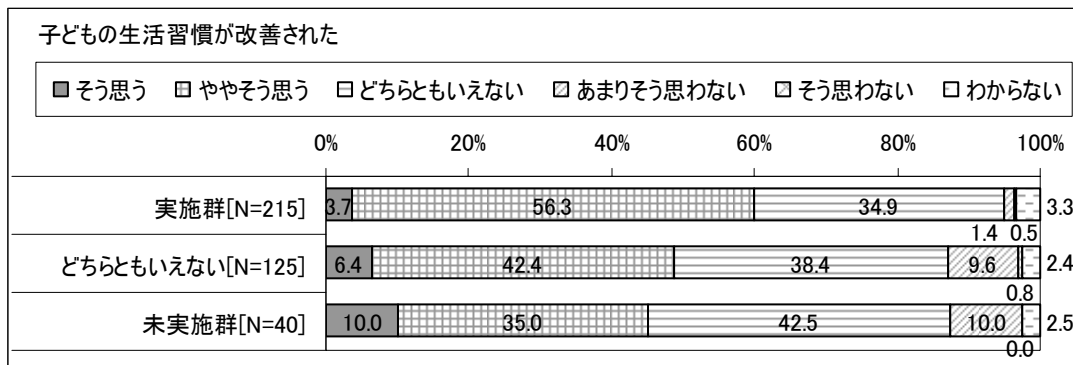
【分析の方法】

- 「早寝早起き朝ごはん」運動による子どもへの直接的な効果（Q5a-e）について、取組に係る協力・工夫の実施状況（Q2）の各項目を実施している学校（実施群）と実施していない学校（未実施群）を比較

【分析結果のポイント】

- 「企画や実施にあたって、地域の支援人材と定期的に意見交換を行っている」実施群は未実施群に比して、「子どもの生活習慣が改善された」「子どもの「自ら学び自ら考える力」が高まった」についての効果が有意に高い
- 「企画や実施にあたって、地域の支援人材等に学校の空きスペース等の場所を提供している」実施群と未実施群の間には、有意差が見られない

図表 3-190 「企画や実施にあたって、地域の支援人材と定期的に意見交換を行っている」実施有無×子どもへの効果



(3) 支援者・企画者票

1) 学校への効果

【分析の視点】

- a 「早寝早起き朝ごはん」運動による学校への効果は、支援者・企画者の属性による差があるか
- b 「早寝早起き朝ごはん」運動による学校への効果は、取組に係る協力・工夫の実施状況による差があるか

【分析の視点 a】

- 「早寝早起き朝ごはん」運動による学校への効果は、支援者・企画者の属性による差があるか

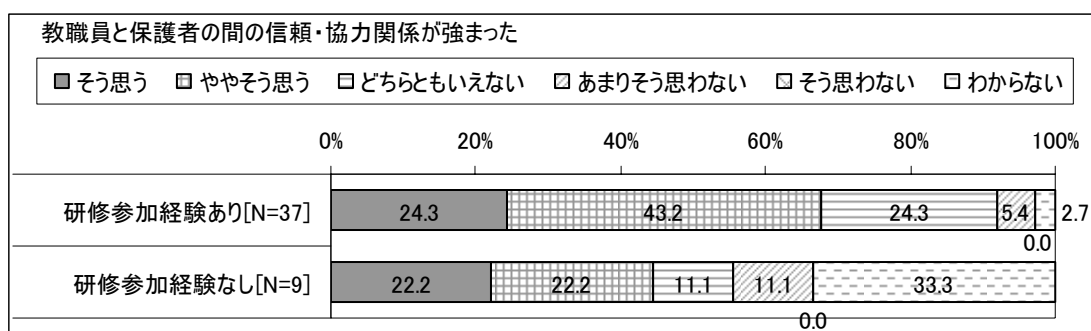
【分析の方法】

- 「早寝早起き朝ごはん」運動による学校への直接的な効果 (Q10f-i) について、支援者・企画者の年代 (Q1)、取組期間 (Q4)、研修参加経験 (Q6) 別に比較

【分析結果のポイント】

- 支援者・企画者の年代については、いずれの項目においても有意差は見られない
- 支援者・企画者の取組期間については、いずれの項目においても有意差は見られない
- 支援者・企画者の研修参加経験による有意差が見られるのは、「教職員と保護者の間の信頼・協力関係が強まった」であり、研修参加経験のある人がない人よりも有意に高い

図表 3-191 支援者・企画者の研修参加経験×学校への効果



【分析の視点 b】

- 「早寝早起き朝ごはん」運動による学校への効果は、取組に係る協力・工夫の実施状況による差があるか

【分析の方法】

- 「早寝早起き朝ごはん」運動による学校への直接的な効果 (Q10f-i) について、取組に係る協力・工夫の実施状況 (Q8) の各項目を実施している学校 (実施群) と実施していない学校 (未実施群) を比較

【分析結果のポイント】

- いずれの項目においても、実施群と未実施群の間に有意差は見られない

2) 地域への効果

【分析の視点】

- 「早寝早起き朝ごはん」運動による地域への効果は、支援者等の属性による差があるか
- 「早寝早起き朝ごはん」運動による地域への効果は、取組に係る協力・工夫の実施状況による差があるか

【分析の視点 a】

- 「早寝早起き朝ごはん」運動による地域への効果は、支援者等の属性による差があるか

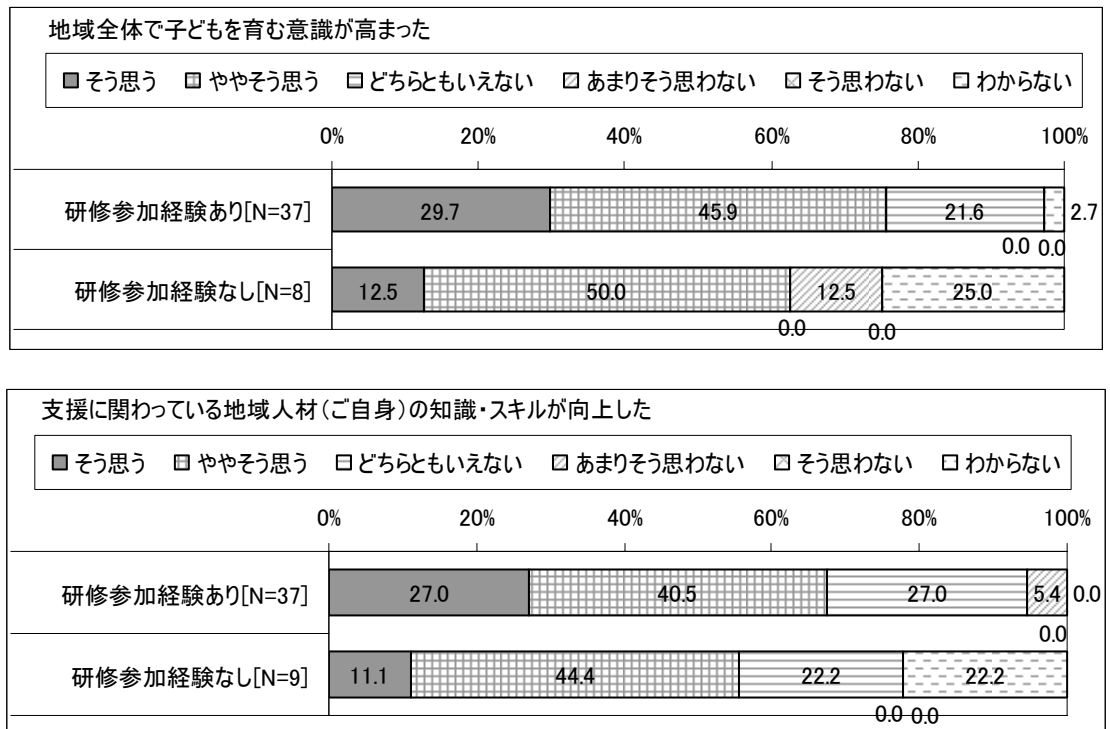
【分析の方法】

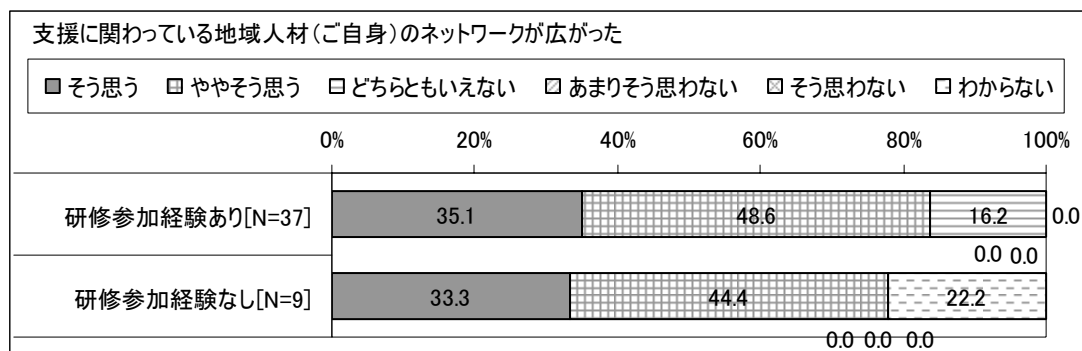
- 「早寝早起き朝ごはん」運動による地域への直接的な効果 (Q10j-o) について、支援者・企画者の年代 (Q1)、取組期間 (Q4)、研修参加経験 (Q6) 別に比較

【分析結果のポイント】

- 支援者・企画者の年代については、いずれの項目においても有意差は見られない
- 支援者・企画者の取組期間については、いずれの項目においても有意差は見られない
- 支援者・企画者の研修参加経験による有意差が見られるのは、「地域全体で子どもを育む意識が高まった」「支援に関わっている地域人材 (ご自身) の知識・スキルが向上した」「支援に関わっている地域人材 (ご自身) のネットワークが広がった」であり、研修参加経験のある人がない人よりも有意に高い

図表 3-192 支援者・企画者の研修参加経験 × 地域への効果





【分析の視点 b】

- 「早寝早起き朝ごはん」運動による地域への効果は、取組に係る協力・工夫の実施状況による差があるか

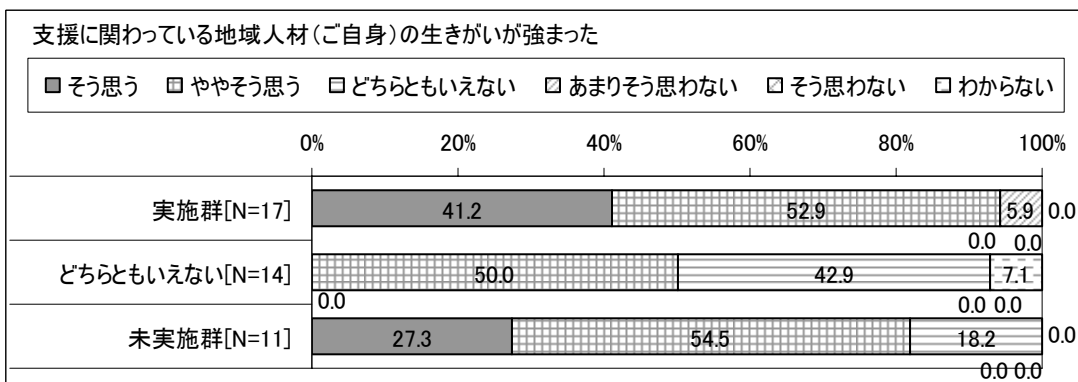
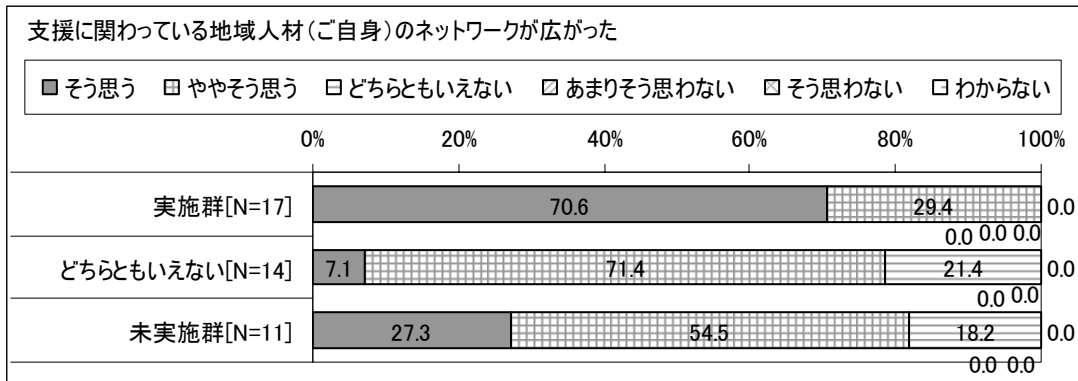
【分析の方法】

- 「早寝早起き朝ごはん」運動による地域への直接的な効果 (Q10j-o) について、取組に係る協力・工夫の実施状況 (Q8) の各項目を実施している学校 (実施群) と実施していない学校 (未実施群) を比較

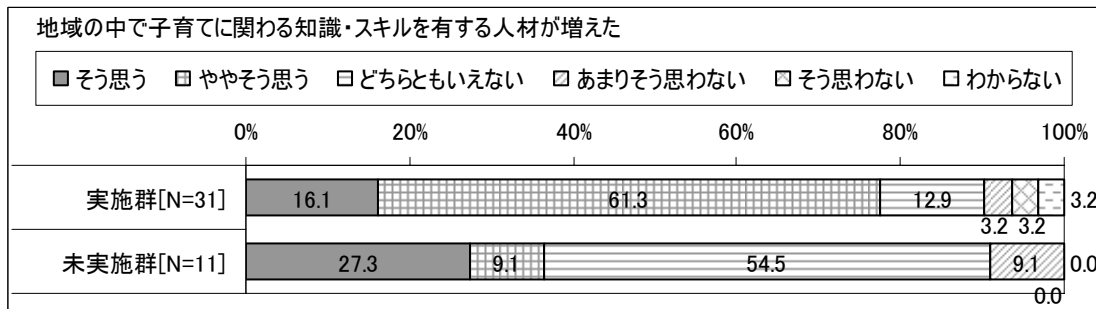
【分析結果のポイント】

- 「ワークショップや体験形式など、保護者が楽しく主体的に参画できる内容を取り入れている」実施群は未実施群に比して、「支援に関わっている地域人材 (ご自身) のネットワークが広がった」「支援に関わっている地域人材 (ご自身) の生きがいが強まった」についての効果が有意に高い
- 「保護者が主体的に自己の子育てを振り返ったり、悩みを語り合える内容を取り入れている」実施群は未実施群に比して、「地域の中で子育てに関わる知識・スキルを有する人材が増えた」についての効果が有意に高い
- 「企画や実施にあたって、学校の教職員と定期的に意識共有を図っている」実施群は未実施群に比して、「地域の中で子育てに関わる知識・スキルを有する人材が増えた」についての効果が有意に高い
- 「近隣の企業と連携し、人材や資金等の提供を受けている」実施群は未実施群に比して、「地域人材が地域の子育てに参画するようになった」「支援に関わっている地域人材 (ご自身) のネットワークが広がった」「支援に関わっている地域人材 (ご自身) の生きがいが強まった」についての効果が有意に高い

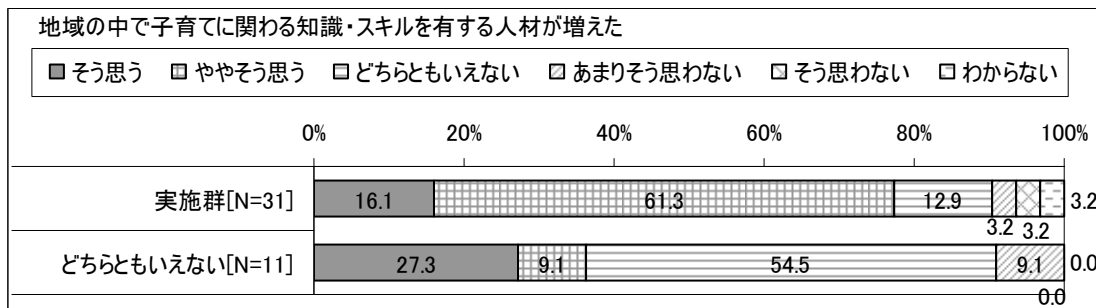
図表 3-193 「ワークショップや体験形式など、保護者が楽しく主体的に参画できる内容を取り入れている」
実施有無×地域への効果



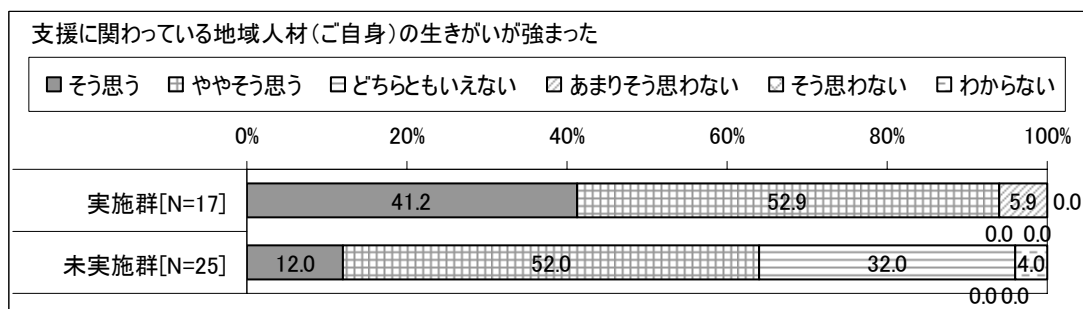
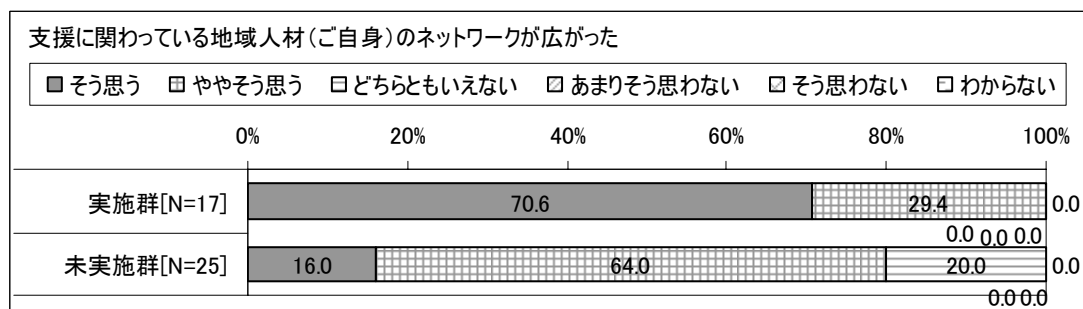
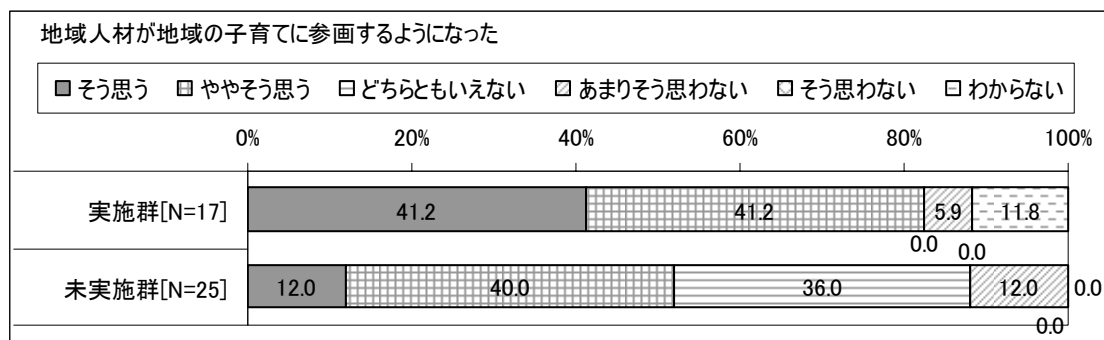
図表 3-194 「保護者が主体的に自己の子育てを振り返ったり、悩みを語り合える内容を取り入れている」
実施有無×地域への効果



図表 3-195 「企画や実施にあたって、学校の教職員と定期的に意識共有を図っている」実施有無×地域への効果



図表 3-196 「近隣の企業と連携し、人材や資金等の提供を受けている」実施有無×地域への効果



3) 子どもへの効果

- 【分析の視点】**
- a 「早寝早起き朝ごはん」運動による子どもへの効果は、支援者等の属性による差があるか
 - b 「早寝早起き朝ごはん」運動による子どもへの効果は、取組に係る協力・工夫の実施状況による差があるか

【分析の視点 a】

- 「早寝早起き朝ごはん」運動による子どもへの効果は、支援者等の属性による差があるか

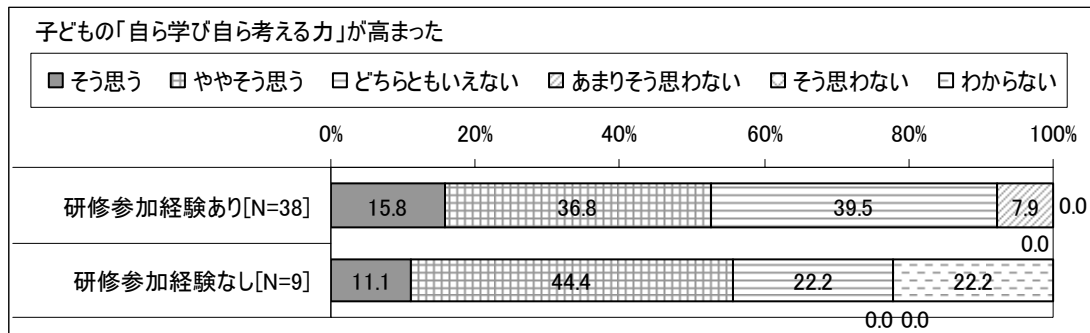
【分析の方法】

- 「早寝早起き朝ごはん」運動による子どもへの直接的な効果（Q10a-e）について、支援者・企画者の年代（Q1）、取組期間（Q4）、研修参加経験（Q6）別に比較

【分析結果のポイント】

- 支援者・企画者の年代については、いずれの項目においても有意差は見られない
- 支援者・企画者の取組期間については、いずれの項目においても有意差は見られない
- 支援者・企画者の研修参加経験による有意差が見られるのは、「子どもの「自ら学び自ら考える力」が高まった」であり、研修参加経験のない人がある人よりも有意に高い

図表 3-197 支援者・企画者の研修参加経験×子どもへの効果



【分析の視点 b】

- 「早寝早起き朝ごはん」運動による子どもへの効果は、取組に係る協力・工夫の実施状況による差があるか

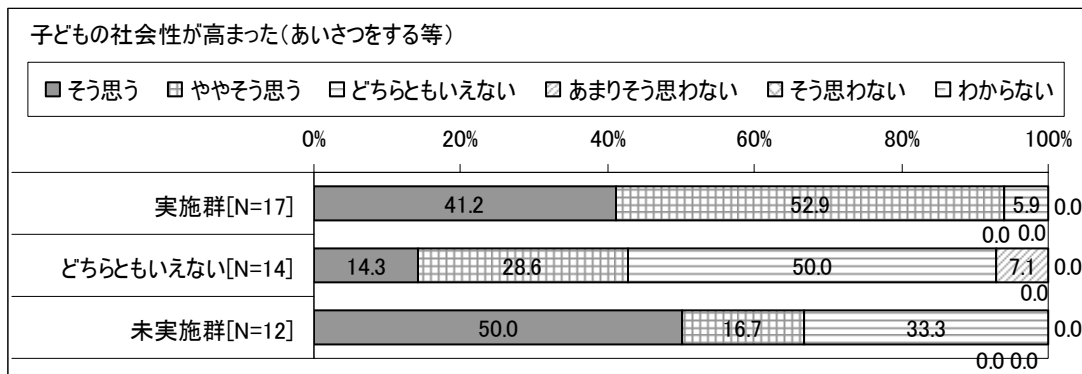
【分析の方法】

- 「早寝早起き朝ごはん」運動による子どもへの直接的な効果（Q10a-e）について、取組に係る協力・工夫の実施状況（Q8）の各項目を実施している学校（実施群）と実施していない学校（未実施群）を比較

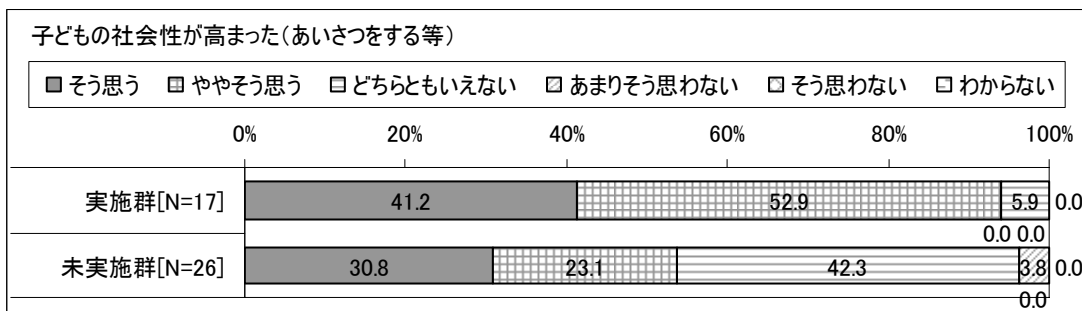
【分析結果のポイント】

- 「ワークショップや体験形式など、保護者が楽しく主体的に参画できる内容を取り入れている」実施群は未実施群に比して、「子どもの社会性が高まった（あいさつをする等）」についての効果が有意に高い
- 「近隣の企業と連携し、人材や資金等の提供を受けている」実施群は未実施群に比して、「子どもの社会性が高まった（あいさつをする等）」についての効果が有意に高い

図表 3-198 「ワークショップや体験形式など、保護者が楽しく主体的に参画できる内容を取り入れている」実施有無×子どもへの効果



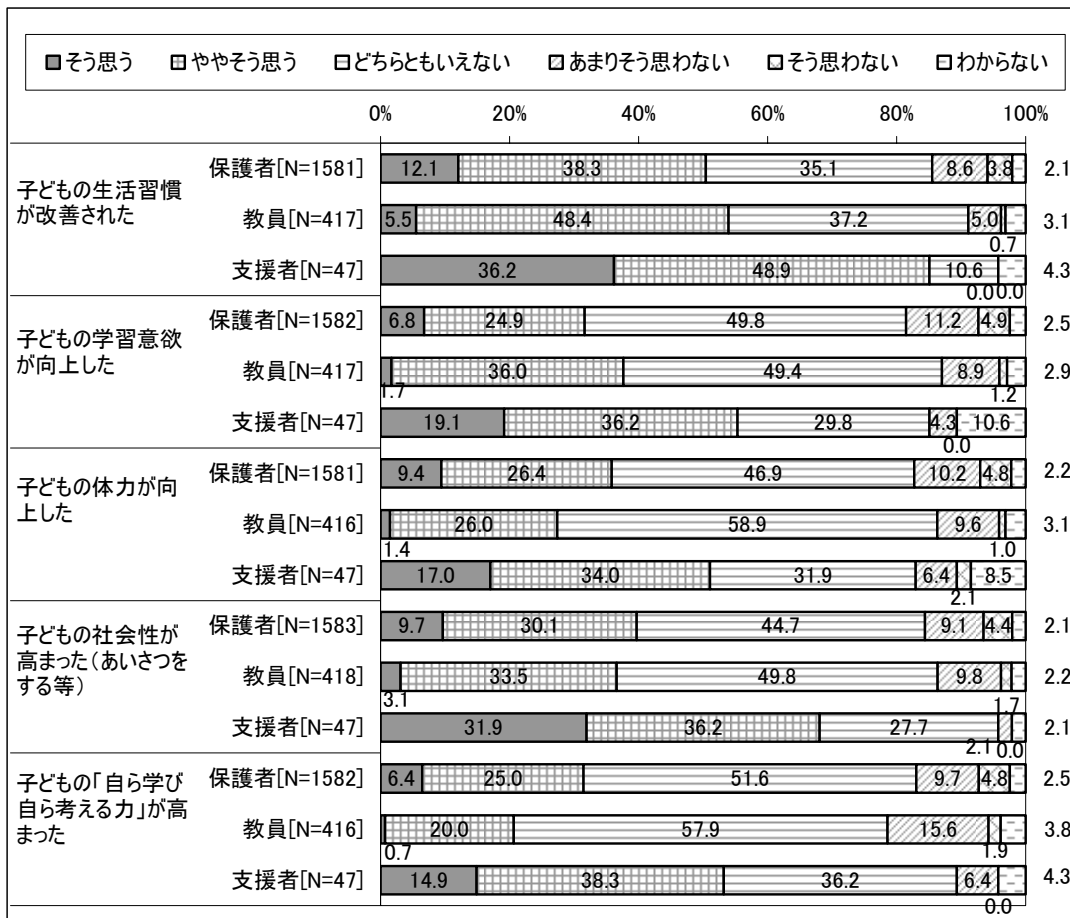
図表 3-199 「近隣の企業と連携し、人材や資金等の提供を受けている」実施有無×子どもへの効果



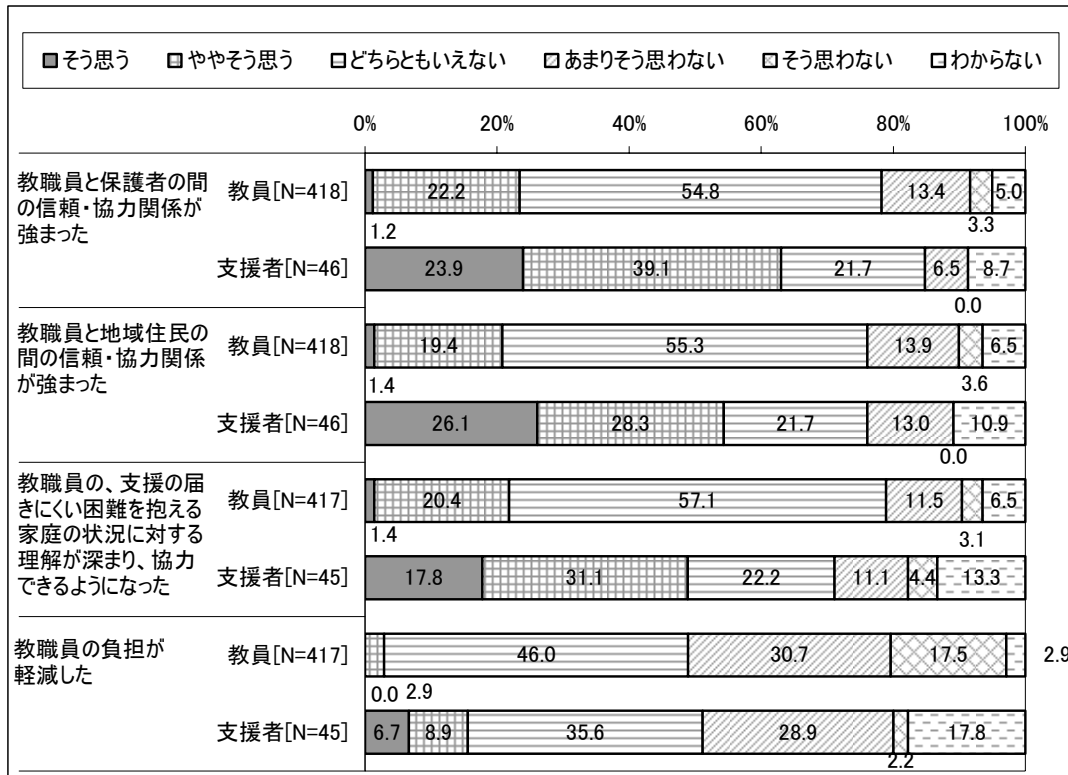
(4) 補論：対象間比較

【分析の視点】	
●	「早寝早起き朝ごはん」運動による子ども、学校、地域への効果は、調査対象者による認識の差があるか
【分析の方法】	
●	「早寝早起き朝ごはん」運動による子ども、学校、地域への直接的な効果のうち、複数の調査対象者へ質問している項目について、調査対象者ごとの回答を比較
【分析結果のポイント】	
●	子どもへの効果については、すべての項目において、支援者・企画者がもっとも肯定的に評価している
●	学校への効果については、すべての項目において、支援者・企画者が教員よりも肯定的に評価している
●	地域への効果については、すべての項目において、支援者・企画者が教員よりも肯定的に評価している

図表 3-200 調査対象者×子どもへの効果



図表 3-201 調査対象者×学校への効果



図表 3-202 調査対象者×地域への効果

